

令和2（2020）年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書



自己点検・評価委員会

教育職員		氏名	
人間社会学部国際観光学科			
1	学部長・教授	池永 正人	1
2	学科長・教授	井上 英也	7
3	教授	落合 知子	14
4	教授	板垣 朝之	19
5	教授	熊谷 賢哉	24
6	教授	滝 知則	29
7	教授	田中 誠	39
8	特任教授	嶋内 麻佐子	46
9	特任教授	橋本 健夫	54
10	准教授	大井田 かおり	60
11	准教授	乙須 翼	66
12	准教授	尾場 均	73
13	准教授	佐野 香織	81
14	准教授	城前 奈美	88
15	准教授	新藤 照夫	93
16	准教授	Thom W. Rawson	98
17	准教授	宮良 俊行	106
18	准教授	山内 美穂	112
19	講師	川上 直彦	117
20	講師	John Patrick Owatari-Dorgan	123
21	講師	神野 周太郎	129
22	講師	高橋 憲司	134
23	講師	陳 慶光	141
24	講師	東出 朋	147
25	講師	Brendan Van Deusen	152
26	講師	松本 知子	157
27	講師	元嶋 菜美香	163
28	講師	森尾 真之	168
29	助教	幸山 智子	174
30	助教	中島 金太郎	179
人間社会学部社会福祉学科			
1	副学長・教授	木村 勝彦	187
2	学科長・教授	脇野 幸太郎	194
3	教授	坂本 雅俊	200
4	教授	中村 龍文	204
5	教授	柳 智盛	208
6	准教授	梅野 潤子	215
7	准教授	大畠 啓	222
8	准教授	韓 榮芝	227
9	講師	石橋 亜矢	233
10	講師	浦 秀美	240
11	講師	Virág Viktor	250
12	講師	木下 一雄	258

教育職員		氏名	
13	講師	中村 美穂	264
14	講師	野田 健	269
15	講師	久田 貴幸	275
16	講師	丸山 貴志	282
17	助教	中村 尚生	287
18	助教	裴 孝承	294
19	助手	金子 麻美	299
20	助手	毎熊 亜美	304
健康管理学部健康栄養学科			
1	学部長・教授	野村 秀一	309
2	学科長・教授	熊井 まどか	314
3	教授	岡本 美紀	319
4	教授	古賀 貴子	325
5	教授	佐々木 裕	331
6	教授	水江 文香	337
7	准教授	林 俊介	343
8	准教授	松尾 嘉代子	351
9	准教授	山口 留美	357
10	講師	小田 和人	362
11	講師	川内 美樹	368
12	講師	川野 香織	373
13	講師	高江洲 有沙	378
14	講師	藤井 俊輔	383
15	講師	宮原 恵子	390
16	講師	吉村 亮二	395
17	助教	菊地 優子	401
18	助手	芦塚 淳美	406
19	助手	射場 仁美	410
20	助手	嘉数 圭祐	414
21	助手	川邊田 晃司	418
22	助手	古田 美咲	422
23	助手	吉永 奈津希	426
薬学部薬学科			
1	学長・教授	安東 由喜雄	430
2	学部長・教授	藤田 英明	439
3	教授	佐々木 茂貴	444
4	学科長・教授	椛島 力	451
5	教授	市川 和洋	456
6	図書館長・教授	岸原 健二	461
7	教授	大磯 茂	467
8	教授	大庭 義史	472
9	教授	小川 由起子	477
10	教授	隈 博幸	484
11	教授	黒川 健児	489
12	教授	小林 秀光	495

教育職員		氏名	
13	教授	佐藤 博	504
14	教授	高井 伸彦	512
15	教授	長岡 寛明	518
16	教授	早川 正信	524
17	教授	深澤 昌史	528
18	教授	藤原 俊幸	534
19	教授	室 高広	539
20	教授	山口 拓	545
21	教授	山口 泰史	553
22	教授	淀 光昭	560
23	教授	和田 守正	565
24	准教授	一木 裕子	571
25	准教授	宇都 拓洋	577
26	准教授	太田 一寿	585
27	准教授	神谷 誠太郎	590
28	准教授	田中 宏光	595
29	准教授	西奥 剛	603
30	准教授	山田 耕平	608
31	講師	石原 知明	614
32	講師	相田 美和	619
33	講師	高崎 伸也	624
34	講師	田中 啓太郎	629
35	講師	出口 雄也	634
36	講師	縄田 陽子	640
37	講師	藤井 佑樹	645
38	講師	藤木 司	651
39	講師	藤本 京子	656
40	講師	吉田 達貞	661
41	助教	榎本 彩乃	667
42	助教	大神 正次	672
43	助教	大久保 伸哉	677
44	助教	太田 智絵	683
45	助教	倉岡 卓也	689
46	助教	末廣 真理恵	693
47	助教	中島 健輔	698
48	助教	中村 沙織	702
49	助教	波多江 日成子	707
50	助教	福森 良	711
51	助教	松下 博昭	716
52	助手	上田 亮太	721
53	助手	高島 啓吾	725

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 池永 正人

1. 教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	8	①⑥⑫
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	4	①⑥⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	12	①②④⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	12	①②④⑥
観光地理学	15 / 15 (前期)	2	191	②③⑨
観光政策論	15 / 15 (後期)	2	116	②③⑨
地理歴史科教育法	15 / 15 (前期)	2	4	②⑦⑩
社会科地理歴史科教育法	15 / 15 (後期)	2	4	②④⑦⑩
地理学	15 / 15 (前期)	2	129	②③⑨
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	4	①②④⑥
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	4	①②④⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	14	①②④⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	①②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光地理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	6
観光自然資源特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	4
特別研究	15 / 15 (前年)	8/1～2年	1
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	2
地域マネジメント研究方法	15 / 15 (後期)	2	3

観光資源特別演習	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
特別研究指導 I	30 / 30 (通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

① 授業改善

a) 講義型の授業

【学部】

国際観光学科の専門科目である「地理学」と「観光地理学」は前期に、「観光政策論」は後期にそれぞれ講義を実施した。今年度は年間を通して新型コロナウイルス感染拡大の影響により、受講者の多い3科目はZoomによるパワーポイントを用いた遠隔授業となった。

3科目いずれの授業においても、復習の確認問題を毎回の宿題として与え、5日以内に解答をマナバに提出させて全体の6割の評価とした。また、学期末のテストでは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるようにつとめた。

毎回の授業は確認問題の提出をもって出席としたが、授業に参加せずに確認問題だけを提出する履修者も多く見られた。ここに遠隔授業の欠点がある。改善策としては、授業の途中に理解度テストを導入することを考えている。

なお、後期のみ実施した授業アンケートの評価結果は、「観光政策論」4.5(日本人学生:4.4 留学生:4.9)であった。授業方法やアンケート回答数の違いから単純には比較できないが、昨年度の4.3(日本人学生:4.2 留学生:4.7)よりも高い評価であったことは、教材準備が功を奏したといえる。

【大学院】

観光学専攻修士課程の特講科目「観光地理特講」(前期・遠隔)と「観光自然資源特講」(後期・対面)、地域マネジメント専攻博士後期課程の「観光資源特別演習」(前期・遠隔)と「地域マネジメント研究法(後期・遠隔)」は、いずれもシラバスに沿って授業を完結させた。Zoomによる遠隔授業であっても、文献講読・討論・知識検査など成績評価は到達目標をクリアすることができた。

b) 演習型の授業

【学部】

国際観光学科の必修科目「専門演習 I (2年)、II (3年)」は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、前期のフィールドワークは実施できなかった。フィールドワークに代わる方法として、写真による観光資源の分析法や統計グラフの作成技法を教授した。

後期は、2年・3年生合同で長崎県雲仙温泉に日帰りでフィールドワークを実施した。現地では観光資源の観察および観光の現状について専門家の説明を受けた。事後学習は、両学年とも調査レポートの個別指導を行うと共に、口頭発表については個別に発表させた。

「専門演習 III」の4年生12名(4名:2020年9月卒業、8名:2021年3月卒業)については、例年同様に卒業論文作成の個別指導に力を入れた。

【大学院】

観光学専攻修士課程の演習科目「特別研究」については、3名(1名:2020年9月修了、2名:2021年3月修了)の修士論文作成の個別指導を毎週欠かさずに実施した。

地域マネジメント専攻博士後期課程の必修科目「地域マネジメント研究法」(後期)は、3名の履修者の研究テーマに関連した調査手法の助言と地域概念・地域調査の多角的アプローチについて議論した。また、統計数字の表・グラフ表現、履修者の研究対象地域の地図表現の指導を行った。

②教育効果

学部・大学院のいずれの講義型・演習型の授業は、新型コロナウイルス感染予防の観点から遠隔授業が中心となり、対面指導やフィールドワークが思うようにできずに教育効果は不十分であったと思う。

ただし、大学院については、4月から12月まで日本に再入国できなかった中国人留学生にとっては、Zoomによる遠隔授業が単位修得に功を奏した。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1)研究テーマ

海外調査 スイスアルプスの高地療養地の変遷

2019年12月の現地調査と原書文献をもとに研究を行った。

著書出版 『観光地理学入門』の原稿執筆を行った。

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
観光地理学入門/単著/2021年3月/同文館出版/160頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

スイスアルプスの高地療養地の形成/2020年9月/温泉地域研究 第35号/27頁～34頁/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員長	中国の大学・高等学校との交流協定の締結、アメリカの協定校における短期バーチャル留学の実施等
全学共通教育委員会	委員	学部長として、人間社会学部が担当する全学共通科目と科目担当者の選定
教員資格審査委員会	委員	学部長・研究科長として、新任教員、昇任教員等の資格審査の提議
防火・防災委員会	委員	長崎国際大学自衛消防隊組織の確認
危機管理委員会	委員	新型コロナウイルス感染予防の対策等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する自己申告書の審議、利益相反マネジメント研究会の開催等
輸出管理委員会	委員	外国人留学生の入国等の把握。FDの実施
グローバル推進協議会	委員	長崎国際大学「国際化ビジョン」の進捗状況
全学教育会議	委員	学部および大学院研究科の教育方針・教育課程等の説明

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学国際観光学会	会長・評議員	会員総会(4月)、研究発表会(10月)、学術誌『観光学論集第16巻』発行(3月)

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

【学生募集】 佐世保北高等学校の出張講義(「長崎県の観光事情」) 2020年12月25日(金)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州風景街道推進会議	委員	2020/8/31～ 2022/3/31	国土交通省九州地方整備局長
ながさきサンセットロード推進協議会	委員	2020/8/31～ 2022/3/31	長崎県土木部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
長崎発グローバル人材育成プログラム(略称共修GP)	留学生と日本人学生の交流活動として、学外授業「雲仙の自然と歴史を学ぶ」のバスツアーを実施し、引率・講師をつとめた。	2020年12月5日(土)	国際交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、新たに国際交流・留学生支援センター長の役職が加わり、校務分掌は学部・大学院の運営と留学生の支援業務に従事した。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学内行事の縮小と学外業務が皆無に等しい状態であったことから、授業準備と個人研究に費やす時間を確保することができた。このこともあって、今年度は著書1編(単著)と論文1編(単著)の研究成果を得た。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 井上 英也

1. 教育理念

観光産業を日本の主産業への機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりと国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な“おもてなし”に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、この人材層に高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1. グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人

材の育成。

2. 経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔

軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3. 地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	15	⑥⑪⑫
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	-	⑥⑫
宿泊業論	15 / 15 (前期)	2	140	②④⑤⑥⑦
ホテル管理論	15 / 15 (後期)	2	71	②④⑥⑦
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	②④⑥⑦
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	10	②⑥⑦
ブライダルマネジメント	15 / 15 (後期)	2	91	②⑤⑦
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	16	②④⑥⑦
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	16	②④⑥⑦
起業論	15 / 15 (前期)	2	44	②④⑥
Hotel Management	15 / 15 (後期)	2	60	②④⑤⑦
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	14	②⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	15	②④⑥⑦
ホテルビジネス英語	15 / 15 (後期)	2	23	②④⑤⑦
ホテルオペレーション	15 / 15 (前期)	2	113	②④⑤⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2020年度後期にアンケートを実施した授業に対する満足度は以下のとおり。

【ホテルビジネス英語】

本授業は、ホテルのスタッフが最低限必要とされる業務での英会話力の取得を目的としている。そのため、ペアワークを多用し会話を実践することに重きを置いている。

今年度は、4.9ポイントと予想以上に高い評価であった。例年と比較し、コロナによる対象留学生の減少により受講者数が25名に半減し、個々に目の行き届いた授業運営ができたことが要因であろうと考える。

【Hotel Management】

満足度の評価結果は、昨年から0.5ポイント下がり4.0ポイントであった。本科目は英語によりホテル経営を学ぶ実践的な授業である。例年の受講者は、英語のレベルが高い留学生、留学経験のあるGTの学生、英語力が高くない観光マネジメントコースの学生がほぼ同数履修し、ネイティブに近い香港からの留学生および欧米からの交換留学生がTAの役割を担っていた。今年度は、受講生がほ

ばGTを中心とした日本人学生となったため、英語のみの授業に慣れるのに時間がかかったことが、満足度に影響があったと考える。受講生の英語力に幅がある中、理解度を確認する頻度を上げると共にグループワークなどでメンバーが補完し合って学習効果上げられるように工夫をしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
- ② グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
- ③ 宿泊業におけるインバウンド戦略
- ④ 地域の観光振興 - Destination Management Organizationの在り方-

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	7万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市次世代創業者育成プログラム共同研究事業	佐世保市	2020年4月1日～2021年3月31日	7万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	特になし
自己点検・評価委員会	委員	特になし
発明等審査委員会	委員	特になし
連学連携・研究支援センター	委員	特になし
全学教育会議	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対応策検討WG	タイプ4「社会実装の推進」WG委員	情報提供

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高校出張講義実績

1. 誠和女子高校 / 令和2年10月2日 / 於:誠和女子高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	6

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
内なる国際化に向けたホスピタリティ産業の人材マネジメント	2021年2月27日	長崎国際大学 オンライン配信	主催:長崎国際大学、GSAジャパン 後援:長崎県・佐世保市IR推進協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光審議会	会長	2019/02/01～	長崎県知事
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会	委員	2017/07/01～	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会 会長
一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会運営における理事	代表理事	2017/03/01～	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会 事務局長
波佐見町上下水道事業運営審議会	会長	2019/05/01～ 2021/04/30	波佐見町長
長崎県次期総合計画懇話会	委員	2020/02/10～ 2020/11/30	長崎県知事
佐世保市観光施設設置奨励措置審議会	委員	2020/09/04～ 2021/03/17	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

西九州させぼ広域都市圏ビジネスプランコンテストにてゼミ4年生が「次世代起業家賞」を受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍により、前期はほぼすべての科目を遠隔授業に切り替え、後期は対面と遠隔のハイブリッドで授業を実施した。遠隔、対面にかかわらずライブで講義を進め、質的な維持はできたと考える。

以下に今年度を総括する。

1. 教育

ホテル関連科目については、引き続き、受講生に基礎知識をしっかりと植えつけると共に、実践的な視点を持たせることに注力している。実務的な知識の習得を目的とした科目である「ホテルオペレーション」においては、専門分野に応じて宿泊部門を「日航ホテル」、レストラン部門を「ウォーターマークホテル」、宴会部門を「九十九島フラッグス」に分割した授業により、受講生のより幅広い興味につながった。

また、ホテル関連科目以外では、講義と演習を組み合わせた「起業論」はグループワークを主体に組み立てた授業のため遠隔には不向きであったが、個人の課題遂行型に切り替えて質の維持を図った。ゼロからビジネスプランを作成しオンラインにて発表することを目標にし、佐世保市が開催するビジネスプランコンテストへの応募を目指した。結果、3組が応募し、1組が年度末に開催される本選に出場できた。

ゼミにおいては、引き続き、地域の要望に応える必要もあり、平戸地域にある5ホテルのインスペクションなどを通じて、PBLを実践した。学生の主体性を重んじることで創造性を育み、その成果物を第三者に伝えるコミュニケーション能力を育成したことを通じて、学生自身が成長を感じてくれていることが実感できたことが成果であった。

2. 研究

今年度は、コロナ禍に加え学科運営が多忙であったため具体的な成果を上げられなかった。長崎県および佐世保市が誘致を進めている統合型リゾートに関し、国際的な観光人材の育成が求められており、この領域の研究については、自治体、関連企業、観光系大学との共同研究を視野に入れた準備を進めた。

3. 大学運営、社会活動、その他の活動

今年度より、国際観光学科長を拝命し学科全般の運営を担った。コロナの影響により緊急且つ柔軟な対応が迫られたが、献身的で前向きな学科教員の支援により、全般的に学生の満足度を下げることなく学科運営ができた。また、長崎県観光審議会会長、長崎県次期総合計画懇話会委員、波佐

見町上下水道事業運営審議会会長、佐世保市観光施設設置奨励措置審議会委員など、自治体からの公的な役割を地域活性化の一助となるべく活動している。

以 上

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 落合 知子

1. 教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くの割合を占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

大学院教育においては、博物館学を核として学生が取り組む研究分野を最大限に引き出すような指導を心掛けている。また、業績を付けることが重要であることから、大学院生を取り込んだ本の出版を実践している。これまで本学に就任してから2冊の本を雄山閣から出版した。令和3年5月に『医学・歯学・薬学系博物館事典』の出版も確定している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
博物館実習A	30 / 30 (後期)	1	57	⑩⑪⑫
博物館実習C	30 / 30 (通年)	1	34	②⑥
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	⑤⑧⑫
博物館資料保存論	15 / 15 (前期)	2	175	②③⑩
博物館資料論	15 / 15 (後期)	2	138	②③⑩
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	7	⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	7	⑫
日本史	15 / 15 (後期)	2	198	②③⑩
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	13	②③⑪
生涯学習概論	15 / 15 (前期)	2	133	②③⑩
博物館概論	15 / 15 (後期)	2	139	②③⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	6	⑫

専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	6	①⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	13	⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	10	①⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
博物館特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
事例研究(博物館)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1
地域マネジメント論特別演習	15 / 15 (前期)	2	3
観光事業特別演習	15 / 15 (後期)	2/1・2年	3
特別研究指導Ⅰ	30 / 30 (通年)	4	2
特別研究指導Ⅲ	30 / 30 (通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学部のアンケートは対面授業を行った博物館実習Cのみの実施となった。

大学院のアンケート調査は全ての科目で実施した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
日本大学理工学部	博物館資料論	1/1(後期)	2	5

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマ

1. 博物館学

① 野外博物館

② 医学・歯学・薬学系博物館

③ 博物館資料保存論

2. 考古学

3. 文化財学

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	3	1	3	3	89万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

『21世紀の博物館学と考古学』/共著/2021年3月/雄山閣/500頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

「地域文化資源の活用に向けたソフト事業開発に関する研究」/2021/3/31/長崎国際大学学長
裁量経費報告書/全63頁、1頁～6頁/共著/報告書

『長崎県西海市西海町横瀬郷試掘調査報告書』/2021/3/31/長崎国際大学博物館学芸員課程
発掘調査報告第1集/全35頁、1頁/共著/報告書

『地方自治体と協働した実践的な学芸員教育の試み』/2021/3/31/『全博協研究紀要第23号』/
全87頁、31頁～33頁、51頁/共著/報告書

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

「学芸員養成における展示活動を通じた資料保存教育の実践」/2020/7/文化財保存修復学会
第42回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地域文化資源の活用に向けた ソフト事業開発に関する研究	長崎国際大学	令和2年5月～令和3年 3月	60万円
地域企業を活用した大学グッズ 開発の効果的利用法に関する 研究	長崎国際大学	令和2年4月～令和3 年3月	19万円
長崎国際大学別嬪大賞	長崎国際大学	令和2年9月～令和3年 3月	10万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	副委員長	なし
全学教育会議	委員	なし

大学院学務委員会	委員長	なし
----------	-----	----

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3)課外活動の指導等

地域文化研究会

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	7

(1)講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保地域文化事業団評議員会	評議員	未定	佐世保地域文化事業財団理事長
佐世保市図書館協議会	委員長	令和4年まで	佐世保市教育委員会教育長

佐世保市総合計画審議会	委員	未定	佐世保市長
波佐見町歴史文化交流館建設検討委員会	委員	令和3年4月まで	波佐見町教育委員会
波佐見町まち・ひと・しごと創生推進協議会	委員	未定	波佐見町企画財政課
長崎市立恐竜博物館指定管理者候補者選定審査会委員	委員	令和3年10月まで	長崎市教育委員会
板橋区立郷土博物館協議会	委員	未定	板橋区立教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和2年8月～令和3年1月 長崎県西海市西海町横瀬郷発掘調査

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

2020年 長崎国際大学別嬪大賞授賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

令和2年度学長裁量経費事業は、「地域文化資源の活用に向けたソフト事業開発に関する研究」であるが、この事業を契機として、学部生、大学院生たちの調査研究の場として佐世保市を活用し、教育委員会職員の指導を受けている。今後も共同研究を推進することにより、本学と佐世保市とのより良い関係を築いていきたいと考えている。

また、『医学・歯学・薬学系博物館事典』(令和3年5月刊行予定)の編集を通して、学部生、大学院生の調査および執筆力の向上に寄与した。今後も学生を取り込んだ出版を推進していく予定である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 板垣 朝之

1. 教育理念

近年社会の変化のスピードは著しく早く、その中で「社会人」として活躍するには自らの能力を磨き続けながら、社会に対して常に自らの考え・意見を持って主体的にかかわる事が必要である。そのため私は、学生が以下3点の基本的人間力を習得し、それを常に向上させながら「一人前の社会人」として社会へ巣立ってゆくことを大きな目的に、日々の教育に当たっている。基本的な人間力とは、以下の3点である。

1. 何事に対しても常に自分の考え・意見を持つこと
2. 自分の考え・意見を口頭で開示できること
3. 自分の考え・意見を文章で表現できること

この能力の習得と涵養のために、我々の周りにある主に「観光」に関する事象や動きを追いながら、知識を広め、また深め、広く「社会人としての教養」を高めることを目標として、講義、演習等の授業を構築している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	15	④⑦⑩
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	1	④⑦⑩
キャリア開発Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	313	①②⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	⑤⑦⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	10	⑤⑦⑩
長崎研究	2 / 15 (前期)	2	196	②
ツアープランニング	15 / 15 (後期)	2	130	②③⑩
地域観光研究C(ヨーロッパ)	15 / 15 (前期)	2	89	②③⑩
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	15	⑤⑦⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	15	⑤⑦⑩
航空業論	15 / 15 (前期)	2	150	②③⑩
海外観光資源A	15 / 15 (後期)	2	144	②③⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光事業特講	5 / 15 (後期)	2/1・2年	3

観光経営管理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	6
----------	--------------	--------	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本職の授業は国際観光学科専門科目においても特に特殊性の高い授業項目が多く、単に単位のみを求める学生と、専門性の高い内容を求める学生の意識の違いがはっきり出易い授業がほとんどである。単位目当ての学生にとって専門性の高い授業内容は、眠気の誘因となり、授業評価も上限が決められている例年の傾向を脱するのが本年も困難であった事を示すアンケート数値であった。本来の、学習意識の高い学生層には毎年授業内容に変化を加え、興味を持って授業に臨んで貰う様工夫を凝らしたが、単位目当ての学生には差ほど興味を抱かせる事ができなかったのが残念である。今年度は授業内容の特殊性をシラバス等にも計画に記載し、単に単位所得のみを目的とする受講奈求めない旨明記したが、前期遠隔授業に置ける大幅な受講への変化は見られなかった。

何らかの資格取得に結びついた目的意識のはっきりした学生を主な対象とする授業群と、単位取得の為にただ受講届を提出して教室にいるだけの学生が半数を占める授業とを、同じ土俵で数値評価する事の限界を感じる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「三川内町おくんち祭り協賛による町おこしへの働きかけの研究」

・三川内町町内会からの依頼により、2020年10月開催予定の同町おくんち祭りの各種行事への協賛を通じて、窯業が衰退し、地区住民全体の15%程度の窯業関係住民比率にまで落ち込み、「窯業」、「磁器作り」という共通意識でくることが困難となった同町において、おくんち祭り等の諸行事の実施によりどの様な方向性で、どの様な町おこしや住民の地元への郷土意識や行事への参画意識向上を目指す取り組みが実現可能なのかに関し、複数年単位での事業協賛を行う事で、同町における町おこしの実態を把握し、目指すべき方向性を明らかにし、これに協賛、後押しし、成果向上する事を目的とした。

実際には2020年2月時点より活動開始の予定であったが、コロナ蔓延により各種町内行事は全て中止となり、翌年度への懸案事項引継ぎと、同様の協賛への取り組み開始を2021年1月次からと定めて、実質的な本年度の活動を終了した。

尚本事業への協賛、研究に関しては、本職の離任により、後任担当教員を国際観光学科佐野香織准教授として、2021年度に継続研究する事となっている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国策観光学科国際観光研究所	所長	2020年度に関してはコロナ禍によりほとんどの研究事業が中止、または延期の止む無しに至った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

無し

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

無し

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	欠席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州・長崎IR区域整備有識者会議	委員	2020年4月1日～ 2021年3月31日	長崎県・佐世保市IR 推進協議会 会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

無し

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特記なし

7. 受賞等

該当無し

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学における教員最終年度であったが、コロナ禍により授業は一部ゼミ授業等を除き全て遠隔授業となり、教員としての有終の美を飾ることが出来なかったのが残念である。今後は体調管理に気を付けながら、余生を送ることとしている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 熊谷 賢哉

1. 教育理念

学生に主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	11	①②④⑤⑥
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	5	①②④⑤⑥
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	①②④⑤⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	11	①②④⑤⑥⑫
運動生理学A	15 / 15 (後期)	2	52	②④⑤⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	②⑤⑥⑦⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	②④⑤⑥⑦
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	11	①②④⑤⑥
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	10	②③⑩⑫
健康科学	15 / 15 (前期)	2	74	②⑤⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	5	①②④⑤⑥
トレーニング論	15 / 15 (前期)	2	37	②⑤⑨⑩
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	①②④⑤⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	4 / 15 (前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

コロナ渦の中、当初、予定されていた対面授業がほぼ全て遠隔授業となり、その準備、そして、その展開にかなりの労力を費やした。遠隔授業に変更したことによる、評価の変動はそれほど認められなかったが、授業理解度の格差がより広がったように思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	ライフスポーツ	30/30(前期)	2	60
長崎県立大学	ライフスポーツ	30/30(後期)	2	30
長崎県立大学	地域健康支援論	15/15(後期)	2	50

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ ヒト骨格筋の形態と機能の関係
- ・ 高齢者の健康と身体活動

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討ー大学生の「ささえるスポーツ」の視点に着目してー/2021/スポーツ産業学研究/31-40/共著/論文
長崎国際大学スポーツ系部活動・サークルに所属する学生の現状とニーズの研究/2021/長崎国際大学論叢/41-56/共著/論文
大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討ー保護者の視点に着目してー/2021/健康科学/89-94/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学が運営する地域スポーツの楽しさの検討ー指導学生の視点に着目してー/2020.7/日本スポーツ産業学会第29回大会

Factors Affecting the Enjoyment of Community Sports Classes: Investigating from the View of Parents. / 2020.10 / The 24th annual congress of the European College of Sport Science in seville

COVID-19影響下での大学体育授業実践(長崎国際大学の対応)/2021.3/九州地区大学体育連
合令和2年度春期研修会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	副委員長	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
募集委員会	委員長	学科内の学生募集活動

(3) 課外活動の指導等

ラグビーサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本健康運動指導士会長崎県支部会	理事	2018/4/1～ 2021/3/31	日本健康運動指導士会 長崎県支部
佐世保市東部スポーツクラブきずな理事会	理事	2018/4/1～ 2021/3/31	佐世保市東部スポーツクラブきずな
九州体育・スポーツ学会理事会	理事	2018/4/1～ 2021/3/31	九州体育・スポーツ学会
九州地区大学体育連合理事会	理事	2018/4/1～ 2020/3/31	九州地区大学体育連合

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・教育面:スポーツツーリズムコースの学生をゼミ生(2年～4年)として計27名担当し、そのうち4年生11名の卒論を担当した。また、今年度も教養セミナー(1年生11名)を担当した。
- ・研究面:著書の執筆を担当した。また、論文を一本投稿した。
- ・社会面:九州体育スポーツ学会および九州大学体育連合の理事として、学会および連合の運営に積極的に携わることができた。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 滝 知則

1. 教育理念

1. 教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いると思う。この人たちには、この大学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。だが私たちは、これとは別の種類の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障がいのある人たちと（今は）ない人たちの文化、地方（農村部）の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働（グループワーク）や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会（地元）で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べると、地方（農村部）の地域社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方（農村部）の地域社会の文化を創造するための大変さ、創造されたすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。

自分自身、都会で働いたり生活したりしたことがある。都会を否定するものではない。同時に、地元で生きること、地元でがんばることに誇りを持つことができる人に、学生たちがなってもらいたいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいことがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、聞き手に伝わりにくいことが珍しくない。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでもよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。

実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告

(考えたことや感じたことの言語化)といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実習系科目のフィールドは佐世保市三川内町と平戸市である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告(考えたことや感じたことの言語化)を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
地域連携活動ⅠA	15 / 15 (後期)	1	6	②③④⑥
地域連携活動ⅠB	15 / 15 (後期)	1	9	②③④⑥
地域連携活動ⅡA	15 / 15 (前期)	1	4	②③④⑥
地域連携活動ⅡB	15 / 15 (後期)	1	5	②③④⑥
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	②④⑥⑪
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	2	②④⑥⑪
異文化コミュニケーション論	15 / 15 (前期)	2	44	①②⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①②④⑥⑦⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	④⑥⑩⑪
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	13	④⑥⑩⑪
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	12	①④⑥⑪
International Relations	15 / 15 (前期)	2	5	①②③⑥⑨⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	①④⑥⑪
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	16	④⑥⑩⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	12	④⑥⑩⑪
国際交流研究	15 / 15 (前期)	2	113	②④⑥⑩
ビジネス文書	15 / 15 (後期)	2	78	①③⑨⑪
国際関係論	15 / 15 (前期)	2	107	①②⑥⑨
政治学	15 / 15 (後期)	2	126	①②⑤⑥⑨⑩
比較文化論	15 / 15 (後期)	2	102	①②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
アカデミックライティング特講	30 / 15 (後期)	2/1・2年	1
国際関係特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
国際関係特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
事例研究(国際関係)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-

特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	0
観光事業特別演習	5 / 15 (後期)	2/1・2年	3
地域観光政策特別演習	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

1. 政治学

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q13 (この授業に参加して満足できたか)

R1実績3.7、R2実績3.7、推移±0.0

(3) (改善が必要な授業の内容に関わる項目)(Q3～Q5)

Q3(授業の編成、まとめ、わかりやすさ)

R1実績3.7、R2実績4.0、推移+0.3

Q4(シラバスと授業内容の整合性)

R1実績3.9、R2実績4.1、推移+0.2

Q5 (授業内容に興味を持てたか)

R1実績3.8、R2実績3.7、推移-0.1

(4) (改善が必要な授業の方法に関わる項目)(Q6～Q11)

Q6 (話し方は明瞭か)

R1実績3.7、R2実績4.0、推移+0.3

Q7 (熱意の感じられる授業か)

R1実績3.9、R2実績4.2、推移0.3

Q8 (教科書、参考書、配布プリントの使用は適切か)

R1実績3.9、R2実績4.1、推移0.2

Q9 (板書や機器の使用)

R1実績3.8、R2実績4.1、推移+0.3

Q10 (遅刻や私語への対応)

R1実績3.9、R2実績4.1、推移+0.2

Q11 (学生の授業参加の促し)

R1実績3.9、R2実績3.9、推移±0.0

スライドの説明動画は、長さ10分程度(最大15分)を2本用意した。説明の際、短い文章を積み重ねて話すことに留意した。

遠隔授業のメリットの一つとして、担当教員の説明を、対面授業の場合よりも聴きやすい場合があつ

たかと思う。

グループワークの運営には、工夫が必要であった。次年度は、遠隔で効果的なアクティブラーニングの方法を工夫する。遠隔でも参加しやすく、分かりやすく、学生同士のやりとりが活発に行われるようにする。

2. ビジネス文書

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q13 (この授業に参加して満足できたか)

R1実績4.1、R2実績4.5、推移+0.4

(3) (改善が必要な授業の内容に関わる項目) (Q3～Q5)

Q3 (授業の編成、まとめ、わかりやすさ)

R1実績4.1、R2実績4.3、推移+0.2

Q4 (シラバスと授業内容の整合性)

R1実績4.1、R2実績4.5、推移+0.4

Q5 (授業内容に興味を持てたか)

R1実績4.0、R2実績4.4、推移+0.4

(4) (改善が必要な授業の方法に関わる項目) (Q6～Q11)

Q6 (話し方は明瞭か)

R1実績4.1、R2実績4.3、推移+0.2

Q7 (熱意の感じられる授業か)

R1実績4.2、R2実績4.3、推移+0.1

Q8 (教科書、参考書、配布プリントの使用は適切か)

R1実績4.1、R2実績4.3、推移+0.2

Q9 (板書や機器の使用)

R1実績4.1、R2実績4.3、推移+0.2

Q10 (遅刻や私語への対応)

R1実績4.3、R2実績4.6、推移+0.3

Q11 (学生の授業参加の促し)

R1実績4.1、R2実績4.4、推移+0.3

遠隔授業を、第1部(オンデマンド授業)と第2部(ライブ授業)の2部形式で行った。第2部は録画し、他の授業に出席していた学生も後ほど見られるようにした。スライド(YouTube動画)の時間は1本あたり10～15分とした。簡にして要を得た説明は、もともと必要なことであるが、遠隔授業の実施が一つのきっかけとなった。

遠隔授業のため、お互いの顔が見えないという環境は、授業を受ける側にもする側にも制約をもたらす。それでも、パソコンの画面に話しかけているときでも、受講生の人たちが熱心に授業を受けていることが、なぜか感じられたと思う。また課題の提出も、極めて積極的におこなってもらえたことも、大切な経験である。

令和3年度の授業も遠隔で行う可能性が考えられる。遠隔の場合でも、対面になった場合でも、今年度の授業を通じて担当者が学んだことを授業に活かし、さらなる充実を図る。

3. 教養セミナーB

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

Q10(このセミナーに対して満足できましたか)

R2実績 4.6

(3) (改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策) (Q2～Q3)

Q2(内容は興味が持てるものでしたか)

R2実績 4.1

Q3(学ぶことに対して興味・関心が増しましたか)

R2実績 4.3

(4) (改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策) (Q4～Q7)

Q4 (教員はセミナーに対して熱意を持っていましたか)

R2実績 4.7

Q5 (あなたの疑問や質問に対して誠実に応えていましたか)

R2実績 4.6

Q6 (学生の参加(ディスカッションなど)を促していましたか)

R2実績 4.6

Q7 (あなたの相談等に対して誠実に対応していましたか)

R2実績 4.6

グループワークを行う際、活動内容を指示した後、実際に話したり活動したりするまでに若干のタイムラグが見られることがあった。従来は「早くしてほしい」とプレッシャーをかけたこともあったが、ゼミ生を注目しつつ、話し出すのを待つことを心がけた。受講生たちが安心して活動できたのではないかと期待している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- a. 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響
- b. 国際観光がホストとゲストの相互認識(ナショナリズム)に与える影響
- c. 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動
- d. 引揚げの歴史との対比を通しての国際観光の特徴の把握
- e. バリアフリー対応が佐世保市三川内町のやきもの観光にもたらす可能性の調査

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	1	1	20万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
初年次・共通教育部門の活動報告/2021年3月/教育基盤センター紀要/67-82/共著/活動
報告
三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査/2020年3月/令和2年度学長裁
量経費 調査結果報告書/1-5, 21-22/共著/活動報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
三川内焼を対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性の調査	長崎国際大学()学長裁量経費	2020年4月～2021年3月	20万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	①委員会運営(定例会議、ビブリオバトルなど)において、委員長を補佐した。 ②国際観光学科の図書購入について、予算の計画的な執行のため、学科教員に働きかけを行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	①入学前教育課題について、送付方法の一部見直しを行った。 ②長崎国際大学教育基盤センター紀要(第4巻)に、初年次・共通教育部門の活動報告を提出した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ①サイレントブルーサークル顧問
- ②ローターアクトサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席

2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市行財政改革推進会議	委員	H31.1～R2.12	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

b. サイレントブルー顧問

サークル所属の学生たちの学内献血ならびに四ヶ町血液センターでのキャンペーン実施を支援した。

c. ローターアクトクラブ顧問

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
NIU異文化理解教室	佐世保市立広田小学校6年生と本学の留学生が、お互いの文化を教えることを通じて交流。本年度は遠隔で実施した。	6月29日、2月26日。	佐世保市立広田小学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

下に示すことからの実施を通じて、不十分ではあるが、学生たちならびに大学への貢献に引き続き励む。

(1) 教育

ア 今年度の遠隔授業の実施は、これまでの授業の進め方の見直しを行う機会ともなった。受講生が楽しくかつ分かりやすい形で、シラバスに示した学修目標を達成してもらえよう、さらに工夫をする。

イ 2019年度に終了した黒島観光の国際化PRプロジェクトは、今年度学科の「地域連携活動」として授業化した。新型コロナの影響もあり、当初想定していたものとは異なる形での授業実施となった。一方で天主堂の耐震工事終了が、2021年度の授業ではプラスの条件となる。制限の下ではあるが、効果的でかつ楽しいものとする。

ウ 大学院生の指導を、より適切かつ効果的に行う。

(2) 研究

ア 三川内焼観光とバリアフリーに関する研究について、今年度は一定の進展があった。次年度は、①三川内焼美術館と佐世保市うつわ歴史館での具体的な改善点の考察、②上記2館でのバリアフリー化のニーズが、佐世保市内にどの程度あるかの調査、③展示における外国語表示のさらなる向上の三点に注力して、さらに掘り下げていきたい。

イ 異文化理解教室については、西九州大学短期大学部との協働を引き続き行い、QSPの枠組みの中でのさらなる充実を目指す。対面とオンラインを適切かつ効果的に組み合わせて行う。

(3) 大学運営

図書館委員会と教育基盤センター委員会のより効果的、効率的な運営に励む。
共同研究予算委員会、初年次教育委員会等の業務に励み、学科の運営を支える。

(4) 社会貢献

サイレントブルーとローターアクトクラブの部員たちが、充実した活動を引き続き行えるよう、支援す

る。

(5) 国際交流

英国のウォーリック大学との授業における交流を、今後も継続、発展させたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 教授 氏名 田中 誠

1. 教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかりと行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしても「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	10	⑥⑫
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	1	⑥⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	19	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	1	④
事前・事後指導	4 / 8 (通年)	1	20	④⑦
TOEIC対策B	15 / 15 (後期)	2	87	①⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
英語科教育法Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	2	①⑤
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	16	⑤⑦⑩⑪

教職実践演習(栄養教諭)	2 / 15 (後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	10	①⑥
英語科教育法Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	3	①⑤
英語科教育法Ⅳ	15 / 15 (後期)	2	3	①⑤
英語科教育法Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	6	①⑤
TOEIC対策A	15 / 15 (前期)	2	84	①⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑥
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	6	①⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
グローバルコミュニケーション特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、新型コロナウイルスの影響で何もかもが例年と異なる状況の中で、授業に取り組まなければならない事態となった。それでも授業に関しては、私が最も力を入れている事項であり、今年度も例年通り、熱意のある、わかりやすい授業を展開するために必死で取り組んだ。

講義型の授業は、Zoomを使用した授業がメインとなり、様々な事情でリアルタイムで授業を受けられない学生向けに録画もしなければならぬので、録画でも授業の質が落ちない内容にするために授業準備に例年以上の時間を費やした。

前期の「TOEIC対策A」に関しては、例年通り、授業終了時にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらった。そして、学生のコメントに関しては次の授業で、manabaのスレッドを使用して、まとめて返信するようにし、双方向型学習が促進されるように努力をした。また、授業外学修の時間を増やすために、2つの課題を毎回与えた。1つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、2つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。この課題に加えて、今年度は、Zoomで行った授業を後からYouTubeでも見るようにしていたので、分かりにくかったところや苦手な事項は、YouTubeを何回も見たという学生もいた。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにおき、復習がすぐできるような環境も整えた。TOEICの授業は、難易度の高い試験対策なので、Zoomを使用しても、ライブ感のある授業を心がけた。授業時には、熱意の感じられる授業を展開できるように努力をし、例年通りのアンケート項目で独自に実施した授業アンケートでは、7の「熱意の感じられる授業でしたか」については4.7という高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.7と高評価を得ることができた。次年度も同様の評価を得られるように努力をしたい。

後期の「TOEIC対策B」においては、前期の授業方法に改善を加え、リスニングはZoomを使用シラ

イブで、リーディングは、何度も繰り返し見ることができるようYouTubeを使用しての授業という形式で行った。その結果、7の「熱意の感じられる授業でしたか」については4.8というさらに高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.6であった。このように高評価を得ることができ、ほっとしている。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、Zoomの授業であっても、対面の授業であっても、それぞれの授業で、双方向型の授業を意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせるよう努力した。例年通り、授業外学修時間を確保するために、毎回の課題も課し、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。遠隔の授業が多くなったことで、学生の不安を少しでも軽減するために、例年以上にできるだけコミュニケーションを取るよう意識して、ゼミ生の指導を行った。

教職科目に関しては、例年通り、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。Zoomを使用する遠隔授業は、中学校や高校でもかなり浸透してきているので、教職の授業では、授業を受けるだけでなく、Zoomを使用する模擬授業にも取り組んだ。ICTを活用した授業は、今年度の様々な取り組みで、一気にレベルが上がったと思う。遅れを取ることのないよう学生と共に努力していきたい。

大学院の科目に関しても、Zoomがメインの授業となったが、履修学生の人数が少ないので、特に大きな問題もなく、今年度も厳しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。

全体を通しての反省としては、遠隔での授業になるとどうしても、やる気のある学生とそうでない学生の差が大きくなってしまふ点について、やる気のない学生のやる気を出させるために、何かもっと工夫できたのではないかと点があげられる。やる気のない学生に対しての指導法について、試行錯誤している状況はこのところずっと続いているが、なかなか思ったほどうまくいかない。学生にやる気を出させ、学修時間を延ばすことができるように、これからも適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要がある。次年度は、今年度よりも対面でも授業が増えることを期待しているが、どちらになっても、ポートフォリオ等を活用して、授業外学修時間の増加に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
TOEIC 対策講座	5	38	2020/10/10～2020/11/21

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・外国語としての英語教育

- ・教育学
- ・言語学
- ・翻訳研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
映画『天気の子』の翻訳研究 ―英語教育の視点から―/2021年3月/長崎国際大学教育基盤セ
ンター紀要第4巻/45頁～53頁/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	新型コロナの対応というこれまでにない状況の中、遠隔授業の導入・運営等、適切な教務運営に努めた。また、教育の質保証のための100冊読書の見直し等を行った。
全学共通教育委員会	副委員長	全学共通教育委員会の副委員長として、全学共通科目に関わる諸業務の適切な運営に努めた。
教職課程委員会	委員	新型コロナの影響の中、委員としての諸業務(教育実習、介護等体験、履修カルテ、教職実践演習等)を適切に行った。

全学教育会議	委員	委員として、適切な業務遂行に努めた。
人事委員会	委員	委員として、適切な業務遂行に努めた。
カリキュラム委員会(学科)	委員長	国際観光学科のカリキュラムの適切な運営に努めた。日本語教員養成課程の廃止に伴う移行措置を策定。これまでの養成課程をなくし、卒業後の進路に対応した履修モデルを作成など新しい事項に取り組んだ。
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	委員長	新型コロナで、海外留学ができないという非常事態の中で、学生のモチベーションを落とさないように尽力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業対策会議 ワーキンググループ(タイプ1)	副WG長	タイプ1の事項を精査し、対応を検討し、高いポイントが取得できるよう尽力した。

(3) 課外活動の指導等

- ①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導
- ②TOEIC対策講座 担当
- ③IP TOEIC 実施責任者

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①KTN取材対応 遠隔授業の対応について 4月23日 夕方のニュースで放送
- ②長崎新聞対応 遠隔授業の対応について 4月23日 朝刊(4月24日)に掲載
- ③本学開催のオープンキャンパスで、英語教育・留学等の保護者説明担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
本学の3ポリシーとその達成に向けた教員の役割	2020/8/4	長崎国際大学	長崎国際大学（新任教員向けFD）

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2019/11～	佐世保市長
長崎県教員免許状更新講習連絡協議会	委員・副会長	2008/7～（副会長は、2020年度）	長崎県内大学・短期大学理事長・学長会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①長崎国際大学 国際観光学会 評議員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度の新型コロナの影響下においても、教育の質を下げないために全学の教務委員長として懸命に努力をした。このような前例のない事態の中でも、なんとか本学の教学事項を適切に運営できた

のは、本学の教職員全員の献身的な努力のおかげだと考えている。

3ポリシーに基づく教育については、薬学部を除き、今年度が完成年度となるので、点検・評価を行い、改善すべき点をまとめて、次年度以降の実施に反映できるように尽力した。年々、良いものとなるようにPDCAサイクルを適切に回していきたい。

教務委員会の適切な運営のためには、3学部4学科のそれぞれの意見の調整も必要であり、今年度は例年以上に、調整することが困難な点もあったが概ね適切に運営することができたと思う。

学科のカリキュラム委員長としては、今年度も学科の教育課程の適切な運営に寄与できたものと考えている。次年度より、これまでの養成課程をなくし、将来の進路を見据えた履修モデルの提示による指導に切り替えることにした点は、大きな変更点であるが、適切に運用できるように学生にも指導していきたい。

グローバルツーリズムコース委員長としてのコース運営に関しては、今年度は、留学ができないという非常事態ではあったが、グローバルツーリズムコースの授業を担当する教員の献身的な努力により、どうにか運営することができた。遠隔の授業が多く、後期になるとモチベーションの維持が難しい学生も見受けられるようになり、かなり指導に苦勞をしたが、一人一人の学生に丁寧な指導を続けていきたい。このような厳しい状況下での指導は、英語担当教員の一人一人の尽力なしでは、達成できないので、英語担当教員の協力を得て、さらに努力していきたい。

上記以外の活動についても、今年度は経験したことのない事態の連続であったので、文字通り多忙を極めた。その多忙のせいにはしたくないが、今年度は、単純ミスをすることが、例年より多かったように思う。大事に至らないレベルのミスで済んでいるので良かったが、自分自身のチェック機能の低下を痛感している。これまでは、スピード感を持って何事にも取り組んできたが、これからは、スピードを少し落としてでもミスをしないように業務に取り組む必要があると考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 特任教授 氏名 嶋内 麻佐子

1. 教育理念

私は現在、長崎国際大学茶道文化研究所所長として、全学共通科目である「茶道文化」の講義と実技を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心(ホスピタリティ)を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、「正午の茶事」と「卒業の茶事」の2回の茶事を通して、学内外よりお客様をお呼びし、数寄屋での茶事を実践する。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	56	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	54	②③⑥⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	52	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	50	②③⑥⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (後期)	1	2	②③⑥⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	115	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	106	②③⑥⑪⑫

茶道文化ⅣA	15 / 15 (前期)	1	18	②⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15 / 15 (後期)	1	14	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15 / 15 (前期)	1	50	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB	15 / 15 (後期)	1	49	②③⑥⑪⑫
茶道文化ⅡA	15 / 15 (前期)	1	19	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅢB	15 / 15 (後期)	1	6	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅣA	15 / 15 (前期)	1	21	②⑥⑪⑫
茶道文化ⅣB	15 / 15 (後期)	1	12	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15 / 15 (前期)	1	22	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅡB	15 / 15 (後期)	1	66	②③④⑥⑦⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15 / 15 (後期)	1	7	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	②③④⑥⑦⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度はコロナ禍によって授業内容や授業方法の変更を行い、前期がオンライン授業、後期が対面授業とオンライン授業を併用して柔軟に対応した。対面授業では、手指消毒や茶道具を共有しないなどの徹底した感染対策に努め、少人数での授業を行った。オンライン授業では授業のポイントを細かに解説し、手元が見やすいように工夫を凝らした。また、学生からの質問をmanabaで受け付け、回答をクラス全員で共有するよう情報発信を行った。

茶道文化Ⅰ

初めて茶道を学ぶ学生が多く、オンライン授業の中では他の学年以上に細かにポイントを解説し、反復した授業内容にするよう心掛けた。オンライン授業の中には、「茶の歴史と鎮信流」についての講義も取り入れたことで、地域を知るきっかけとなり、また地域の歴史の再理解、再発見にもつながっていることがわかった。また、対面授業においてはオンライン授業で学んだ内容を実践的に確認することを目標にしたことで、初めての内容であっても理解度を高めることができた。感染予防対策として、自明堂と不息庵、講義教室(4101教室)を使用して3密を避けるよう入念に計画を練り実行できたことは、学生に対して安心した授業環境を提供することができ良好であった。また、各指導者や補助員と交流ができたことは学生にとって良い刺激となり、学習意欲の向上につながったと思われる。

茶道文化Ⅱ

濃茶点前の習得については、実際に濃茶を練る様子を見せ、学生の理解を図るように努めた。また、オンライン授業で予習、復習を兼ねることができたことは、学生の習熟度の向上につながったと考える。さらに、対面授業では1年次と比較して4～5人/1班と少人数になり、茶道具を扱う時間や、指導

者と接する時間が増えたことも満足度の向上に寄与したと思われる。今回のオプション授業は、感染予防対策を考慮して例年であれば2回行っていたところを1回に減らし、着付けと花生け、絵手紙の3つの内容に絞って実施した。オプション授業は学生が希望したものを受講することもあり、初めて取り組む内容であっても興味関心が高く、意欲的に参加している印象があった。

茶道文化Ⅲ

「茶道文化Ⅲ」まで履修している学生ということもあり、茶道に取り組む姿勢や、興味関心度は高い水準にあると考えられる。そのため、全体的に良好な結果が出ている。例年、開催をしていた観月茶会は学内外より客を呼ぶことで、おもてなしの実践を行うという学生の成果発表の場となっていたが、今年は感染予防対策として中止した。そこで、授業内容を再検討し、学生同士で亭主と客に分かれてのミニ茶会を計画した。限られた対面授業の時間であったが、ミニ茶会を通して学友と共に行うことで協調性が生まれ、充実感を得ている様子があった。また、オンライン授業では「茶道文化Ⅳ」で学ぶ茶会での作法について導入を入れたことで、茶道の奥深さに気づくコメントがあった。対面授業とオンライン授業の併用という新たな取り組みであったが、次年度も履修したいという学生の学習意欲を高めることにつながったことは大変意義のあることだと感じた。

茶道文化Ⅳ

例年、「茶道文化Ⅳ」では前期に正午の茶事、後期に卒業茶会を実施しており、4年間の学びの集大成である茶会を通してホスピタリティを体現することを目標としていた。前期はすべてオンライン授業となり、茶会を行うことができなかった。しかし、後期になり対面授業を一部行うことができるようになり、どのような形式であれば茶会を実施することができるか各指導者と協議を重ねた。茶会の流れの一部分のみの実践となってしまったが、少ない対面授業の中でも学生と指導者がコミュニケーションをしっかりと取り、充実したグループ学習をすることができていた。茶会の中では、学生同士が臨機応変な対応を行うことで、スムーズに茶会を運営することができており、学生の主体性が感じられた。コロナ禍という状況の中で模索しながらの授業展開であったが、学生が満足する授業内容を提供できるよう今年度の反省を活かしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化Ⅰ	6/15(前期)	1	203
長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	6/15(前期)	1	210
長崎短期大学	茶道文化Ⅰ	1/15(後期)	1	200
長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	1/15(後期)	1	213
九州文化学園歯科衛生 士学院	茶道文化ⅠA	2/15(後期)	1	25
九州文化学園調理師専 修学校	カップリングカフェ&リカー	2/15(後期)	1	12

九州文化学園小学校1年生	日本文化教育	30/30(通年)	1	20
九州文化学園小学校2年生	日本文化教育	30/30(通年)	1	18
九州文化学園中学校1年生	日本文化教育	30/30(通年)	1	21
九州文化学園中学校2年生	日本文化教育	30/30(通年)	1	20

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
補助員研修(春)	6	25	3/10・11・12・17・18・19
補助員研修(夏)	6	22	9/8・9・11・15・16・18
補助員会議	1	14	12/16
長崎短期大学茶道大会当日	5	36	12/12
長崎短期大学茶道大会前日指導	2	3	12/11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

「茶道鎮信流の点前に関する研究」

「茶道と教育について」

「ホスピタリティ概念から捉える亭主と客の相互関係のありかたについて」

「小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業」

「感性を育む大学茶道教育の実践事業」

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	0	1	1	35万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

「感性を育む大学茶道教育の実践事業」実施報告書/共著/2021年3月/長崎国際大学茶道文化研究所/38頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

総合的な学習の時間と学校裁量の時間を活用した新設小・中学校の未来志向型教育の試み—
茶道教育を通じた特性と品格の涵養—/2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第4
巻/37～44頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「感性を育む大学茶道教育の実践事業」	令和元年度長崎国際大学学長裁量経費採択	2020年4月～2021年3月	35万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター委員会	アドバイザー	規定の改正、長崎国際大学履修証明プログラム、長崎県庁跡地の活動についての意見交換会(リモート会議)において、茶道の活用について提案した。 九州・長崎国際観光人材育成セミナー第1回ホスピタリティ産業と人材育成におけるセミナーを担当し、特別対談を行った。(長崎国際大学、GSAジャパン主催)
茶道文化研究所	所長	長崎短期大学茶道文化とのオンライン授業用動画の検討会や歯科衛生士学院とのオンライン授業に関する意見交換会の実施など、本学のみならず九州文化学園内の茶道文化に対して活動を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
大学教職員の夜茶の研修	茶道文化研究所所長	大学及び九州文化学園内の教職員に対して、コロナ禍での夜茶開催についての会議を数回実施し、稽古はじめ、観月茶会、鎮信公忌を1101教室にて開催した。短期大学の夜茶においても、会全体の指導を行った。
茶道文化補助員の教育指導	茶道文化研究所所長	大学規定に沿って補助員の選考を行い、春・夏に補助員研修を企画し、技術指導と教育方法の指導を行った。また、授業終了後の反省会や、1年間全体の反省会を企画し、指導者教育を行った。 また、動画を使い2年生と3年生の茶道文化履修学生に対して補助員活動報告を行った。

長崎短期大学・専修学校部門の教職員の茶道指導	茶道文化研究所所長	短期大学と専修学校教職員に対して、授業で使用する動画の指導とアドバイスをを行った。さらに12月に長崎短期大学茶道大会時期には、教職員に対して、茶席設置の確認と亭主用道具の選出を行った。
九州文化学園小中学校教員の茶道指導	茶道文化研究所所長	小中学校での茶道指導の際に、担当教員に対して授業計画と実施内容技術指導を30回行った。

(3) 課外活動の指導等

- ①茶道部顧問 茶道部の茶道活動支援を行っている。今年度は主に、点前指導とクラブ活動支援を行った。
- ②補助員研修 大学及び小中学校茶道指導のための支援活動を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①オープンキャンパス「茶道紹介」/2020年7月26日/長崎国際大学(自明堂)
- ②オープンキャンパス「茶道紹介」/2020年8月10日/長崎国際大学(自明堂)
- ④オープンキャンパス「茶道紹介」/2020年8月23日/長崎国際大学(自明堂)
- ⑤オープンキャンパス「茶道紹介」/2021年3月20日/長崎国際大学(自明堂)
- ⑥NIU利休庵診療所設立に関する記者発表会にて「呈茶」のもてなし/2020年8月5日/長崎国際大学(自明堂)
- ⑦九州文化学園中学校1年生大学訪問にて「茶道紹介」/2020年8月27日/長崎国際大学(自明堂)
- ⑧九州・長崎国際観光人材育成セミナー「第1回:ホスピタリティ産業と人材育成・特別対談」/2021年2月27日/長崎国際大学
- ⑨長崎国際大学における「SDGs取り組みの組織について」「茶道と水」についての茶会/2021年3月17日/長崎国際大学(自明堂)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	対象外
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
国際観光人材育成セミナー第1回ホスピタリティ産業と人材育成「特別対談」	2月27日	長崎国際大学にてオンライン開催	長崎国際大学・GSAジャパン
長崎国際大学における「SDGsの取り組みについて」 「茶道における「SDGs」の取り組み呈茶をしながら紹介	3月17日	長崎国際大学「自明堂」	長崎国際大学地域連携室

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
NPO法人茶道鎮信流梶の会(全国組織)	幹事	2012～2020年	茶道鎮信流 宗家 松浦章
鎮信流佐世保支部・松清会	幹事	2006～2020年	鎮信流佐世保支部 支部長 松浦純二

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎短期大学と九州文化学園専修学校及び小中学校の教職員に対して茶道指導者として参加、
主催: 法人九州文化学園

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、今年度はコロナ禍によって授業内容や授業方法の変更を行い、前期がオンライン授業、後期が対面授業とオンライン授業を併用して柔軟に対応した。対面授業では、手指消毒や茶道具を共有しないなどの徹底した感染対策に努め、少人数での授業を行った。オンライン授業では授業のポイントを細かに解説し、手元が見やすいように工夫を凝らした。また、学生からの質問をmanabaで受け付け、回答をクラス全員で共有するよう情報発信を行った。学生の評価としては、動画を取り入れたことで、とても分かりやすい。また、掛け軸の禅語を学生自身に調べさせたことで、茶道に対する興味関心に繋がった様である。さらに、床の間の花を季節ごとに紹介したシーンでは、花に対する意識が芽生えたとの声が多く寄せられた。

つぎに、九州文化学園小中学校は、対面授業を実施した。小学1・2年生の授業では、40分の集中力維持のために様々な工夫を行った。中学2年生は、茶室と茶道研修所を併用し、授業内容の充実を図った。茶道の時間は生徒達にとって、花を愛でることで命の大切さを学び、掛け軸の意味を通して精神面の向上に繋がった。また、初めて開催の発表会では積極的に参加する様子が見られた。

研究面では、長崎国際大学教育基盤センター紀要 第4巻に『総合的な学習の時間と学校裁量の時間を活用した新設小・中学校の未来志向型教育の試み—茶道教育を通じた特性と品格の涵養—』を研究ノートとして投稿した。(共著)

さらに、今年度の学長裁量経費では「感性を育む大学茶道教育の実践事業」が採択され、実施報告書を作成した。(共著)

昨年と同様に、九州文化学園小中学校で茶道を学ぶ児童生徒を対象に、茶道の学習による変化、特に人間形成への影響を検証し、大学における教養教育としての茶道教育の深化とレベルアップにつなげるための研究に繋がっていることから、今後も継続して検証していきたいと思っている。

報道活動では、大学で開催のオープンキャンパスで茶道の企画をし、実施した。(4回)

報道関係では、九州・長崎国際観光人材育成セミナー（第1回：ホスピタリティ産業と人材育成）を長崎新聞に2回掲載された。長崎国際大学における「SDGs取り組みのについて「茶道と水」についての茶道継続継承には不可欠であることを茶会の中で実践した。

ワーキング・グループ活動として、補助員指導を春・夏休みを利用して、研修を企画し、指導者研修の向上を目指した。

今年度は、動画と対面を併用した授業を展開したが、動画作成の技術が上がるにつれて、学生の理解度が高まった。さらに手元が分かるように、2台のカメラを使い、撮影方法に工夫を重ねたり、授業では、学生が動画を見るだけでなく、学生も参加する授業内容を取り入れたことで、予習と復習をする学生が増える等、効果が見られた。対面の時間数は少なかったものの、5人1グループの少人数指導が行き届いたことで、点前について確認をする学生の姿が多く見られた。この効果を活かしすべく、すべて実技に頼るのではなく、細かい箇所はむしろ動画を使い、学生が何度も確認できる取り組みが必要であると考えた。(毎時間レポート提出にて確認)

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 特任教授 氏名 橋本 健夫

1. 教育理念

本学が掲げるディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを常に意識し、学生が大学での学びに納得し、主体的に授業に参加するとともに自己学修に励むことができることを目標にして教育を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	19	②⑥⑦
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	1	②⑥⑦
事前・事後指導	2 / 8 (通年)	1	20	②⑤⑥⑦
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	①②⑥⑧
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	16	⑤⑥⑦
教職実践演習(栄養教諭)	2 / 15 (後期)	2	5	⑤⑥⑦
ダイバーシティとグローバル市民論	15 / 15 (後期)	2	67	①③④⑥⑧⑩
教育方法論	15 / 15 (後期)	2	35	①②④⑤⑪
ビッグデータと持続可能社会	15 / 15 (前期)	2	16	①②③④⑥⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

ホスピタリティ概論は4年目を迎え、更なる充実を図る予定であったが、2月以降感染が拡大した新型コロナウイルスのために、遠隔教育での実施となった。このため、これまでの特徴であった学科の枠を越えてのグループ編成とグループ活動が実施できなくなった。そこで、遠隔教育用のシラバスを急遽作成し、担当の先生方に集まって頂き、遠隔教育の留意点を周知して臨んだ。先生方の協力の結果、非常に円滑に進めることができた。ただ、manabaを使っての指示には限界があり、教員として十分に納得できる者ではなかった。しかし、受講生の評価は低いものではなかった。

今年度から新たに開講した「ビッグデータと持続可能な社会」に関しては、受講生の中に韓国の留学生が含まれていたため、遠隔授業にせざるを得なかった。長崎大学の一藤先生と協力して教材をmanabaにおいて授業を進めた。予想以上に受講生が反応し、活発な授業となった。

また、同じく今年度から開講した「ダイバーシティとグローバル市民論」は、70名を超す受講者であった。ゲストスピーカーが多いために対面を希望したが、韓国からの受講生もいたため、対面授業と遠隔授業を同時進行する変則的なハイブリッド型授業となった。新しい試みで円滑な進行に不安を持ったが、受講生の協力もあり、スムーズに進めることができた。ここでも学生達のグループ活動は活発であった。

1年生を対象とした教育方法論は、対面式で実施することができたため、例年通りのスムーズさで展開する頃ができた。予習をし、それをもとに議論しながら課題を解決するという授業スタイルは完成の域に近づいているような気がする。

残りは教職課程に関する授業であるが、コロナの影響はあったものの教育実習は予定通り行うことができてホッとしている。これは、実習校の協力によるものである。また、教職実践演習は乙須先生が北九州からの参加であったが、シラバス通りに授業を進めることができた。

本年度は、コロナに影響されたものの全ての授業を予定通りに進めることができたと評価している。ただ、manabaによる学生への支援等に時間がかかり、非常に忙しかったことが印象に残っている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

次の二つが研究テーマである。

(1) 高等教育の改善・充実に関する研究

アクティブラーニングを組み込んだ授業の在り方を追究している。今年度も授業を通して追究を行った。受講生が納得感

を得る授業を目指しているが、「教育方法論」では一つの型ができつつあると感じている。また、新設の二つの授業はゲスト

スピーカーにお話して頂く場面も多いが、受講生が自分で考え、発表する形態を駆使することによって納得感の得られる授

業になったのではないかと考えている。この試みについては、昨年度の2月に米国で行われたアメリカ初年次教育学会で発

表し、肯定的な意見を多くいただいた。ただ、新型コロナウイルス感染予防のために今年度の大会には参加することが出来なかつ

たのは残念である。

(2) 学校教育における理科教育及び総合的な学習の時間の在り方に関する研究

今年度は小学校の教育現場への支援を主として活動を行った。九州文化学園小・中学校の総合的な学習の時間を使っ

ての茶道教育、そして、長崎市の小江原小学校での地域活性化の授業に指導助言者として参加し、研究の深化を図った。

そして、両校の成果を纏め日本生活科・総合的学習教育学会で口頭発表を行った。両校の先生方にとっては、初めての経

験であったが、遠隔発表にもうまく対応してくれた。ただ、その後は、コロナの影響で研究を指導することができず残念で

あった。

また、理科教育に関しては科研のがん教育の研究の仕上げの年であり、子どもとその保護者用の絵本を執筆した。この

絵本には保護者用の副読本も作り、子どもたちと一緒に保護者も学ぶ方式を採用した。3月末には完成する予定である。

このように、コロナに影響された面はあったが、自分としては充実した研究が行えたと思っている

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	2	3	1	1	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

ひるまによくねむるイヌとネコのひみつ/単著/2021年3月/長崎文献社/40ページ

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

遠隔教育の実施と大学での教育に関する一考察/2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター
紀要/pp.1-17/共著/原著論文

総合的な学習の時間と学校裁量の時間を活用した新設小・中学校の未来志向型教育の試み/
2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要/PP.37-77

/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Satisfaction and Making Sense of Learning the Same?/2021年2月/39th Annual Conference on
the First-Year Experience Washington,DC

生来、国際社会で活躍できる人材の育成をめざして/2020年11月/日本生活科・総合的学習教育
学会 第19回大会(山梨)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
医療りてたしー教育としてのが ん教育の確立	科学研究費基盤研究 C	2019年～2021年	70万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員長	遠隔教育が始まる際に「遠隔教育の留意点」をセンターとしてまとめ、学長、副学長、教務委員長等に提出した。この中では遠隔教育を行うにあたって注意すべき点や学生への配慮を記載した。 また、9月のFDでは、大阪大学の川嶋先生に講演して頂き、中教審の議論を踏まえながら、大学における教育マネジメントの在り方を示して頂いた。 コロナ禍出会ったが、新任教員の授業研修会を3回開き、その過程で考えた教育に対する抱負を記述して頂き、基盤センター紀要に投稿して頂いた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ありません。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特に行っておりません。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意

2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県教員免許状更新講習	5月～11月 7回	本学(遠隔) 県立大学	長崎県教員免許状 更新講習事務局

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
教科科目第三委員会	委員	2020年7月～2021年 3月	大学入試センター
問題点検第二部会	委員	2020年4月～2020年 6月	独立行政法人大学 入試センター理事 長
生活科・総合的な学習の時間 事業改善指導講師	講師	2020年4月～2021年 3月	長崎市立小江原小 学校長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
米国初年次教育学会	発表審査及び研究 発表	2020年2月21日 ～24日	ワシントンDC	米国初年次教育学会会長

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

新型コロナウイルス感染予防に徹した1年であった。まず、遠隔教育が始まる前に全国の大学の動きを調べ、遠隔教育を初めて経験する先生方に対して、遠隔教育は対面教育とどのように異なるかから始まり、IT機器の操作やその活用法、さらには、遠隔教育を受ける学生たちをどのように動機づけ、どのように支援するかについて纏めた冊子を作成し、先生方に提供できたことは基盤センター長としての役割を少し果たせたかなと考えている。

一方で、遠隔教育を実践することによって、これからの大学教員の在り方を考えることができた。ほぼ20年前になるが、情報機器が教育現場に導入され、その活用法を探究した時を思い出しながら、現在との比較を行った。IT機器の発達によって効果的な教材を授業に持ち込むことが可能になったことは評価したいと思う。ただ、顔の見えない学生たちをどのように鼓舞し学修に向かわせるかという基本的な能力の育成が欠かせないこと、また、多様な学生に多様な方法で向き合う態度の育成も必要と考えた。これらは、各教員の経験値を上手くつなぎ合わせることによって少しずつ解明していかなければならない。これらは、これからの高等教育の在り方を考える研究者の課題となる。

さらに、今回のコロナ禍は、大学教育の大きな転換点になると考えている。遠隔教育と対面教育を如何に組み合わせ、未来社会が要求する資質・能力の育成を図るか、また、その際の教員の果たすべき役割とは何か、これらの探究の出発点に立っていることを自覚した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 大井田 かおり

1. 教育理念

(1)建学の理念を念頭に置いて

若者が考える人間尊重や人間関係と、中高年が考える人間尊重や人間関係にギャップが出て来ている。若者の言い分をきちんと聞いて尊重するように心がけたい。

(2)専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成を念頭に置いて

短期的な視野の利益を追うのではなく、長期的な視野での利益を考えられる人材を育成しなくてはならないと考える。それと同時に、短期的な教育効果を追うのではなく、数年後に「じわじわ効いてくる」教育をこころがけたい。

(3)地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成を念頭に置いて

「特定の地域しか見えず客観性を失う」状態にならず、地域を愛し貢献するのは意外と難しい。観光には利益の問題がどうしてもからむため、地域を愛することの大切さを伝えると同時に、地域を愛しすぎて客観性を失う怖さも伝えなくてはならないと思う。

(4)異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を念頭に置いて

現在の中学校高校教育が英語を重視するため、「異文化理解力&国際社会貢献力＝語学力」と思い込んでいる学生が少なくない。そのため、英語が苦手な学生は異文化理解への自信を失っている傾向がある。人間はコミュニケーションの多くを非言語的なもので行っている。よって、異文化理解力&国際社会貢献力と語学力はあまり関係がない(ゼロではないが)。自信を失っている学生にそのへんをうまく伝える方法はないかと模索中である。

(5)専門力に関して

観光学は学際的な学問なので、狭く深く何かを行うのではなく、すべての学問分野に精通することが専門力となる。嫌いな分野や苦手な分野から逃げず、浅くてもかまわないので一通り「かじる」ことが必要となる。苦手なものであっても知的好奇心を失わずにいてもらうための工夫は試行錯誤になると思うが、自分もそこからは逃げないように頑張ろうと思う。

(6)情報収集、分析に関して

間違っても未熟でもいいので、一生懸命考えることの大切さを伝えていきたい。学生は間違えることを恐れ、正解のないことを考える際に模範解答を欲しがるとある。倫理上深刻な問題でない限り、学生が一生懸命考えたことは評価し尊重したい。

(7)コミュニケーション力に関して

学生に上の世代の定義のコミュニケーション力を押し付けないようにしたいと考える。

(8)協働・課題解決力に関して

特にゼミなどでは時々グループ学習を行う。優秀な人は自分が1人でした方が早いため、他の人に任せず、よその人は優秀な人に頼るだけで終わることになりがちである。そうならないための工夫を常に考えることが必要だと思う。

(9)多様性理解力に関して

例えば性に関する多様性を柔軟に受け入れる等、上の世代の教職員が学生に学ぶことも多い。自分も学生に学ぶものは謙虚に学びたいと思う。

授業は常に現在というより、近未来を見据えたうえで、行うように心がけたい。

2. 教育活動

(1) 授業 (科目名 / コマ数 (開講時期等) / 単位数 / 単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	④⑥⑦⑪⑫
海外旅行実務 I	15 / 15 (後期)	2	97	①⑧⑨
旅行業論	15 / 15 (後期)	2	117	①⑦
海外旅行実務 II	15 / 15 (前期)	2	39	①⑧⑨
観光史	15 / 15 (後期)	2	260	①⑩
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	12	①⑥⑧
専門演習 III A	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑫
専門演習 III B	15 / 15 (後期)	1	8	①⑤⑫
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	14	①⑥⑫
教養セミナー A	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナー B	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
海外観光資源 B	15 / 15 (前期)	2	63	①⑧⑨
国際観光論	15 / 15 (後期)	2	243	①⑩
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	14	①③⑤
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	12	①③⑤⑥
学際連携研究	4 / 15 (前期)	2	254	⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
旅行業特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価 (授業アンケート / 授業改善と教育効果)

ゼミ以外はWebによる授業だったため、学生とのコミュニケーション不足で授業の意図が伝わらないこともあり、苦戦した。遠回しの言い方や含みがある言い方を文字通りに受け取る学生がおり、誤解を生じさせたこともあったので、フェイス・トゥ・フェイスでない状態ではストレートな言い回しのみで徹した方がいいと感じた。授業内容が難しいと考えられる『観光史』に関して、一部の留学生のレポートは母語(韓国語、中国語、英語、ベトナム語のみ対応)による筆記を可としたが、それに関しては助かったという声があった。留学生がノートを取るのが難しいと思われる授業に関しては、後期は使用した

PowerPointをダウンロードできるようにしたが、前期はその配慮をしなかったのが悔やまれた。「頭の体操」ということで、正解がない問題ばかりを課題にし「論理性のみで評価」していたが、教員が出す問題に解答があるという思考に慣れている学生の中に「模範解答があると思い込んでいる学生(もしくは模範解答を開示して欲しいと思っている学生)」がいたことに気がつかなかったため、正解はないということを伝え損なったところがあったと思う。そのへんは早期に伝えていきたいと思った。

資格取得のための授業は、前期は内容説明に徹し、ドリルをほぼ行っていなかったのも、受験対応が不足だったと考え、後期はドリル中心に行った。すると受験する気がなく単位のためだけに受講している学生には退屈だったようである。授業内容は一緒でも学生を分けて対応した方がいいのかと考え、来年度はクラスを分けて様子を見るつもりである。

学生の学力に激しい差があることがわかった。ただし、優秀な学生は難解なポストモダンや構造主義などについても、見どころのあるレポートを提出するようになったことは特筆すべきである。その優秀な学生らが、学力不足の学生を引っ張れるようなアクティブラーニングを課さなければならぬと思った。

多くの学生は勉強はできなければ意味がない、試験で点数が0点なら授業に出ていないのと一緒という高校までの思考に毒されているので、「実はその場でわからなくても、後でわかることもあり、その場で焦ってわかる必要もない」「例え0点だろうが、授業を聞いて0点なのと、その授業自体を受講したことがないのでは、大きく異なる」という考えに至らない。そこをうまく伝えないと、ついていけない授業を必死でやっているだけのよう息苦しい感じがしてしまうので、それを伝えるのが今後の課題である。

今年3年生は課題をこなす形式のみであり、卒論の内容を真剣に検討したのは学年末になってしまった。これは大きな反省点である。来年度は3年生は最初の時点で卒論の大きなテーマを決定しておくことにした。自然のその項目についての関心も高まり、就職活動の際に「私は〇〇について研究しています」と言えるようになるためである。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合旅行業務取扱管理者資格特別講座を実施	Webと模擬試験	25	年間

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

◎観光におけるヴィジュアルコミュニケーション。

現在は滝先生と共にヴィジュアルコミュニケーションからユニバーサルツーリズムを考える研究を

行っている。具体的には障がい者と健常者の視点の違いから、障害者にも生活しやすいもしくは観光しやすい町づくりを考察することをテーマとしている。

◎バーチャルリアリティを観光に生かす。

本年度はコロナウイルスの影響で、ひかえていたが、コロナがおさまったら、佐世保少年科学館と提携し、360度観光映像を作成したいと考えている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
BYOD による反転授業を用いた観光教育のための情報リテラシー学習/2020年3月/観光学22巻
(和歌山大学観光学会)/89-98/共著/論文
同一映像をドーム映像またはHMD映像としてバーチャル観光に用いた場合のそれぞれの効果的使用についての一考察/2020年3月/観光研究31巻2号(日本観光研究学会)/47-57/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
北京師範大学(中国北京市)	中国民間文学・中国民俗学	1989年9月～1990年8月
遼寧大学(中国遼寧省瀋陽市)	中国民間文学・中国民俗学	1990年9月～1991年8月

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	公開授業(今年度は神野先生と山内先生)の段取りを行い、授業アンケートをまとめ、1月20日の学部教授会では司会をして、検討会を行った。
研修・地域連携委員会	委員	地域連携活動 I A& I Bを担当し、地域活動として飲食店メニューを英語に翻訳する活動を行った。
観光学論集編集委員会	委員	観光学論集第16号の編集に携わり、査読やチェックを行った。
オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパスの成功に向けて、企画や運営に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

よさこいサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
学科紹介(模擬授業)	2020/10/21	長崎国際大学	大村城南高校
サービス(模擬授業)	2021/3/15	東翔高校	東翔高校
サービス(模擬授業)	2021/3/19	佐世保中央高校	佐世保中央高校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

地域連携活動として、学生に飲食店でのメニューの翻訳を行ってもらった。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は不慣れなことと自分の要領の悪さから勘違いやミスが多かったので、他の方々に迷惑をかけてしまうこともあり、大変申し訳なかったと思う。しなくてはならないことを表にして管理するようにしたい。

また、今年度はコロナのおかげでどこへも出られなかったが、コロナ平定後は、佐世保少年科学館における観光映像の提携を行いたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 乙須 翼

1. 教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどのような特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史(文化や宗教も含む)や社会(法や制度、政治など)との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人(市民)として生きていくために最後に学ぶ場所であると考え、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するという点である。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	8	⑩⑫
教育実習A	120 / 120 (通 年)	4	19	⑪⑫
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	1	⑪⑫
事前・事後指導	3 / 8 (通年)	1	20	⑦⑫
事前・事後指導(栄養)	2 / 8 (通年)	1	5	⑦⑫
栄養教育実習	40 / 40 (通年)	1	5	⑪⑫
教育原理	15 / 15 (後期)	2	30	①②⑩⑫
教育学	15 / 15 (前期)	2	75	②⑨⑩⑪
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	①④⑤⑥⑫
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	16	①⑤⑥⑦⑫
教職実践演習(栄養教諭)	2 / 15 (後期)	2	5	⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	9	①④⑥⑩⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	①⑥⑩⑫
キャリア開発Ⅰ	6 / 15 (後期)	2	258	②③④⑦⑨⑩⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	12	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	12	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	7	①④⑤⑥⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	7	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①⑥⑩⑫
教師論	15 / 15 (前期)	2	34	②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度初めてキャリア開発Ⅰの授業アンケートを実施し、満足度は平均4.5という結果であった。アンケートへの回答率が約50%であり、比較的授業に真面目に参加した学生の回答であることもあり、満足度は予想よりも高い結果となった。301名の受講生のうち、20名の留学生もアンケートに回答しているが、留学生のみの満足度も4.5であり、その点は人間社会学部1年生の必修科目として授業レベルの設定が適当であったと捉えて良いのではないかと考えている。教養セミナーBに関しては、満足度の項目が5.0と回答した学生の全てが「満足」と回答してくれていた。今年度は対面の授業が

少なかったこともあり、セミナーの授業が学生にとっても貴重な時間であったことが伺えた。

今年度は遠隔授業を始めて実施したため、動画づくりや遠隔での授業方法を習得することに多くの時間を費やした。授業準備が大変ではあったが、遠隔でいかに学生を参加させるかを考える中で、新たな教材の発見や授業展開の開拓ができた。次年度は今年度に比べると対面が増えることになると思うが、そこでも今年度の経験を活かしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	39名
長崎外国語大学	教育原理	15/15(前期)	2	14名

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

アメリカの近代家族・公教育成立期における子ども観および貧困児等に対する教育的救済の特徴の解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
教職等支援部門の活動と今後の課題/2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要第4巻
/94頁～96頁/共著/報告
初年次・共通教育部門の活動と今後の課題/2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要
第4巻/105頁/共著/報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	委員	卒業生アンケート、在学生の学習状況に関するアンケート調査(第1回・第2回)、IRコンソーシアムによる学生調査等各種データの結果から国際観光学科生の特徴および経年推移を分析し、学科内教員の意見を取りまとめた上で委員会にて報告を行った。また3ポリシーに関する質保証の改善方策に関して学科意見の取りまとめ、また会議での意見提出を行った。
教職課程委員会	副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生・在学生向けのオリエンテーション動画の作成を行った。 ・教職課程運営に関わる諸業務(教育実習、介護等体験、履修カルテ、教職実践演習等)を委員長と共に行った。 ・学校ボランティア等、学生への連絡や周知、調整などを行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・部門長として教職学生向けの課外講座の立案・実施をキャリアセンター等と協力して行った。 ・初年次・教養教育部門内の教養セミナーWGのWG長として教養セミナーの授業計画の立案、テキスト等教材の作成・配信、授業動画の作成などを行った。 ・教育基盤センター紀要編集委員会副委員長として、委員長と共に紀要の査読事務・編集事務等を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
CHサポートセンター学生生活サポート室	室員	室員としての研修などは受講したが、学生の相談業務は実施できなかった。
教育基盤センター委員会内教養セミナーワーキング・グループ	ワーキング・グループ長	教育基盤センター委員会活動の欄に記載

(3) 課外活動の指導等

教職学生向けの教員採用試験対策講座の立案を行い、キャリアセンターとの共催にて3月に特別講座(動画配信)を実施した。実施にあたり、時事通信社との交渉、キャリアセンターとの連絡、学生への周知・連絡等を行い、特別講座の円滑な実施に貢献した。また、今年度は遠隔ではあったが、4年生の教育論作文の個別指導や願書の添削等、採用試験対策を行った。加えて教職学生については、9月に履修カルテ説明会を開催し、履修カルテ入力指導を昼休み等を用いて行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

募集・就職活動を含む広報活動については特に行っていない。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度教員免許状更新講習(講座名:子ども達と学校教育)	2020年9月12日	遠隔で実施(オンデマンド)	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
早岐小学校学校評議員	評議員	令和2年4月～令和3年3月(平成23年度より継続)	佐世保市教育委員会

早岐小学校学校支援会議「早岐っ子会」	委員	令和2年年4月～令和3年3月(平成29年度より継続)	佐世保市立早岐小学校
九州教育学会理事	長崎県選出理事	任期:令和元年11月～令和3年11月(平成30年11月より)	九州教育学会
九州教育学会紀要編集委員	委員	任期:令和元年11月～令和3年11月	九州教育学会理事会
九州教育学会第73回大会(佐賀大会)実行委員	委員	任期:令和3年3月～令和3年11月	九州教育学会理事会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

学校ボランティアの斡旋:佐世保市立相浦小学校より本学に学校ボランティアの依頼があり、その依頼に対応する形で、相浦小学校校長と本学教職学生との調整役を担った。2名派遣実績あり。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特にありません。

7. 受賞等

特にありません。

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、初めての遠隔授業に対応するため、教養セミナーの教材作成や自身の講義・ゼミのコンテンツ作成などに多くの時間を費やした。特に教養セミナーAでは、担当教員も学生も不安な中での遠隔授業であったが、テキストを元にした動画を作成したことにより、初めての先生方でも比較的スムーズにセミナーを進めることができたようで、その点は安堵している。教養セミナーを含め、教育面では初めての試みが多かったが、次年度以降のヒントとなる点も多く発見でき、その点では収穫も多かった。特にゼミでは、遠隔授業という制限がある中、学生もインターネットを駆使してプレゼン資料をグループで作りに上げるなど、例年になく積極的な姿勢で臨む姿も見られた。

研究面では、在宅勤務で研究に関わる資料等も手元になく、前期はほとんど研究に時間を取ることができなかった。後期に昨年度学会発表した論文を全国誌に投稿したが、準備不足な部分があり、研究面では遅滞した1年であった。ただし、学会等が中止となる中、オンラインでのシンポジウムが開催される機会も多くあったため、そういった面では例年とは違う形での刺激もあった。

今年度は福岡の緊急事態宣言発出により、1年の3分の1の期間が在宅勤務となり、活動の量や幅に大きな制限がかかった1年となった。学内の委員会等は、会議等の出席ができなかった事以外は、業務をもれなく遂行したと考えているが、事務局の方々にはご面倒をおかけした。また今年度は時間的な面だけでなく、精神面においてもバランスを取ることが難しく、後期になっても昨年度同様のペースを取り戻すとまではいかなかった。次年度は、今年度取り組めなかった研究活動について力を入れていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 尾場 均

1. 教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」

地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとられない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送、などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力(社会人基礎力)を身につけるカリキュラムをつねに考えている。

社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
地域連携活動ⅠA	15 / 15 (前期)	1	63	①⑪⑫
地域連携活動ⅠB	15 / 15 (後期)	1	61	①⑪
地域連携活動ⅡA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑪⑫
地域連携活動ⅡB	15 / 15 (後期)	1	5	①⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	10	⑫
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	1	⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	⑥⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	9	⑥⑦⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	10	⑥⑪⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	10	⑥⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
コンピュータ基礎演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	121	③
コンピュータ基礎演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	116	③
映像文化論	15 / 15 (前期)	2	96	②
情報処理論	15 / 15 (後期)	2	30	②
コンピュータ基礎演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	32	③⑪⑫
コンピュータ基礎演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	23	③⑪⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	10	⑥⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	10	⑥⑪
コンピュータ基礎演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	69	③

コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	69	③
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	107	③
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	116	③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

コンピュータ基礎演習 I A

オンライン授業に内容を変更しておこなった。基礎的な文字入力やファイルの管理など15回の中で最終到達を見据えながら授業の内容を修正した。緊急で大幅な内容変更であったが、学生のICTのスキルは向上したと思われる。100名以上の学生のコンピュータ演習授業は学生の履修態度やレポート提出など新しい手法をとりながら行なった。これまで教室に設置されたコンピュータで授業をすすめていたが、今回はオンラインにより学生が保有する機器の統一がなくなり、授業中では多くの質問に追われた。しかしオンラインであることで個別の指導ができるようになり学生の授業に対する満足度は向上した。特にオンライン授業で学生の学習評価のための取り組みは、レポートや課題の内容や試験内容など今後も対面でも活用できるものとなった。

今年度は多くの大学でコンピュータ演習をオンラインで実施しているが、簡単に学生の学習評価ができる仕組みはコロナ禍により充実することとなった。学生の自由記述も問題なかった。

コンピュータ基礎演習 I B

シラバスとの整合性は大幅に変更して実施した。固定教室での実施は出来ず、個人の情報機器での履修となり統一性がないことで多くの質問や個人の機器トラブルなどが発生した。しかしzoomやポートフォリオの活用で学生からの不満の声はアンケート内容と同様になかった。90分の時間のなかで実践的な内容をオンラインで行なうため、多くの質問等が寄せられる状況で、回答など受け入れがスムーズに行えるように工夫をした。この内容は授業アンケートに反映されている。これまで以上に評価は高い。

個別指導、小テスト、レポートなど大幅な変更をおこなって授業を実施したが学生の満足度は高く、また繰り返し学生評価の試験などを実施することで、学生のICTスキルも向上が見られた。ポートフォリオのアンケート、授業学生からの質問への対応はもちろん、シラバス内容に沿って進めた。特に教科書を中心に丁寧にゆっくりと進めた。この結果がこのスコアになっていると思われる。授業開始時の内容の確認、そして到達目標に沿った課題の内容説明など、オンライン授業ならではの確認をしながら進めたことが評価につながった。

アンケートでは授業に対する満足が書かれた回答を確認することができた。次年度はオンライン用の内容を対面授業でも活用したい。

情報処理論

オンライン授業に内容を変更しておこなった。対面授業よりアンケート評価は向上した。自由記述の内容からわかることは、「説明が早い」と指摘される場面を想定してオンライン授業を進めた点と、研究室からの授業で教材がすぐに学生に提示できたこともアンケート評価につながったと思われる。教科書を使い、より深い内容やこれまでの歴史を交えて説明する場合、研究室にある資料や実際に機器を見せること、そして操作することができたことで、学生が授業内容に対して興味を持ったと思われる。

また映像や提示資料もこれまでよりも見やすく工夫したことも評価につながった。対面授業では顔を見ながら質問や発表を指示していたがzoomによる授業では個別ではなく全員に質問などもすることができた。オンライン授業の特性を使って学生同士がその場で体験できるような参加型の内容にすることができた。対面より居眠りすることもなく、学生の意見を集めたり回答したりすること時間があつた。

昨年、授業アンケートの自由記述は満足度は多く、講義の中で一番スコアがよかったが、今年度はそれを上回る結果であった。試験の内容もオンラインだからこと実施できる方法を取り、情報に関する授業内容を実践できた。今後もオンラインでの内容を活用して、学生満足度と理解度の向上に努力したい。

映像文化論

オンライン授業に内容を変更しておこなったが学生満足度に変化はなかった。映像を配信するため、授業開始までに全内容のオンライン用に修正、配信機器の購入や配信テストをおこなった。特にzoomによる映像提示や教材提示は配信機器に左右され回線トラブルや機器の不具合などに悩まされた。映像の準備もオンライン用にデータ量を少なくする工夫や機材トラブルに対応するために複数の機材を準備した。画質・音質に関して学生の満足度は低下すると思われたが影響はなかった。

短い時間での映像提示を心がけることで学生の授業参加の意欲や集中度を高める工夫をしたが、そのことで1つ1つの作品やテーマについて十分な説明ができていないか疑問である。パソコンやスマホで興味のない映像を見る集中力は30秒以内あり、なるべく興味のあるような教材を作成して提示したい。

今後は、これまでの大教室での講義とオンラインでの講義を相互にできるような内容で対応したい。リアルタイムでの講義は学生への質問等に即対応できるため今後も続ける。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護学校	情報科学	15/15(通念)	2	34

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

ネットワークを利用した共同学習

「いつでも、どこでも、だれでも」情報機器が使える社会の実現には、環境や年齢に制約されることなくネットワークを利用した情報教育の方法や環境づくり、また情報機器と人間との接点であるインターフェイスを研究し、情報機器によって社会参加を支援すべきと考えている。

学生と教員、そして職員をつなぐ学びの場として、時間や場所にとらわれず、講義の予習・復習をはじめ、学習の履歴や記録を保管して、学びの内容の振り返りや、システム上で小テストの実施や、課題の提出に対して個別指導など授業を支えるシステムを研究する。

またネットワークを利用した共同学習は教員が学生に対して「教える」のではなく、教員を交えて学生同士が「教えあう」ものを促すことであると考えられる。通常の講義・演習以外にも地域連携活動などの実践的な教育であるPBL(プロジェクト型学習)にも対応するシステムを研究する。

プログラム開発

日本語学習SNSプログラム、多言語対応アンケートシステム等、NFC・QRコードシステム、位置情報システム

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	62.5万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学生ベンチャー起業支援～アントレプレナー醸成向上の挑戦	長崎国際大学 学長裁量経費	令和2年度	55万円
ジャックラビット	長崎国際大学 学長裁量経費 きらめき大賞	令和2年度	7.5万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	副センター長	地域連携、広報に関するすべての事項
連学連携・研究支援センター	副センター長	地域連携の研究に関するすべての事項

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光学科 企画・広報委員会	委員長	学科の広報に関する運営・提案に関する事項
カリキュラム委員会	委員	カリキュラムに関する事項

(3) 課外活動の指導等

起業部サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

テレビ佐世保「佐世保だよ!全員集合」番組作成(月曜20時)/2020年度/テレビ佐世保

FM佐世保ラジオパーソナリティの活動(毎週日曜日60分生放送)/2020年度/FM佐世保

「大学ベンチャージャックラビット起業」

「東映アニメーションが製作する、佐世保市を舞台にしたアニメ、実験映像「URVAN」(ウルヴァン)に協力。」など地域連携・広報活動での新聞掲載。(長崎新聞2件 西日本新聞2件)/2020年度/長崎国際大学

SNS、facebook、Instagram、twitter等を使った広報活動(国際観光学科 公式アカウントの運営)/2020年度/長崎国際大学

第9回Made in SASEBOフォトコンテスト開催/2020年11月/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外

2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	欠席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ボランティアパーソナリティ	パーソナリティ	毎週日曜60分2020～	(株)FMさせぼ

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

2020年11月 「Made in SASEBO フォトコンテスト」企画運営、長崎国際大学

2020年11月 「SASEBO99まちなかスタンプラリー」企画運営、長崎国際大学

2020年11月 「松浦公園」キャンピングカーを活用した車泊(くるまはく)企画運営、まち元気向上委員会

2021年2月 「東映アニメーション、実験映像「URVAN」(ウルヴァン)」制作、佐世保市

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

●研究活動(学会・研究会発表)

SNSを利用した観光研修システムおよびレポート収集システムなどのシステム開発と運用。

社会人基礎力育成とPBLと関連した地域連携活動の授業実践を研究する。

●大学運営面において

新聞やテレビ、ラジオ等での広報を目的に地域連携活動や関連事業、佐世保市のイベント開催などに大学として積極的に取り組んだ。

地域連携センター副委員長として連携事業に携わった。「Made in SASEBO フォトコンテスト」で市民向けのイベントを開催し、中高生の応募を増加させた。

観光マネジメントの委員長として教務・学生・募集について教員を取りまとめ運営に従事できた。

「企画・広報委員会」委員長で国際観光学科SNSを運営して多くの利用者に広報活動を行なった。

●教育面において

今年度も専門演習(ゼミ)でのPBLの実践、講義科目の授業改善、ポートフォリオを活用した新しい授業実践に取り組んだ。また映像制作、番組制作において高度な技術習得の授業内容で教育した。今年度は東映アニメーションが製作する、佐世保市を舞台にしたアニメ、実験映像「URVAN」(ウルヴァン)に協力し、PBLの実践をおこなった。また佐世保の民話の続編を出版予定である。(2021年3月)

・ICT授業の実践

遠隔授業におけるポートフォリオを活用した学生への教育サービス、PBL、学修評価を研究した。

azoomによる映像配信の工夫や、学生生活記録、リメディアル教育、コミュニケーション能力や自主性、課題解決力などの社会人基礎力・ジェネリックスキルを備えた人材の育成と活用方法を実践し、今年度の授業評価に結果が現れた。今後も授業の内容におけるPBLの実践、ICT活用についても継続して研究していく。

・社会人基礎力育成

「専門演習」および「地域連携活動」「観光研修」の科目でアクティブラーニングによる実践的な教育で学生と行動する機会を作ることができた。

PBLと情報システムの利活用により、学生への教育効果も向上した。位置情報を使った実践授業では学生の行動履歴、および学生のアウトプットを集約することで学生の満足度を知ることができた。オンライン授業の中で、映像配信技術、ポートフォリオの活用やSNSにより、授業内容の向上と、学生指導の中で、大学内外・時間に関係なく連絡を密にしているため、学生の小さな変化を気づくことができた。卒業研究の指導はポートフォリオを活用して、計画的に指導できた。

●教育成果

地域連携活動によるPBLで社会人基礎力育成と学生の学びを实践

ラジオやテレビ番組の活動は地域からの観光情報の発信として取り組んでいる。

- ・東映アニメーションと実験映像「URVAN」制作協力し佐世保市の観光資源を世界に発信
- ・佐世保市「松浦公園」キャンピングカーを活用した車泊(くるまはく)実証実験
- ・「佐世保の民話」絵本の出版(2021年3月)
- ・コロナ禍緊急対応「GPSを使用した長崎・佐世保」の観光研修で履修者の満足度をあげた。
- ・テレビ番組「佐世保だよ全員集合」9本制作 ラジオ番組「はっぴいRadio場」約47本を制作した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 佐野 香織

1. 教育理念

私の出発点でもあり研究関心は、異なる人々が共に学びよりよい社会を培うための日本語教育です。興味・関心を広げ深めながら学ぶことと、ことばを共に培う教育実践を国内外で行って参りました。それは、人材育成の観点からも、興味・関心の学びとことばの教育は分けて考えることができるものではなく、共に育み培っていくものであると考えているためです。こうした観点から、研究、学生教育、教師教育の往還をめざし、実践を行っています。具体的には主に以下のようなことをしてきました。

1) ローカルな課題とグローバルな視座の学習デザイン・学習環境設計

①のローカルな発見から課題解決へのプロセスには、成人学習論、学習環境設計の理論が関わっています。自らのローカルな実践をふりかえり、グローバルな視座で主体的に学びあう学習環境デザイン、ラーニングコモンズにおける学習支援環境設計と運営、MOOCsを用いて自己決定感を持ちながら、自己調整学習を可能とする学習支援の企画開発・実践等を行ってきました。

2) 協働で地域とことばを創るクリエイティブ・ラーニング

現在、複言語・複文化が進むことが想定される日本社会に対応した新たなことばの考え方、ことばの教育が求められています。留学生は日本の街に一時的に訪れる「お客様」としての存在だけではなく、留学生もまた、市民と一緒に安全で快適な、持続可能なまちを創ることに貢献できる存在です。私は、この「つくる」という経験を通して学び、共にことばをつくる観点から、次のような実践研究をしてきました。1)「やさしい日本語」をつくる地域実践、2)SDGs達成をめざし、「食品ロス」の課題解決から、文化としてのそのまちの「食」、人のつながりをつくることば、まちの食と人の持続可能な仕組みづくりとモデル化をめざした実践研究

3)「体験の言語化」を通じた、社会参加をめざした教育

身の回りの生活や文化を通して、社会にかかわり、社会に働きかけるための新たなことばと学びを「つくる」ことを念頭においた教育をめざします。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
日本語教育実習	30 / 30 (前期)	2	1	⑪
日本語教育実習	30 / 30 (通年)	2	7	⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	④⑪
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	1	④⑪
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	8	④⑩

専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	8	①④⑤⑥
日本理解A	15 / 15 (前期)	2	12	④⑥
日本文化論	8 / 15 (後期)	2	78	①②④⑤
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	9	①④⑤⑦⑩
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	8	①④⑤⑥
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	9	①④⑤⑦⑩
日本語コミュニケーションA	15 / 15 (前期)	2	52	②④⑩
日本語コミュニケーションB	15 / 15 (後期)	2	28	②④⑩
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	④⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	②④
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	②④
アカデミックジャパニーズⅠB	30 / 30 (前期)	2	3	①②⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

日本語コミュニケーションAは、平均4.7であり、全体的に学生の満足度は高かったと考える。今年度は初担当、初オンライン授業ということで、ADDIEモデルに基づき授業設計を行った。オンライン科目において、リアルタイムで、できるだけ双方向で意見交換ができること、ふり返りの機会を持つこと、履修者同士が意見共有できる場を作ること、を念頭に授業設計を行った。その結果、授業中に意欲を増すような授業構成だったとの感想も得ている。

一方、授業科目名だけを見て、シラバスを読まずに登録した学生は、「コミュニケーションを学ぶ科目」と誤解していた学生が少なからずいるようであった。そのため、考えていた授業内容との齟齬があったことも考えられる。オリエンテーション時、内容と目的をより明確に分かりやすく伝えるようにしたい。

日本語能力試験は、受験したゼミ生5名中4名がN1に合格することができた。今後のキャリアにも関わるため、日本語能力を個人の特性としたい学生には引き続きサポートを行っていく所存である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
日本語能力検定試験学習会(留学生・日本人学生)	2	12	10月14日 10月28日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

異なる人々が共によりよい社会を培う学びを念頭に、以下のような研究を行っている。

- ・東欧の日本学研究における省察的教育実践研究
- ・実践と省察の積み重ねを軸にした学びの実践研究とその手法構築
- ・クリエイティブ・ラーニングに関する実践研究と調査研究
- ・「体験の言語化」に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	5	4	3	177.9万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「学習としての評価を考える:日本語教育のライティング授業における参加型評価の取り組みから」
/2020年5月1日/『次世代研究』/pp12-17/単著/論文
「市民として社会にかかわる契機としての「まちのこぼれをつくる」プロジェクトの可能性」/2021年3月
/長崎国際大学論叢第21巻/pp71-78/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
「日本学研究と日本語教育をつくるポーランド ワルシャワ大学東洋学部日本学科の道の一考察」
/2020年8月/第33回日本語教育連絡会議
「学習者の評価意識と学びー「よいレポート」をめざすプロセス」/2020年10月/日本質的心理学会
第17回大会
「多様な人とまちのこぼれを経験しつくる過程 ー食品ロス削減への取り組みを通してー」/2020年
11月/2020年度日本語教育学会秋季大会
「わたしの体験からわたしたちの問題へー「体験の言語化」を通じての試みー」/2020年12月/言
語文化教育研究学会第8回研究集会
「「体験の言語化」実践におけるオンラインの課題と可能性」/2021年3月/第27回大学教育研究
フォーラム

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金 若手研究 「日本学研究を担う海外大学若 手人材育成:往還する省察的学 びのモデル提案と実践研究」 (研究代表)	JSPS 科学研究費補 助金	令和元年(2019年～令 和33年(2021年))	60万円
W-BRIDGE(Waseda- Bridgestone Initiative of Development for Global Environment)「SDGsをめざす 『Action』による新たな社会価値 創出」(研究代表)	株式会社ブリヂストン 早稲田大学	令和元年7月～令和元 年6月	84.4万円
基礎研究B「南米日系社会にお ける複言語話者の日本語使用 特性の研究」(研究分担)	JSPS 科学研究費補 助金	2016年～2020年	0万円
高度遠隔授業システムの安定 的な提供とサポート体制の構築	長崎国際大学	2020年	33.5万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	ライフイベントからの研究復帰支援等について 委員として審議に加わった。
長期・短期インターンシップ委 員会	委員	短期インターンシップを希望する学生募集

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
NIU QLEARN ワークショッ プ	スタッフ	今年度本格化した遠隔授業に用いるLMSの QLEARN(Moodle)の教員互助による学び合 いワークショップを企画・運営した。
CHサポートセンター 学生生活サポート室	相談員	国際観光学科選出の相談員として、毎週月曜 日の昼休み、オフィスにて待機し、対応した。
全学FD 「長崎国際大学におけるオ ンライン授業の設計・実践・ 評価を考える」企画・運営	司会	2020年度前期の教育実践をふりかえり、かつ、 後期の教育活動のデザインや評価方法の検 討に資する学びの機会として、大阪大学の村 上正行教授を迎え、講演会を企画・運営した。 (学長裁量経費採択プロジェクトの一環)

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

キャリアセンターと連携して、留学生の就職活動支援を行った。

オープンキャンパスに学科教員として参加、学生主体の活動発表支援等を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
言語文化教育研究会第8回 研究集会プレ企画 モデレーター	2020年8月29日	オンライン開催	言語文化教育研究会
第8回研究集会 “わたし”のコミュニテ“わたした ち”のコミュニティ——これから のわたしとわたしたちの“コミュニ ティ”をつくりあうためにすること モデレーター	2020年12月13日	オンライン開催	言語文化教育研究会
言語文化教育研究会第9回 研究集会プレ企画 モデレーター	2021年3月21日	オンライン開催	言語文化教育研究会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平戸市史跡平戸和蘭商館跡語損活用計画策定委員会	委員	2020年8月1日～3月31日	長崎県平戸市教育委員会
言語文化教育研究学会	理事	2017年年4月～現在	言語文化教育研究学会
研究集会委員会	委員長	2019年4月～現在	言語文化教育研究学会
年次大会役員	会計	2018年4月～現在	言語文化教育研究学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

「SDGsをめざす『Action』による新たな社会価値創出」わせくまデリの開催
(早稲田大隈商店街、アトム通貨との共催)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

多文化交流自主サークルIMAを主催、ソフトテニス部、留学生、日本人学生交流イベントを企画・実施した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育:コロナ禍の状況に応じて、オンライン、対面、ハイブリッド組み込んだ科目教育の充実をはかった。

また、今後のゼミ活動の基礎をつくる活動を行った。

・活動:自主サークルレベルではあるが、ゼミの垣根を払った多文化国際交流活動の試みを始めた。部活動との連携も含め、来年度への本格的な活動へとつなげていきたい。

社会人と学生が対話をし、キャリアイメージをつくることを目的としたワークショップをゼミ主催で開催した。

東彼杵町の東彼杵ひと・こと・もの公社との協働で行うことができ、地域連携も含め今後に活かしていきたい。

・研究:新型コロナウイルス感染拡大による影響もふまえ科研研究計画を大幅変更し、来年度へ調査をまわした。本年度は、

基礎文献調査を中心に行い、学会発表、論文執筆を行った。

民間資金研究は、学会において成果報告、発表を行った。

・社会貢献:学会役員としては、初のWEBサイト&リアルタイムハイブリッド学会開催を委員長として総指揮をとり、開催成功へ導いた。赴任初年度、およびコロナ禍で思うように地域連携ネットワークを作ることができなかったが、少しずつ進めることができた。来年度の活動へつなげていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 城前 奈美

1. 教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	16	⑥⑫
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	13	⑪⑫
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	13	⑥
旅行業法・約款	15 / 15 (前期)	2	118	①⑨
国内旅行実務Ⅱ	8 / 15 (前期)	2	43	①⑨
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	⑪⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	14	⑥
観光経済論	15 / 15 (後期)	2	152	⑨
経済学	15 / 15 (前期)	2	164	⑨
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	16	⑥
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	16	⑥
地域観光研究A(アジア・オセアニア)	15 / 15 (後期)	2	80	⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光経済特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	3
観光経済特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1
事例研究(観光経済)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	4
観光事業特別演習	5 / 15 (後期)	2/1・2年	3
地域観光開発特別演習	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの満足度は、後期のみのアンケートにより、教養セミナー4.6(昨年度4.0)、地域観光研究A(アジア・オセアニア)4.3(昨年度4.5)であった。教養セミナーは後期から対面になったため、

学生たちはよろこび、満足度が上がったと考えられる。科目については、遠隔授業が続き、対面でのグループワークができなかったことが評価を落としたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	192
九州産業大学	観光政策論	15/15(前期)	2	5

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
旅行業務取扱管理者の国家試験直前対策(9月)	6	30	9/1と9/2
旅行業務取扱管理者の国家試験直前対策(2月)	14	7	2/8~2/19
国内観光研修D(九州)	4	20	10/22, 10/29, 1/21, 1/25

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・アジア諸国の観光・文化・社会経済
- ・DMO
- ・クルーズ

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	40万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考/2021年3月/宇久共同研究報告書/
10/共著/報告書

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
宇久における観光事業開発	佐世保市宇久町	2020年度	40万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	副委員長	配慮個別面談、委員会打ち合わせ、委員会、検討会議、NPS執行部定例会への出席。
QSPの国際交流・観光・まちづくり委員会	委員	年次活動記録、年次活動計画。
人間社会学研究科学務委員会	委員	学務委員会事前打ち合わせ、委員会出席。
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	2020年度は23件の審査を実施。
研修・地域連携委員会(学科内)	委員長	委員会内規の新設、実施内規の改正、研修・地域連携活動プログラムの募集、催行可否案の作成、上位学年の未履修者確認。
旅行業務取扱管理者養成課程委員会(学科内)	委員長	旅行業務取扱管理者試験に向けた特別講座や直前対策講座、模擬試験の計画、案内、運営、講師。国試・模試の団体受験申込。国家試験日に台風襲来による緊急時対応。旅行業務関連のカリキュラム改編の取りまとめ。
観光学専攻	副専攻長	専攻会議の議題確認、専攻会議資料確認、専攻内中間発表会の運営、入試問題の作問取りまとめ
国際観光学会編集委員会	委員	印刷所への相見積もり。査読。
カリキュラム委員会(学科内)	委員	委員会出席。旅行業務関連のカリキュラム改正案作成。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

準硬式野球部の顧問として、会計チェック、年8回ほどの応援、指導をした。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市景観審議会	委員	2020/03/01～ 2023/02/28	佐世保市長
日商簿記検定	委員	2020年度	佐世保商工会議所
日本観光研究学会倫理委員会	委員	2020年度	日本観光研究学会

(3)社会貢献・ボランティア活動等

- ①日商簿記検定委員／年間1回(2020年11月15日(日)の検定監督および採点／主催:佐世保商工会議所
- ②日本観光研究学会九州韓国南部支部幹事／学部生論文発表大会の審査委員／主催:日本観光研究学会
- ③宇久共同研究／2020年11月6～7日視察調査。／委託:佐世保市宇久町観光協会

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、合計54名のゼミ生(1年11名、2年14名、3年13名、4年16名)の全員を、卒業もしくは進級させることができた。コロナ禍で対面での授業がままならず、ゼミ生の心のケアを重視した。

大学運営活動については、CHサポートセンター運営委員会、人間社会学研究科観光学専攻の運営に尽力した。学科においては、研修・地域連携活動委員会と旅行業務取扱管理者養成課程委員会で委員長を務め、研修・地域連携活動委員会ではコロナ禍での暫定的研修対応に注力し、内規の新設や改正を行った。旅行業務取扱管理者養成課程委員会では、カリキュラム改編や再試験の実施に伴う2度にわたって直前対策講座を実施したことが評価できると考える。

また、社会活動として、QSP国際交流・観光・まちづくり委員会のリーダー校や、地域活性化委員会の委員校としての任務を遂行した。また、日本観光研究学会九州・韓国南部支部会の活動や、佐世保商工会議所の日商簿記検定委員、佐世保市宇久観光協会との共同研究を積極的に実行した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 新藤 照夫

1. 教育理念

授業内外での学生との双方向のコミュニケーションを重視し、個々の学生が主体的に学修でき、卒業までにそれぞれ独自のホスピタリティを獲得していくことができるよう、教員としてサポートを行っていくことを教育理念としている。授業においては、安心安全の場を設定し、学生が容易に発言できる環境を保持しながら、アクティブラーニングを通じてプレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力を育成することを主眼としている。

英語関連科目において具体的に実践したいことは、次の3点である。①英語により正確かつ迅速に情報を入手し、自発的に意思疎通を図れるようなバランスの取れた4技能の土台を定着させること、②その土台となる技能をもとに、専門領域に関する情報を英語を通じて受信・発信できる実用的な運用力への応用を図ること、③異文化背景を持つ他者との柔軟な異文化コミュニケーション能力の育成に努めることである。その結果、学生が自らのコミュニケーション能力によって得た情報や文化交流から、知見をより豊かにし、グローバルな視野のもと活躍できる人材になることを理想だと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
英語演習ⅡA	15 / 15 (後期)	1	32	①②⑪
英語コミュニケーションA	15 / 15 (前期)	2	62	②⑩⑪
English Writing Skills Ⅱ	30 / 30 (後期)	2	34	①②④⑧
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	④⑤⑥⑩
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	④⑤⑥⑩
旅行ビジネス英語	15 / 15 (前期)	2	65	②④⑩⑪
英語演習ⅡA	15 / 15 (後期)	1	31	①②⑪
言語と文化	15 / 15 (前期)	2	55	②⑩⑪
英語コミュニケーションB	15 / 15 (後期)	2	43	②⑦⑩⑪
English Writing Skills I	30 / 30 (前期)	2	35	①②④⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2020年度前期は授業アンケートは実施なし

2020年度後期に実施した授業アンケートのうち、教養セミナーB において満足度が4.9という高評価を得た。とくに「担当教員の取り組み」に関する項目では全てが5.0であったことは、丁寧に対応した成果であると思われる。

英語コミュニケーションBでは授業の満足度が4.8という高評価を得た。アンケートに回答された多くのポジティブなコメントをみると、対面で授業を行いながら、同時にZoomも活用したハイブリッド授業を展開したことに加え、英語によるコミュニケーションの機会を増やしたことが高評価につながっているといえる。

English Writing Skills II では授業の満足度が4.5というとりわけ高評価ではない結果に終わったことは、受講人数が多い上に、オンラインでの授業であったため、一人一人の対応が十分にできなかったことが一因であると考えられる。一方でコメントから読み取れるように、学修者自身が自己のライティング力の向上を体感していることは、授業の内容や取組み自体は効果を上げているものと思われる。今後のオンライン授業の実施に備えて、受講者への働きかけなどの工夫を図りたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅠ	15/15(前期)	1	36
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	32
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	44
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	32
環太平洋大学	異文化コミュニケーション論	15/15(集中講義)	2	10

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
TOEIC講座(グローバルツアーリズムコース対象)	2	16	10月～12月の月6限と木6限

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

クライシス・コミュニケーションにおける謝罪の文化的差異

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員長、教務課、学科長との連携を図り、学科内の教務事項の運営に尽力した。
研究センター	副センター長	研究センター委員会の副委員長を務め、委員会の円滑な運営を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

アーチェリー部 部長

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

新型コロナウイルスの影響により、予定していたイベントが中止となった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度教員免許状更新講習 「やり直し英語学」	7月11日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
実用英語技能検定	面接委員	平成17年4月～現在	公益財団法人日本英語検定協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面に関しては、とくにGTコースの学生を対象とした授業外の指導によるフォローを行うなど、きめ細やかな指導を実践したことで、TOEICスコア上昇の結果を得られた。また、専門演習の学生に対して、全国英語プレゼンテーション大会参加などの留学後の英語力のさらなる向上を求める取り組みを実施できた点は、学生からも高評価を得ることができた。個人の研究面においては、査読付き原著論文を一編発表できた。次年度はこれまでの研究をまとめ上げ、博士論文の完成を目指したい。社会貢献はコロナ禍において十分な活動ができなかったが、今後はオンラインによる貢献方法を検討していきたい。大学運営においては、主として副学科長としての任務に責任感を持って対応し、学科の運営、とくに業務のオンライン化に貢献できたものと思われる。次年度は教育、研究、社会貢献、運営業務のバランスを維持できるように努めたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 Thom W. Rawson

1. 教育理念

私達は自らやってみることによって一番良く物事を学ぶ。伝統的な講義において、アイデアや考えは教授から学生へと伝えられる。このような学び方は有効である。しかしながら本当の学びと理解は実際に経験することによって得られると私は思っている。

誰かが、家がどのようにして建てられたについて話をしているのを聞くことにより、あなたが建築について少しは学ぶ事ができるのが良い例である。誰かが家を作っているのをみて、あなたはさらに多くの事を学ぶだろう。しかしながら、一度最初から最後まで実際に家を建てる工程に関われば、その仕事を達成する知識を完全に得る事が出来る。

私が学生たちに英語を教える時、学生たちがその言語を使うときに一番活動的になる。私の講義を聞くことによって耳を慣れさせる事は出来るが、英語を使うスキルは、彼らが実際に練習するまでは基本的なレベルのままである。それらの練習を助けるため、私は学生達に教室の外で学ぶ技術を大事にするように伝えている。良い英語の勉強法を教えてあげて、それに慣れる事により、学生達は授業が終わった後でもずっと学び続ける事が可能である。

We learn things best by doing those things ourselves.

In a traditional lecture, ideas and thoughts are transferred from the teacher to the student. This way of learning can be effective. However, I believe real learning and understanding come from getting firsthand experiences.

A good example is that by listening to someone talk about how a house is built, you can learn a bit about house building. Watching someone making a house, you will learn a lot more. However, once one participates in the actual process of building a house with the builder from start to finish, the knowledge of how to accomplish this task is fully realized.

When I teach English to students, the most active learning happens when the students make use of the language. Listening to my lecture helps to train their ears, but their skills in using English remain at a basic level until they can get firsthand practice. To support these practices, I require students to focus on the skills they need to learn outside of the classroom. By teaching good English study habits, students can carry on with learning long after the class is finished.

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
Practical English II B	30 / 30 (後期)	2	36	①②③④⑤
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	18	①②
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	16	①②
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	31	①②
Practical English III A	15 / 15 (前期)	1	13	②③④
Practical English I B	30 / 30 (前期)	2	38	①②③④⑤
English Reading Skills I	30 / 30 (前期)	2	34	①④⑪
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	24	①②
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	24	①②
English Writing Skills III	30 / 30 (前期)	2	14	④⑧
English Reading Skills II	30 / 30 (後期)	2	31	①④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Information Technology	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

Practical English IIB Summary

The students gave a score of 4.3 for Q13 which means the curriculum and class content is satisfactory for the students. The score is slightly higher than last year (4.2). I feel like the curriculum is organized and easy for students to follow along. Students understand what to expect on a weekly basis however the amount of work and the variety of projects made this course particularly challenging for some students.

The curriculum is organized and everyday students could report on their current standing in the classroom thanks to ICT integration of materials. Regularly about 1.5 hours of homework is given each week to support the week's learning. A vocabulary quiz is given at the beginning of one of the classes which helped the attendance to be high in this class. Emphasis was on building academic skills needed for time management and study management. There were many aspects of this course that required students to remain focused on different topics. I hope to continue using debate skills projects to continue to improve students' academic communicative skills.

Although the syllabus is written 100% in English, the content of the course reflected the syllabus 100%. If students scored this lower they may have had difficulty understanding the syllabus. I will continue to improve the syllabus contents so students can better understand each lesson. However, the average of about 4.4 for this section (Q3~Q5) is satisfactory and higher than the previous year (4.2). About 3 students reported poorly (2's) on questions 3 and 5, but I'm not sure how they would be confused about the format of the class.

Basically, the materials were accessible to students online using ICT by either personal computers or smartphones. The average of this section is about 4.5 (Q6~Q11) which is nearly the same as the previous year's scores (4.6). Supporting materials for this course will continue to be made available to students. Being able to access class materials from any place is an important aspect of Active Learning. Students are also able to receive timely feedback on their assignments which helps them to focus and find areas where they can improve. It was very successful overall.

Overall the work continues in order to improve the curriculum for Practical English B course and hope to continue to foster student motivation for learning English outside the classroom for use within the class activities. This is the key to Active Learning. The things we need to be aware of are not making the students busy with tasks that aren't supporting the learning goals of building their Academic Skills. Also, keeping up with timely feedback helps to build a positive learning environment.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
Teacher Training - Blending Technology in your Classroom	2	3	2020/7/11

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

英語教育EFL/ESL

テクノロジー・ベースの学習

セルフアクセス学習

黒島観光研究

International Virtual Exchange (IVE)

Extensive Reading (ER)
 Learning Analytics (LA)
 Massive Open Online Courses (MOOCs)
 Learning Tools Interoperability (LTI)
 Learning Managements Systems (LMSs)
 Moodle Mobile Application for NIU (QLEARN)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	8	3	3	105万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology / MOOCの方法論
 を用いたオンデマンド授業のカリキュラム開発について
 /2021/3/長崎国際大学論叢第20巻/1頁～7頁/共著/研究ノート
 Maintenance of Custom Mobile App for Moodle for NIU Students
 (長崎国際大学の学生に向けたカスタム化されたMoodleのモバイルアプリのメンテナンス/2021/3
 /国際観光学科共同研究計画書/1/共著/調査レポート)

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

NIU QLEARN Workshop series (10 FD lectures)/2020年3月と4月/長崎国際大学の自主的な
 ファカルティ・ディベロップメント・セッション
 Moodle Strategies for On-Demand Lessons / 2020年9月 / 2020 MoodleWeek Japan Online
 Conference
 Implementing a Mobile App for University Classes / 2020年11月 / 2020 Japan Association of
 Language Teaching (JALT) National Conference Online
 Moodle Administrator Workshop / 2021年2月 / 2021 MoodleMoot Japan Online
 Moodle Users Association Administrative Report / 2021年2月 / 2021 MoodleMoot Japan Online
 Developing a Multilingual On-demand Curriculum for English Communication Classes / 2021年2
 月 / 2021 MoodleMoot Japan Online
 Project Bluesky: A collaboratively built BigBlueButton cluster / 2021年2月 / 2021 MoodleMoot
 Japan Online

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(代表)	日本学術振興会	2020年4月2021年3月	60万円
科学研究費補助金(分担/法政大学)	日本学術振興会	2020年4月2021年3月	25万円
科学研究費補助金(分担/室蘭工業大学)	日本学術振興会	2020年4月2021年3月	20万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	副委員長	私は会議に出席しました。
グローバル推進協議会	委員	設計されたカリキュラム、学生の活動について報告された、顧問

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

グローバル・ツーリズム・コースのiPadのメンテナンスをしています。ユーザープロフィールを設定し、アプリケーションのインストールとアップグレードを行います。授業でiPadを必要とする人が使えるような状態にしています。/ 2014年～現在

長崎国際大学の Moodle サイト「NIU QLEARN」の管理をしています。このウェブサイトは、教師と学生のための Moodle 学習管理システムです。教師と学生はオンラインでコースにアクセスすることができます。このシステムは、教室でのアクティブ・ラーニングをサポートします。/ 2014年から現在に至る

NIU QLEARN Custom Moodle Mobile Application - NIUの全学生を対象としたカスタムモバイルアプリケーションの開発と立ち上げに携わりました。このアプリケーションでは、学生と教師がNIU QLEARNサイトのコンテンツにアクセスすることができます。また、このアプリケーションでは、大学コミュニティ内のプライベートメッセージンググループを利用することができます。このプロジェクトは、大学の研究予算で賄われています。2019年-現在

NIU BigBlueButton Online Classrooms (Bluesky Project) -- NIU QLEARNユーザーがオンラインコース配信システムにアクセスできるBigBlueButtonシステムの実装を支援しました。このシステムは、NIUと日本の他の4つの大学で使用されています。

NIUの全学生は、Google Suite for EducationのGoogle Mailアカウントを持っています。私は、学生オフィスを支援するために、すべての学生にこれらのアカウントを設定しました。学生をサポートし、学生や先生がGoogleアカウントに関して抱える技術的な質問に答えています。/ 2014年から現在に至る

一般的に、私は長崎国際大学の教師と学生の両方の技術ニーズをサポートしています。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

グローバルツーリズムコースのためのオープンキャンパスサポート。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県教育員会の先生達	2020年6月	長崎国際大学	長崎県教育員会の先生達

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本ムードル協会・実行委員会	副委員長研究開発、MUAの連絡係	2015年2月～現在	日本ムードル協会

長崎NanKyu JALT全国語学教育学会	企画者	2016年4月～現在	JALT Nankyu 全国語学教育学会
アジア太平洋仮想交換機構 (APVEA) 諮問委員会	諮問委員	2015年7月～現在	Asia-Pacific Virtual Exchange Association

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

私は日本のMoodleユーザーのための積極的なボランティアです。私はMoodleインストールの設定、管理、トラブルシューティングの専門知識を持っています。先生と生徒がMoodleを使って学習するのを助けます。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
国際バーチャル交換プロジェクト - SENA(コロンビア共和国)および長崎国際大学交換	NIUの学生は、コロンビアや他の多くの国の学生とオンラインでコラボレーションし、交流します。	2016年9月～現在	SENA・コロンビアと長崎国際大学

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

私はEnglish Firsthand Seriesサポートウェブサイト、MyMobileWorldのテクニカルアドバイザーを務めています。これはピアソンアジアによって開発されたウェブサイトで、日本とアジアの至る所で教師と生徒によって使用されています。/ 2017年～現在

私はXlearning Systems LLCによって開発されたXreading Extensive ReadingのWebサイトのテクニカルアドバイザーを務めています。このウェブサイトは日本とアジアのEFL学習者のための多読活動をサポートするために作られています。/ 2016年～現在

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

動、また大学の指示を分析するために私は学びの分析論を自身の研究に持ち込んだ。私は世界一人気のあるラーニングマネジメントシステム(LMS)である、「ムードル(MOODLE)」の国際的コミュニ

ティにおいて積極的に活動を行っている。

私は大学の目的(ゴール)をサポートし続けて行くつもりである。茶道の集まりに積極的に参加しており、おもてなしの心やサービス精神を盛り込んでいる。授業や、また学部の教職員との関わりにもその技術を取り入れようとしている。グローバルツーリズムプログラムや大学全体の発展を進めるため、尽力していくつもりである。

Since I began working at Nagasaki International University, I have helped to design, deliver, and refine the Global Tourism Course curriculum for both 1st and 2nd-year students. I've also helped to design, deliver and refine the General English course curriculum for 1st-year students.

I've worked hard to make Active Learning a centerpiece in my education philosophy. I teach students how to learn new things and how to be active in their use of the language. I'm also focused on giving students frequent and timely feedback on their activities in order to complete the learning cycle -- assignment -- submission -- feedback -- learning.

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 宮良 俊行

1. 教育理念

私の教育理念は、目的を果たすために計画的に最も有効な方法を使いつつ、それを実生活に活かすことによって、人間と社会の進歩・発展に貢献することである。

よって、正規授業やゼミ活動、また課外活動において、生涯スポーツ社会の実現を図るために、スポーツの三要素「する」、「みる」、「ささえる」を理解し、実践でき、社会で活躍できる人材の養成に重きをおいて展開します。

担当科目を履修する学生に対しては、「スポーツの素晴らしさ、大切さを正しく伝えることができるメッセンジャー」になるために、スポーツに関連する科目を十分理解し、実践できるように学んでほしいと考えており、そのために、基礎知識の習得やその知識を活かした実践を重要視した授業方法を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	16	⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	19	⑤
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	1	⑤
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	20	⑦⑪⑫
コンディショニング	6 / 15 (後期)	1	38	⑩⑪
保健体育科教育法Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	8	⑨⑩
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	16	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	16	④⑤⑥⑦⑩⑪
スポーツ社会学	15 / 15 (前期)	2	63	④⑤⑥⑩
スポーツ医学	1 / 15 (前期)	2	58	②⑩⑪⑫
教職実践演習(中・高)	2 / 15 (後期)	2	16	⑤
保健体育科教育法Ⅳ	15 / 15 (前期)	2	10	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅲ	7 / 15 (後期)	2	6	⑩⑪
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	9	④⑤⑥⑦⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	12	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
地域スポーツ	15 / 15 (後期)	2	71	④⑤⑥⑩
スポーツマネジメント	15 / 15 (前期)	2	54	④⑤⑥⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	④⑤⑥⑦⑩⑪

専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩⑪
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩⑪
ジョギング・ウォーキング	10 / 15 (前期)	1	42	⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートに関しては、今年度、遠隔授業が中心であったが、概ね好評であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	2	79
九州看護福祉大学	バレーボール	8/15(後期)	1	17
佐世保市立看護専門学校	実技と講義	15/15(通年)	1	78

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・地域におけるスポーツ振興とまちづくり
- ・全国のスポーツ振興計画について
- ・総合型地域スポーツクラブに関する調査・研究
- ・学校運動部活動について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	4	0	0	0万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
- なし

・論文等(題名／発表年月／掲載誌等:○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分)

「大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討－大学生の「ささえるスポーツ」の視点に着目して－」／2021.03.31／スポーツ産業学研究,第

31巻,第1号／p.31-40／共著／論文

「水泳授業における泳力と授業評価の関連性－教員養成課程の模擬授業をもとに－」

／2021.03.31／群馬大学共同教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編,第56巻,／p.99-107／共著／論文

「コロナ禍における2020年度前期開講科目「ジョギング・ウォーキング」の実践」／2021.03.31／長崎国際大学教育基盤センター紀要,第4巻／55頁～61頁／共著／論文

「長崎国際大学スポーツ系部活動・サークルに所属する学生の現状とニーズの研究」長崎国際大学教育基盤センター紀要,第4巻,／2021.03.31／長崎国際大学教育基盤センター紀要,第4巻／○頁～○頁／共著／論文

「大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討－保護者の視点に着目して－」／2021.03.31／健康科学第43巻／pp89-94／共著／論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

「大学が運営する地域スポーツの楽しさの検討－指導学生の視点に着目して－」／令和2年7月12日／日本スポーツ産業学会第29回大会 (Zoom)

「総合型地域スポーツクラブのPR動画作成プロジェクトが大学生の社会人基礎力に与える影響」／令和2年9月19日／第68回九州体育・スポーツ学会 (Zoom)

Factors Affecting the Enjoyment of Community Sports Classes: Investigating from the View of Parents.／令和2年10月28日／The 24th annual congress of the European College of Sport Science in seville (online)

The Relationship between Swimming ability and Student's Formative Assessment in Swimming class -Based on the Trial Teaching class in a Teacher Training course-.／令和2年10月28日／The 24th annual congress of the European College of Sport Science in seville (online)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	特にありません。
教職課程委員会	委員	特にありません。
教育基盤センター運営委員会	委員	特にありません。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

女子バレーボール部 監督
男子バレーボール部 部長

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

進路ガイダンス/令和2年3月18日/長崎西彼農業高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度 教員免許状更新講習 「体育・スポーツに関する最新情報「コンディショニング」」	令和2年9月20日	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県スポーツ推進審議会	副会長	2020.9.1～ 2022.7.24	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎県成年女子バレーボールチーム監督

親子対象運動・スポーツ教室「チャレンジスポーツ」の運営および指導

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特にありません。

7. 受賞等

特にありません。

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度を振り返って、研究活動は、論文を投稿するまでに至らなかったが、「地域のスポーツ推進」や「学校運動部活動」に関する基礎資料収集をすることができた。来年度は、これらに基づいて地域スポーツや運動部活動に関する論文を提出する予定である。

教育活動に関しては、ゼミ生や部活動生に対する生活・学習指導は毎年と変わらず情熱を持って行った。特に新型コロナウイルスの影響で、学生たちのモチベーションをどのように保つか大変苦労した。

来年度、本学に採用されて12年目になる。これまでの実績をまとめていこうと思う。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 准教授 氏名 山内 美穂

1. 教育理念

自ら考え主体的に行動できる人を育てることが私の教育理念である。

現代社会では以前に比べ情報が簡単に収集できるようになっているが、その実、現代の社会の在り様はますます複雑になっている。インターネットなどから簡単に得られる情報をうのみにしたり、それらから振り回されるのではなく、自ら深く考え、判断し、行動できる人を育成したい。そのために授業や学生の指導では、私が一方的に話すのではなく、できるだけ対話形式で、学生自身で深く思索したり、何かを発見したりしながら問題解決を図るように仕向けたいと考えている。

また、これからの社会で特に必要とされている「多様性への理解力」をはぐぐむことにも重きをおいている。本学のように、さまざまな文化背景の人々がともに学ぶ環境で、自身とは違う部分を認め、色々な視点から物事を見られるような教育をしたい。そのために、自らも多様性理解力を高める努力を続けながら、学生には色々な年齢や文化背景の人々と交流できるようなチャンスを創出していくことに注力している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
日本語教育実習	15 / 30 (前期)	2	1	⑪
日本語教育実習	30 / 30 (通年)	2	7	⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	2	⑪
日本語表現法	15 / 15 (前期)	2	100	⑧⑨⑩
日本文化論	15 / 15 (後期)	2	78	①②④⑤
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	8	①②⑥⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	7	①②⑥⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	16	①④⑤⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥
日本事情Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	23	①②③⑤⑥
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	14	①④⑤⑥
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥
日本事情Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	24	①②③⑤⑥
アカデミックジャパニーズⅠA	30 / 30 (前期)	2	14	①②⑨⑩
アカデミックジャパニーズⅠA	30 / 30 (後期)	2	2	①②⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
異文化理解特講	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
事例研究(異文化理解)	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期はアンケートの実施はなく、後期に「教養セミナーB」と「専門演習 I B」でアンケートを実施した。

「教養セミナーB」では平均4.0～5点、「専門演習 I A」4.7～5点の評価を得た。本学での授業も2年目に入り、少しずつ授業環境にも慣れ、授業準備も効率的にできるようになり、学生が興味をもてる内容の授業を実施できるようになったからだといえる。どちらも前期はコロナの影響でオンライン授業だったが、後期は対面で授業ができたことも評価の要因の一つかと考える。

しかし、1年生の大切な科目である「教養セミナーB」で「積極的にセミナーに参加したか」の質問では一番低い平均4点であった。学生に意欲をもたせる工夫がまだまだ必要だとアンケート結果から分かった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
雪浦ホームステイプログラム	1	13	2020年11月21日(土)～23日(月・祝)

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

【日本語教育のための日本語文法】

日本語が母語ではない人が日本語を勉強するときには、日本語の色々な文法ルールを学ぶが、日本語教育ではそれらを分かりやすく伝えることが大切である。私は文法研究にコーパスや自然会話データを使用し、自然に使われる日本語の中から文法ルールを発見するのが私の手法である。

【異文化理解教育】

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
留学生地域滞在型体験交流プログラムを通じた留学生と地域住民の関わり/2021年3月/長崎国際大学論叢/57頁～69頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
対話する場としての「ひるまち にほんご」
/2020年12月12日/言語文化教育研究学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	・新入生オリエンテーションなどでのCHサポートセンター紹介 ・サポートを申請した学生との面談
カリキュラム委員会	委員	・留学生の日本語力向上に向けた日本語科目カリキュラムの作成
学事委員会	保護者会・卒業式担当委員	・保護者会中止に代わる保護者に向けた国際観光学科紹介ビデオの作成 ・国際観光学科および観光学専攻卒業式の準備と実施
実習委員会	委員	・短期インターンシップ受入先の開拓

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

「留学生と日本人学生がともに体験する地域滞在型交流における互いの多様性意識の変容と、両者協働による学習効果の検証」において、参加学生の募集、引率、アンケートの実施などを行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

地域の日本人と外国出身者が「やさしい日本語」で交流する会「ひるまち にほんご」を2020年2月までは毎月対面で開催してきたが、コロナウイルス感染拡大の影響で対面での実施はできていない。

しかし、2020年8月と2021年3月にはオンラインで開催し、それぞれ40名、25名ほどの世界各国からの参加者がオンライン上で交流した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学に着任して2年目の今年は、環境にも慣れ、授業の準備も前年よりも効率的にできるようになった。それと同時に、授業やゼミでの学生との交流も楽しめるようになった。とはいえ、本年度はコロナウイルス感染拡大の影響で、授業の圧倒的多数がオンラインによるもので、学生がどれだけその中から得るものがあつたか心許ない思いである。オンラインでも自身の教育理念を実践すべくいくつかの工夫をして授業を展開した。来年度もいくつかの科目はオンラインにならざるを得ないことが予想される。さらなる工夫で、学生の学びを充実させる努力は続けるつもりである。

本年度は昨年度よりも多くの委員会活動に参加した。各委員会活動を通して、本学の様々な取り組みや行事を体感し、自分なりに理解することもできたと思う。その中でチームワークの大切さも感じ、行事などの実施資料の共有の必要性も実感した。今後、改善に向けた取り組みを提案していきたい。

10月には科研費の申請も行った。「国際共修」という新たな研究分野で研究を進めていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 川上 直彦

1. 教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力(①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力)を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業(世界文化遺産論、美術と観光、世界史、History A & B)および専門演習IA～IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組みさせることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力について、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業(英語演習IA～IIB)においては、③と⑤を重視している。③コミュニケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	1	⑥⑫
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	2	⑥⑫
世界史	15 / 15 (前期)	2	95	①④⑥⑨⑩
History B	15 / 15 (後期)	2	8	①⑤⑥⑨⑩
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	2	①⑤⑥
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	3	①⑤⑥

教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	12	①④⑤⑥⑦⑪⑫
英語演習ⅡA	15 / 15 (後期)	1	30	①②
英語演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	32	①②
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥
History A	15 / 15 (前期)	2	7	①⑤⑥⑨⑩
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	22	①②
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	5	①⑤⑥
美術と観光	15 / 15 (前期)	2	56	①⑨
世界文化遺産論	15 / 15 (後期)	2	115	①⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
芸術文化資源特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
芸術文化資源特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
事例研究(芸術文化資源)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

History B: (理解度4.1、満足度4.1)

すべてが英語での授業となる。本科目を受講できる英語力を持つ学生は限られているため、受講した学生は8人と少人数であった。授業内容の理解度については、5の評価が3名、4の評価が2名、3の評価が2名、欠席が1名であった。学生の英語力にばらつきがあるため、評価をあげるのは非常に難しいと考える。来年度については、各人の英語力に見合った課題をだして、毎週の講義にのぞんでもらうように授業を展開していこうと計画している。授業の満足度については、5の評価が4名、4の評価が2名、1の評価が1名、欠席が1名であった。1の評価があったことに関しては、非常に残念である。しかし、他の学生の評価が高いことから、この学生は想像した内容との乖離が大きく、低い評価になってしまったのではないかと想像する。

教養セミナーA: (満足度4.5)

満足度は4.5と良い評価だった。教養セミナーに関しては、学生との信頼関係を構築することができれば、学生の満足度アップにつながると感じている。この点を意識してがんばったことが今回の高評価につながったと考える。また、教養セミナーは非常にジェネラルな学習内容になっているので、学生に興味を持たせるのは難しいと感じている。そのため、繰り返しになるが、学生との信頼構築が満足度に直結すると考えているので、その点を重視して、来年度の教養セミナーにつなげていきたい。

大学院:事例研究(芸術文化資源)(すべての項目において満点の4を取得)

履修した学生は1人であったため、幅広く、そして詳細に授業を実施し、理解を促すことができた。満点だったので特に改善点はない。来年度についても良い評価を取得できるようがんばりたい。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1)研究テーマ

研究テーマは、「楔形文字史料とGIS(=地理情報システム)を活用した南メソポタミアにおける考古・歴史地理学研究」である。人類史上最古の帝国と定義可能な社会体制は、定住化、農耕・牧畜社会の発達、そして灌漑農耕を基盤にした都市化を経て、古代オリエント、すなわち西アジアのイラク共和国のメソポタミアに約4300年前に出現した。帝国の創始者であるサルゴン王によって築かれた人類最古の帝国の中心都市、すなわち人類最古の首都と定義づけ可能な古代都市「アガデ」が建設されたことが、楔形文字史料の記述からわかっている。しかし、この「アガデ」の所在は、約150年に及ぶ研究の目をすり抜け、未だ発見されていない。本研究は、楔形文字史料に含まれる地理情報を中心に、考古・歴史地理学的観点から理論考察し、この「アガデ」の所在地域の推定を試みる。次に、先に推定した「アガデ」の所在地域のDEM(数値標高モデル)データを取得し、GIS(地理情報(処理)システム)に取込み、同地域の地形を3D画像として表示する。その後、その3D地形画像に、同地域の近赤外波長データを含む衛星画像をGISに取込み、重ね合わせ、「アガデ」と推定可能な古代メソポタミア文明特有の丘状遺跡が推定した地域内に存在するのかを探査する。そして、最終的に今後の現地における「アガデ」の遺丘踏査を実施するための基礎データ・ベースとなる遺丘分布図を作成する。

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

GISによるアッカド王朝の中心都市「アガデ」の所在地探査—ティグリス川の古代流路との関連性による一考察—/2020年12月6日/日本オリエント学会第62回大会(名古屋大学)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会(学科・全学)	委員	学生確保につながるよう尽力した。特に夏のオープンキャンパス開会式運営責任者として貢献することができた。また、高校への出張講義の運営業務にも携わった。
研究倫理委員会(学科、大学院)	委員長(学科)、委員(大学院)	①学科の研究倫理委員長として、教員が行う研究10件、学科生の卒業研究34件の計44件の研究倫理審査を行った。 ②大学院の研究倫理委員として、大学院生が行う研究10件前後の研究倫理審査を行った。
グローバルツーリズムコース委員会	委員	前期・後期の国際観光学科所属の全学生対象の英語試験(CASECテスト)の運営・管理業務全般を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度教員免許更新講習 「古代オリエント世界の考古学・ 歴史と博物館」	令和2年6月27日	長崎国際大学(オン デマンド)	長崎県教員免許状 更新講習連絡協議 会

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

一般財団法人日本国際協力システムの要請により、下記の日本国政府国際協力案件においてアドバイザーを務めた。

- ・一般文化無償調査:イラク「国立スレイマニア博物館展示機材整備計画」

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】3年前より新たに引き継いだ歴史系科目(History A、History B、世界史、世界遺産保全管理論)に関し、今年度前期終了までに、ようやく自身が納得できるレベルの講義・授業内容にレベルアップさせることができた。また、6年前の就任当初から担当している歴史系科目(美術と観光、世界文化遺産論)の授業内容についても、更に内容を充実させることができた。

【研究】自身が専門とする学問分野の国際的権威のある学術雑誌に英語論文を1本投稿した。現在査読中である。また、日本オリエント学会第62回大会において口頭発表を行った。

【大学運営】学科グローバルツーリズム委員として、高校生暗唱コンテスト、前1年生とグローバルツーリズム学生実施するCASECテスト等の運營業務等を行った。学科研究倫理委員会委員長、そして大学院研究倫理委員として、教員と学生の合計60本程の研究倫理審査を厳正に実施した。また、入試募集委員(学科・全学)として、学生確保につながるよう尽力した。特に夏のオープンキャンパス開会式運営責任者として貢献することができた。

【長崎国際大学国際観光学会】同学会の編集委員を務めており、特に学会誌「観光学論集」編集作業の総括業務担当し、これまで貢献してきている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 John Patrick Owatari-Dorgan

1. 教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標にしているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気をはかっています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
Practical English II B	30 / 30 (後期)	2	36	①②③④⑤
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	28	①②
Practical English II A	30 / 30 (後期)	2	35	②③④
英語演習 I A	15 / 15 (前期)	1	33	①②
Japanese Culture B	15 / 15 (後期)	2	13	②⑤⑥⑨
Practical English I A	30 / 30 (前期)	2	36	②③④
English Reading Skills III	30 / 30 (前期)	2	13	①④⑤⑪
Practical English I B	30 / 30 (前期)	2	38	①②③④⑤
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	23	①②
英語演習 II B	15 / 15 (後期)	1	29	①②
Japanese Culture A	15 / 15 (前期)	2	15	②⑤⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

In Practical English IIA, students gave me a 4.4 which was a little bit better score that I received last year. Since this score is fairly high, I believe that students are mostly satisfied with the class. Of course, I would like to raise the satisfaction for the class in the future. This class includes a lot of out-of-class work so that may have hurt student satisfaction. Also, I also believe that some students had trouble understanding some of the activities in the class. Of course, trying to take the classes over the internet may have hurt student understanding. Additionally, students were asked to complete a very long and difficult project this semester which may have been less satisfying than several short projects. Next year, I will try to give the students more active feedback during the long project and try to divide the project into smaller and easier to understand sections. I will also try to give the students more active feedback to help the student understand how to become better. Finally, I would like to try to improve the classroom experience for students. Specifically, I would like to try to make the explanations and activities easier for students to understand. Also, I would like to give them more time to complete activities so that they feel less stress.

In Eigo Enshu IIB, the student satisfaction with the class was a little lower than it has been in previous years. I believe that this drop in satisfaction is the result of students trying to learn the material over the internet rather than face-to-face. For an English communication course, this can be a really challenging experience. Moreover, the class was taught in an on-demand style that meant that students had a lot of personal responsibility for studying and completing assignments on-time. I think that many students weren't prepared for that type of experience. Based on the experiences of teaching this class, I have already made improvement to the curriculum for the next year. While the class will still be online and taught in the on-demand style, I am working to make the explanations of the activities easier to understand. I am also working to make it easier for students to ask questions and get help when they need it. Finally, I am also working to make the process of doing the activities smoother.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	English Communication III	15/15(前期)	1	30
佐賀大学	Western Culture	15/15(前期)	1	30
佐賀大学	English Communication IV	15/15(後期)	1	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

外国語として英語教育
異文化間コミュニケーション
英語多読
語彙学習
民族誌学
日本の文化
海外留学

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	60万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology/2021年3月/長崎
国際大学論叢第20巻/1～17/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Implementing a Mobile App for University Classes/2020年11月/全国語学教育学会 第46回年
次国際大会教材展示会
全国語学教育学会 第46回年次国際大会教材展示会/2021年2月/MoodleMoot Japan 2021
Moodle Strategies for On-Demand Lessons/2020年4月/MoodleWeek Japan 2020

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(分担)	日本学術振興会	2020年4月～2021年3 月	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学広報委員会	委員	学科のホームページをたくさん更新しました。
学部教授会運営	準備担当者	会議資料を準備する
グローバルツーリズム委員会	委員	GTコースの開発を続けます
学科広報委員会	委員	学科のSNSを最新の状態に保つためのサポートする

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

英語演習のオンラインカリキュラム開発
 学生とのオンライン国際交流に参加
 NIU 9learn.net アプリ開発
 教師への9learn.netサポート
 9learn.netワークショップをサポート(10回)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

GTコースのSNSの管理補助など
 グローバルリーダーシップフォーラム 主催者
 川棚英語キャンプ 共同主催者
 学科ホームページを更新

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
新武雄病院 ボランティア英会話	2020年4月～2021年3月	新武雄病院	新武雄病院

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
異文化間コミュニケーション支部	財務管理者	2018年6月～現在	全国語学教育学会
たけおワールドフレンズ 運営委員会	運営委員	2009年4月～現在	たけおワールドフレンズ
Nankyu 支部	委員	2016年4月～現在	全国語学教育学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

医療従事者のための英会話指導

山内保育園の英語ボランティアレッスン

武雄市の観光案内パンフレットの英語サポート

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
プリンストン大学オンライン交流	グローバルツーリズム学生達がプリンストン大学の学生とのオンラインで交流	2015年10月～現在	Princeton University, USA 長崎国際大学
SENAオンライン交流	英語演習IAとグローバルツーリズム学生達がコロンビアの学生とのオンラインで交流	2015年10月～現在	SENA, Colombia

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

海外留学のための学生の評価

IELTSや海外留学に向けた特別レッスン

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

GTコースのと英語演習の学生の英語レベルアップに大きく貢献できたと思っています。GTコースの学生は、TOEICテストで学期ごとに50点以上の向上を達成しています。さらに、国際的な大学への入学に使用されるIELTSテストの準備も万全です。私は他の英語教師と協力して、英語演習のカリキュラムを劇的に改善しました。生徒からのフィードバックをもとに、英語演習と日本文化の授業に多くの改善を行いました。

研究面では、国際的なオンライン会議で複数の発表をすることができました。また、国内の学術誌にも複数の論文を発表することができました。

コロナ渦の中で、NIUと他の大学との関係を維持し、アメリカの学校との調整や話し合いを行い、コロナが終息後にも関係が継続するように努力しました。また、コロナウィルスの危機によって引き起こされた困難な留学状況のために、学生をスキルアップし準備するのにも役立ちました。

今年は、キャンパスコミュニティの一員として積極的に活動することを心がけ、他の先生方と密に協力して学生の体験を向上させました。また、オンライン学習の状況を改善し、学生が安全に学習できるようにするために、他の先生方と協力して慎重に取り組んできました。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 神野 周太郎

1. 教育理念

現在、スポーツの日(旧体育の日)や日本スポーツ協会(旧日本体育協会)といったように、「体育」は「スポーツ」に代替され始めています。それは、スポーツが文化として日本に根付き始めている証拠です。しかし、懸念されるのは体育＝スポーツという認識の広まりです。スポーツは体育と代替可能なものではなく、体育という事実を構成する一要因です。体育は、教科名に留まらない人間の身体(運動・活動)と教育に関するものであり、よって私は「体育、スポーツとは何か」という問いを前提に、それら概念を明確に区別させ、現代における両者の重要性を学生に伝えたいです。

その理由は、第一に保健体育教員の存在意義が、単にスポーツの専門家、部活動の顧問、生活指導をすることではなく、子どもの成長の一端を担う教育者であるということを認識させるためです。第二に、将来学生が地域のスポーツ振興に関わる際、「スポーツがもつ価値」を個々の経験のみでとらえるのではなく、「人間にとって」、「地域にとって」という広い視野で考えられるようにさせるためです。今日スポーツの場は、人々に関わる公共空間(スポーツの公共性)として重要な意義を持つことから、その視点は重要です。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	⑥⑫
保健体育科教育法Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	8	⑨⑩
スポーツ運動学	15 / 15 (後期)	2	12	⑫
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	19	④⑤⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	8	⑤⑥⑦
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	8	⑤⑥⑦
保健体育科教育法Ⅳ	15 / 15 (前期)	2	10	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅲ	15 / 15 (後期)	2	6	⑨⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	10	⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	10	⑤⑥⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ原理	15 / 15 (前期)	2	62	②
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	8	⑤⑥⑦
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	8	⑤⑥⑦
ジョギング・ウォーキング	15 / 15 (前期)	1	42	⑩⑪

保健体育科教育法 I	15 / 15 (後期)	2	11	⑨⑩
------------	--------------	---	----	----

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

各授業アンケートを拝見した結果、学生からの評価は予想以上に高いものであった。

具体的授業実践として、授業の1/3を知識教授、1/3をグループワーク、1/3を共有と振り返りの時間とするフレームを設定して取り組んだ。それが、高評価に結びついたと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
星槎大学	スポーツ原理、スポーツ哲学	15/15(通年)	2	70人程度

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

体験のサービス化(あらかじめ用意された世界経験)が蔓延する現代に生きる学生にとって、スポーツ演習や実習には、学生が「自らの身体で実際に予測を超えた世界を経験する」という教育的意義があります。体育、スポーツを教育者や指導者といった立場から実践する際、重要なのは自らがその経験の素晴らしさを知っているということです。つまり、その経験は教育者、スポーツ指導者の資質へとつながるのです。この視点は私の研究にも関わっています。

多様で複雑な問題を前に確実性が求められる今日にあって、サービス化された「快」(美的)体験やアカウントビリティが注目されますが、それは実験的で前進的な人間の生き方の消失でもあります。すなわち私の研究は、それでもなお自ら行動し確実と不確実の狭間という際に立ち思考する人間の姿を展望するプラグマティズムに依りつつ、人間の身体活動における「際に立つ経験」の理論化を試みることです。それは、子どもの経験、学び、自己創造、成長を視野に入れた「身体運動する人間」への教育的まなざしでもあり、新たな体育(身体教育)理論構築の試みでもあるのです。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	3	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
月刊誌「体育科教育」2020年6月号「担当テーマ:体育授業で子どもが「成長」するとはどういうことか」/共著/2020/大修館書店/18-22

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
コロナ禍における2020年度前期開講科目「ジョギング・ウォーキング」の実践/2021/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第4巻/55-61/共著/事例報告
水泳授業における泳力と授業評価の関連性 - 教員養成課程の模擬授業をもとに - /2021/群馬大学共同教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編 第56巻(9頁)/99-107/共著/査読あり
大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討 - 大学生の「ささえるスポーツ」の視点に着目して - /2021/スポーツ産業学研究 第31巻 第1号/31-39/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
『COVID-19 影響下での大学体育授業実践』長崎国際大学の事例報告/2021年3月13日/九州大学体育連合九州支部/九州地区大学体育連合 令和2/3年度 春期研修会「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職活動結果のアンケートの作成支援
学事委員会	オリエンテーション担当委員	春秋のオリエンテーションの運営
観光学論集編集委員会	委員	査読者と投稿者の仲介役

オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパス(学科プログラム)の運営
学科事務局委員	委員	学科会議資料編集係

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3)課外活動の指導等

サッカー部、バドミントン部の顧問として、学生対応や日々の諸活動への帯同をした。

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

佐世保東翔高等学校へ出張講義をし、そこで広報活動を実施。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1)講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
出張講義	3/15	佐世保東翔高等学校	ライセンスアカデミー

(2)公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特筆事項なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特筆事項なし

7. 受賞等

ベストティーチャー賞 2019年度 学生アンケート部門(科目:スポーツ原理)

8. 活動全般についての自己点検・評価

学科内のオンライン運営、オンライン授業の創意工夫、労働時間外での学生教育に尽力した。研究活動において、満足できていない。次年度は、より計画的に、意欲的に研究活動に取り組むことを目標とする。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 高橋 憲司

1. 教育理念

学生の大学生活全般において、私が教育理念に掲げている「挨拶」「時間厳守」「整理整頓」の三項目を学生に徹底することで、規律の順守とともに、私のコミュニケーション力を発揮し、意思疎通が円滑になるように学内の雰囲気活性化させる。

教科教育においては、スポーツ実技や演習の授業等で、各々の専門知識・技能の定着はもちろんのこと、基本となるコミュニケーション能力向上のため、クラスメートとのワークを通じて和やかな雰囲気の中、学生の相互理解が深まるように授業を展開する。その中で、相手を尊重し、相手の立場に立って何らかの貢献ができる力を育成する。

講義科目においては、プレゼンテーションソフトとリモートコントロールシステムを使用し、学生側に位置して学生とコミュニケーションを取りながら進める双方向性の高い授業を展開するとともに、スマートフォンやタブレット端末を活用したアクティブラーニングも取り入れ、主体的な学びの環境を提供する。

学生への研究指導(卒業論文指導)については、各種資格試験への対策が十分にできるように、2年次後期より研究に関する素地を教育し、3年次から本格的な指導を展開、4年次には各資格試験対策の勉強時間や実習の時間を確保した上で、受験日に応じて柔軟に対応する。

学生の課外活動については、国際大会での指導経験を踏まえ、強化指定部を中心にスポーツ現場で必要とされる高度な指導法や戦略・戦術の考え方、競技レベルの維持に重要な日常生活の過ごし方等、現場で求められる知識・実践能力に関するコーチングを行う。また、必要に応じて学生選手の心理面(スポーツメンタルトレーニングを含む)および身体面のコンディショニングに関するコンサルティングを行う。特に、ソフトテニス私の専門競技のため、学生の活動目標に応じた貢献をする。

地域活動では、地域住民を対象とした大学公開講座等にて、健康体力の維持・向上の啓蒙実践活動や、これまでの研究成果や最新の知見を提供できるように活動する。また、小・中・高校の部活動縮小化の受け皿となるべく、大学が児童・生徒およびその保護者の競技力向上やレクリエーションとしてスポーツ指導が受けられる体制を構築し、その活動により、本学への進学に繋がるように展開したい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	①④⑥⑩⑫

コンディショニング	10 / 15 (後期)	1	38	①②④⑩⑪⑫
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	8	①②⑨⑪
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	8	①②④⑦⑩⑪⑫
専門演習 III A	15 / 15 (前期)	1	7	①②④⑥⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①④⑥⑦⑨⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	12	①②④⑤⑥⑩⑪⑫
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	16	①④⑦⑩⑫
バイオメカニクス	15 / 15 (前期)	2	52	①②④⑨⑩
測定評価	15 / 15 (後期)	2	47	①②④
スポーツ医学	5 / 15 (前期)	2	58	②④⑩
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	②⑦
専門演習 III B	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑥⑩⑫
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	12	①②④⑦⑩⑪⑫
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	16	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

対面での授業にて、今後の授業展開方法を考えたい。

遠隔授業での授業については、学生の興味関心を惹けるように取り組みたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
健康運動実践指導者 試験対策 (補習)	19	1	3月2日～6日
卒業論文作成通い合宿(前期)	15	7	9月3日～5日
卒業論文作成通い合宿(後期)	15	7	11月2,3,5日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ソフトテニスの技術評価に関する研究
- ソフトテニスボールの変形に関する研究
- スポーツ組織のガバナンス整備に関する研究

- 包帯法習熟に関する研究
- 浮指が重心動揺に及ぼす影響
- スポーツメンタルトレーニングの実践報告

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	1	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Lateral Dominance Involving Hand Grip Strength among Soft Tennis Players, Swimmers, and General People / 2021/2 / American Journal of Sports Science and Medicine 9(1). / 1-3 / 共著 / 原著論文 (Original Article)

コロナ禍における 2020 年度前期開講科目『ジョギング・ウォーキング』の実践 / 2021年3月 / 長崎国際大学教育基盤センター紀要, 第 4 巻 / 55頁～61頁 / 共著 / 事例報告

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

マウスガードによる外傷予防の有効性認知度と実践率の調査 / 2020年9月 / 日本ソフトテニス研究会第3回研究大会

ソフトテニスにおける新種目ハーフコートダブルス・トリプルの安全性に関する研究 / 2020年9月 / 日本ソフトテニス研究会第3回研究大会

ソフトテニスボールにおける保存状態・保存期間による形状への影響 / 2020年9月 / 日本ソフトテニス研究会第3回研究大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「浮き趾」は静的・動的立位姿勢の安定性や歩行動作および跳躍動作に影響するのかわ	日本学術振興会	2020年4月～2023年3月	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	大分高等学校、神村学園高等部、鎮西学院高等学校の出張講座として、スポーツの視点から長崎国際大学を紹介した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

●強化指定部: 男女ソフトテニス部 顧問

○第21回全九州学生ソフトテニス秋季リーグ戦大会 男子4部優勝(次年度3部昇格), 女子2部2位

○主に男子部を中心に技術指導・フィットネスレベル向上に取り組んだ。

○男女ソフトテニス部の部則整備に取り組んだ。

○私個人が目標とする九州大会での優勝は、達成できなかった。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

●大分高等学校、神村学園高等部、鎮西学院高等学校へ、出張講座担当講師として、スポーツの視点から長崎国際大学を紹介した。

●佐賀県のSAGAスポーツピラミッド(SSP)構想の、ソフトテニス競技において、対象選手・指導者に対して、長崎国際大学の国際観光学科とソフトテニス部をアピールした。

●ソフトテニス指導のDVD作成において、撮影場所を提供いただいた清明学園中学校の指導者・選手に対して、長崎国際大学の国際観光学科とソフトテニス部をアピールした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
2020年度 公益財団法人日本スポーツ協会 公認コーチ1 養成講習会(ソフトテニス) 紹介リンク: http://www.akitaikyo.or.jp/2018new/cat657/2020.html (秋田県体育協会HP)	2020年10月25日(日)、11月21日(土)～22日(日)	秋田県美郷町北ふれあい館・北体育館	財団法人日本スポーツ協会、秋田県スポーツ協会、秋田県ソフトテニス連盟

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本ソフトテニス研究会 運営委員会	運営委員(会計担当)	2018年3月～現在(2021年3月)に至る	日本ソフトテニス研究会
大学ゴルフ授業研究会 研究論文誌編集委員会	編集委員長	2017年10月～現在(2021年3月)に至る	一般社団法人 大学ゴルフ授業研究会
日本運動・スポーツ科学学会 理事会	理事(総務委員会・将来構想委員会)	2019年4月～現在(2021年3月)に至る	一般社団法人 日本運動・スポーツ科学学会
佐賀県ソフトテニス連盟 2023(2024)年佐賀国民スポーツ大会選手育成事業	講師(トレーナーアドバイザー)	2019年4月～現在(2021年3月)に至る	佐賀県ソフトテニス連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①九州文化学園高等学校ソフトテニス部に技術指導を行った 2020年8月21, 22日 九州文化学園高等学校 テニスコート

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、COVID-19の影響のため、前期授業の実技科目は不開講、講義科目は遠隔授業となり、学生の特徴や雰囲気把握出来ないまま、授業を展開することになり、且つ慣れない遠隔授業のため、学生に十分な教育内容を伝えることができたのか実感が薄い。教養セミナーでは、数コマ「ハイブリッド型」の授業を行った。その際に、Wifiの電波が弱かったり、PCのセットアップに時間が取られた事が原因となり授業開始が遅れ、大変手間取った。また、ハイブリッド授業では、ワークを計画していたが、教室とオンラインの同時進行では、十分なグループワークが出来なかったため、ハイブリッド型の授業を展開するには環境整備と学習コンテンツの入念な検討が必要であることが認識できた。

前期においては、授業アンケートを実施出来なかったため、フィードバックができず、反省点を明確にすることができなかった。ただし、遠隔授業ツールの操作法・活用法を熟知することができたため、今後の教育において、多様な形態をとることが可能となり、教育方法の幅を広げることができた。今年度前期においては、やむを得ないことであるため、今回の経験を今後想定外のことが起こった際に活かしたい。

後期では、実技授業を対面で実施することができ、学生の特徴や雰囲気、集団となった場合のモチベーションを感じることができ、学生の雰囲気に合わせて指導態度を変遷させることができ、学生の興味関心を惹きながら、授業を展開することができた。講義科目は相変わらず遠隔授業であったが、実技授業を履修している学生も履修しているため、学生の特徴をある程度把握できていたので、前期よりも、授業を展開しやすかった。受講側の顔や特徴が見えない中での授業は、教員にとって、不安や違和感を持ちながらの進行となってしまう。

また、COVID-19の影響により、課外活動も制限され、十分な指導効果を発揮できなかったと感じている。さらには、ソフトテニスの人脈を活用して学生募集を計画していたが、これも活動自粛により十分な活動ができず、来年度の募集に繋げることが出来なかった。学生募集においては、来年度は学内セレクションを実施して、選手の選抜および大学のアピールする計画である。

学外活動として、ゼミ生を対象に「Gちゃれ:ゴルフ場デビューイベント」を計画していたが、これもCOVID-19の影響により計画自体を断念せざるを得なかった。一方で、スポーツ実習・ゼミ内にて学内にあるゴルフレンジを使用して、ゴルフ授業を展開した。来年度は、年二回を目標に「Gちゃれ」を実施したい。

昨年度から引き続き、2024年佐賀国民スポーツ大会ソフトテニス競技佐賀県チームの強化アドバイザー（トレーナー）として関わり、本年度は12日間指導を行った。一方で、長崎県のソフトテニス連盟から指導の要望があったが、PCR検査等により日程調整が難しく、対応ができなかった。来年度は佐賀県とともに、長崎県のソフトテニスの発展にも貢献したい。

専門種目とするソフトテニスにおいては、今年度中にソフトテニス指導の映像と販売促進のための映像を作成することができ、2021年の4月7日にジャパンライム社よりDVDを2枚組で発売を予定している(定価13200円)。

研究分野では、海外雑誌に共著(第3著者)として一編、学内雑誌に共著(第2著者)として一編の掲載となった。第一著者としての掲載が無かったことが反省点となる。現在、海外雑誌に投稿予定の原稿があるため、これを早期に投稿し、受理されるように活動したい。今年度は、慣れない環境に慣れない授業スタイルとなり、教育第一に活動してきたため、あまり研究への時間が確保出来なかったのが実情である。しかしながら、複数の共同研究者とも連携し、論文を執筆できるデータを取得できたため、来年度以降は、第一著者としての論文を年最低一編のペースで受理されるように活動したい。

今年度、スポーツ法学の見地から、学生ソフトテニスに関する件で1つの結論が出された。内容として学生選手にとって権利の侵害(不当な不利益処分)とも考えられる案件であったため、今後この内容を精査し、ソフトテニスのみならず他競技においても、学生選手の権利保護に関する活動を展開したい。

来年度は、COVID-19の状況も鑑みながら、本学の教職員と積極的にコミュニケーションをはかり、意思疎通を円滑にし、学科教員の先生と密接に連携し、学科内業務に取り組むとともに、職員の方とも連携し、学生や大学関係者に、より良い教育サービス、サポートを充実できるようにしたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 陳 慶光

1. 教育理念

海外旅行の大衆化、情報技術の進展により国境を越えた人々や文化の交流が盛んになっている。このようなグローバル社会に生きている学生たちにとって、大学生活は様々な出会いの機会に溢れている。しかし、異なる価値観や文化が出会うとき、学生たちはどのように交流の機会を最大限に生かせるのだろうか。

今までの学習と教育経験をふり返り、観光教育について改めて考えさせられた。今時の大学生は異文化交流の機会をごく簡単に手に入れるが、それをうまく生かせなければ宝の持ち腐れとなってしまう。学生のあらゆる機会を最大限に生かすにはどうしたらよいでしょうか。その答えの鍵を私の調査フィールド、東北で目にした。東北には食、雪、伝統、工芸品などの「宝物」(観光資源)がたくさんある。しかし、その宝物の持ち主(地元の人々)はそれに気付いていない、もしくは気付いていても、それを誇ることを良しとしない。異文化交流のチャンスをもっと生かしたい。宝物を大事にしたい。そのような学生を増やすため、「宝物」に気づく仕組み作りが大切だと思う。それゆえ、国際観光学科の授業を通して知識やスキルを習得させるほか、私が今までの仕事と研究で得た経験やネットワークを活用して、学生たちにグローバル社会における色々な可能性に気づかせる仕組みを強化していきたい。

総じて、グローバル社会で活躍できるプロデューサー的人材の養成を目的として、創造性やインサイト、リーダーシップに不可欠な教養や知識、国際的視野等に基づくカリキュラムを展開したいと考えている。地域と人々の多様性を理解する事で地域の魅力を引き出し、ひいては国際交流や観光による地域活性化に結実させる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	⑥
観光学概論	15 / 15 (前期)	2	252	②⑨⑩
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	②⑥
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	②⑥
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	9	⑥
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	9	⑥
Tourism Geography	15 / 15 (前期)	2	12	⑥⑩
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	④⑨⑩⑫

Japanese Economy	15 / 15 (後期)	2	37	③⑤⑥⑨
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	3	②⑥
スポーツツーリズム	15 / 15 (後期)	2	86	②⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	3	②⑥
地域の理解と連携	5 / 15 (後期)	2	236	②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2020年度にアンケートを実施した授業に対する検討は以下の通り:

【スポーツツーリズム】

100人もいる遠隔授業で学生の集中力と理解度向上を目指して、授業を30分の3セット(講義20分、小テスト10分)に分けて進めた。満足度(4.6)、授業内容(4.6)、方法(4.5)、理解度(4.5)に評価をいただいた。1年生のコース必修科目として良いバランスができたと思う。

【Japanese Economy】

40人もいる遠隔授業で双方向授業を目指して、オンデマンドの講義とライブのプレゼン・ディスカッションの形でハイブリッド授業を進めた。満足度(4.6)、授業内容(4.6)、方法(4.5)に評価をいただいたが、理解度(4.1)は低めであった。全英語で日本経済を学ぶのは難しい面もあるが、来年度に対面授業ができれば、よりきめ細かい指導を行いたい。

【教養セミナーB】

満足度(4.7)。コロナ禍の中で大学生活をスタートした1年生と真摯に向き合うことができたと思う。「1年生だから、もっと面倒を見る」と「大学生だから、自分で責任を取るべき」のバランスを取りながら進めて行きたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

『スポーツツーリズムによる地域活性化』

スポーツツーリズムは場所に魅力的なイメージを与え、観光客や企業、住民を惹き付ける素材として地域に恩恵をもたらす可能性に満ちている。インバウンド誘致や地域活性化イベントとして特色のあるスポーツイベントを研究対象に、主催者と各ステークホルダー、参加者などのアクターの視点から、各アクターの相互作用によって作り出される価値と、その価値共創メカニズムを解明することを目的にしている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	45万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

市民マラソン大会に対する住民意識:東北風土マラソンを事例に/2021年3月/ランニング学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
大村湾岸におけるサイクルツーリズムの海外誘客推進方策について	長崎国際大学(令和二年度学長裁量経費)	2020年5月～2021年3月	45万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	なし
国際観光学科 実習委員会	委員	短期インターンシップの運営

国際観光学科 初年次教育委員会	委員	教養セミナーの運営
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員	観光学論集の査読、編集

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学生生活支援相談室	室員	学生の生活相談

(3)課外活動の指導等

陸上競技部の顧問として、競技会の応援に出向いて、活動の様子を香港のスポーツマガジンに寄稿した。

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス:国際観光学科プログラム「いろんな観光があるぞ」

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1)講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
Sport Tourism Implications for the Milano-Cortina 2026 Winter Olympics	2020年6月15日	オンライン	イタリアIULM大学、国際観光修士課程

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

(1) 学長裁量経費(大村湾岸におけるサイクルツーリズムの海外誘客推進方策について)の実施を通じて、大村湾エリアの魅力を台湾へ発信した。

(2) 西海市雪浦地区のホームステイプログラムに協力した。

(3) 平戸観光協会満足度調査に協力した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

第13回日本観光研究学会論文奨励賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】

観光学概論、スポーツツーリズム、Tourism Geography, Japanese Economyなど、自分の専門を生かせる授業を担当させていただき、成長しつつ、とても充実な時間を過ごせた。特に英語で行った授業には履修生の熱意を感じて、来年度に対面授業ができれば、よりきめ細かい指導を行いたい。

【研究】

教員としての初年度には教育と地域活動を優先したため、あまり研究成果をあげられなかった。これからは今年度収集したデータの分析に着手し、研究成果を出せるように努めたいと思う。さらに、地域活動と連携した研究を進めたい。

【大学運営】

初年度は、年間の業務サイクルの中でペースをつかむことができたと思う。今後も先生方に助言をいただきながら、委員会の仕事に携わっていききたい。

【地域活動】

周囲の先生方からのお声かけで、さまざまな地域活動に参加することができた：

* 大村、東彼杵、波佐見(学長裁量経費：大村湾岸におけるサイクルツーリズムの海外誘客推進方策について)

* 西海市雪浦地区(学科共同研究：留学生と日本人学生がともに体験する地域滞在型交流)

* 平戸市(国際観光研究所受託業務：平戸観光協会観光満足度調査事業)

これらの活動を通じて、地域が抱えている課題の解決に少しでも貢献できたと思う。今後は地域貢献活動に学生も巻き込みながら、学生たちの可能性を引き出す取り組みを構築していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 東出 朋

1. 教育理念

- ・批判的に物事を観察し、自ら課題を見つけて解決に取り組む姿勢を持つ人を育てる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
日本語教育実習	30 / 30 (前期)	2	1	①
日本語教育実習	30 / 30 (通年)	2	7	①
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	1	①
卒業研究	15 / 15 (前期)	4	4	①
教養セミナーB	15 / 15 (前期)	1	11	①
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	11	①
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	①
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	2	①
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	①
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	1	①
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	14	①
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	13	①
日本語の研究A	15 / 15 (前期)	2	41	①
日本語の研究B	15 / 15 (後期)	2	22	①
日本理解B	15 / 15 (前期)	2	9	①
日本語教授法A	15 / 15 (前期)	2	30	①
日本語教授法B	15 / 15 (後期)	2	19	①
アカデミックジャパニーズⅠB	30 / 30 (後期)	2	4	①

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

遠隔授業に対応し、学生参加型の授業運営を心がけた。授業評価では概ね好評価を得た。来年度も、試行錯誤と改善を重ねていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

日本語、ロシア語

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	4	0	2	1	1	273万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
初級段階の日本語教育における呼びかけ語/2020/9/語用論研究の可能性/487-495/単著/
論文
M o ж н o の助詞的用法のコーパス分析—副詞的用法との比較から—/2020/10/
SLAVISTIKA、35/575-590/単著/論文
許可求めマーカーとしてのM o ж н o の発達—副詞的用法と助詞的用法の語用論的分析—/
2021/3/ロシア文化研究、28/1-22/単著/論文
呼びかけ語にみるフィクショナルリテ—小説と自然談話における話し言葉の分析—/2020/8/日語
日文学、87/95-116/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学生初対面会話における呼びかけ表現とその際の言語行動に関する日韓対照研究/
2021/3/15/第45回社会言語科学会研究大会
「と思う」の引用句内のコンピュータの非出現に関する分析—前接する名詞タイプに着目して—/
2021/3/20/第22回東アジア日本語・日本文化フォーラム

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日露(イン)ポライトネスを切り口とした異文化理解教育のための教材および指導法開発	科研費、基盤研究(C)、研究分担者	2020～2022	273万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	会議への参加。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和2年度学長裁量経費「高度遠隔授業システムの安定的な提供とサポート体制の構築」	分担者	ローソン・トム准教授(代表)による、遠隔授業に伴うシステムの安定的提供とサポート体制の構築を目指す取組。前期には6度のワークショップを開催し、9月30日(水)には大坂大学の村上正行先生と根岸千悠先生を迎えて全学FD「オンライン授業の設計・実践・評価について考える」をZoomにて開催した。100名を超える参加者が加わり、好評を博した。後期は随時QLEARNサポートチームが利用者への個別サポートを行った。

(3) 課外活動の指導等

特になし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

特になし。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席

2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし。

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

様々な活動に積極的に取り組んだ。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 Brendan Van Deusen

1. 教育理念

My educational philosophy is based on the principle of active learning. Especially for English as a foreign language, students need to do real communicative tasks, and improve based on feedback. As a teacher, this places several responsibilities on me. First, I need to design my classes in a way that I am not talking only as much as necessary, and for as much as possible, students are working on tasks to help them grow. Second, I must provide feedback to students in a timely and helpful manner. This means that before and after class, I need to work very hard to provide the support necessary to help students grow. Whether or not students are good at English at the beginning of the semester is not important. The most important is that they continue to grow.

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	8	⑫
Practical English II A	30 / 30 (後期)	2	35	②③④
English Writing Skills I	30 / 30 (前期)	2	35	④⑩
Practical English I A	30 / 30 (前期)	2	36	②③④
English Writing Skills II	30 / 30 (後期)	2	34	④⑧
専門演習 II B	15 / 15 (後期)	1	4	⑦⑪⑫
英語演習 II A	15 / 15 (後期)	1	31	①②
専門演習 II A	15 / 15 (前期)	1	3	④⑤⑦
専門演習 III A	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑦
専門演習 III B	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑦⑫
専門演習 I A	15 / 15 (前期)	1	8	②④⑤
専門演習 I B	15 / 15 (後期)	1	7	⑦
Practical English III B	15 / 15 (前期)	1	14	⑤⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

This year was the second time to supervise a large number of students for their senior thesis. It

was the second time, though, to supervise international students writing their thesis. I have gained a larger understanding of their needs regarding doing research in English. I plan to incorporate more research methods training into my seminar classes as a result.

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	英語A	15/15(前期)	1	17
佐賀大学	英語C	15/15(前期)	1	4
佐賀大学	英語B	15/15(後期)	1	18
佐賀大学	英語D	15/15(後期)	1	1

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

English as a Foreign Language (外国語として英語教育)

Virtual Exchange (バーチャルエクスチェンジ)

Extensive Reading (多読)

Task Based Language Teaching (タスクを基にした学修)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology [MOOCの方法論を用いたオンデマンド授業のカリキュラム開発について]/2021/3/長崎国際大学論叢/1頁～15頁
/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Implementing a Mobile App for University Classes/2020/11/全国語学教育学会 第46回年次国

際大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	派遣留学生の準備やサポート 外国信留学生の支援
グローバルツーリズムコース委員会	委員	GTコースに関する業務やイベント
オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパス計画や実施

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

非常勤講師に関して、教務課へのサポート
全教職員対象、QLearnに関するサポートやワークショップ

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

出前レクチャー2回
夢ナビライブ講義
NIU GlobalホームページやSNSの維持

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	欠席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	欠席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席

2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
異文化理解教室	波佐見東小学校6年生クラスと本学の留学生とのオンライン交流会	2021年2月	波佐見東小学校
川棚中学校イングリッシュキャンプ	川棚中学校1年生124名と本学の留学生とのオンライン交流会	2020年12月	川棚町教育委員会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Global College Network	年間大会 [Van DeusenはGCNアジア会長及び今年ホスト]	2020年10月23日	オンライン	Global College Network / 今年は本学主催

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学で勤務するにあたり教育、研究、業務、社会貢献が重要だと考えている。改善すべき点はさらに多くの論文を発表することである。来年取りかかる予定の研究計画をいくつか検討中である。今年度は指示を待って行動するのではなく、主体的に大学の運営に尽力をしました。特に、英語圏留学生が満足になる為に、様々な手配と支援の尽力をしました。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 松本 知子

1. 教育理念

私自身の専門は、英語学(統語論)・映画を用いた英語教育である。中でも特に非定形節の統語構造や、映画を用いた効果的な英文法の指導法の研究を行っている。私の教育の理念の大きな支えとなっているものは、程度の差はあれ、そこから派生する「英語の理解や異文化的体験の楽しさ」を学生にも同じように実感してもらいたいという点に尽きる。私は全学共通科目としての英語とグローバルツーリズムコース専門科目のEnglish Reading SkillsとEnglish Writing Skills、教職(外国語)を取得する際に必要な英語学の授業を担当しているが、共通して言えることは、学生が英語を使って社会の多様な価値観や文化と触れ合うことで、国際的な視野を広げ、さらには異文化間コミュニケーションを円滑に行う手助けをしたいと願っている点である。授業で、英語という道具を通じて異文化に触れ、それを理解する楽しさを感じてもらえるのではないかと考えているからである。

このような教育理念のもと、私は、授業で、「英語の授業では英語で考え学ぶ」という姿勢で授業に取り組む雰囲気を作り、多少なりとも英語に触れる機会を多く作っている。そして、英語のインプットの量を増やすことを重視している。インプットの量の不足を補うために、私はeラーニングを活用することにしていて。近年はeラーニング教材を備えたテキストが多く使われるようになってきており、可能な限りそのようなテキストを採用することにしていて。

特に英語力が低い学習者に顕著な特徴として、英語を学習する習慣が身につけていないことが挙げられる。さらには、英語の学習方法が分からないという学生も少なからず存在する。そこで、私はeラーニングを活用したリスニング問題、語彙問題を出したりするなどして、英語学習を習慣化することを目指している。

英語教育においては、大量のインプットだけではなく、適切なアウトプットも必要である。それによって、理想的には修得した知識を定着する手助けとなるからである。そこで、毎回異なるテーマで出来るだけ学生が自分の意見を表現するようなタスクを取り入れ、発音の間違いや文法の誤りなどの些細な点を気にすることなく、修得した語彙や文法形式を活用した発表が出来るような機会を設けている。そのテーマは、正答がないものや解釈が分かれるもの、価値観によって回答が異なるものなどを意図的に選択している。そして、「なぜそう思うのか」という点をできるだけ3点ほど常に明らかにするように学生に指導している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの 類型
英語演習ⅡA	15 / 15 (後期)	1	30	①②

英語学	15 / 15 (前期)	2	30	①②④⑥⑩
英語演習ⅡA	15 / 15 (後期)	1	29	①②
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
English Reading Skills I	30 / 30 (前期)	2	34	①④⑪
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	36	①②
英語演習ⅠB	15 / 15 (前期)	1	36	①②
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	28	①②
English Writing Skills Ⅲ	30 / 30 (前期)	2	14	④⑧
English Reading Skills Ⅱ	30 / 30 (後期)	2	31	①④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

グローバルツーリズムコースの専門の授業に関して、評定に不満を持っている学生がいたため、明確な説明を心がけたい。学生同士の意見交換の機会は今後も多く設けたいと思う。

英語演習ⅡAの授業では、英語に対する苦手意識が薄れたという意見をいただいたので、今後も学生の動機付けに気を払いながら、多読は取り入れていきたいと思う。

英語演習ⅡBの授業では、学生はオンラインツールをうまく使えることがわかったため、その可能性の追求に励みたい。

総じて、めりはりのはる授業、変化のある授業、学生と十分にコミュニケーションをとる授業をする必要があるということも今学期も学んだ。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①非定形節の統語構造研究
- ②映画を用いた英語教育
- ③Extensive Reading(多読)の活用法

④MOOCを活用した英語教育

時制要素を含まない非定形節(不定詞節や仮定法現在節など)の統語構造に関心を持っています。統語構造と意味との関連性に着目し、様々な文法現象の解明、ミニマリストプログラムへの理論的貢献を行うことを目的に研究をしています。また、映画を使った英文法の効果的な指導法についても研究しています。仮定法や前置詞といった習得が難しいといわれている文法項目を取り上げ、その使われる直感をとらえられる指導法を研究しています。Extensive Reading(多読)については、どのようにして学校全体の教養英語の授業で組み込んでいくか、また、Moodle Databaseを活用して、どのような学生主体の活動が可能であるかについて研究しています。さらに、科学研究費を用いた共同研究で、MOOC(大規模公開オンライン講座)の可能性を追求しています。具体的には、観光業界で働く人に向けた英会話学習の講座を作成し、その効果を追求しています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
MOOCの方法論を用いたオンデマンド授業のカリキュラム開発について/2021年3月/長崎国際
大学論叢/16/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Developing a Multilingual On-demand Curriculum for English Communication Classes/2021年2月
20日/2021 Moodle Moot Japan

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	ピアサポート担当として、サポーターと利用学生のサポートを行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	活動報告の確認、アンケート結果の分析の補助を行った。
学事委員会(オリエンテーション主担当)	責任者	春季と秋季オリエンテーションの運営と調整を行った。
実習委員会(短期インターンシップ)	委員	学生派遣の調整

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

TOEICクラブ 顧問

正式なクラブではないが、学生が自主的にTOEICの勉強会を開く際、教材貸し出しや相談に乗った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

壱岐高等学校訪問/2020年11月9日/場所:長崎県立壱岐高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	2020.4.1～ 2021.3.31	長崎県県民生活部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Developing a Multilingual On-demand Curriculum for English Communication Classes	40分のプレゼンテーション	2021年2月20日	オンライン(沖縄)	2021 Moodle Moot Japan

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

<公務>

今年度も様々な公務に積極的に携わった。CHサポート委員会の委員が1年目で主にピアサポートに関する仕事を行った。ピア・サポーターの研修やサポートを行ったが、まだ十分にできなかったことを反省している。もう少し勉強した上で、積極的に行動すべきであった。貴重な新しい経験をさせていただいた。

グローバルツーリズムコースの教員としては、すべき仕事の内容もわかってきて自分の役割が理解できるようになってきた。

<研究>

単独での論文の執筆が思ったように進められなかった。早朝、スキマ時間を最大限に活用して、論文読み、書きの時間を少しでも確保できるようにしたい。一昨年に採択された科研費については、多くの時間を費やし、オンラインでの授業作りに励んだ。今年度は英語教育に関する研究に努めたが、今後も継続しながら、専門の英語学の研究を腰を据えて行う予定である。

<教育>

英語のネイティブの先生方と学生について話をすることが多く、授業の手法や学生への声のかけ方など学ばせていただける機会があったことをありがたく思った。年数が長くなるほど自己流に陥ってしまう傾向があるため、このように教えながら学ぶ機会はとても必要だと反省も兼ねて強く思った。英語演習については、ネイティブの先生方と同じ教科書を使い、e-learningを活用して授業を行うことに慣れてきた。今後は、様々な視点から自分の授業を見直し、自分の良さを生かしていきたいと思う。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 元嶋 菜美香

1. 教育理念

私の教育理念は、アクティブラーニングを通して学生の主体的な態度を形成したうえで、専門的な知識および技能を伝え、課題解決力を育成することである。

よって講義系の授業では、講義の中に演習を取り入れ、課題解決を通して情報収集能力および専門力を育成することを重視する。実習系の授業では、グループ活動を中心に授業を展開し、コミュニケーション力および協働・課題解決力を育成することを重視する。ゼミでは、学生の主体性を引き出すための予習を課し、それを基にグループ討議およびプレゼンテーションを行うことで、専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力を育成することを重視する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	12	⑥⑫
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	19	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	1	④
事前・事後指導	8 / 8 (通年)	1	20	④⑦
保健体育科教育法Ⅱ	4 / 15 (前期)	2	8	⑨⑩
武道	15 / 15 (後期)	1	10	④⑪
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑥⑧
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	12	①⑤⑥⑧
スポーツ心理学	15 / 15 (後期)	2	62	⑤⑥⑩⑫
スポーツ医学	1 / 15 (前期)	2	58	②⑩⑫
教職実践演習(中・高)	2 / 15 (後期)	2	16	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅳ	10 / 15 (前期)	2	10	⑨⑩
保健体育科教育法Ⅲ	15 / 15 (後期)	2	6	⑨⑩
学校保健学	6 / 15 (前期)	2	10	②⑤
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①④⑤⑥⑦⑪⑫
スポーツ実習B	15 / 15 (後期)	1	24	④⑤⑪
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	12	①⑤⑩
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	12	①⑤⑩
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	8	①⑤⑩
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①⑤⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

後期に行われたスポーツ心理学に関して、昨年度と満足度は0.1ポイント減少した。遠隔授業であったが、できるだけ学生の興味関心に沿った授業内容を展開することができたためであると考え。また、レポートを事前に課し、調べた結果をグループで共有するなどアクティブラーニングを取り入れたことも満足度の向上につながったと思われる。

後期の保健体育科教育法Ⅲに関して、昨年度と満足度は0.1ポイント減少した。自由記述を見ると、授業の構成や授業時間の延長により、学生自身が困惑してしまったと考えられる。授業の構成を見直す必要がある。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	ライフスポーツ	15/15(後期)	1	23

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

地域スポーツが児童・生徒および保護者の心理におよぼす影響、運動継続に関わる要因
地域スポーツの楽しさに関わる要因検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	4	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討ー大学生の「ささえるスポーツ」の視点に着目してー/2021年1月/スポーツ産業学研究第31巻1号/31頁～40頁/共著/原著

長崎国際大学スポーツ系部活動・サークルに所属する学生の現状とニーズの研究/2021年3月/長崎国際大学論叢第20巻/41頁～56頁/共著/研究ノート

大学が運営する地域スポーツ教室の楽しさの検討-保護者の視点に着目して-/2021年3月/健康科学第43巻/89頁～94頁/共著/原著

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学が運営する地域スポーツの楽しさの検討-指導学生の視点に着目して-/2020/7/12/日本スポーツ産業学会第29回大会(オンライン)

総合型地域スポーツクラブのPR動画作成プロジェクトが大学生の社会人基礎力に与える影響/2020/9/19/第68回九州体育・スポーツ学会(オンライン)

Factors Affecting the Enjoyment of Community Sports Classes: Investigating from the View of Parents/2020/10/28/The 24th annual congress of the European College of Sport Science in seville (online)

日本語版スポーツコミットメント尺度2の妥当性の検証-大学生のスポーツの楽しさに着目して-/2020/11/28/第47回日本スポーツ心理学会(オンライン)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学園祭・学生会の指導・補助を担当
教職課程委員会	委員	保健体育科の科目、教育実習・事前事後指導の巡回等を担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ・剣道サークルの監督として指導および運営を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・スポーツツーリズムコースのSNS(Facebook)の記事作成を担当した。
- ・出張講義を1回行った。
- ・オープンキャンパス委員として募集・広報活動に従事した。
- ・学生とともに動画を作成し、YouTubeに動画を、大学ホームページに記事を掲載した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許更新講習	2020年6月27日	長崎国際大学	文部科学省

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
させぼ女性活躍推進会議	委員	今年度依託なし	佐世保市長
佐世保市し尿収集運搬に係る検討委員会	委員	今年度依託なし	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和2年10月 オンラインでのスポーツ指導、運営補助

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

長崎国際大学令和2年度ベストティーチャー賞(講義型/スポーツ心理学・保健体育科教育法Ⅱ)受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・「スポーツ心理学」において目標としていた満足度4.5以上を達成することができた。
- ・国際学会および国内学会にて計4本の学会発表をおこなった。3本の論文を執筆し、学会誌へ投稿した。
- ・科研費の申請を行った。
- ・国際観光学会幹事として、学会運営および会計に関する業務を担務した。
- ・オンラインで子どもを対象としたスポーツ教室を実施した。参加者は10名であり、目標とした人数には届かなかった。
- ・学生委員会としてオンラインフェスティバル2020(学園祭)及び学生会の運営に携わり、学生指導を行った。
- ・学長裁量経費の主担当者として、学生および地域住民の健康の保持増進のための活動を行った。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 講師 氏名 森尾 真之

1. 教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
 人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
 そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
 そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。

1. 「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
2. 「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
3. 「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	15	⑥⑫
地域産業の魅力	15 / 15 (後期)	2	85	①②⑥⑩
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	16	④⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	15	④⑤⑥⑦
長崎研究	1 / 15 (前期)	2	196	①②
国内旅行実務Ⅱ	7 / 15 (前期)	2	43	①⑥⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	④⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	11	④⑤⑥⑦
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	15	④⑤⑥⑦
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	15	④⑤⑥⑦
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	11	④⑤⑥⑦
国内旅行実務Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	168	①⑩
MICE論	15 / 15 (後期)	2	113	②⑩
国内観光資源	15 / 15 (前期)	2	173	①⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は遠隔講義が主流となったが、後期の2講義においてハイブリッド講義をおこなった。遠隔での参加者に対しては、できるだけライブによる緊張感とチャットなどを使用したリアルタイムのコミュニケーションが重要であると思われる。

ハイブリッド講義について:

- ・対面で講義を行う教室に、WEBカメラからを設置し、画像と音声をZoomで配信(毎回非常に手間がかかる)。
- ・受講区分を遠隔または対面のいずれかを選択させ、対面希望の学生は遠隔で受講してもよいが、遠隔希望の学生は対面の学生数のコントロール上事前の届け出を必要とする。
- ・基本的に授業の録画は行わない(外部講師が多いため、権利関係の問題もあり)。

各講義の実施結果:

①地域産業の魅力(月曜2限)

履修者113名(対面希望者32名)総出席率81.3% F判定12名
授業アンケート(回答率35.7% 授業の満足度4.6)

②MICE論(木曜3限)

履修者133名(対面希望者41名)総出席率84.0% F判定8名
授業アンケート(回答率33.1% 授業の満足度4.5)

- ・対面講義での出席者の態度は非常に良かった。中にはほかの講義は遠隔だけどこれは対面で聞きたいという学生もいた。
- ・しかし講義が進むにつれ、対面参加者の人数は微減傾向にあった。
- ・すべての講義終了後に課したレポートの提出率は平均8割程度。しかし提出されたアンケートは、文字数など条件をクリアしたものがほとんどで他人のコピーのようなものはほとんどなかった。
- ・対面講義での学生とのやり取りを通じて、ミュート・ビデオオフではいっている遠隔受講者にライブ感を与えることに一定の効果があったのではないかと考える。

コロナ禍の中で、学生の学修時間の著しい低下となった結果については、ある程度予想されていたであろうと思うが、これまでの状況と違って状況が見えにくい中で、学習意欲の低い学生をレベルを引きあげるのには容易ではない。その中でハイブリッド講義による一定の効果があったのではないかと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国内旅行業務取扱管理者試験直前講習(後期)	5	10	2/22~26
国内旅行業務取扱管理者試験直前講習(前期)	4	60	7/31,8/11,8/31,9/3

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 大村湾岸観光圏構築のための必要要件の整備

- ①地域観光メニューの開発
- ②観光地経営のための組織運営(DMO)
- ③地域コミュニティの活性化と関係人口化促進のための地域交流拠点のあり方

2. 地域の大学における観光人材の育成のためのキャリア教育

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	1	1	80万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
観光満足度調査から考える持続的な観光地経営指標について/2021年3月/長崎国際大学論叢
/20ページ/共著/研究ノート
留学生の地域滞在型体験交流プログラムにおける留学生と地域住民の意識の変容/2021年3月/
長崎国際大学論叢/14ページ/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
講演・パネルディスカッション「ウィズコロナ時代の九州観光」コーディネーター/令和2年10月3日
/長崎国際大学国際観光学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平戸観光協会観光満足度調査	一般社団法人平戸観光協会	令和2年5月~令和3年3月	80万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	副委員長	国際観光学科内での就職支援活動に対して連携した活動につなげた。
国際観光学科実習委員会	委員長	インターンシップ活動
国際観光学科研修地域連携委員会	委員	研修・地域連携活動への助言

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

課外活動顧問

- ・ゴルフ部
- ・男子テニス部
- ・女子テニス部
- ・ダンスサークル

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
インターンシップ企業セミナー 業務委託にかかる技術提案書 審査委員会	委員	令和2年6月	長崎県若者定着課
立神広場整備活用ワーキング 会議	委員	令和2年8月3日～令 和3年3月31日	佐世保市教育委員 会
総合戦略推進会議	委員	令和2年4月1日～令 和3年3月31日	東彼杵町
大村市新幹線駅名等検討委員 会	副委員長	令和2年4月1日～令 和3年3月31日	大村市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

1. 外国人留学生ホームステイプログラム(令和2年11月21日～23日)

西海市雪浦地区 外国人留学生10名 日本人学生4名が参加

2. 大村湾における台湾向けサイクルツーリズムの取り組み

①モニターツアーおよび動画収録(令和2年11月13日～15日)

大村市、東彼杵町、波佐見町 在京台湾人2名参加

②動画公開と長崎観光フェアの開催(令和3年1月16日)

台湾・台中市にて開催「長崎大村湾絶景RIDE旅行分享會」

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍において地域の連携活動がゼミ活動も含め、思い通りに進められなかったが、各地域ではそれなりに取り組みが進行していた。東彼杵町では令和3年度開業に向けた九州電力との新たな地域交流拠点のオープンへの取り組みが進行し、西海市においては12月に地域交流拠点「HOGET」がオープンし、小ゼミの4年生が運営会社への就職が決定し、オープン準備から携わった。次年度からは川棚町におけるまちづくりの取り組みがスタートし、ポストコロナに向けた観光資源の整備に取り組む予定。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 幸山 智子

1. 教育理念

私の教育理念は、①物事を主体的に考えて行動する力、②自分とは異なる人や文化(多／他なるもの)を理解・受容する力を持った人材を育成することである。

英米文学・文化研究を専門とする教員として、とりわけ全学共通科目である英語演習においては、語源や表現の由来についての説明を含めることによって「ことばの背景にある歴史や文化」を感じてもらえるよう努めている。そうすることによって、英語を母語とする人々の考え方や価値観といったものへの理解を深めることができるだけでなく、自分自身が生まれ育ってきた環境について客観的に考えてみるができる。いわゆる「クリティカル・シンキング」の基礎ともなるだろう。

また、授業においては、なるべく受講生同士で話し合う機会(ペアワークやグループワーク等)を設け、課題の設定や解決に主体的に取り組ませることにしている。このような授業形式は、考えを自分のことばで効果的に発信する練習、あるいは自分とは異なる考えを大らかに受け入れて新たなアイデアのもととする練習となる。情報を自ら調べる習慣も身についてくる。

言語学習とは、母語の外への旅であり、その過程では(複数のレベルでの)対話が生じる。そこから培われる力は、他者への理解を基本とする「ホスピタリティ」を育む上でも重要であろうし、学生たちの卒業後の活躍を支えてゆくものだと信じている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名／コマ数(開講時期等)／単位数／単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
英語演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	27	①②⑤⑨⑪
英語演習ⅡA	15 / 15 (後期)	1	29	①②④⑨⑪⑫
英語演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	35	①②⑤⑨⑪
英語演習ⅠB	15 / 15 (前期)	1	25	①②⑤⑨⑪
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	11	②⑤⑥⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	11	②③⑤⑥⑩⑫
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	37	②③⑨⑪
英語演習ⅠB	15 / 15 (前期)	1	35	①②⑤⑨⑪
英語演習ⅠB	15 / 15 (前期)	1	28	①②⑤⑨⑪
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	30	②③⑨⑪
英語演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	30	②③⑨⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2020年度前期は、授業アンケートは実施されなかった。

2020年度後期は、「教養セミナーB」および「英語演習ⅡB(葉・上級)」の2科目についてアンケートを実施した。

まず、「教養セミナーB」については、担当学生がスムーズに大学生活をスタートできるようケアを徹底した(相談にはなるべく早く、丁寧に答える等)ため、アンケートにおいても授業に対する熱意を評価する声が多く見られ、満足度も高かった。一方で、留学生の回答を見ると、ケアが行き届いていない部分があったようだ。分け隔てなく対応してきたつもりであったが、今後は他の先生方にもご相談し、留学生への配慮や接し方を学んでいきたい。

「英語演習ⅡB」については、今回初めてオンデマンド型の授業を行ったため、受講生からどのように評価されるか心配もあった。しかし、アンケート結果を見ると否定的なコメントがなく、効果的かつ楽しく英語を学ぶことができたとの声が多く寄せられていたので、今後も継続してよりよい授業づくりを心がけたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
西九州大学	Basic English II	15/15(後期)	1	45
西九州大学	Basic English II	15/15(後期)	1	42

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・英米文学における「触覚」の描写の分析(Tennessee Williamsを中心として)
- ・Moodleを使用したオンデマンド型授業

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology/2020年3月/長崎
国際大学論叢/1頁～15頁/共著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
Developing a Multi-Lingual On-demand Curriculum for English Communication Classes/2020年2
月/日本ムードル協会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター(全学)	委員	・『長崎国際大学論叢』の編集 ・第21回学術研究報告会の司会
教育基盤センター運営委員会(全学)	委員	・入学前教育(国際観光学科)の取りまとめ
安全衛生委員会(全学)	委員	年休取得の呼びかけ等
学科会議運営委員会(学科)	書記	・書記
グローバルツーリズムコース委員会(学科)	委員	・書記 ・特待申請に関わる資料作成
長崎国際大学国際観光学会	幹事	・書記 ・国際観光学会の開催準備および当日の運営 ・『観光学論集』の編集

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

大学ウェブページのトピックスとして、国際観光学会研究発表会とグローバル・リーダーシップ・フォーラムの開催報告を申請し、掲載された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】

2020年度は着任1年目であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月から遠隔授業を余儀なくされ、学生の実態もつかみづらかった。しかし、QLEARNやZOOMなどのツールを駆使することで、比較的柔軟に対応することができたと思う。英語担当の先生方と協力してオンデマンド型授業を運営するなど、新たな教育方法を模索することもでき、自分自身の(教員としての)成長につながった。

また、西九州大学(看護学部)において英語科目を担当した。他大学に出講することによって、本務校を客観視し、よりよい授業を提案することができたと考えている。

【研究活動】

これまで専門として継続してきた英米文学研究はほとんど進めることができなかった。一方で、英語教育に関するプロジェクト(オンデマンド授業関連)に参加させていただいたおかげで、学会発表等もすることができ、視野が広がった。次年度は、「英語文学」を担当する予定であるため、本来の(英米文学)研究も進め、英語教育に関する研究とあわせて学生に還元していけるよう時間をつくっていきたい。

【大学運営活動】

着任1年目で不慣れな中、多くの委員会を兼任することになり、戸惑うことも多かったが、職務を全うすることができたと感じている。またその過程で、学科の先生方や職員の方々とコミュニケーションをとることができた。次年度はさらなる貢献ができるよう努力したい。

【社会活動】

次年度以降、自分にできることを模索し、活動の幅を広げていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 国際観光 職名 助教 氏名 中島 金太郎

1. 教育理念

私の教育理念は、理論と実践力を兼ね備えた人材の育成である。

私の担当する博物館学芸員課程は、国家資格である「学芸員」資格取得のための専門的な過程である。学芸員は博物館に関する専門家であり、博物館・美術館はもちろん動物園や水族館に勤務する際にも必須の資格である。資格の取得が就職に結びつく課程であることから、全国的に見ても学芸員を退職した者が自身の経験を基に博物館学を講じている傾向が強い。博物館の実務家教員は、豊富な経験を基にした実務論を教授できる一方で、理論教育が不十分であることが多々指摘されている。博物館学芸員課程は、実務に耐えられる学芸員を養成することが求められる傾向にあるが、裏付けとなる理論を知らずして円滑な実務は不可能であり、理論と実践力の両輪が学芸員養成には必須であると私は考えている。

例えば「展示」は、モノを並べるだけであれば誰でもできるが、各資料の性格や年代、地域性を把握し、他の資料との組み合わせや地域との関連性を考えたうえで展示を行うことで、資料だけでなくその背景までも理解できる展示を作ることができる。また博物館で資料を扱ううえで「保存」が大きな要素となるが、資料を形成する素材の特性を把握し、食害する虫や適切な温湿度の知識を得ることで、より適切な管理・運用が可能となるのである。

このような博物館学の理論を理解し、取り扱い方法などの実践的技術を習得することが、実務に耐えられる学芸員の養成に繋がるのである。一方、実践力については博物館の現場で日々研鑽することで身につくことが期待できるが、理論については自ら学習しない限り大学卒業後に涵養することが難しいことから、私の授業では十分な理論を学習できるような授業構成を意識している。

私の担当する学芸員関連の授業は、講義形式の「博物館展示論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」と実習形式の「博物館実習A～C」がある。これらの科目に加え、講義科目「文化財保護論」「民俗学」、教養セミナーおよび専門演習を講じている。

講義科目ではパワーポイント(PPT)を使用し、私がこれまで実地調査した事例と写真を多用しながら、各講義テーマの理論を理解できるよう心掛けている。遠隔授業時は、PPTの録画機能を用いて授業を録画し、YouTubeで公開する形を採っている。学生からの意見では、一回あたりの学習内容が多いとの指摘があるものの、90分という限られた時間内で理論を教授するためには、内容を多く盛り込まざるを得ない。また、ディスカッションなどによる課題解決は殆ど行わず、講義形式の授業にポートフォリオを組み合わせた授業を行っている。ややもすれば一方向的な授業になりかねないが、少しでも多くの事例と知識を学生たちに享受してほしいとの考えから当該形態を採用している。

逆に実習科目では、10名程度の少人数クラスで密度の濃い双方向的な授業を意図している。特に「博物館実習B」では、実際の博物館で勤務する「博物館実習C」の受講に向けて、学芸員として必要な資料の取り扱い方法を指導しているが、資料を取り扱う上で事故があってはならないので、学生の進捗状況をつぶさに確認しながら授業を行っている。当該授業でも、各資料の取扱いに先立っ

て、資料に関する知識や取り扱いの理念等を講義したうえで実習させ、知識と技術の両者を取得できるように心掛けている。

上記に加え、学生たちには長崎や九州だけといった狭い視野ではなく、日本全国的あるいは世界を視野に入れた博物館活動ができる人材となってほしいと考えている。このため、学生たちには馴染みがない可能性があるものの、日本の各地の事例や中国・韓国の事例等も授業内で積極的に使用している。豊富な事例を基に知識を享受することで学生自身の視野を広げ、広く興味を持ってもらい、活躍の幅を広げることも、私が学生に望むことである。

以上、理論と実践力を兼ね備えた人材育成、および視野の広い人材の育成が、私の基本的な教育理念である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
博物館実習A	30 / 30 (後期)	1	57	⑦⑩
博物館実習C	30 / 30 (通年)	1	34	⑦⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	17	④⑫
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	11	②⑦⑪⑫
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	11	②⑦⑪⑫
専門演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	18	④⑫
専門演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	17	④⑪⑫
博物館実習B	30 / 30 (通年)	1	12	②⑦⑪⑫
専門演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	④⑥⑫
専門演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	15	④⑥⑪⑫
博物館経営論	15 / 15 (後期)	2	108	②⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	12	①④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	12	①④⑤⑥⑦⑪⑫
博物館展示論	15 / 15 (前期)	2	143	②⑨⑩
博物館情報・メディア論	15 / 15 (後期)	2	92	②⑤⑥⑦⑧⑩⑪
専門演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑥⑦
文化財保護論	15 / 15 (前期)	2	137	②⑨⑩
民俗学	15 / 15 (後期)	2	149	①②⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は着任3年目となり、昨年度の反省を踏まえ、学生に理解してもらえようわかりやすい講義および配布資料作成を目標とした。本年度は遠隔授業が主体となったことから、オンデマンド授業に対応する形に講義のブラッシュアップを進めた。配布資料は、前期はマナバに各回の資料をアップ、後期はマナバへのアップと共に冊子体の資料集を配布するかたちを採ったが、いずれも昨年度の不備を修正した。

本年度は前期に授業アンケートを実施しなかったため、アンケートによる前期科目の比較は難しい。後期授業アンケートでは、博物館経営論が平均4.5、博物館情報・メディア論が平均4.6、民俗学が平均4.5と昨年と比べ全ての科目で評価が向上した。昨年度は、講義資料に文字が多いため映像や写真を増やしてほしいとの意見や、記述する量が多すぎるとの意見もあったが、本年度はおおむね好意的なコメントであった。特に、オンデマンドであったことから何度も復習できたところが公表かに繋がったと思われる。

授業アンケートの結果および、自身で感じた授業の不具合を踏まえ、次年度に向けて改善を進めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
博物館実習C	30	2	2021年2月26日、3月1日、10日、11日、16日、20日
博物館実習C	30	13	2020年12月6日、7日、12日、14日、21日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

2020年度は、主に博物館学と考古学、地域連携に関する研究を行った。

①博物館学

元々の研究テーマであった「地域博物館の発達史」の延長として、地域に根差した機関である寺院に設置されている博物館「仏閣博物館」に関する研究を継続実施した。

本研究については、科学研究費(若手研究)を申請した。

②考古学

本年度より、西海市西海町横瀬郷での発掘調査を開始した。

③地域連携

佐世保市教育委員会、波佐見町教育委員会と共同研究を実践している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	0	5	5	220.9万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

『21世紀の博物館学・考古学』/共著/2021年2月25日/雄山閣/530頁

『長崎県西海市西海町横瀬郷試掘調査報告書』/編集/2021年3月10日/長崎国際大学博物館
学芸員課程/58頁

『令和2年度学長裁量経費採択 地域文化資源の活用に向けたソフト事業開発に関する研究 実施
報告書』/編集/2021年3月1日/長崎国際大学博物館学芸員課程/110頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

「地方自治体と協働した実践的な学芸員教育の試み」/2021年3月31日/『全博協研究紀要』第23
号/31-53頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市の地域文化資源の保存と活用に関する業務(その1)	委託者:佐世保市教育委員会	2020年12月1日～2021年3月25日	99万円
佐世保市の地域文化資源の保存と活用に関する業務(その2)	委託者:佐世保市教育委員会	2020年12月1日～2021年3月25日	22万円
地域文化資源の活用に向けたソフト事業開発に関する研究	令和2年度長崎国際大学学長裁量経費	令和2年5月30日～令和3年3月31日	50万円
テーマ型博物館に関する研究 —仏閣、医薬博物館を中心に—	令和2年度長崎国際大学国際観光学科共同研究費	令和2年4月1日～令和3年3月31日	29.9万円
産官学連携によるグッズ開発に関する研究	令和2年度長崎国際大学国際観光学科共同研究費	令和2年4月1日～令和3年3月31日	20万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度の活動無し。
学科会議運営委員会(学科)	委員	書記として学科会議運営に参画した。
学科共同研究費予算委員会(学科)	委員	学科共同研究費の予算編成、執行確認、会議資料及び議事録作成等、委員会の事業に主体的に取り組んだ。
博物館学芸員課程委員会(学科)	委員	博物館学芸員課程の円滑な運営のため、委員会活動を主体的に実施した。
オープンキャンパス委員会(学科)	委員	オープンキャンパスの実施に際して活動を実施した。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	書記、編集委員会の業務補佐等を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
20周年事業準備ワーキンググループ	委員	新型コロナウイルス感染症のため20周年事業が中止され、活動無し。

(3) 課外活動の指導等

① 宮地区公民館・鹿町地区公民館の展示製作

佐世保市教育委員会と協働して、宮地区公民館・鹿町地区公民館の展示製作を実施した。展示製作にあたっては、パネル
制作方法、模型制作方法などを学生に指導した。

② 地域文化研究会 顧問

本年度より「古文書研究会」を「地域文化研究会」に改組し、顧問として継続的に指導にあっている。

会の活動の一環として、西海市での発掘調査を実施し、学生に対して調査方法等を指導した。
(2020年9月～2021年3月)

③ 三川内焼田中コレクションの調査

大学に寄贈依頼のあった三川内焼コレクションについて調査を行った。調査の一環として、学生に対して調査方法を指導した。
(2021年1月～)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①博物館学芸員養成課程のリーフレットを作成し、入学説明会、オープンキャンパス等々で活用した。

②学科共同研究費採択「産官学連携によるグッズ開発に関する研究」に基づき、大学グッズとしてエコバッグ3種とポケットボトル2種を製作した。

③佐世保市の地域文化資源の保存と活用に関する業務(その1)、同(その2)として実施した公民館での展示活動や、学長裁量経費採択「地域文化資源の活用に向けたソフト事業開発に関する研究」で実施した歴史の福井谷体験ツアーでのクイズラリーなどが、長崎新聞およびテレビ佐世保で放映された。

④大学ホームページのトピックスとして、Made in SASEBO フォトコンテストの実施報告、宮地区複合施設開所式、歴史の福井谷ツアーの実施報告の3件を申請、アップロードした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「遺跡博物館の現状と今後の展望」	2021年3月10日	佐世保市吉井地区公民館	吉井エコツーリズムの会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
波佐見町歴史文化交流館(仮称)建設検討委員会	アドバイザー	2018年4月～現在に至る	波佐見町教育委員会
全国大学博物館学講座協議会西日本部会役員会	委員	2018年4月～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会西日本部会
全国大学博物館学講座協議会全国委員会	委員	2019年5月～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①学長裁量経費採択事業に基づく佐世保市との連携事業(ソフト事業開発)。
- ②吉井エコツーリズムの会からの依頼により、吉井地区公民館で講話「遺跡博物館の現状と今後の展望」を実施。
- ③長崎県教育委員会文化財担当と連携し、西海市での発掘調査を実施(令和2年9月～11月)。
- ④佐世保市教育委員会文化財課と、市内公民館の展示作業、針尾無線塔・無窮洞などでのガイドボランティア業務に関する連携を計画・実施。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし。

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、講義、地域との連携活動、研究活動などの面で力を発揮することができた。

講義の面では、「実践・成果」で示した通り、昨年度を踏まえて多くの面で改善ができたと思われる。また、本年度は遠隔授業中心になったものの、授業アンケートの結果も昨年度に比べて好評であった。本年度を踏まえ、よりわかりやすく的確な講義実践を模索したいと考えている。

地域との連携は、これまでの波佐見町との連携に加え、佐世保市教育委員会との連携が開始されたことが大きな変更点である。佐世保市とは、公民館の展示製作や新設される福井洞窟ミュージアムでのソフト事業開発など密に連携を取り、大きな成果をあげられた。また、西海市西海町横瀬郷での発掘調査を今年度開始し、地域と協働した調査活動を実施している。今後も様々な地域と連携した活動を実践していきたい。

研究活動では、助成金の獲得、論文執筆など、概ね充実した研究成果を収めることができた。昨年度仏閣博物館に関する研究をスタートしたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により研究が停滞していた。一方で、上記の地域に根差した研究活動を広く実践することができ、総合的に見て良好な研究成果を出すことができたと思われる。次年度は、科研費も申請していることもあり、仏閣博物館の研究も含めて研究分野にも力を入れたいと考えている。

また、本年度は初めて卒業研究を担当し、休学中の1名を除く17名が卒業研究を提出することができた。また、現3年生も15名在籍しているので、早い段階から卒業研究の執筆を進め、適切に提出・卒業できるよう指導していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 木村 勝彦

1. 教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマンイズムの精神及び異なる価値観に対する寛容の精神を涵養することである。

こうした教育理念に従い、まず全学共通教育においては以下に述べるような私独自の教育活動を通して、本学における人材育成に貢献したいと考えている。まず「哲学」においては、歴史上に展開されてきた哲学のさまざまな知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底的に考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成する。また「倫理学」においては、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の人間性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマンイズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成する。さらに「宗教学」においては、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。これらの教育活動により、人間社会学部、健康管理学部、薬学部のそれぞれの学びに共通して必要とされるホスピタリティとヒューマニティの精神を身につけさせたいと考えている。

また国際観光学科の専門科目である「観光倫理」や、大学院地域マネジメント専攻及び観光学専攻における諸科目においては、現代社会の主要な社会活動の一つである観光をめぐる倫理的或いは宗教学的な考察を通して、観光とそれを基盤とする地域マネジメントに貢献し得る高度専門職業人の育成に寄与することを目指している。

さらに教職課程科目である「道德教育論」においては、教員を目指す学生たちに道德教育の意義と必要性を教授することにより、子どもの人格形成に大きく関わっていく教員としての心構えと態度を培うことを目指している。また隔年で実施している「人権と平和」においては、具体的な人権課題に関する啓発と教育の重要性を教授すると同時に、原子爆弾被災県である長崎県に立地する大学で学ぶ者として平和探究の精神をもって教育活動に従事することの重要性を自覚させることを目指している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
道德教育論	15 / 15 (後期)	2	19	①②③④⑤⑥⑩⑪ ⑫
観光倫理	15 / 15 (前期)	2	238	①②③④⑨⑪
ホスピタリティ概論	1 / 15 (前期)	2	460	②④⑤⑥⑪

宗教学	15 / 15 (前期)	2	173	①②③④⑨⑩
哲学	15 / 15 (後期)	2	113	①②③④⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光倫理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
観光倫理特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
事例研究(観光倫理)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	-

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度前期は新型コロナウイルス感染拡大という状況の中で、すべての授業がオンラインによる遠隔授業というかたちで実施されたため、通常の教室におけるような学生の反応の受けとめはできなかったし、授業評価アンケートも実施されなかった。そうした中で小職は人間社会学部国際観光学科の4年次必修科目である「観光倫理」と、全学共通科目の「宗教学」の授業を、Q-Learnというシステムを使用しオンデマンド方式で行った。manabaに掲載した配布資料をダウンロードさせ、Q-learn上にあらかじめ録画した講義を視聴させるという方式を取り、出席はmanabaの小テストに毎回1週間以内に解答することをもって認定した。初めての方式で小職自身もちろんであるが、学生たちも慣れるまで何かと苦勞の多い授業形態であったと思われる。

結果としては概ね良好であったと評価し得るが、録画授業を真面目に視聴して小テストにも積極的に取り組む学生と、ほとんど視聴することなく小テストの解答のみで出席を稼ぐ学生との二分化が見られたようである。異常事態の中で教務的観点からなるべく学生の便宜を図り、評価方法等についても融通を利かせるようにとの要請があったため厳格な対応はとらなかったものの、特に4年生の必修科目でそうした甘さがあったよかったのかと大いに反省しているところである。ただし「観光倫理」の定期試験は学生に実際に大学で筆記試験を受けさせるというかたちで実施したが、例年に比べて解答の内容は良好であったし、何よりも久々の通学を学生が喜んでいるという状況もあった。また「宗教学」の定期試験はmanaba上に出題した問題を1週間以内に解答させるというかたちで実施したが、良好な結果が得られた上に、採点する側としても極めて容易かつ便利であったと評価し得る。

後期は全学共通科目の「哲学」と教職課程科目の「道德教育論」を実施したが、「哲学」は前期同様にQ-learnシステムを利用したオンデマンド方式の授業とmanaba上での定期試験というかたちで実施した。オンライン上で授業評価も実施したが、総合満足度に関わる評価項目13の評価は4.2で一昨年の数値とまったく同じであった。対面式授業と同様の効果が得られたとも言えるし、逆に対面式授業の効果をよりよく発揮するための方策を検討すべきとの反省点も得られた。なおテキストマイニングにおける自由記述欄では、授業の速度、内容、資料に対する例年以上の高評価が複数見られたので、真面目に視聴し取り組む学生には相当の効果があるものと思われる。「道德教育論」は学修指導案の作成と発表・質疑応答を核とする授業の性質上、対面式で実施したが、21名の受講者に

対して「三密回避」の観点から100人教室での授業となったため、例年のような緊密・親密な雰囲気作りができにくい面があった。例年通りのかたちで授業を進めたが、授業評価アンケートでは総合満足度に関する評価項目13で昨年の4.8から0.4ポイント下がった4.4という評価にとどまった。小職自身の授業の進め方に反省すべき点もあるが、コロナ禍の影響を受けた面も否定できないと思う。

総じてコロナ禍という異常事態における実験的な授業の連続で戸惑いも大きかったが、一方では遠隔授業の利点と効果もある程度把握することができたことは、次年度以降の授業の進め方を考える上で大いに参考になるものと考えている。今年度得られた知見を、今後の授業に活かしていく所存である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 宗教現象についての哲学的研究
- ② 宗教と観光の関係をめぐる聖地ツーリズム研究
- ③ 観光倫理の構築に関する研究
- ④ ダークツーリズムの倫理的問題性に関する研究
- ⑤ 長崎のカトリック教会群とキリスト教関連遺産に関する研究
- ⑥ 道德教育の今日的意義と推進に関する研究
- ⑦ 古典精神と未来社会に関する研究(日本学術会議哲学委員会分科会テーマ)
- ⑧ 哲学・倫理・宗教教育に関する研究(日本学術会議哲学委員会分科会テーマ)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

地縁が支える人間力/2020年11月/広田地区自治協議会令和2年度人材育成事業/2～3頁/
単著/総説

コロナ禍の今、徳育を考える/2020年12月/徳育第8号/1頁/単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	自己点検・評価業務において、同委員会会長である学長の補佐
全学共通教育委員会	委員長	全学共通教育の方針と編成に関する審議の取りまとめ
教員資格審査委員会	副委員長	教員の新規採用及び昇格に際しての資格・業績審査において、委員長である学長の補佐
IRセンター	センター長	IRを活用した本学の教育の現状に関する調査とデータ分析
教職課程委員会	委員長	教職課程の編成と運営に関する審議の取りまとめ
人事委員会	委員長	各学部・学科から上申された教員採用・昇格人事に関する取りまとめと学長への報告
輸出管理委員会	委員長	学術的専門知及び物品の輸出管理に関する啓発と審査
産学連携・研究支援センター	センター長	産学連携の中で行われる教員の研究支援に関する審議の取りまとめ

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

① 男女アーチェリー部の顧問

② 硬式野球部の顧問兼部長

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 公益財団法人日本高等教育評価機構より、本学の認証評価に対する取組みについてヒアリング調査を受け、その結果が広報誌「ピアー」に掲載された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	5

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保徳育推進ミニフォーラム 「コロナ時代の今、徳育を考える」	2020年10月11日	佐世保市総合教育センター	佐世保徳育推進会議・佐世保市
佐世保西ロータリークラブ卓話 「疫病と宗教」	2020年11月10日	佐世保セントラルホテル	佐世保西ロータリークラブ

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
評価システム改善検討委員会	委員	2016年4月1日～現在に至る	公益社団法人日本高等教育評価機構
佐世保市教科書図書採択審議委員会	委員	2020年5月8日～2020年8月15日	佐世保市教育委員会 教育長
公益財団法人佐世保市体育協会	評議員	2020年5月～現在に至る	公益財団法人佐世保市体育協会
佐世保徳育推進会議	会長	2010年4月～現在に至る	佐世保徳育推進会議

日本学術会議第一部会哲学委員会	連携会員	2020年10月1日～現在に至る	日本学術会議
-----------------	------	------------------	--------

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 佐世保徳育推進会議の諸活動のうち、『徳育』第8号と「徳育カレンダー」令和3年版の佐世保市内全戸配布
- ② 令和2年度佐世保徳育ミニフォーラムの佐世保テレビによる全編収録と放映・再放映(DVDも作成)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎県日中友好協会佐世保支部理事、2018年～現在に至る

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大という異常事態の中、社会全体が移動や三密を回避するという自粛モードで推移し、大学も教育・研究のさまざまな活動を大幅に限定せざるを得なかったため、小職も学内で授業録画とmanaba上における学生との意思疎通にほぼ専念する一年であった。副学長のほか幾つかの役職を与えられ、日々の業務の中でコロナ禍に対応した業務を自分なりに全力で果たしたつもりではあるが、新たに着任した学長が打ち出す新たな施策を副学長として十分に補佐し得なかった面のあることは大いに反省している。なお長年にわたり兼務してきた国際交流・留学生支援センター長の職務も今年度は外れることとなったが、たとえ兼務を継続していたとしても国際交流がまったく行われなかった一年間となったことは疑い得ないであろう。

毎年委嘱されている公益財団法人日本高等教育評価機構の評価システム改善検討委員会委員と評価員(評価団長)の業務は今年度も担うこととなったが、会議や実地調査等がすべてオンライン方式となったため、意を得ないところが多かったのは残念である。また所属する学会の理事会や学術

大会もすべてオンラインでの実施となり、今年度は長崎県外に出張することのまったくなくなり一年間と
なってしまった。

こうした状況で全体としては低調な活動に終始してしまっただが、2020年10月1日付で日本学術会議
第一部会哲学委員会の連携会員に選出されたことは望外のことであった。小職は同委員会の「古典
精神と未来社会」分科会及び「哲学・倫理・宗教教育」分科会に所属することになったため、それぞ
れ何度かの分科会にオンライン参加しているが、知的刺激を得るところの極めて大きいものである。
今後学術会議で得られる知見を本学の業務にも積極的に活かしていく所存である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 脇野 幸太郎

1. 教育理念

- ・学生が自ら学び、考え、解決し、理解する。これらのことを通じて、「学ぶことの意義と楽しさ」を体感してもらえるような教育を行うこと。
- ・社会人として、「切り替え」のできる力(やるときはやる、楽しむときは楽しむ)を身につけてもらうこと。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
福祉科教育法 I	15 / 15 (前期)	2	1	⑥⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	8	⑥⑫
社会保障論A	15 / 15 (後期)	2	63	①②③⑧
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	49	④⑨⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	3 / 15 (後期)	1	47	④⑨⑫
公的扶助論	15 / 15 (前期)	2	63	①②③⑨
家族法	15 / 15 (後期)	2	20	①②③⑨
福祉科教育法 II	15 / 15 (後期)	2	1	②④⑥⑫
社会保障論B	15 / 15 (前期)	2	61	①②③⑨
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	4	⑤⑥⑦⑧
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	4	⑤⑥⑦⑧⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
社会保障特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	2
地域マネジメント論特別演習	5 / 15 (前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義科目は、年間を通じてオンラインでの遠隔授業となり、当初は戸惑うこともあったが、次第に一定の型ができ、安定的な授業運営を行うことができたと思っている。小職の担当科目は、いずれも法制度の解説・内容理解を主眼とするものであるため、動画を用いての遠隔授業に適していたと感じている(動画を繰り返し視聴できる点、予習・復習を行いやすい点、授業内課題を実施しやすい点など)。次年度も講義科目においては遠隔授業が継続される見通しであるため、今年度に得られた経験や知見を活かしつつ、より教育効果の高い授業運営を工夫していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
山口県立大学大学院	社会保障学講究	15/15(後期)	2	2
長崎県立大学大学院	保健福祉医療政策特論	8/8(後期)	2	6
佐世保市医師会看護専門学校	社会保障論	15/15(後期)	2	30
九州文化学園調理師専門学校	食生活と健康Ⅱ	12/12(後期)	2	9

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国家試験追加学修時間	10	45	2020年10月～2021年1月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ドイツにおける公的扶助制度の歴史的生成過程に関する研究
- ・社会保障としての住宅政策に関する研究
- ・地域と社会保障に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	4	1	0	0	2	1	442万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

トピック社会保障法(第15版)/共著/2021年4月/不磨書房/300

福祉と介護の動向2020/2021/共著/2021年8月/厚生労働統計協会/328

最新社会福祉士精神保健福祉士養成講座 7 社会保障 /共著/2021年2月/中央法規/272

社会福祉士精神保健福祉士国家試験過去問解説集2021/共著/2020年/中央法規/503

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

書評「伊藤周平著『「保険化」する社会保障の法政策』/2020年12月/社会政策/5/単著/書評

- ・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
地域で連携して取り組む居住支援プログラムの実践的開発と検証	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C(一般)	2020年4月～2025年3月	442万円
Webを活用したソーシャルワーク実習プログラム・実習教材の開発・運用・評価	日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)	2021年4月～2024年3月	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	もう1名の学科教務委員(柳副学科長)とともに、学科内の教務事項への対応、教務委員会・教務課との調整・連携を行った。
自己点検・評価委員会	委員	学科の自己点検・評価委員(浦講師)とともに、授業評価アンケートに係る面談対応、委員会運営に係る自己点検・評価業務等を行った。
発明等審査委員会	委員	委員長の指示の下、審査業務に当たった。
連学連携・研究支援センター	委員	必要な運營業務を行った。
全学教育会議	委員	会議への参加、評価員からの意見への対応など、必要な業務を行い、学科運営に反映させた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
社会福祉学科将来構想ワーキンググループ	メンバー	2021年度より導入予定の新カリキュラムの検討・策定
IR研究会	メンバー	長崎県、佐世保市の関係者とIR(統合型リゾート)誘致にかかる課題の検討を行った。

(3) 課外活動の指導等

①吹奏楽部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①大村城南高校 出前授業/2020年10月15日

②介護人材確保事業進学説明会/2020年11月19日/島原中央高校

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	8

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎地域・自治体研究所10月例会	2020年10月18日	長崎市民会館	長崎地域・自治体研究所
いきいきコープ長崎学習会	2020年8月26日	三菱記念会館(長崎市)	いきいきコープ長崎
ケアマネジャー試験対策講座	2020年8月17日・19日	やまづみ荘	社会福祉法人三省会

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	委員	2016年4月～2021年3月	佐世保市長
佐世保市社会福祉協議会	理事	2017年4月～	佐世保市社会福祉協議会
させぼ成年後見センター運営委員会	委員長	2015年4月～	佐世保市社会福祉協議会
佐世保市保健福祉審議会 民生委員審査専門分科会	委員	2020年4月～	佐世保市長
佐世保市総合計画審議会	委員	2021年2月～	佐世保市長
東彼杵町地方創生効果検証懇話会	委員	2018年4月～	東彼杵町長
長崎県介護保険審査会	委員	2018年4月～	長崎県知事
長崎保護司選考会	委員	2012年5月～	法務大臣

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・NPO法人フリースペースふきのとう:相談業務、運營業務など
- ・十郎新町(佐世保市)自治会:自治会イベント企画・運営のアドバイザー
- ・社会福祉法人友愛会評議員
- ・社会福祉法人一粒の麦の会苦情解決第三者委員
- ・社会福祉法人清風園苦情解決第三者委員
- ・社会福祉法人宮共生会評議員
- ・いきいきコープ長崎評議員
- ・大村市選挙管理委員会「票育」活動アドバイザー

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
上海大学社会学院との学術・学生交流	上海大学社会学院教員・大学院生徒の学術・学生交流	2016年4月～	上海大学社会学院、長崎国際大学社会福祉学科

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、学科長に着任し、新型コロナウイルス感染症対策および来年度からの新カリキュラム・コース制導入に向けた準備作業に没頭した。遠隔授業の実施、実習実施にあたっての各種調整、学生のメンタル面・経済面でのケア等課題が山積した中での学科運営であった。その成果については今後の評価を待たなければならないが、学科教員の協力と連携により、なんとか1年間を終えることができた。

教育活動については、初めて実施する遠隔授業に戸惑うことも多かったが、次第に1つの形が出来上がってきたと思っている。小職の担当科目は動画配信等を活用したオンデマンド型の授業に適用しており、学生からもおおむね高評価であった。今後はさらにブラッシュアップを図っていきたい。

個人としての研究活動は決して十分とは言えなかった。その中で、科研費の分担研究者が1件、また、研究代表者として今年度応募し、現在結果待ちのものが1件あるため、今後、その着実な実施を図っていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 坂本 雅俊

1. 教育理念

本学の教育理念を実現するために全力でパフォーマンスを尽くす。

本学の矜持を体得した社会福祉人材を世界に送りだし、真の地域貢献の目的を達成する。

社会福祉学専攻において、社会福祉学の高度・先端研究者を育成する。

ボランティア活動や審議会活動等に取り組み、社会貢献する。

学生主体の授業や課外活動を通して、学生の人格的発達に寄与する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
生きがい情報士実習	15 / 15 (通年)	1	4	①②④⑦⑩⑪⑫
健康・生きがいづくり総論	8 / 8 (前期)	1	8	①②⑨
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑫
相談援助の基盤と専門職B	4 / 15 (後期)	2	49	①⑥⑨
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	8	②④⑥⑦
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	②④⑥⑦
相談援助演習 I	15 / 15 (後期)	1	10	⑤⑥⑦
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	2 / 15 (後期)	1	9	①⑤⑥⑩
保健医療サービス論	15 / 15 (前期)	2	67	①②③⑥⑨
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	8	②④⑥⑦
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	8	②④⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
高齢者福祉特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
介護福祉特講	4 / 15 (前期)	2/1・2年	2
事例研究(高齢者福祉)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	2
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	—
特別研究指導Ⅲ	30 / 30 (通年)	4	0

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業満足は、4.6である。科目は相談援助演習 I である。内容が理解できたかは、4.1、授業のまとめりは4.2、興味があったかは4.1である。学生の学習したい内容と授業内容が合致していることが推察できる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

社会福祉学、ソーシャルワーク研究、社会福祉学習支援、

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
養護教諭が経験している保健室利用生徒の対応の困難さとスクールソーシャルワーカーに対する
ニーズ/2020(令和2)年10月/キャリアと看護研究29-37頁/9頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
西海市社会福祉協議会	評議員	2020年度	社会福祉法人西海市社会福祉協議会会長
佐世保市国民健康保険運営協議会	委員	2020年度	佐世保市長
長崎県国土利用計画審議会	委員	2020年度	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

日本福祉学習支援学会活動 地域の福祉ボランティア活動に対して助成を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学では、学生が満足できる授業の工夫に時間を使用した一年であった。社会的活動では福祉学会活動に取り組んだ。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 中村 龍文

1. 教育理念

すべては基本から → 基本の徹底的な習熟を目指した教育

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
医学概論	15 / 15 (後期)	2	63	①②③⑨
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	2	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	2	④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	④⑥⑫
障害の理解 I	10 / 15 (前期)	2	40	③⑤⑨⑩
加齢と障害に関する理解	5 / 15 (後期)	2	11	③⑤⑨⑩
発達と老化の理解 I	5 / 15 (前期)	2	35	①②③⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	49	⑧
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	47	⑧
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	9	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
福祉と緩和ケア	3 / 15 (前期)	1.5	37	②③⑨
発達と老化の理解 II	5 / 15 (後期)	2	44	①②③⑩
認知症の理解 I	10 / 15 (前期)	2	43	①⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域医療・保健特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	4
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1
特別研究指導Ⅱ	30 / 30 (通年)	4	1
特別研究指導Ⅲ	30 / 30 (通年)	4	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度の授業アンケートは、後期のみで、医学概論でその評価を受けた。今年度は、すべてWEBを使った遠隔授業の形で、授業を施行したために、学生の理解度・満足度が懸念された。勿論、すべてでいい評価がされた結果ではなかったが、意外なことに、理解度・満足度は例年よりも、高い得点をえることができた。この理由の一つとして考えられるのは、学生にとって難解とされる医学関係の講義

であるので、一度聞くだけでは中々理解できないことがあると思われるが、今年は繰り返しその講義を聴くことが可能だったためと考えられる。今後は、この経験を生かして、講義のやり方を考えていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士講座	1	27	2021/3/4
介護福祉士国家試験対策講座	1	3	2020/10/14

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

HTLV-1関連脊髄症の病態解明と治療法の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	35万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Tocilizumab has no direct effect on the cell lines infected with human T-cell leukemia virus type 1
/2021/J INT MED RES/1頁～10頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
厚生労働科学研究費補助金	厚生労働省	2020/4/1～2021/3/31	35万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
人間社会学部社会福祉学科倫理委員会	委員長	なし
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員長	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県指定難病審査会	委員	2019/1/1～現在	長崎県知事
社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	2015/6/1～現在	公立学校共済組合 長崎支部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

PubMed掲載の国際誌からの査読依頼が25編あり、すべてに対応した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度はコロナ禍の状況において、多方面で種々の制約を受けた。ただ、教育活動の中心である講義においては、以外にも例年よりは、学生から評価を受けることができた。今後は、今年度の講義のやり方を参考にして、講義を組み立てて行きたい。しかし、研究活動については、国際誌からの査読依頼件数からみて、一定の評価を得ているとは思われるが、論文数・外部資金獲得件の低さを考えると、来年度は多いの努力を要する所である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 教授 氏名 柳 智盛

1. 教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学(臨床心理・障がい児者心理、教育心理)の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	4	⑪
教育実習A	120 / 120 (通年)	4	19	④
教育実習B	80 / 80 (通年)	2	1	④
事前・事後指導	4 / 8 (通年)	1	20	④⑦
教育相談(カウンセリングを含む。)	15 / 15 (前期)	2	24	③⑤⑩
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	3	⑤⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	3	⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	9	④⑥⑪⑫
障害の理解 I	5 / 15 (前期)	2	40	③⑤⑩
加齢と障害に関する理解	5 / 15 (後期)	2	11	③⑤⑨⑩
障害の理解 II	5 / 15 (後期)	2	36	③⑤⑨⑩
相談援助実習指導 II A	15 / 15 (前期)	1	4	①④⑥

相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	4	①④⑥
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	2 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨
教職実践演習(中・高)	3 / 15 (後期)	2	16	⑤⑦⑩⑪
教育心理学	15 / 15 (前期)	2	21	③⑤⑩
心理学	15 / 15 (前期)	2	49	③⑤⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
発達心理特講	15 / 15 (前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業アンケートにおいては、「相談援助実習指導ⅡB」と「教養セミナー」の授業科目についてアンケートを実施した。満足度の平均が3.8～5.0の結果であった。ソーシャルワークに関するより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにもかかわらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に、福祉学科専門科目においては社会福祉士として専門職を目指す学生に必要とする支援の基本的な技法についても自ら気づき自己覚知ができるようなワークを行うことで、学生個々の意見を述べさせることで授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学園	心理学	15/15(後期)	2	25
九州文化学園調理師専門学校	高齢者心理	3/15(後期)	2	12

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

2. 発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的变化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

3. 高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	80万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
ピア・サポートマニュアルブック(Ver.1)ー遠隔授業編ー/編集/2021/3/5/長崎
国際大学キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター/45

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
NIUピア・サポートを活かした新たな支援プロジェクト I	長崎国際大学学長裁 量経費	2020年5月～2021年3 月	80万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員として全学及び学科のカリキュラムの編成や調整などの検討を行った。
CHサポートセンター運営委員会	委員長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート運営に携わった。また、合理的配慮面談や検討会議への出席・審議を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
教育基盤センター運営委員会	委員	本学の教育の質の向上に向けて検討・改善を図った。
学科運営委員会(社会福祉学科)	副学科長	社会福祉学科の運営に係る事項に関する審議検討のための準備に携わった。
教育内容向上委員会(社会福祉学科)	委員長	社会福祉学科内の各学年部会及び実習部会に関する事項の総括
社会福祉学科学生支援委員会(社会福祉学科)	委員長	社会福祉学科内のSA運営、特別奨学金制度利用学生への支援などに関する事項の総括
実習委員会(社会福祉学科)	委員	主に障害福祉分野の実習に関する検討・改善を図った。
将来構想委員会(社会福祉学科)	副学科長	2021年度に予定されるカリキュラム変更に伴う、社会福祉学科のカリキュラム編成及び学科運営に関する検討

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夢ナビライブ2020福岡会場(Zoom)にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して本学について紹介した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席

2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教員免許状更新講習会	2020/8/25	長崎国際大学	長崎国際大学
長崎県立桜が丘特別支援学校 講義体験	2020/11/17	長崎国際大学	長崎県立桜が丘特別支援学校
長崎県立中央高等学校	2021/2/18	長崎国際大学	長崎県立中央高等学校
佐世保市障害児(者)地域療育 支援事業	2020/4～2021/3	佐世保特別支援学校	佐世保市子ども育成課

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市いじめ防止対策推進委員会	委員長	2018/7/17～現在に至る	佐世保市教育委員会教育長
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2020/4～2021/3	九州大学附属総合臨床心理センター長
共同生活支援事業所「佐世保中央運営推進会議」	委員	2019/10～現在に至る	社会福祉法人南高愛隣会理事長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2015年4月～現在に至る／佐世保市学習支援会／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／佐世保市生活福祉課学習支援委員会
- ②2015年4月～現在に至る／九文事例検討会／アドバイザーとして参加／九州文化学園所属教職員
- ③2015年4月～現在に至る／自閉症児の余暇活動／活動企画者及び相談役として参加／長崎県自閉症親の会佐世保支部

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年10名(1名は留年)、3年3名の指導を行った。卒業論文では、留年生1名を除き全員が専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。特に、担当ゼミ生のうち配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に7名が社会福祉士国家試験に挑戦し、4名が合格した。また、1名は精神保健福祉士に合格した。

全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かして、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。

社会活動としては、昨年度の引き続き「佐世保市いじめ防止対策推進委員会」の委員長として、昨年度作成した佐世保市の学校教育現場に提言書の確実な実行などについて委員長として引き続き検証する役割を果たすことができた。また、毎年行ってきた地域の障害児・者を対象としてボランティア活動においては、コロナ禍の中で実施ができなかったが、次年度の再開に向けて現在調整を行っている。

個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上のに向けたFD・SDを企画実施し、「NIUピア・サポートを活かした新たな支援プロジェクト I」とテーマで、ピア・サポート学生の育成及び体制構築を図ることができた。また、社会福祉学科の副学科長として学科長を支えることができたことは、貴重な経験となったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・

社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 梅野 潤子

1. 教育理念

授業や研究指導等の知的活動を通して、社会福祉専門職として必要とされる能力を学生が自律的に開発することができるように促し、その環境を整えることを教育理念としている。より具体的には、以下の点を重視して教育に取り組んでいる。

- ・社会福祉専門職として必要とされる能力を、学生自身が身に付けるプロセスを重視する。
- ・一つひとつの学修の意味を学生自身が理解し、実践できるようにする。
- ・具体的な学修活動を通して、価値・知識・技術を体得する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
スクール(学校)ソーシャルワーク実習(SSW)	15 / 15 (通年)	2	5	⑦⑪⑫
相談援助実習の理解	15 / 15 (前期)	1	52	①②④⑥⑦⑪
相談援助実習指導 I	15 / 15 (後期)	1	6	①⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	15 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	15 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	9	④⑤⑦⑩⑪⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	9	④⑤⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	⑤⑥⑦
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	15 / 15 (後期)	1	9	①⑤⑥⑩
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	12	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	17	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	4	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪
スクール(学校)ソーシャルワーク論	15 / 15 (前期)	2	30	①⑤⑦⑩
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導(SSW)	15 / 15 (前期)	1	5	①⑦⑩⑪⑫
児童福祉論	15 / 15 (前期)	2	50	①②④⑤⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

2020年度においては、前期の授業評価アンケートは全学的に実施されなかったため、後期のみ実施し、集計結果を得た。

第一に、授業評価アンケートの実施期間が遠隔授業実施期間にあたっており、回答率が77.8%～25.0%と科目ごとにばらつきが見られた。次年度は、対面授業時に実施するか、遠隔授業の場合には前もってアンケート実施を告知するなど、回答率を向上させるようにしたい。

第二に、授業内容・方法・満足度は各科目において5～4の評価が概ね占めており、受講生のニーズに即した授業を提供することができたと捉えている。特に、受講生に学ぶ内容について決定権を与えたり、グループワークの時間を設けたりした点が「学生主体の授業で良かった」とのコメントが寄せられたため、今後もこうした授業運営を継続していきたい。

第三に、今年度は初めての遠隔授業ということで、慣れない中での実施であったが、次年度も遠隔授業が行われることが予測される。今年度の反省点を活かしながら、動画やライブ授業などそれぞれのツールの特性を使い分けながら魅力的な授業を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉専門演習 追加学修時間・追加学修プログラム	6	48名	7月7日、9月14日、10月19日、10月26日、12月7日、1月12日
保育士講座「児童家庭福祉」「社会的養護」	2	28名	3月9日、3月12日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

支援過程における子どもの参加促進に関する研究

地域における児童福祉協働実践研究

ソーシャルワークにおける情報通信技術(ICT)の活用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	429万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

子どもの権利を護るための情報倫理教育プログラム構築の試案—自己情報コントロール権に着目して— /2021年3月/活水論文集/pp.123-130/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

児童福祉専門職の情報通信技術(ICT)活用力実態調査—子どもの権利を護るために— /2020年11月/日本子ども虐待防止学会第26回学術集会いしかわ金沢大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
子どもの参加を促進する「子ども主体アセスメントシステム」構築に向けた実証的研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2020年4月 - 2023年3月	429万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	学科選書の推薦依頼・取りまとめを行い、社会福祉学科として教育研究に必要な文献・映像資料の推薦を行った。また、データベース・電子書籍の新規導入に対する検討を行った。
ボランティアセンター運営委員会	委員	令和2年7月豪雨災害発生直後、学内での支援について委員会で検討した際、積極的な提言を行った。また、学内に置ける災害時備蓄について、福祉的観点から提案を行った。
社会福祉学科実習委員会	スクール(学校)ソーシャルワーク部会長	スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程における実習運営を担当し、実習先と協議しながら実習プログラム立案・実施した。

社会福祉学科国家資格合格支援委員会	委員	国家資格受験生向けの支援プログラムの検討・実施、受験生の学習状況把握のための個別面談の実施、社会福祉士国家試験の本学の正答作成、自己採点会の実施等を行った。
保育士講座運営委員会	委員	学内の保育士資格取得希望者に対し提供する、保育士講座のプログラム内容を検討するとともに、講師依頼、「児童家庭福祉」「社会的養護」及び模擬試験の科目担当を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
社会福祉学科将来構想ワーキング	構成員	全18回のワーキング会議に出席し、令和3年度から導入する社会福祉学科新コース制及び社会福祉士・精神保健福祉士のカリキュラム改訂に伴い、シラバス改訂作業、各種規程類の見直し等を行った。

(3) 課外活動の指導等

- ・社会福祉士国家試験受験者に対し、「社会福祉総合演習」追加学習プログラムを実施し、児童福祉分野の講義・解説、資料提供、個別の質問への対応を行った。
- ・保育士国家試験受験者に対し、manaba上で「保育士講座」を開設し、受験科目のうち「児童家庭福祉」「社会的養護」の遠隔授業、模擬試験の実施を担当した。
- ・松浦市内での子ども支援ボランティア活動(学習支援)を企画している社会福祉学科2年生に対し、活動準備のための相談に応じ、実施計画への助言を行った。
- ・令和3年度に実施予定の子ども食堂を担当している学生スタッフに対し、実施計画への助言を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・大学見学会において模擬授業「子どもの安定した育ちを守るスクールソーシャルワーカー」を2回実施した(長崎県立清峰高等学校・7月、長崎県立大村城南高等学校・10月)。
- ・オープンキャンパスの社会福祉学科プログラムにおいて、模擬授業「子どもの権利について考えようー児童福祉の視点からー」を実施した(3月)。
- ・大学ホームページ「社会福祉学科からのお知らせ」において、長崎県児童福祉司任用資格取得講習会における講師業務の実施及びスクールソーシャルワーク実習報告会についての記事を作成し、掲載した。
- ・長崎県児童相談所からの養成を受け、社会福祉学科3年生1名を一時保護所嘱託職員として紹介した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
8	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
子どものニーズを満たすソーシャルワーカーアセスメントから支援計画へ	県北振興局天満庁舎	2020年7月16日	長崎県子ども家庭課 令和2年度 児童福祉司任用前講習会・ 任用後研修「子ども家庭支援のためのケースマネジメントの基本」
子どもの学びを支えるースクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働ー	長崎国際大学	2020年8月25日	令和2年度 教員免許更新講習会
子どもの育ちのニーズを満たすアセスメント	佐世保市総合教育センター	2020年10月16日	長崎県子ども家庭課 長崎県 令和2年度 要保護児童対策地域協議会調整機関 担当者研修「子ども家庭支援のためのソーシャルワーク」
子どもの育ちのニーズを満たすアセスメント	佐世保市中央保健福祉センター	2020年11月6日	長崎県子ども家庭課 長崎県 令和2年度 児童相談所及び市町職員合同研修(佐世保会場)

一時保護所での子どもへの支援を考える～子どもの権利の視点から～	佐世保こども・女性・障害者支援センター	2020年11月6日	長崎県こども家庭課 令和2年度 長崎県 児童相談所一時保 護所職員研修(佐世 保会場)
子どもの育ちのニーズを満たすアセスメント	長崎こども・女性・障害者支援センター	2020年11月13日	長崎県こども家庭課 長崎県 令和2年度 児童相談所及び市 町職員合同研修(長 崎会場)
一時保護所での子どもへの支援を考える～子どもの権利の視点から～	長崎こども・女性・障害者支援センター	2020年11月13日	長崎県こども家庭課 令和2年度 長崎県 児童相談所一時保 護所職員研修(長崎 会場)
子どもの育ちにおける地域の役割—民生委員・児童委員にできること—	平戸文化センター	2021年2月26日	社会福祉法人平戸 市社会福祉協議会 令和2年度 平戸市 民生委員児童委員 協議会研修会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保こども・子育て会議	委員/ファミリーサポートセンター運営委託事業者選定分科会長	2020年4月-現在	佐世保市
佐世保市社会福祉協議会 ふくし教育推進委員会	委員長	2020年4月-現在	佐世保市社会福祉協議会
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP) こども育成専門委員会	委員	2020年4月-現在	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

着任1年目であり、新たな土地での教育研究活動となったが、教育・研究・大学運営・社会活動のバランスよく取り組むことができたと考えている。

具体的には、教育においては、社会福祉士及びスクールソーシャルワーカー両資格に係る養成科目を中心とし、児童福祉の専門性を活かしつつ、実践的な授業を提供することができた。後期に実施した授業評価においても、受講生からお概ね好ましい評価を得ることができた。

研究においては、科研費(基盤研究(C))を獲得し、他大学の共同研究者とともに、長崎県内の児童福祉専門職とのICT活用に関する共同研究に取り組むことができた。コロナ禍における社会情勢と相まって、福祉現場の関心の高い研究テーマに取り組むことができた。研究成果は、論文及び学会発表を通じて着実に公表することができた。

大学運営においては、特に来年度より社会福祉学科において導入される新コース制及び全国的に改正がなされる社会福祉士・精神保健福祉士新カリキュラムを踏まえ、「将来構想ワーキング・グループ」のメンバーとして貢献した。また、模擬授業や地域貢献の活動を通して、児童福祉やスクールソーシャルワーク分野での学びの内容を地域に向けて発信することができ、広報活動にも貢献することができた。

最後に、社会活動においては、長崎県子ども家庭課からの依頼で各種児童福祉専門職の法定研修等を担当した。また、佐世保市、佐世保市社会福協議会、平戸市社会福祉協議会等の委員や研修講師も努め、地域の児童福祉の現状と課題を学ぶ貴重な機会をいただくとともに、福祉現場の方々との交流の機会も得ることができた。

反省点としては、今年度の遠隔授業の実施やコロナ禍での実習等、イレギュラーなこと続きで、目の前の業務に追われがちであった点が挙げられる。次年度は、今年度の取り組みを活かしつつ、中長期的な見通しをもって取り組んでいきたい。例えば、状況を見ながら、演習やゼミなどで学生に福祉現場との接点を持たせるように仕掛けたり、福祉現場の方々とはケース検討を行うなどの実践研究をしたり、実習先とよりよい実習について検討を行ったりするなどである。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 大島 啓

1. 教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境(経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体)から捉える視点を獲得することである。

複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、(私)に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相對し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	7	⑦⑫
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	⑥
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	5	②
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	8	⑥⑦⑫
社会の理解	15 / 15 (後期)	2	27	②
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	7	①④⑥
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦
相談援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	9	⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨⑫
社会福祉原論B	15 / 15 (前期)	2	55	②
社会福祉原論A	15 / 15 (後期)	2	67	②
障がい者スポーツ	1 / 15 (後期)	2	30	⑪
社会学概論	15 / 15 (前期)	2	216	②
社会学	15 / 15 (後期)	2	125	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	7 / 15 (前期)	2/1・2年	2
社会福祉調査特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
人権思想・社会福祉史特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	3
社会福祉思想特別演習	15 / 15 (後期)	2/1・2年	3

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度学部・大学院では、昨年度とほぼ同様の授業を担当した。今年度はコロナ禍対応のため、座学の授業では遠隔授業の形式を取った。その形式とは、教科書をまとめたプリントの説明をパワーポイントで録画して、youtubeで配信するという方法である。基本的な内容を録画内容で伝え、その理解を助けるためにイラストや図、データ等を載せた印刷資料も配布した。授業の最後に授業内容を振り返る小テストを毎回行い、ポートフォリオに提出させることで出席を確認した。配信の時間を50分程度に制限して集中力の減退を防ぎ、配信と印刷資料を組み合わせることで理解を助けた。「社会学(福祉)」は例年大人数の授業であり、遠隔授業の形式に適していた。「社会学概論」は観光学科の教職科目であるが、この授業も比較的自由的な内容のため、遠隔授業に適していた。「障がい者スポーツ(オムニバス)」は、今年度も取りまとめを担当し、コロナ禍のなか外部講師の日程調整に苦慮したが、何とか終えることができた。「社会福祉原論AB」でも、国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施した。「社会の理解」は今年度唯一の授業アンケート対象科目であったが、遠隔形式の授業は好評であった。「卒業研究」と「専門演習AB」では、少ない対面授業回数の中、できるかぎり意見交換の時間を取り、教員と学生、学生間の相互理解が深まるよう務めた。大学院の科目は遠隔授業の中で院生に資料作成を義務づけ、その資料をもとに丁寧に指導することを心掛けた。今年度は主指導の形で担当する院生はいなかったが、副指導で量的調査を行う予定の院生が1名いたため、論文指導で調査のスキルと知識を伝達するのに多くの時間とエネルギーを費やした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会福祉	30/30(前期)	2	70

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①現代ドイツの社会理論(フランクフルト学派研究) ②福祉専門職の社会的承認

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
ジレンマの社会学/共著/2020年10月/ミネルヴァ書房/153頁～165頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会(全学)	委員	なし
広報委員会(全学)	副委員長	学科の広報担当として、映像作成企画『Success of welfare professionals！－国家資格を取得した先輩たちの活躍を見てみよう!!』の企画・立案・取りまとめを担当した。
専門演習委員会(学科内)	委員長	来年度の専門演習と卒論研究のゼミ配属作業の取りまとめを行った。
倫理委員会(学科内)	委員	なし
相談援助実習委員会(学科内)	委員	なし
学内学会委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	グループメンバー	長崎県と佐世保市が進めるIR構想を検討する研究会に参加した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①佐世保商業高校 進路ガイダンス参加/3月19日/場所:佐世保商業高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	2017/4/1～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員	2020/4/1～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本社会分析学会の学会誌編集委員を担当した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年はコロナ禍に対応するための遠隔授業の準備に相当なエネルギーと時間を費やした。座学の大規模授業の担当が多いため、一年を通して遠隔授業の準備に追われた一年であった。初めての経験で慣れないことが多く、初歩的なミスも多々あったかと思うが、少しずつ経験を積んで来年度以降は洗練された遠隔授業を心掛けたい。ただ来年度以降も、学科のコース制開始や社会福祉士のカリキュラム改正を受けて、授業準備に多くの時間を取られることは間違いない。あとゲストスピーカーの担当が多く、資格要件上対面授業が必須である講義も多い授業「障がい者スポーツ」の連絡調整に、思いのほか苦慮した。このような状況の中で研究の時間を捻出するのはなかなか困難で、本年度は予定していた学会誌への論文投稿ができなかった。ただミネルヴァ書房より共著を刊行できたのは幸いであった。来年度は捲土重来を期したい。あと本年度は、学科の広報委員として広報催事(映像作品『Success of welfare professionals! - 国家資格を取得した先輩たちの活躍を見てみよう!!』)の企画・運営と、佐世保市地域福祉計画推進委員の業務、あるいは佐世保市立看護学校の講師を初めて務めたことも印象深い。多くの新任教員を迎えた本年度の学科には、コロナ禍を協力して乗り越えた一体感が形成されていると感じる。本年度はこの連帯感を梃子に、学科として反転攻勢に転じたい。コロナ禍のもと日々増加・複雑化する業務と格闘しながら、来年度も正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標(定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など)の達成を目指したい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 准教授 氏名 韓 榮芝

1. 教育理念

教育の理念は、以下のような3点を主としている。

- ・学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
- ・コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。
- ・学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	8	⑦
地域福祉論A	15 / 15 (前期)	2	66	①②⑧⑨⑩
地域福祉論B	15 / 15 (後期)	2	70	①②③⑧⑨⑩
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑪ ⑫
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑪ ⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	8	③⑥⑧⑨⑩⑫
中国語 I A	15 / 15 (前期)	1	24	③④⑧⑨⑩
中国語 I B	15 / 15 (後期)	1	38	②③⑧⑨⑩
相談援助実習指導 II A	15 / 15 (前期)	1	8	①④⑥
相談援助実習指導 II B	15 / 15 (後期)	1	8	④⑤⑥⑦
相談援助実習指導 I	15 / 15 (後期)	1	9	①⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	4 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨⑩
キャリア開発B	15 / 15 (後期)	2	2	⑤⑥⑩
中国語 I A	15 / 15 (前期)	1	29	②③⑧⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
中国語 I B	15 / 15 (後期)	1	1	②③⑦⑧⑨⑩
相談援助演習 II B	15 / 15 (後期)	1	18	④⑤⑥⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域福祉計画特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2
地域福祉計画特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1
事例研究(地域福祉計画)	15 / 15 (後期)	2/1・2年	3
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「教養セミナー」について、後期のアンケート結果は(前期のアンケートはコロナのため実行しなかった)、履修生6名の内、授業に対する満足度の平均評価は4.8(去年の前期4.5)で、過去より0.3ポイントアップした。改善策としては、コロナのため対面授業とオンライン授業を交差しながら行ったので、学生らに不安や不利益を被ることのないように、受講生らの反応(行動)や実情(ラインでのやり取りなどを通じて)を把握しながら授業を進めていた。また学生自らの考え方を尊重し、授業内容や方法を一緒に考え、学生により添うような支援体制をとり、学習に対する興味や関心を持っているように、学習意欲を高められるように心かけること。

「地域福祉論」においては、コロナのため前期のアンケートは実行していなかったが、後期の履修者77名のうち62名の回答が得られ、平均満足度は3.8(去年3.5)であった。改善策としては、コロナのため対面授業とオンライン授業を交差しながら行ったので、学生らに不安や不利益を被ることのないように、受講生らの反応(行動)や実情(ラインでのやり取りなどを通じて)を把握しながら授業を進めていた。また学生自らの考え方を尊重し、授業内容や方法を一緒に考え、学生により添うような支援体制をとり、学習に対する興味や関心を持っているように、学習意欲を高められるように心かけること。

今年度の講義形態はZOOMでの授業を行った。受講生に理論的知識を得ることだけでなく、現場での理論を実践に結びつける実践活動を知るために、DVDによる動画の鑑賞やゲストスピーカーの授業を受けたりして、授業毎にシラバスの内容に沿った授業レジュメ(図やグラフなど取り入れ)を丁寧に作成すること。授業中に個人ワークやグループワークを行い、チャットを用いて質疑応答を随時に行ったこと。予習と復習の時間を確保するために授業毎に授業に対するコメントを書いてもらい、フィードバックを行ったこと。また授業前・後に課題レポートを出すことなど学修を促していたこと。

全体として、学生自ら学修意欲を高めていくために授業内容を如何に分かりやすく工夫していくこと。学生の学修意欲(興味)を喚起させていくために、学生が何か求め、困りごととは何かを把握し、学生らの意見を真摯に受け止め、改善策を考えていくこと。また、他の先生の授業を参観し、より良い授業方法を模索し、学生に興味や関心を持てるような講義を進めていくこと。

全学共通科目である「中国語 I A」はコロナのため実行していなかったが、「中国語 I B」については、履修者46名中41名の回答が得られた。うちに授業の満足度は平均4.0であった(去年4.1、昨年4.0)。コロナで通年の授業はオンライン(前期は動画、後期はZOOMで)により行った。前期Aは基礎的発音を中心であったが後期は前期の内容を踏まえ簡単な日常会話や文法も取り入れ、中国語に

興味や関心を持ち、簡単な中国語を話せることで自信につなげるように力を入れた。授業中に発音練習を重点的に行い、個人発表をしたり、授業毎に一人ひとりの発音を聞いて確認することを徹底的に。後期Bの受講生数は前期より少ないため、個人ワークを多めにとることで学生と向き合う時間を増やし、ZOOMで学生の表情が見え、質問を聞く余裕ができた。受講生の学習状況の把握することにより多くの学生が楽しく勉強ができたとは、わかりやすく良い勉強ができたと言ってくれた。

大学院に関しては、満足度は5.0であった(昨年と同様)が、今年度もコロナの影響により前期の授業は殆どオンラインで後期では対面で行なったりZOOMで進めたり、少人数対応ができていい評価に繋がった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 /学生数
長崎県立大学	中国語会話、中国語文法	30/30(前期)	2	32
日本社会事業大学(通信教育)	相談援助実習(実習巡回指導のみ)	30/90(通年)	4	1

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験(夏期補習)	6	46	2020年8月～10月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 中国の高齢化社会における地域トータルシステム構築に関する研究
- ② 多職種連携における独居高齢者の訪問ケアに関する研究
- ③ 日中両国の社会福祉学に関する研究・交流活動の取り組みについて
- ④ 日中両国の介護職員養成の現状と課題の比較研究
- ⑤ 三川内焼きを対象とするユニバーサル・ツーリズムの可能性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	留学生支援・募集、連絡及び紹介などを行った。
ハラスメント対策委員会	委員	教職員及び学生からの相談とニーズ把握を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
保育士講座	講師	保育原理の講義を1コマ担当した。

(3) 課外活動の指導等

- ・中国人留学生の生活指導(アルバイトの紹介や生活相談など)
- ・書道サークルの顧問及び書道展示会の監督
- ・中国人留学生の就職指導(履歴書の書き方や面接指導及び練習など)
- ・中国人留学生の日本語指導

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

瀋陽大学医学院との国際交活動を通じて中国人の大学生に本大学大学院修士課程への進学推薦及び指導(2名)をおこなった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外

2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
「地域共生社会における居宅養老モデル」～日中養老サービスの現状比較～	2020年11月11日	オンラインによる講演	佐世保市役所

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市都市政策協議会	副委員長	2019年2月～2021年3月	佐世保市役所市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・早岐警察署との連携による留学生の日常生活支援活動
- ・早岐警察官との連携における地域高齢者の交通事故に関する研究活動
- ・佐世保市社会福祉協議会地域講演会参加の募集活動

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育においては、ゼミ生(1年6名、3年6名、4年9名うち留学生2名)の指導をしており、コロナでリモート授業を長期間に続くことにつれ、日常生活の乱れや友たちと会えないなど精神上的な疲れに対し、個別指導や困りごとの相談を小まめに行い、規則正しい生活ができるように離脱防止に努めること。授業は前期10コマと後期12コマ、大学院前期と後期計3コマの担当をしており、授業アンケートの満足度は前年度より微増した科目もあれば、現状維持の科目もある。大学院への進学生を増やすために、本学にいるゼミ生や、他大学の卒業生、また中国にいる卒業生に進学指導などを実施。進学者の増加(修士課程2名、博士後期課程1名の入学)に繋げることができた。課程外教育として、留学生に対して日本語の勉強会を開き、国家試験を目指すゼミ生に国家試験合格支援(合宿など)に力を入れてサポートしてきた。

研究に関しては、学長裁量経費のメンバーの1員として、三川内焼き物地域などの観光における福祉のバリアフリーに関する踏地調査、報告書のまとめなどを実施。長崎国際大学社会福祉学内学会のリーダーとして運営し、研究紀要やニュースレターの編集などに務めた。

社会貢献では、佐世保市都市政策協議会副会長として努め、佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトに参加し公演の依頼を受け、「地域共生社会における居宅養老モデル」～日中養老サービスの現状比較～の講話を行なった。また、第46回長崎県中国語コンクールの審査員として務める。社会福祉法人鐘の鳴る丘の利用者さんに手作りクリスマスカード(コロナに負けず元気になるよう)を渡し、施設やスタッフから大評判を受けた。大学運営では国際交流委員として、中国の瀋陽市や上海大学社会学院との連携に努めた。広報活動として、学内学会の開催はコロナのため中止になったが、ニュースレターや社会福祉紀要の発行ができた。学科委員会では、実習委員会(副委員長)、社会福祉士部会(部会長)、学生支援委員会、学内学会委員会(責任者)、ボランティアセンター、教養セミナー部会、などに努めることができた。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 石橋 亜矢

1. 教育理念

建学の精神に基づいて、本学が掲げているディプロマポリシーを意識し、豊かな感性と高い倫理性を備え、社会的責務に対する自覚を身に付けた人材の育成を行う。また、地域社会における情勢や変化に対して学問的探求心を持ち、共感・共鳴できる感性を養わせる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
介護実習Ⅰ	180 / 180 (通年)	4	19	④⑦⑪⑫
介護実習Ⅱ	90 / 90 (通年)	2	7	①④⑫
介護実習Ⅲ	180 / 180 (通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(介護)	15 / 15 (通年)	1	3	①④⑪
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	194	①②⑤⑩⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	⑤⑥⑫
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	9	②④⑥⑦⑧⑩⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	9	②④⑥⑦⑧⑩⑫
発達と老化の理解Ⅱ	10 / 15 (後期)	2	44	①②③⑩
障がい者スポーツ	1 / 15 (後期)	2	30	⑪
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	8	②④⑥⑦⑧⑩⑫
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑧⑩⑫
介護概論ⅢA	15 / 15 (前期)	2	3	①②③⑤⑥⑦⑧
生活支援技術ⅡB	15 / 15 (後期)	1	10	①②③⑦
介護における医療的ケアⅡ	15 / 15 (後期)	2	6	②③⑦⑧
介護総合演習Ⅱ	15 / 30 (前期)	1	8	①④⑤
介護における医療的ケアⅠ	30 / 30 (前期)	4	8	②③⑦⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

医療的ケアの授業アンケートでは、学生の満足度5点と高い評価が得られた。

本年度は、4年目で前年度からの引き続きの科目を授業展開した。

その中で、授業に注視したことは、医療分野の授業が多いため、症例を多く活用し検査データ等を取り入れ、患者・利用者の病態アセスメント力を引き延べた。

結果、学生からは、これまでより広く深く知識を修得できたとのことで、授業の質を上げることが出来たと考える。そして、本年度はコロナ禍でリモートでの授業が殆どであったが、リモート内でのGWやディスカッションの場を与えるスタイルを取り、自己発表や質疑に取り組むことで、学生の理解を促し意欲的に授業に取り組めたのではないかと考える。リモートが続き、授業の資料作成に時間を費やした面もある。

また、対面での実技試験に関しては、対面授業を長く続けられるかが課題でもあったので、実技の演習を先に行い、実技のデモンストレーションを行う際は、1つ1つの動作にエビデンスを取り入れることで学生の理解を得ながら学生の実技の向上を考えながら演習の授業にも望んだ。

また、国家試験科目担当者として、本授業は国家試験の中でも難易度が高い。そこを常に念頭に置き、出題項目の分析をおこない、授業の中で学生には情報提供し卒業年次まで継続した学修をしていく必要があることを伝え学修に望むように教育している。

今後も、学生の学修への取り組みや意欲向上のために、学生の大学生活が円滑に送れることを常に考え、アレンジメントした学習効果を検討していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	隣接医学	4/15(前期)	2	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
介護福祉士国家試験特別講義	6	3	2020/9/4、9/11、9/18、 9/25、10/2、10/9
介護クラス 国家試験対策	5	3	2020/12/8、12/9、12/10、 2021/1/18、1/19
医療的ケア技術チェック	8	6	2020/7/14、7/15、7/16、 8/10
専門演習B	2	2	2020/9/8、9/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

専攻分野： 医療的ケア・ターミナルケア・老年看護

研究テーマ

- ・長崎国際大学子どもでの学生ボランティア活動
- ・介護老人福祉施設における医療的ケアを実施する介護職の現状と課題
- ・介護実習における実習施設と介護福祉士養成施設との連携における現状
- ・介護老人福祉施設における医的ケア教育プログラムの開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
介護老人福祉における医療的ケアを実施する介護職の現状と課題/2021年3月/長崎国際大学
論叢/111頁～119頁/共著/原著論文
介護実習における実習施設と介護福祉士養成施設との連携における現状/2021年3月/2020年
度教育基盤センター紀要(第四巻)/19頁～35頁/共著/原著論文
Insulin Resistance and the Adiponectin: Leptin Ratio as a Surrogate Measure of Insulin Resistance
in Japanese Collegiate Baseball Players/2021年1月/The Journal of Sports Medicine and Physical
Fitness/○頁～○頁/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
介護老人福祉における介護職の医療的ケアの活性化方策に関する研究/2020年7月/第33回 日
本看護福祉学会学術大会
介護老人福祉施設における医療的ケアを実施する介護職の現状と課題/2020年10月/第28回日
本介護福祉学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	学生の就職活動を円滑に実施するために、キャリアセンターと協働し社会福祉学科WEB合同企業説明会の計画・実施、キックオフセミナーの実施、学科内の就職支援を実施した。
子ども食堂委員会	委員長	本年度も3回の開催を予定していたが、コロナ禍の為に中止とした。 しかし、ながさき子どもネットワークでの交流は引き続き行っている。
倫理委員会	委員	学科における教職員並びに学部生、院生の研究に関する審査を実施した。
社会福祉学科内国家試験合格支援委員会	委員	学科内の国家試験(社福・精神・介護)への合格支援の取り組みを委員会メンバーとして活動した。
介護福祉クラス委員会	委員	①定例社会福祉学科会議及び臨時学科会議資料作成への提案 ②委員会開催の出席 ③実習・国家試験スケジュールの管理と委員への周知と協力を仰ぎ支援した。
介護福祉国家試験合格支援委員会	委員長	①介護国家試験合格支援に向けた学修の年間スケジュールの作成と実施の管理 ②社会福祉総合演習(介護)のプログラム調整と実施 ③模擬試験の計画・実施・評価を管理 ④学生・保護者の個別面談にも取り組む ⑤国家試験への引率等の支援を実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
オープンキャンパス	委員	2020年度 第2回、第3回オープンキャンパスにおける学科プログラム
専門演習部会	委員	専門演習部会への参加
専門基礎演習部会	委員	専門演習基礎部会への参加
卒業研究部会	委員	卒業研究部会への参加
介護福祉士国家試験合格支援委員会	委員	介護福祉士国家試験合格支援委員会への参加
社会福祉士国家試験合格支援委員会	委員	社会福祉士国家試験合格支援委員会への参加
子ども食堂委員会	委員	子ども食堂での企画をし、ながさき子ども食堂ネットワーク活動に参加

(3) 課外活動の指導等

子ども食堂ネットワーク(佐世保市)2020年12月2日

介護福祉士国家試験の引率 2021年1月31日

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・社会福祉学科web企業説明会企画運営 2020年8月1日～8月30

・社会福祉学科企業説明会企画運営 2020年8月1日～8月30

・九州文化学園高等学校 介護クラスに介護実習室見学説明対応 2020年7月4日

・2020年 第2回オープンキャンパスにおける介護のブースを実施 2020年8月10日

・ながさき子ども食堂ネットワーク開催 2020年12月2日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
介護支援専門員試験対策研修	2020/8/20 2020/8/27	やまづみ荘	やまづみ荘
初任者研修会	2020年10月28日	平戸社会福祉協議会	長崎市

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県高齢者虐待防止・身体的拘束ゼロ作戦推進会議	委員	2020年4月1日～ 2021年3月31日	長崎県福祉保健

長崎県高齢者虐待防止・身体的拘束ゼロ作戦推進会議	委員	2020年4月1日～ 2021年3月31日	佐世保市役所
長崎県コンソーシアム委員会	委員	2020年4月1日～ 2021年3月31日	長崎大学
子ども食堂ネットワーク	委員	2020年4月1日～ 2021年3月31日	長崎県子ども食堂 ネットワーク

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

感染対策研修 佐世保市 2020年11月

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学入職後4年が経過する本年度(令和2年度)は、これまでの経験を活かし、教育、研究、大学運営において様々な活動を行い、実績も多数残すことができたと考えている。

教育活動に関しては、昨年度は、ベストティーチャー賞の評価をいただき、その目標の継続として意欲的に頑張っている。学生の授業評価の満足度の平均も「5」の目標が到達できた。今後も学生が理解しやすい授業展開ができる様に、試行錯誤工夫しながら学生の授業のモチベーションが向上できるように努力していきたい。

本年度も本学科の国家試験対策委員として、学生の国家資格取得のサポートを行った。主に介護福祉士クラス学生の全員合格を目指し、学生のモチベーションの維持・向上を図りながら包括的に国試対策を展開した。その結果、昨年度も介護福祉士の合格率は100%と社会福祉士とのダブル合格率も100%と好成績を収めた。本年度は、初めての留学生が国家試験を受験するため、コロナ禍ではあるがリモートを活用した支援を行い合格を目標にサポートしている。

ゼミ担当では、2～4年生までを担当し、ゼミの希望者も1番多い。4年生の卒論、就活のサポートも順調に行え、現時点で全員が就職内定が決定した。

研究活動に関しては、医療的ケアの教育プログラム開発の研究について採択されていたものを、長崎国際大学論叢に原著論文として投稿した。また、本年度の学会発表は、日本看護福祉学会と日本介護福祉学会での発表を行った。そして、共著総説として、海外ジャーナル誌に1本、論文として、長崎国際大学社会福祉学会研究紀要に「介護実習における実習施設と介護福祉士養成施設との連携における現状」の原著論文を投稿した。来年度の課題は、現在、本学の博士課程で研究している質・量的研究の結果を踏まえ、早くに博士課程論文の執筆を完成させたいと考えている。

大学運営に関しては、就職委員として、本年度コロナ禍ではあったが、webによる合同企業説明会を行い学生に早期からの就職活動の周知を行った。昨年度の就職率98%を維持できるように、キャリアセンターやマイナビと協働しながら学生へのキャリア教育を実施してきた。

委員活動では、子ども食堂では、子ども食堂では、本年度はコロナ禍で、当初企画していた子ども食堂の開催が出来なかった。しかし、長崎県内の子ども食堂ネットワークに参画し、研修や会議に参加し学生とフィードバックを行い、来年度のプランに活かしていきたい。

地域活動としては、昨年度より引き続き佐世保市の介護保険認定審査委員会で認定審査委員としての活動、平戸社協での講師依頼、専門学校や刑務所内での医療的ケアの講師依頼等を受け積極的に地域貢献を行った。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 浦 秀美

1. 教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができるような学生、常に自己研鑽できるような学生を育てることです。そのために理論と実践とを統合することを大切にしています。社会で必要とされている福祉人材、福祉そのものの向上に寄与出来るような人材を育てます。また、一人ひとりの福祉観(介護観)を培うために、自分自身で考え、相談し、判断できる人材を育成することも大切にしています。

よって、授業では原理・原則を学ぶことを主軸にしつつも最新の福祉現場の現状についての情報伝達、情報共有を重視しています。

学生には、国家試験合格のための知識に留まらず、専門職として必要な実践に役立つ福祉に関する知識を学んでほしいと考えています。また、自分自身の身近な存在に必要な福祉の知識や技術を学んでほしいとも考えています。そのために、国家試験の出題基準に則した知識や技術を網羅した講義や演習、そして、現在の福祉現場の実情に即した福祉に関する知識や技術を取り入れた授業方法を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
生活支援技術ⅡA	15 / 15 (前期)	1	12	②⑨⑪
介護実習Ⅰ	180 / 180 (通年)	4	19	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	90 / 90 (通年)	2	7	①⑫
介護実習Ⅲ	180 / 180 (通年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(介護)	5 / 15 (通年)	1	3	①④⑪
生活支援技術ⅢA	15 / 15 (前期)	1	19	②⑨⑩⑪
生活支援技術ⅣB	15 / 15 (後期)	1	19	①④⑧
介護過程ⅡA	15 / 15 (前期)	1	8	④⑤⑨
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	④⑤⑥⑩⑪⑫
介護福祉論	15 / 15 (前期)	2	61	②⑨⑩
介護援助技術	15 / 15 (前期)	1	7	②⑩
生活支援技術ⅢB	15 / 15 (後期)	1	18	②⑨⑩⑪
介護過程Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	19	④⑨
介護過程ⅢA	15 / 15 (前期)	1	3	①④⑤⑥⑪
介護概論ⅠA	15 / 15 (前期)	2	14	④⑨⑩
介護概論ⅠB	4 / 15 (後期)	2	10	④⑤

生活支援技術ⅣA	15 / 15 (前期)	1	20	①④⑧⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑦⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①②④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
介護総合演習 I	30 / 30 (通年)	2	19	⑤⑥⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度はこれまで実施していなかった生活支援技術ⅢB・ⅣB(演習科目)を授業アンケートにエントリーし、評価を受けた。新型コロナウイルス感染症に伴い、対面授業が行えず、遠隔授業にて展開した科目の評価であった。

自身、演習科目の遠隔授業の難しさを感じながら展開するとともに、遠隔授業でどこまで習熟度をキープできるかについても熟考した展開を試みた。学生の理解度の深化や興味を持たせる工夫を行ったつもりではいたが、実際の評価は平均値を下回る項目もあり、大変反省をしているところである。

評価が下回ったことについて、分析を試みた。一つに学生自身が、演習によって知識や技術を獲得できたという実感を得るはずであるが、演習そのものができなかったため、その実感が少なかったのかもしれない。また二つに、自由記述に関しては概ね良好のコメントが得られていることから、遠隔授業での学修内容によって身につけることができた知識や技術があるということを教員としてもっと意図的に学生に伝えていく必要があったのかもしれない。

次年度も遠隔授業がいくつかの科目で展開される様相であるため、演習科目の遠隔授業の効果を高めていくための授業展開について検討を続けていきたいと考えている。また、遠隔授業で使用する機材、媒体について、自分のものにできないままに展開した授業もあったことから、今後はさらにツールを使いこなすことにも尽力していきたい。さらに、演習科目を遠隔にて実施された他の先生方にも知恵をもらい、自身の授業に援用できるものについての模索も行っていきたいと考えている。次年度もこれまでに実施していない授業科目についてのアンケート実施を試み、教材研究を行っていききたい。授業アンケートを実施し結果を蓄積していききたいと考える。

授業アンケートについて、前期は介護福祉論と教養セミナーA、後期は介護概論 I Bと介護過程 I を実施した。科目により評価はまちまちであったが、殆どの科目における項目は全体平均値を上回る結果を得る事ができた。

教養セミナーAを除く科目は、介護福祉士や社会福祉士の受験資格取得に必要な科目であり、教育内容が厚生労働省から決められている。その教育内容に沿って展開をしていくことを毎年続けている。

こと介護については、ネガティブなイメージが先行していると学生の反応やコメントから把握できたため、意識を変えるための正しい情報提供や理解が深まるための展開を常に意識しながら授業を行った。本の照会や福祉用具を実物として見せるなど工夫は最大限行った。

介護福祉論受講学生には大変熱心な学生も複数おり、書籍の貸出、返却時の意見交換など充実した時間を学生、教員共に過ごすことができた。

介護概論 I Bでは学外授業が展開されたため、その後の学生の修学意欲を左右した。意欲に働きかける言葉や姿勢を大切にしていきたい。そして、時間が許す限り学生と関わる時間を設けていきたいと考える。

授業を通して、望んでいることを伝える学生もいた。授業内容に直接的には関係がないことも素直に伝えてくれたことに感謝したい。望んでいることに対し、情報を収集し伝えた。伝えるだけでなく、資格取得を望んでいる場合は過去問題なども渡し、モチベーションを維持するアプローチを意識した。

受講学生の思いを捉え、モチベーションを維持・向上させるためにもっと尽力したい。そして、モチベーションを維持・向上した学生がさらにステップアップしていく行動に移っていることをともに喜び、さらにサポートしていきたいと考える。

また、授業に取り組む際に常に意識したことがあった。自分自身の課題を計画的に達成していくことができないと、他者の課題を抽出すること、立案すること、実行すること、評価すること、修正すること、再実行することは難しい」というメッセージだった。

介護福祉士資格取得等に必要な知識・技術を今後も学生が分かりやすい形で伝えていく努力を継続させたい。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専修学校	食介護論	1/15(後期)	なし	なし
長崎県立佐世保東翔高等学校	介護職員初任者研修「人間と社会・介護」	4/111(後期)	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者介護
 介護福祉
 介護福祉教育
 介護福祉士養成教育
 福祉分野における現場実習と教育
 福祉分野における人材養成(育成)
 認知症ケアモデル
 介護人材育成
 介護福祉士に対するオンライン研修システム
 介護実習における実習施設と養成校との連携

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	0	1	1	30万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2021/共著/2020年7月25日/中央法規出版株式会社/16・19・111

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 介護実習施設と介護福祉士養成施設との連携における現状-介護実習指導者と実習生、介護福祉士養成施設の専任教員との三者間連携の重要性-/2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要第4号/19-35/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
 なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎県地域医療介護総合確保基金事業補助金(介護福祉士養成施設入学者確保支援事業)	長崎県	2020年7月31日～2021年3月31日	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開教員の選出 ・授業公開アンケートの集約、国際観光学科との調整 ・授業公開意見交換会運営 ・2020年度自己点検・評価委員会総括に関する評価、意見 ・後期授業アンケート結果に関する面談への陪席(記録係)
社会福祉学科運営委員会	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学科会議に関する事項:①資料確認 ②審議事項・報告事項の精査 ・審議・報告事項に係る教員への連絡調整 ・社会福祉学科教員から提出されたシラバスチェック
介護福祉クラス委員会	委員長(教務に関する主任者)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉クラス運営に関する事項:①介護福祉クラス辞退学生(意思確認面談、辞退届の集約、審議事項としての上程) ②介護実習(実習先の開拓に関する進捗も含めた報告、施設・機関とのやりとりの情報共有としての報告、学内実習運用案の上程) ③長崎県の事業(介護人材確保事業)に関する審議事項の上程 ④介護福祉士養成施設協会(四年制大学連絡協議会も含む)より配信されたメールの共有化 ⑤①～④に係る委員会運営 ⑥定例学科会議・臨時学科会議への審議事項上程 ・教務課や入試・募集センター、総務課等他セクションとの連携
国家試験合格支援委員会(介護福祉士部会)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が使用する教室の環境整備 ・学生のニーズの把握 ・ニーズに沿った応対(面談等) ・介護福祉士養成施設協会による学力評価試験に係る手続き業務
実習委員会(介護実習部会)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要綱の見直し(他資格の要綱に係る情報収集も含む) ・実習時期、期間の検討 ・社会福祉学科助手研究室との連携 ・教務課との連携

保育士講座委員会	委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開催に向けた委員会会議の審議・検討事項の精査 ・委員会開催日程調整と連絡 ・講座開催に向けた各セクションとの連携(学科長、教務課等) ・受講募集に係る業務(manaba配信、希望学生の集約、manabaコース新設依頼) ・講座担当教員への報告、連絡、相談
教養セミナー部会	部会員	<ul style="list-style-type: none"> ・部会への参画 ・部会による検討事項についての発議
卒業研究部会	部会員	<ul style="list-style-type: none"> ・部会への参画 ・部会による検討事項についての発議

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
将来構想ワーキング	構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士養成課程における状況報告 ・コース制に向けた検討 ・モデルカリキュラム策定 ・カリキュラム改変に係る履修の手引き明示事項の検討 ・議事録作成

(3)課外活動の指導等

なし

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

①外部での活動時、随時広報活動を行った

- ・介護人材確保事業(長崎県)会議時
- ・介護福祉士養成施設入学者確保支援事業(長崎県)による高校出張説明会時
- ・介護実習新規開拓訪問時
- ・介護実習巡回時
- ・介護実習指導者講習会時
- ・介護人材確保事業時
- ・非常勤講師時
- ・高大連携事業時
- ・出張講義時 等々

②介護福祉士養成施設入学者確保支援事業によるクリアファイル作成時広報活動を内容に盛り込んだ

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度 介護福祉士実習指導者講習会	2020年10月17日 (土) 2020年11月21日 (土)	社会福祉会館(諫早市)	公益社団法人日本介護福祉士会・一般社団法人長崎県介護福祉士会
キャリア教育セミナー事業	2020年9月23日(水)	長崎県立西彼農業高等学校	長崎県立西彼農業高等学校

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
特別養護老人ホームサンホーム江上入所検討委員会	委員	2020年4月1日～ 2021年3月31日	社会福祉法人江寿会 特別養護老人ホームサンホーム江上
令和2年度介護人材育成・確保対策地域連絡協議会	委員	2016年10月7日～現在に至る	長崎県、一般社団法人長崎県介護福祉士会
日本介護福祉学会	評議員	2019年9月～2022年総会開催まで	日本介護福祉学会
社会福祉法人 あい里	理事	2020年4月1日～ 2021年3月31日まで (2021年4月からも継続予定)	社会福祉法人 あい里

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・長崎県地域医療介護総合確保基金事業(長崎県介護福祉士養成施設入学者確保支援事業)
- ・介護職員のメンタルヘルスに関する取り組み
- ・介護現場におけるスーパービジョンに関する取り組み

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

<教育(学生との関わり)>

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学生との関わりは対面と遠隔にて行うこととなった。特に一年生との関わりは細心の注意を払い、遠隔を余儀なくされる場合はこまめにオンラインや電話、メールといった媒体を活用して関わることを意識して展開した。

ゼミとしては1年生・4年生を担当し、1年生ゼミには配慮を要する学生が所属をしていたが、配慮事項に準拠しながらの関わりを展開できたと評価している。4年生ゼミについては、退職教員から引き継いだ学生であったことから、関係性構築から取り組み、最終的には報告・連絡・相談を密に行う関係性に至ることができた。

介護福祉クラス所属学生については1年生～4年生をまんべんなく関わることに留意した。遠隔授業によるコミュニケーションを図る難しさや情報提供の過不足については課題もあったが、課題解決に向けて努力は行えた。介護福祉士の業務の性質上、遠隔授業での実技指導は困難を要したが、映像媒体をフル活用し展開をしてみたところ、一定数の学生からではあるが分かりやすさ、学びやすさの評価を受けた。情報発信、その情報を学生がいかに関覧し、行動に移すことができるようになるか、行動に移すまでの関わりを次年度以降も充実させたい。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響で、夏期の介護実習は学外実習が展開できたが、冬期の

介護実習は学内実習となり、現在も実施中である。本来は学外での実習を通し、介護技術や現場を知ることになるが、学内実習もその要素を取り入れながら展開をしている。実習指導者をはじめとした実習受け入れ施設と教員、そして学生との連携を密に図り、日々より良いものに変更させていきながらの展開を意識している。教育と現場実践が基盤となること、大変さもありながら展開することで、実習施設との距離、関係性がさらに近づいたこと、そのことが「連携」という形として学生に伝わりつつあることは有益であったと考える。

今年度は遠隔授業の展開について考えさせられる年であった。活用媒体の検討や媒体の使いこなし、学生への分かりやすさの追求等、媒体活用のスキル獲得の大変さも感じながら、十分ではないが獲得できた。また、当初予定では学外授業として訪問予定であった学修先への訪問が新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。その代替としてzoomを活用した学修を展開したが、新たな教授法のヒントを得ることができた。ゲストスピーカーの入構に限らず、オンライン媒体を活用した授業展開についての教材研究にも取り組んでいきたいと考える。

介護福祉士国家試験対策についても、委員長からの協力要請を受ける中で実行できた。学生が協力し合うことのできる人的環境の整備などにある程度ではあるが寄与できたと評価している。それぞれの学生が抱えているニーズに対応しながら、しかし学生の自主性も涵養できるような教育を継続したいと考えている。

<研究>

ほぼ毎年、研究面については不足が残る結果となっていたが、今年度は研究面も充実することができたと考えている。ここ数年コンスタントに取り組んでいる模擬試験問題の作成・出版することもできた。さらに、学科共同研究費による介護講演会を前年度末に実施したが、その活動を研究論文として執筆することができた。共著として、長崎国際大学教育基盤センター紀要へ投稿し、原著論文として刊行できたことは意義深い。

また、科研費申請についても研究領域が共通した教員と連携を密に図り、萌芽研究として1本(研究分担者として)、基盤Cとして1本(研究代表者)として申請することができた。採択の可否については結果を待つところであるが、自身として申請にこぎつけることができたことはかなり評価をしている。科研費の申請に伴い、自身の研究力の不足、基礎研究の不足を可視化できた。また、基礎研究の重要性と研究への取り組み意欲の向上は、科研費申請が行えたからこそ派生したものと考えている。他方、教育面でもふれたが、新型コロナウイルス感染症に伴う社会貢献として介護実習施設をはじめとした施設・事業所との関わりが増えた一年でもあったが、この機会を研究の機会と捉え、研究機関でもある大学と現場実践の在り方を連動させた研究をこれからもさらに深化させていきたいと考えている。さらに、社会貢献面として後述するが、現場の困りごとに大学教員(研究者)として関わり、課題解決アプローチの在り方についてを整理、分析をしていきたい。そして結果を研究として発展させ展開していきたいと考えている。

<社会貢献>

これまで継続している介護人材確保事業や、介護福祉士養成施設入学者確保支援事業、介護福

社士実習指導者講習会、各種委員に加え、今年度からは障害者事業所の理事や高齢者施設からの相談への対応、スーパーバイズなど新たな事柄にも携わり始めることができた。大学から施設・事業所へアウトリーチしていきながら関係性を深化させつつ、介護福祉実践の場の魅力向上やモチベーション向上などに寄与できたらと考えている。

また、介護福祉士養成施設入学者確保支援事業の一環で高校出張説明会を担うこともあり、高校生へ介護福祉学を学ぶことの重要性を伝える機会もある。また、今年度からは佐世保東翔高等学校の非常勤を担当したり、西彼農業高等学校への出張講義を担当するなど、高校生と高校教諭と関わる機会が増えつつある。授業を担当するなかで、高校教諭との関係性も生まれ、来年度にも出張講義(複数回を希望くださっている)という形で高校生とかかわる機会も継続できそうである。本学社会福祉学科への入学者数増加促進のために尽力するとともに、介護福祉士資格を取得した後のビジョン、ステップアップの可能性などを伝え続けていきたいと考えている。また、伝える機会そのものを自身で作っていくためにも外部資金などを獲得する努力を行いたい。

さらに、社会貢献面においては卒業生との関係性の継続の重要性を痛感した一年であった。長崎県庁に勤務している卒業生からのリクルート事業への協力依頼や長崎県社会福祉協議会に勤務している卒業生からの出張セミナーの依頼、リクルートに関する情報提供相談なども受けている。本格的な展開は来年度からとなるが、社会で活躍している卒業生との関係も大切にしながら、大学での勤務16年目を迎えた者としての立ち振る舞い、役割を考えていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 Virág Viktor

1. 教育理念

文化や性の多様性の尊重を含めて、グローバル時代において有資格の対人援助人材に求められる専門的な力量を身につけるために、個別にあるいは他者と共に主体的に取り組む機会を提供する教育に従事する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	6	①②③④⑥⑦⑧⑩ ⑪⑫
相談援助の理論と方法ⅠA	15 / 15 (前期)	2	69	①④⑨⑪
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	4	①④⑤⑥⑩⑫
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	4	①④⑤⑥⑩⑫
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①④⑤⑥⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	5	①④⑥⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑦⑩⑪⑫
社会福祉調査論	8 / 15 (前期)	2	58	①④⑨⑪
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	49	①④⑧⑨⑪⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	2 / 15 (後期)	1	47	①④⑧⑨⑪⑫
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	9	②④⑤⑥⑩
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	9	②④⑤⑥⑩
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	②④⑩
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	10	②④⑤⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	15	②④⑤⑦⑩⑪⑫
相談援助演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	13	②④⑤⑦⑩⑪⑫
相談援助の理論と方法ⅡA	15 / 15 (前期)	2	67	①④⑨⑪
相談援助の理論と方法ⅡB	15 / 15 (後期)	2	51	①④⑨⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前年度までの経験、学生の成績、授業評価の結果を踏まえ、今年度中は引き続き国家試験に向け

た定期的な学習を促す教育を強化した。遠隔教育により、例年より体系的な授業運営ができた。

第一に、講義科目(相談援助の理論と方法、社会福祉調査論など)において、小テスト(遠隔教育のため練習問題のみ)と過去問題を解く及び解説する時間をさらに増やし、manabaや動画などのICTの積極的な活用に加え、単語帳の課題提出を引き続き実施した。成績上の成果はみられ、国家試験の得点向上を期待できる。授業評価によれば、動画を自分のペース何回もみれることもあり、学生の理解度と満足度は改善した。

続いて、実技科目(相談援助演習、相談援助実習指導など)では、教員が発言する時間をさらに減らし、グループ(遠隔教育では個人)で取り組めるPBLの機会を多く提供し、昨年度に導入した対人援助ロールプレイ場面の動画撮影の実技課題を深化させたが、感染防止(フェイスシールドや仕切り)のため、効果に限界があった。但し、学生の専門職を目指す者としての成長と社会的なスキルの向上がみられ、現場実習の改善につながることを期待できる。

最後に、ゼミ科目(専門基礎演習、専門演習、卒業研究)において、遠隔と対面を問わず、頻繁に学生に問いかけるようにし、個別の主体性の発揮と共に、お互いを知る機会と団結力の形成の効果がみられ、学習の成果物(卒業論文、レポート、発表、その他の課題)のレベルが上がった。

(3)他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4)その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士講座	2	28	3/12*2
社会福祉士国家試験合格支援	22	48	6/25・6/5・9/16・9/25*2・ 10/23・10/26・10/27・ 11/9*2・11/10・11/16・ 11/17・11/30・12/18・ 12/21・1/7*2・1/14・1/18・ 1/21・1/25
ゼミ生指導	23	19	7/13・7/30・7/31・8/5・8/6・ 8/16・9/4・9/16・9/29・ 10/1・10/2・10/5・10/7・ 10/9*3・10/15・11/11・ 11/12・11/30・12/3・12/15・ 12/24
実習生指導	4	6	6/23・11/10・11/26・12/10

3. 研究活動

(1)研究テーマ

- ① 多様性に配慮したソーシャルワーク
- ② 国際社会福祉

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	1	3	12	5	155万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

Global Agenda for Social Work and Social Development: Strengthening Recognition of the Importance of Human Relationships/共著/2020/7/International Federation of Social Workers /65-92

COVID-19 and Social Work: A Collection of Country Reports/共著/2020/7/COVID-19 Social Work Research Forum/82-92

新型コロナウイルスとソーシャルワーク: 国別報告集/編集/2020/11/新型コロナウイルス ソーシャルワーク研究フォーラム/145-181

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Japan in Face of the COVID-19 Pandemic: Issues and Concerns for Social Work / 2020/9 / International Journal of Innovation, Creativity and Change (Volume 14, Issue 6) /196-213/共著 /論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

服薬とソーシャルワークの役割: アメリカの専門職界における関連動向から/2020/4/エーザイ・慶應義塾大学認知症イノベーションラボ研究会

LGBT等を巡る諸課題とソーシャルワーク対応: 国際基準と実践原則/2020/7/日本ソーシャルワーク学会第37回大会

ソーシャルワーク学生の進路傾向と国家資格取得の比較研究: 希望及び決定進路と国家試験受験及び合格状況を中心に/2020/8/日本社会福祉教育学会第16回研究大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
アジア地域のコミュニティを基盤とするソーシャルワーク実践モデルの構築(分担申請)	科研費	2020-21年度	0万円
コロナ禍でのソーシャルワーカー養成教育の本質を考える(分担申請)	科研費	2021-23年度	未定万円
Research on Models of Social Work and Curriculum Development for Global Social Work(分担継続)	国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)	2019-20年度	5万円

多文化共生ケアシステムにおけるグローバル・ソーシャルワークの理論的・実証的研究(分担継続)	科研費	2019-21年度	50万円
International Study on the Development of Indigenous Social Work Models (代表継続)	科研費	2019-22年度	90万円
COVID 19 禍におけるアジア太平洋地域におけるネットワークの強化、キャパシティビルディングとアジア型ソーシャルワーク養成の研修プログラム開発及びシンポジウム開催事業(企画委員)	社会福祉振興・試験センター	2020年度	0万円
新たな社会福祉士養成カリキュラムにおける教員研修の在り方における調査研究事業(長崎県担当)	厚生労働省	2020年度	0万円
研究開発タイプ産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出:認知症対策としての研究開発状況に関する調査(研究協力継続)	国立研究開発法人日本医療開発機構(AMED)	2017-26年度	10万円
九州西部地域大学・短期大学連合産官学連携プラットフォーム子ども育成」専門委員会共同研究(分担継続)	文部科学省	2018-20年度	0万円
子ども家庭支援コミュニティの形成と維持に関する研究(分担)	日本社会事業大学	2020年度	0万円
学生ベンチャー起業支援:アントレプレナー醸成向上の挑戦(分担)	長崎国際大学	2020年度	0万円
長崎県・佐世保市:IR誘致の研究～長崎国際大学IR研究会～(分担)	長崎国際大学	2020年度	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学:地域連携センター	委員	地域連携活動の展開
全学:IRセンター	委員	学科との調整
学部:学部教授会担当委員会	委員	教授会の議題案の作成
学科:卒業生等連携委員会	委員長	同窓会名簿更新と20周年記念事業の準備

学科: 専門基礎演習部会	部会長	2年生の主任
学科: 実習委員会(社会福祉士部会)	委員	記録係
学科: 相談援助演習部会	部会員	相談援助演習ⅡABの主担当
学科: 教育内容向上委員会	委員	なし
学科: 専門演習部会	部会員	なし
学科: 卒業研究部会	部会員	なし
学科: 国家試験合格支援委員会(社会福祉士部会)	委員	委員長補助
学科: 福祉作文コンクール委員会	委員	感染防止のため中止
学科: 海外ソーシャルワーク研修担当委員会	委員長	感染防止のため中止
学科: ソ教連担当委員会(社会福祉士)	委員	厚生労働省助成の研修事業の長崎県代表
上海大学受け入れ担当委員会	委員	感染防止のため中止

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
全学: 私立大学等改革総合支援事業対応策検討ワーキンググループ	メンバー	タイプ3において子ども育成専門委員会の担当
学科: 将来構想ワーキンググループ	座長	新カリキュラムの作成とコース制の導入
学科: オープンキャンパスワーキンググループ	メンバー	第2回の主担当
学科: 授業開始課題検討チーム(授業・国家試験対策)	メンバー	遠隔教育等の検討

(3) 課外活動の指導等

- ① 世界ソーシャルワークデー挨拶動画作成の学生補助

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 第2回オープンキャンパス総括/8/10/長崎国際大学
 ② 第3回オープンキャンパス新カリキュラム及びコース制導入紹介/8/23/長崎国際大学
 ③ 世界ソーシャルワークデー挨拶動画国内外配信/3/17/オンライン
 ④ 第4回オープンキャンパス学科紹介/3/20/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外

2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	9

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
世界におけるコロナ禍へのソーシャルワーク対応:IASSWとIFSWのニュース・アイテムの動向から	10/17	オンライン	ソーシャルワーク研究会
福祉現場の同僚として迎える外国人介護職員の文化的な理解	1/23	オンライン	国際ソーシャルワーク研究会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)理事会	理事	2017/9～2021/11	選挙当選
日本ソーシャルワーカー連盟国際委員会	委員	2015/6～現在	委員長
日本ソーシャルワーカー協会国際委員会	委員会	2018/8～現在	会長
日本社会事業大学社会事業研究書	共同研究員	2015/4～現在	所長
日本社会福祉教育学会査読委員会	委員	2018/11～現在	会長
相川書房「ソーシャルワーク研究」編集委員会	協力員	2019/4～現在	委員長
日本ソーシャルワーク学会理事会(研究推進第2委員会・国際委員会)	理事(委員)	2020/7～現在	会長
日本社会福祉学会国際学術交流促進委員	委員	2020/4～現在	委員長

国際ソーシャルワーク研究会役員会	役員	2017/3～現在	会長
------------------	----	-----------	----

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①7月「ソーシャルワーク及び社会開発のためのグローバルアジェンダ (IASSW・ICSW・IFSW)」アジア太平洋地域コーディネーター
- ②11月「新型コロナウイルスとソーシャルワーク: 国別報告集」監訳
- ③1月「コミュニティにねざしたふくし人材を養成する研修」長崎県担当

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
世界ソーシャルワークデー挨拶動画	学生の動画作成の補助(長崎ウエスレヤン大学と共同)	3/16	九州西部地域大学・短期大学連合産官学連携プラットフォーム
COVID-19 and Social Work: A Collection of Country Reports	日本報告の執筆(共同)	2020/7	COVID-19 Social Work Research Forum
Global Agenda for Social Work and Social Development: Strengthening Recognition of the Importance of Human Relationships	アジア太平洋地域報告の執筆(共同)	2020/7	International Federation of Social Workers
新型コロナウイルスとソーシャルワーク: 国別報告集	スペース・スリランカ・スウェーデン・イギリス報告の監訳	2020/11	新型コロナウイルスソーシャルワーク研究フォーラム
世界におけるコロナ禍へのソーシャルワーク対応: IASSWとIFSWのニュース・アイテムの動向から	講演	10/17	ソーシャルワーク研究会

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
Social Solidarity in the New Global Agenda and the COVID-19 Pandemic in East Asia: What Can Social Work Education Do?	東アジア小地域シンポジウム(日中韓)の企画担当(コーディネーター・司会・モデレーター)	3/26	オンライン	アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

①長崎国際大学ベストティーチャー賞(ベストプラクティス部門)

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育活動】遠隔教育の影響はあったが、ほぼ全ての科目において通常、あるいは授業運営が対面よりも体系的に行えたため、むしろそれ以上の水準を実現でき、授業評価が向上した。引き続き、教育理念に基づいて授業を行ない、アクティブラーニングを多く取り入れている。例年通り、資格取得を強く意識し、国家試験の過去問題や試験科目の単語帳を含む定期的な学習機会を提供した。そのため、学生の知識等の修得に改善がみられ、国家試験や実習の達成向上を期待できる。オンデマンドのオンライン動画配信型の授業の場合、何回も視聴できるため、難易度に関する不満の声は減少した。授業外教育の機会は微減したが、ゼミ生や実習生の個別対応と、社会福祉士や保育士の国家試験に向けた教育をZoom等でも充実して行うことができた。今後も方向性を維持して継続していく。

【研究活動】研究成果は単著及び共著、監訳などの著書に専念したため、論文件数は例年より少なかったが、国際学術誌への論文掲載も含んだ。学会発表は、単独・共同を含む国際学会の受理発表3件が大会の延期等により次年度にずれ込んだが、国内発表はオンライン大会を活用し、通常通りできた。助成研究は、引き続き単独・分担を含めて複数の事業に取り組み、新たな申請もあった。なお、学術界における活動の一環として、国内外の学会等の理事・委員等を務めている活動が増えている。全体的に、多様性に配慮したソーシャルワークに関する国際的な研究を継続している。

【大学運営活動】全学と学科も委員会等の役割が増えた。特に、長を務めている委員会とワーキンググループでは、卒業生等名簿の更新と20周年企画の準備、また新しい学科カリキュラムの作成とコース制の導入においてリーダーシップをとり、進めた。本学と長崎ウエスレヤン大学の学生と国際的な課外活動に従事した。その成果物も含めて、広報活動においてはオープンキャンパスの役割に加え、国内外に情報発信を行っている。

【社会活動】オンラインの依頼講演を引き受けるとともに、業界団体の委員等の立場で、アジア太平洋地域及び国際社会に貢献する各種事業に関わっており、特にソーシャルワーク及び社会開発のグローバルアジェンダのアジア太平洋地域報告と、新型コロナウイルス感染症に関する日本報告の執筆及び他国報告の監訳を進めてきた。また、国家資格者養成カリキュラムの見直しに伴う福祉人材の全国的な研修事業の長崎県担当を務めた。

【国際交流】国内外の専門業界では、特に国際情報の国内発信と、日本の情報の国際発信に関する企画の実施に貢献している。国際的には、アジア太平洋地域を中心にリージョナル及びグローバルな業界団体において活動に従事している。国内では、学会や専門職団体において国際関係の委員を務めている。なお、学生が作成した動画の国際配信を行っている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 木下 一雄

1. 教育理念

自分自身、精神保健福祉士としての現場での実務経験が10年以上あり4か所の精神科病院で医療相談室長として現場を取りまとめてきた実務家教員として、実務を通して大学教育としてのエビデンスをどう伝えていけるかについて、社会福祉・援助系の実践者としての強みを生かした学生教育をして行きたいです。

その思いを今後学生に対して伝えていき、学生が卒業後胸を張って将来現場で活躍し、患者さんや家族の方々に地域で自分らしく生活をしていけるような関わりを作り出せる、信頼できるソーシャルワーカーを一人でも多く育てていきたいと思っております。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 / 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
精神保健福祉援助実習B	60 / 75 (通年)	5	9	①②③⑧
精神保健福祉援助演習(専門)A	15 / 15 (前期)	1	9	①②③⑧
精神保健福祉援助演習(基礎)	15 / 15 (前期)	1	14	①②③⑧
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	15 / 15 (前期)	2	15	①②③⑧
社会福祉総合演習(福祉共通)	7 / 15 (前期)	1	49	①②③
社会福祉総合演習(福祉専門)	7 / 15 (後期)	1	47	①②③
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	15 / 15 (前期)	2	7	①②③
精神保健福祉援助演習(専門)B	15 / 15 (後期)	1	9	①②③
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	9	①②③⑧
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	9	①②③
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	15 / 15 (後期)	2	10	①②③
精神保健A	15 / 15 (前期)	2	39	①②③⑧
精神保健B	15 / 15 (後期)	2	29	①②③
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①②③⑦⑧
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①②③
社会福祉総合演習(精神)	7 / 15 (前期)	1	9	①②③
障害者福祉論	15 / 15 (前期)	2	69	①②③
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB	15 / 15 (後期)	2	13	①②③

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A	15 / 15 (前期)	2	19	①②③
精神保健福祉援助実習指導 I	15 / 15 (後期)	1	10	①②③⑥⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
精神保健特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

コロナ禍の中、遠隔授業等で学生のニーズをつかむことが難しかったため、これからはさらに双方向のやり取りを重視して、理解度をあげていこうと思います。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

第1にこれからの精神障害者の自立支援に関する研究においては、道北地域における精神障害者の支援の歴史や経緯を分析し、北海道道北地域ならでの問題点や過疎地域が抱えている精神障害者の支援体制の課題等を明確化させ、今後の人口減少社会の中での精神保健福祉支援体制や精神医療支援体制の構築をどう整備し、その先にある精神障害者の自立支援のあるべき支援についての研究を進めていきました。人口減少による過疎化の進行による支援体制の弱体化による社会資源不足により、精神障害者の自立支援がさらに困難になることが予想され、今後押し寄せる人口減少社会に対して圧倒的な社会資源不足を補いつつ、今まで暮らしていた地域で、精神障害を抱えている方々が自分らしく生活していくことが出来る地域社会環境を構築するためにはどのような方法が考えられるかについて考察していきました。

第2に過疎地域における精神障害者の就労支援に関する研究においては、過疎地域における精神障害者社会復帰施設に関する調査・研究を行い、過疎地域が抱えている精神障害者の支援体制の課題等の聞き取りを行っていきました。インタビュー調査を行い、地域が抱えている精神障害者の就労支援の定着における課題等を明確化させ、就労支援モデルのあるべき形について調査を進めていきました。この研究の意義としては、どのように社会資源や人的なマンパワーが不足している過疎地域において精神障害者の就労支援を支えていくかについて研究していくことにより、入院施設な

どの既存の医療システムに依存することなく、精神障害者の方々が自らの手によって自立していくことができる支援の在り方について提案をすることができるのではないかと考えている。精神障害者の生活について考えていくためには就労支援が重要になるのではないかと考え、就労支援について考察しております。

第3に農福連携における就労支援に関する研究においては、北海道十勝地域を中心とするフィールド調査や芽室町の九神ファームめむろの施設実践によるインタビュー調査、アンケート調査、農業と福祉や就労実践における先行研究や参考資料、過去に調査や収集した調資料を活用し、精神障害者が置かれている現状を分析し、就労を通じて今後の人生の居場所づくりをし、人生の可能性を見出すことが出来る具体的な方策についての方法論についての調査研究を進めていく。精神障害者にとっての自分らしく生活していくことが出来る居場所とは何かについて研究を進めております。

着任後の研究計画としては、現在の研究テーマの一つである、少子高齢化と急速な過疎化が進行した日本において、これからコミュニティの可能性をいかに引き出し、精神障害者の方々が地域で自立した生活が営めるのかについて研究を進めていこうと思っております。継続して、北海道の十勝地方の調査を継続していきながら、九州地方の調査も進めて地域性を比較検討していきます。

九州地方も北海道と同じように鉄道の廃線の危機を迎えている地域が多数散見されており、限界集落等過疎地域が抱えている人口減少による地域の崩壊がもたらす人とのつながりの希薄化に対して、精神障害者のリハビリテーションの視点からコミュニティは今後どのようなあり方を目指していけばいいのかを研究してまいります。

博士論文も来年提出を考えており、テーマも農業と福祉を活用する北海道十勝地方でのこれからの障害者就労システムといったテーマで進めておりますので、このテーマはさらに掘り下げてまいります。

これからの日本が抱え続けていく地域課題や問題点に関して、精神障害者の支援体制の課題等を明確化させ、地域で暮らせる喜びや地域で暮らすために必要なこと、なぜ地域で暮らす必要があるかなど、今後の人口減少社会を走り続ける日本社会の福祉支援体制や医療支援体制の構築をどう整備して行くかを真剣にかつ全力で学生とともに精神科リハビリテーションを通じて地域福祉の未来を開拓していく研究をしてまいります。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	1	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 詳解‘20年版 公認心理師 過去問題集/共著/令和2年4月20日 /成美堂出版 /全頁
 pp223 (担当箇所)第2回解答解説 P31-P73 [ページ中15問作成担当]第1回北海道追試 解答
 解説 P95-P137 [ページ中18問作成担当]第1回解答解説 P159-P202[ページ中11問作成担当]

社会福祉士養成 基本テキスト 第1巻 クライアント理解と援助技術 /共著/令和2年4月 /日
 総研出版/全頁pp256 (担当箇所)第12章 人の理解 第6節 精神疾患 pp170-176

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 視覚障害者の新しい生活様式についての一考察ー長崎新聞のインタビューから見えてきたことー
 /令和2年10月/立教大学コミュニティ福祉学会誌/8/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
 コロナ禍で見えてきたスクールカウンセリングの現状と課題 -これからの生徒たちの心の不安とどう
 関わっていくのか-/令和3年2月/日本福祉文化学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター	委員	委員として、研究発表会に向けた準備や自身の論文執筆を積極的に進めてまいりました。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席

2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県教育局 長崎県立佐世保北中学校・高等学校 スクールカウンセラー	令和2年9月より 毎週火曜日 週1回	長崎県立佐世保北中学校・高等学校	長崎県教育委員会 教育局
長崎県立佐世保東翔高等学校 非常勤講師	令和2年12月から 令和3年2月の4回	長崎県立佐世保東翔高等学校	長崎県立佐世保東翔高等学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
平戸市障害者自立支援協議会 委員	年3回	平戸市役所	市役所
平戸市障害者計画及び障害福祉計画策定委員会 委員	年3回	平戸市役所	市役所
佐世保市障害者自立支援協議会 委員	年4回	佐世保市役所	市役所
佐世保市成年後見制度計画策定委員会 委員	年4回	佐世保市役所	市役所

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

市役所による障害関連部会の委員や病院における心理カウンセラーとしての経験を基に、スクールカウンセラーとして小・中学校に派遣されております。勤務校においては、地域にある施設や病院における職員に対するスーパービジョンやリカレント教育、地元の小・中・高校からさまざまな現場における福祉実践に関する講義依頼が多数ありました。現場経験をもとに地域貢献に力を入れてまいりました。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

自分自身、精神保健福祉士としての現場での実務経験が10年以上あり4か所の精神科病院で医療相談室長として現場を取りまとめてきた実務家教員として、実務を通して大学教育としてのエビデンスをどう伝えていけるかについて、社会福祉・援助系の実践者としての強みを生かした学生教育をして行きたいです。その思いを今後学生に対して伝えていき、学生が卒業後胸を張って将来現場で活躍し、患者さんや家族の方々に地域で自分らしく生活をしていけるような関わりを作り出せる、信頼できるソーシャルワーカーを一人でも多く育てていきたいと思っております。他のハローワークや医療観察病棟等での非常勤職員対応等、豊富な実務経験と2か所の病院で医療相談室の室長(責任者)を経験しているので、現場実践に精通した精神保健福祉士の養成に役立つ研究を今後は力を注いでいきたいと思っております。(教育と現場と双方の経験を生かしていきたいです)

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 中村 美穂

1. 教育理念

私の教育理念は、学生が主体的に学ぶ環境を提供し、自分で自分の生きる道を選び決める過程を支援することと考えております。

大学という場における教育目標の一つは、学生の社会的自立であるとされます。それゆえ、学生には、学生自らが積極的に学ぶ姿勢を重視します。それは、学生が社会人として、目前の課題を自分で解決しようとする熱意や努力につながると思うからです。

また、学究活動においては、学生が自分の意思を自由に表現することや、学生同士が相互に交流を図ることを重視します。社会生活を営む上では、自分を取り巻く周囲、さらには自分自身と上手く付き合っていく必要があると思うからです。

そのため、学生が人のこころの仕組みやそれに基づくさまざまな働きなどを学び知ると同時に、それを活かして、大学生活における人間関係上の課題などを現実的に解決できるよう手助けする必要があると考えております。

以上より、私は、心理学(臨床心理学)という専門領域を活用し、次の2点について、真剣に取り組みたいと思います。

(1) 私の専門領域である心理学、臨床心理学、学校臨床心理学などの分野における知見を広く紹介し、学生が人のこころの仕組みやそれに基づくさまざまな働きなどを学び知ることができるよう支援します。

(2) 人の心理などに関する課題について実践的に取り組む学究活動を提供し、学生が大学生活などでの現実的な課題を解決することができるよう支援します。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
心理学	15 / 15 (前期)	2	108	②③⑦⑩
心理学	15 / 15 (後期)	2	24	②③⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学生が「心理学」の授業を通して、多様な知識や情報を獲得し、それらをもとに、学生自ら考え判断し主体的に行動することを促すような授業を心がけて実践しました。今年度は、オンライン形式での授業であったため、教員と学生、学生と学生との相互方向的なコミュニケーションを活用して行うアクティブラーニングを展開することが難しく感じました。しかしながら、毎回の授業において、学生にレポートやアンケートに取り組んでもらうことにより、常に学生にとって有益な授業の在り方を模索し、学生に対するフィードバックを行うなどの工夫を行うことができました。来年度は今年度に比べて、学生相互のコミュニケーションを一層促進するような授業を組み立て、学生が自分の意見も、他者の意見も大事にして、人と関わり人の心に寄り添うことのできるような人材育成に取り組みたいと考えております。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

研究においては、学校現場での臨床実践にもとづいて、児童生徒や学生にとって有益な心理支援を行うための教師と学校へのコンサルテーションに着目し研究しております。なぜならば、限られた学校臨床心理活動を有効活用して児童生徒や学生の問題や状況を見立て、その緊急度に応じて効率的かつ効果的な問題解決を目指すためには、教師個人と教師集団、学校組織へのコンサルテーション体制の構築が必要不可欠であると考えているからです。

学校現場における臨床心理士は、コンサルテーションの原則を踏まえつつも、臨床心理士と教師双方の専門性を活かして児童生徒や学生の支援方針・方法などについて話し合い協力して動くという「協働的なコンサルテーション・モデル」が有用であると考えており、その体制づくりに努めているところです。

それゆえ、現在は、教員を兼任する学生相談担当の専任カウンセラーであることを踏まえて、学生相談に関する研究活動を推し進めております。また、①学生はカウンセラーと教職員との連携・協働に何を求めているのか、②教職員はカウンセラーとの連携・協働に何を求め、コンサルタントとしてのカウンセラーにどのような役割や機能を期待しているのかを把握する必要があると考えられたため、「学生にとって有益な学生相談カウンセラーと教職員との連携・協働体制の構築」を研究課題として推し進めたいと考えております。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
「自分のために生きたい」と語れるようになった大学生の自我形成の支援過程/2020/6/学生
相談研究/12頁-22頁/単著/事例研究
「抑うつとそれに伴う自殺念慮を呈した高校生のスクールカウンセリング」/2021/3/九州大学総
合臨床心理研究/71頁-78頁/単著/事例研究
「学生相談室の利用しやすさを促進する情報提供についての検討」/2021/3/長崎国際大学論
叢/17頁～27頁/単著/研究ノート

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	社会福祉学科教員および学生相談担当の専任カウンセラーとして参加し、運営委員共に、学生支援・学生相談活動について協議している。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
女性研究者支援相談員	女性研究者支援相談員	研究者である教員、特に女性を対象として、さまざまな相談を受けている。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度教員免許状更新講習「子どもの学びを支えるスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働」	8月25日	長崎国際大学	長崎教員免許状更新講習連絡協議会
ストレスマネジメント教育	7月10日	九州文化学園小中学校	九州文化学園小中学校学校長

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本学着任後3年目を迎えて、教員を兼務する学生相談室専任カウンセラーとしての業務を担当しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、従来とは異なる学生生活を余儀なくされている学生の心身の健康、ひいては生命を守る学生支援・学生相談の在り方やその工夫を考えさせられる一年間となりました。

まず、教育活動においては、オンライン形式で行った「心理学」の講義で、いかにしてアクティブラーニングを取り入れ、授業に対する学生の動機づけを行うかが重要であると感じました。

また、学生支援・学生相談活動においては、日々学生の電話やZoomでの心理面接に従事するなかで、改めて学生の生の声に耳を傾けることの大切さを痛感し、そのような学生の生の声にもとづいて、学生にとって有益な学生支援・学生相談の在り方を検討するなど研究活動の重要性についても考えるようになっております。今年度は、単著論文で3本採択され、初めて科研費に応募することができました。研究者としての新たな活動の仕方やその方向性が見えてまいりましたので、引き続き、学内外における心理臨床活動とそれにもとづく研究活動を実行してまいりたいと思います。

さらに、大学運営面においては、CHサポートセンター運営委員会の運営委員として、来年度以降のコロナ禍での学生支援・学生相談の在り方を模索し、学生にとって有益な支援の仕方やその工夫を模索してまいりたいと思います。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 野田 健

1. 教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に込めていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	4	⑦⑫
就労支援サービス論	8 / 8 (前期)	1	60	①⑥⑨
福祉の哲学・倫理	15 / 15 (後期)	2	16	①②⑤
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	⑥⑦⑫
福祉経営論	15 / 15 (前期)	2	65	②⑫
相談援助の基盤と専門職A	15 / 15 (前期)	2	54	①⑥⑨
相談援助の基盤と専門職B	11 / 15 (後期)	2	49	①⑥⑨
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	5	①④⑥
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	4	①④⑤⑥⑦
相談援助実習指導Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	8	①⑤⑥⑦
社会福祉総合演習(福祉共通)	15 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	15 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨⑫

相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	⑤⑥⑦
福祉と緩和ケア	4 / 15 (前期)	1.5	37	②⑦
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	13	⑤⑥⑦
専門演習A	15 / 15 (前期)	1	6	⑥⑫
専門演習B	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑫
学際連携研究	3 / 15 (前期)	2	254	⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
福祉政策経営特講	15 / 15 (前期)	2/1・2年	5
介護福祉特講	12 / 15 (前期)	2/1・2年	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

後期の授業のうち、「相談援助の基盤と専門職B」「福祉の哲学・倫理」「相談援助演習Ⅲ」「相談援助実習指導Ⅰ」の授業評価を受け、いずれも5点満点中概ね4.5点程度の点数であった。

今年度はコロナの影響で、遠隔授業を導入することとなったため、前期中は慣れずに悪戦苦闘したが、後期にはある一定の遠隔授業スタイルが確立できた。先に列挙した科目の最初2科目は遠隔授業(YouTube配信とmanaba)、後の2科目は対面授業の方法で行ったが、どちらも評価に差が出なかったため、遠隔授業スタイルの確立が授業評価に表れたのだと考える。

来年度は、遠隔授業と対面授業の両方を駆使して行うハイブリッド授業が求められることが予想される。については、今年度の経験を元に、新たな授業案を作成していくように努めたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国家試験合格支援(追加学修時間、国試付添等)	60	46	通年

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①介護福祉士の専門職性の検証
- ②社会福祉士養成における実習指導のあり方に関する研究
- ③ボランティア経験による学生の成長に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
介護福祉士の「対象」についての理論的研究—介護福祉士の専門職性を明らかにするために—/
2021年3月/長崎国際大学社会福祉学会紀要第17号/10頁～22頁
/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
介護支援専門員に対するサポートの現状と課題に関する文献的研究—Community of Practiceの適
応可能性に着目して—/2020年10月/第28回日本介護福祉学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	学生生活を守るために、委員会通常業務(会議運営等)を行ったほか、NIUオンラインフェス2020や卒業アルバムに関する活動に尽力し、大学運営に貢献した。
学科運営委員会(学科内)	委員	学科の安定・発展的運営を図るために、委員で学科会議前に集まって議題を整理していき、適切な運営に貢献した。
介護福祉クラス委員会(学科内)	委員	介護福祉クラスの運営に関してアドバイザー的な立場で会議に参加し、適切な運営に貢献した。

実習委員会(学科内)	社会福祉士部会 委員	相談援助実習の適切な運営のために、業務の実施、会議の運営等を行い、学生が実習を無事に終えることに貢献した。
国家試験合格支援委員会(学科内)	委員長	学生が国家試験に合格するために、委員会メンバーと様々な取り組みを立案・実施し、学生の国家試験合格率向上に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①第1回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラム運営担当(2020年7月26日)
- ②第2回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラムの学科紹介・学生発表の一部を担当(2020年8月10日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
介護職員初任者研修(介護過程の基礎知識、総合生活支援技術演習)	2020年9月1日～ 2021年3月15日	平戸市社会福祉協議会(通信)	平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ① 仏教看護・ビハーラ学会の編集委員会編集作業委員(通年)
- ② 県北に在住・在籍している相談員の集いへのサポート(通年)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

活動全般を4つの項目に分けて自己評価すると、下記のとおりになる。なお、評価はS～D評価の5段階で表すことにする。

- ① 教育活動:A評価:授業アンケート結果はないが、水準を下げないようできる限りの努力をし、国試合格支援も尽力したため、一定の成果を上げたと考える。
- ② 研究活動:C評価:3月1日現在、論文投稿(単著)1本(予定)、共同研究発表(連名)1本であり、一定の評価ができる。

- ③社会貢献:B評価今年度は、平戸市社会福祉協議会での介護職員初任者研修の講師の1つだけであったが、コロナ禍の影響もあり、やむを得ないと判断する。
- ④大学運営:A評価:行事・委員会等にはほぼ参加し、適切に業務を行ったものの、学生委員会の副委員長の役割は十分果たしておらず、反省が残る。
- ⑤国家試験:B評価:コロナの影響で、企画したプログラムがリモート(遠隔)になることが多く、学生の満足度につながっていない点もあったが、一定の役割は果たした。なお、この項目については合格率次第のところもある。

今年度のプラス面は、大学業務全体の理解度が上がり、自分自身の業務だけでなく他の業務にも目を向け、時にサポートに入ったことが挙げられる。一方、マイナス面は、はじめて行った大学院教育や遠隔授業で教育力の低さが露呈したこと、ならびに業務量を言い訳に研究活動をおろそかにするよ
うな精神的弱さが表出したことが挙げられる。来年度はこの反省を活かし、教育・研究・大学業務の3
つをうまく行っていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 久田 貴幸

1. 教育理念

私の教育理念は、自ら考え行動できる能力と他者との関係を円滑に行うための能力を持った学生を育てることである。そのために、学生の能力や特性に合わせた問題提起や取り組みがしやすい環境を整え、学生同士の関係性を観察したうえで調整を図ることを大切にしている。また、社会に必要とされている福祉専門職像を満たしたうえで、さらなる専門性の向上に寄与できる人材を育てることに力を注いでいる。そのために、専門的知識と技術を実践に活かすための思考について、常に意識させるよう促している。

学生には、今後の医療・福祉の中核的人材としてリーダーシップが取れる能力を身に付け、福祉のクリエイティブな側面を知ってもらうことで、社会福祉の専門職として社会における福祉の増進・進展に寄与できる人材になるための基礎を作り上げてほしいと考えている。そのために、学内における学習を基礎として、地域社会とのかかわりの中で自身の立ち位置をしっかりと認識できる人になってもらうための促しを常に心がけて学生と関わっている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
介護実習Ⅰ	180 / 180 (通 年)	4	19	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	90 / 90 (通 年)	2	7	①⑫
介護実習Ⅲ	180 / 180 (通 年)	4	3	④⑤⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(介護)	5 / 15 (通 年)	1	3	①④⑪
キャリア開発Ⅱ	15 / 15 (前 期)	2	313	①②⑩
介護概論ⅢB	15 / 15 (後 期)	2	3	④⑤⑦
専門演習A	15 / 15 (前 期)	1	8	①②④⑥⑦⑩
専門演習B	15 / 15 (後 期)	1	7	①④⑤⑥⑩⑫
介護概論ⅡB	15 / 15 (後 期)	2	19	④⑩
専門基礎演習A	15 / 15 (前 期)	1	8	②④⑤⑥⑩⑫
専門基礎演習B	15 / 15 (後 期)	1	7	①②④⑤⑥⑩
介護総合演習Ⅲ	15 / 15 (前 期)	1	3	①②④⑥⑩⑫
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後 期)	1	14	②⑤⑥⑦⑩
介護過程ⅢB	15 / 15 (前 期)	1	3	④⑤⑩
福祉と緩和ケア	4 / 15 (前 期)	1.5	37	②⑦⑩
介護概論ⅠB	15 / 15 (後 期)	2	10	①②③④⑤⑧⑨⑩

生活支援技術ⅣA	15 / 15 (前期)	1	20	①④⑧⑨
レクリエーション活動援助法	15 / 15 (後期)	2	4	④⑥⑦⑩
介護概論ⅡA	15 / 15 (前期)	2	20	④⑦⑩
生活支援技術ⅠB	7 / 15 (後期)	1	10	④⑩⑪
障がい者スポーツ	2 / 15 (後期)	2	30	②④⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
認知症の理解Ⅰ	5 / 15 (前期)	2	43	①⑨⑩
介護過程ⅡB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③⑩
生活支援技術ⅠA	15 / 15 (前期)	1	14	④⑩
コミュニケーション技術	15 / 15 (前期)	1	19	④⑤⑦
認知症の理解Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	28	①②⑩
地域の理解と連携	3 / 15 (後期)	2	236	②④⑥⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

これまでに経験をしたことがない状況下での教育活動を行うにあたり、機器やソフトウェアの取り扱いに苦慮しながらなんとか実施できたというレベルであった。その事は、学生対し実施された授業アンケートにおいて、対面授業のアンケート結果と比較し、対面のそれは大幅に評価が低いことに如実に表れているように感じる。今後は、オンライン授業に対する教材研究および方法の確立が重要であり、学生との双方向性や学生同士のつながりを強く感じられるような仕組みを作るなど、学習効果を向上させる取り組みは継続して行う必要があると痛感した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 介護福祉士の資格制度における政策的研究
- 介護福祉士養成における介護実習の教育的課題に関する

- 介護現場におけるスーパービジョンに関する研究
- 介護現場における教育プログラムの開発に関する研究
- 福祉人材のメンタルヘルスに関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	2	2	26万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
介護実習施設と介護福祉士養成施設との連携における現状-介護実習指導者と実習生、介護福祉士養成施設の専任教員との三者間連携の重要性-/2021/3/長崎国際大学教育基盤センター
紀要/19頁～35頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護職員育成プログラム作成及び実施に関する研究	医療法人 秋桜会	2020年4月～2021年3月	10万円
世界ソーシャルワークデー挨拶動画作成及び国際発信への参加	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム	2020年4月～2021年3月	16万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生委員会の委員として、定例及び臨時の学生委員会に参加した。今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策に関する学生への補助金に関する審議が行われた。

ボランティアセンター運営委員会	副委員長	今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策のため、ボランティアセンター運営委員会として9月末まではボランティアに参加させないことを決定した。また、災害時の避難所開設に伴う必要物品の購入に関して、佐世保市防災危機管理局都やり取りを行い、必要物品のリスト化を行った。その際に、発電機の必要性について提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	教育基盤センター運営委員会においては、教養セミナーワーキンググループの活動や学科内の入学前教育に関する準備を行った。
社会福祉学科 介護クラス委員会	委員	介護福祉クラスの円滑な運営のため、不定期に行われる会議に参加した。
社会福祉学科 実習委員会	介護実習部会長	社会福祉学科で行われる実習委員会において介護福祉クラスの代表として参加した。また、介護福祉クラス2～3年生の介護実習の円滑な実施のため教員及び実習施設との連携を行った。
社会福祉学科 教養セミナー部会	部会長	教養セミナー部会長として、1年生オリエンテーションから、教養セミナーA/Bの円滑な実施と、1年生への連絡・調整を行った。
社会福祉学科 学生支援委員会	委員	社会福祉学科内のSAに関する検討や学生支援に関して必要な検討に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

① 駅伝部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 長崎県介護福祉士養成施設入学者確保支援事業

以下の活動を長崎県より補助金を得て実施した

- ・長崎新聞社発行「NR9月号 介護の資格が取れる学校特集」への記事の投稿
- ・介護福祉士養成施設 出張説明会
 - 10月2日(金) 諫早農業高校
 - 11月19日(木) 島原中央高校
 - 12月7日(月) 長崎女子商業高校
 - 3月15日(月) 壱岐商業高校
- ・オリジナルクリアファイルの作成と配布

② 進路ガイダンス参加 / 3月3日(水) / 五島海陽高校

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
介護福祉士実習指導者講習会 (実習指導の理論と実際)	2020年10月17日 (土)	諫早市社会福祉会 館	長崎県介護福祉士 会
介護福祉士実習指導者講習会 (スーパービジョンの意義と活用 及び学生理解)	2020年11月21日 (土)	諫早市社会福祉会 館	長崎県介護福祉士 会
長崎県介護福祉士会主催 中 堅職員向け介護職員研修会 (人材育成～リーダーの心構え・ スーパービジョン～)	2020年10月13日 (火)	ZOOMを活用したオ ンライン研修 ①14:30～15:30 ②19:00～20:00	長崎県介護福祉士 会(長崎県委託事 業)
長崎県介護福祉士会主催 中 堅職員向け介護職員研修会 (人材育成～リーダーの心構え・ コーチング～)	2020年11月10日 (火)	ZOOMを活用したオ ンライン研修 ①14:30～15:30 ②19:00～20:00	長崎県介護福祉士 会(長崎県委託事 業)

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉協議会	委員	2019年度～(現在に 至る)	佐世保市長
佐世保市地域包括支援セン ター運営会等議会	委員	2019年度～(現在に 至る)	佐世保市長
佐世保市生活支援体制整備事 業業務受託事業者の審査等に 係る委員会	委員	2020年度～(現在に 至る)	佐世保市長

特別養護老人ホームサンホーム 江上 入所判定委員会外部委員	委員	2019年度～(現在に至る)	特別養護老人ホームサンホーム江上 施設長
----------------------------------	----	----------------	-------------------------

- (3) 社会貢献・ボランティア活動等
なし

6. 国際交流

- (1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

- (2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

- (3) その他特記すべき活動
なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症による様々な制限の中で、自身にできることを模索しながら過ごしてきた。これまでは移動距離や時間のために断念してきた活動や遠隔地及び離島における活動に関して、実行できる可能性を見出すことができたという意味では、意義深い1年であったように感じる。

①教育活動

これまでに経験をしたことがない状況下での教育活動を行うにあたり、機器やソフトウェアの取り扱いに苦慮しながらなんとか実施できたというレベルであった。その事は、学生対し実施された授業アンケートにおいて、対面授業のアンケート結果と比較し、対面のそれは大幅に評価が低いことに如実に表れているように感じる。今後は、オンライン授業に対する教材研究および方法の確立が重要であり、学生との双方向性や学生同士のつながりを強く感じられるような仕組みを作るなど、学習効果を向上させる取り組みは継続して行う必要があると痛感した。

②研究活動

今年度は、2本の原著論文を執筆する予定であったが、自身の業務の都合で1本のみ執筆となったことは、反省すべきことであった。2本目の論文を計画的に進めておけば、執筆は可能であったと考える。その中でも、介護福祉クラスの専任教員3名で原著論文を執筆することができたことは評価できることであるとする。しかも、その論文において、第一著者として他の先生方との打ち合わせや役割分担等を実施しながら執筆できたことは、とても有意義なものであったと考える。

また、執筆できなかった論文についても、研究倫理審査をクリアしており、研究対象者へのインタビュー及び分析と考察までは行えており、介護現場に対してフィードバックできているというプロセスは評価に値するのではないかと考えている。フィードバックを行った介護現場からも一定の評価をいただくことができたことから、執筆までは至らなかったものの研究としては、社会の福祉の増進に寄与できたと感じる。

③社会貢献活動

外部からの講師依頼については、新型コロナウイルス感染症に対する十分な配慮の下で実施することができた。長崎県介護福祉士会からの対面での行使活動2件と、同会からのオンライン研修会2件を実施することができた。ここでも、今後のオンライン研修会の可能性を感じることもできた。

また、介護の現場においてもオンライン研修会を4回実施することができた。それに加え、オンラインでの現場の介護福祉士に対する個別指導等も実施することができたことは、今後の研究活動にとって有意義であったように感じる。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 講師 氏名 丸山 貴志

1. 教育理念

本学の理念でもあるホスピタリティの探求・実現は社会福祉の人材育成において重要な内容である。

この教育理念のもと、ソーシャルワーカーには欠かせない多職種連携を積極的に進め、その中心的な立場でリーダーシップが取れ、そのうえで協調性があり協働できる人材育成を行う。

またいかなることにも積極的に自ら学び、解決策を導き出す力を身につけることができる人材の育成に取り組んでいきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
精神保健福祉援助実習B	75 / 75 (通年)	5	9	⑫
精神保健福祉論	15 / 15 (前期)	2	42	②④
精神保健福祉援助演習(基礎)	15 / 15 (前期)	1	14	①④⑥⑦
相談援助の理論と方法 I B	15 / 15 (後期)	2	60	①④⑩
精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	8 / 15 (前期)	2	15	①②④⑨⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	49	⑧⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	2 / 15 (後期)	1	47	⑧⑨
相談援助演習ⅢA	15 / 15 (前期)	1	11	⑤⑥⑦
相談援助演習 I	15 / 15 (後期)	1	7	⑤⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	9	④⑥⑦⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	9	⑫
相談援助演習ⅢB	15 / 15 (後期)	1	10	⑤⑥⑦
相談援助演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	17	④⑤⑥⑦⑩
相談援助演習ⅡB	15 / 15 (後期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
障がい者スポーツ	2 / 15 (後期)	2	30	⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
社会福祉総合演習(精神)	8 / 15 (前期)	1	9	①⑥
権利擁護と成年後見論	15 / 15 (後期)	2	59	①④
精神医学B	15 / 15 (後期)	2	37	①④⑨
精神保健福祉援助実習指導 I	15 / 15 (後期)	1	10	①⑥⑦
精神医学A	15 / 15 (前期)	2	41	①④⑤⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「相談援助演習ⅢB」の授業アンケートでは「授業の内容について」「授業の方法について」および「授業に対する理解・満足度」においては、回答した学生すべて「良い」という評価である4または5であった。その結果については評価できる点である。授業内において自らの現場経験を例に挙げるなどし、具体的な演習を取り入れたことが高評価につながったと考える。

その他、講義科目については今年度は遠隔授業となったため学生の理解度を図ることができず、実施した定期試験でとても成績がいい学生と極端に得点できない学生がみられた。遠隔授業の進め方、学生との意見交換による学修の理解度を確認する方法などは今後の改善点である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策追加学修	29	9	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・チーム医療の中のソーシャルワーカーの役割
- ・認知症医療連携について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
複合慢性疾患連携パスの開発を目指した熊本県荒尾市における医療介護連携の促進/2021年1

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生委員会の通常業務に加え、学生委員会内駐車場・駐輪場小委員会委員でも委員として活動した。
国家試験合格支援委員会(学科内)	委員	精神保健福祉士の課程を担当しつつも社会福祉士の科目も担当しているため双方の国家試験合格支援に貢献した。
実習委員会(学科内)	委員	年度途中より精神保健福祉士養成課程における実習を担当し円滑な運用に貢献した。
倫理委員会(学科内)	委員	年度途中から担当し倫理審査に貢献した。
就職委員会(学科内)	委員	学科の就職説明会で委員として運営に携わり学生の就職活動の支援に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
将来構想ワーキンググループ(学科内)	委員	次年度以降の新カリキュラム運営について精神保健福祉士養成課程の担当としてコース制の導入に貢献した。

(3) 課外活動の指導等

子ども食堂を担当、学生による諸活動をサポート。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

第2回オープンキャンパスにおいて社会福祉学科のプログラムを担当

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域自立支援協議会	副委員長	令和2年6月1日から 令和3年9月30日	佐世保市

(3)社会貢献・ボランティア活動等

以前から関わっている認知症ケアに関するコミュニティサイト「認知症ちえのわネット」の運営と研究協力を行っている。

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面について、自らの経験や実際の現場の状況を示す授業を多く取り入れ、内容を工夫することで、分かりやすい授業に心掛けた。授業アンケートの結果では高い評価を得ることができた。教養セミナー担当学生は、抱える課題がそれぞれにあり、個別の対応でサポートを行った。国家試験合格支援では、精神保健福祉士受験予定者の担当として精力的に合格支援に取り組んだ。また社会福祉士だけ受験する学生に対しても個別で指導するなど合格支援に貢献した。

研究活動については共著の実践報告がジャーナルに掲載されたが、件数はそれのみで少なかった。コロナ禍の影響もあり対外的に研究活動が出来なかったことも影響すると考える。そのため来年度は積極的な研究活動に取り組みたい。

大学運営については、元々任命されていた委員会活動の他、年度途中から実習委員会や倫理委員会などにも参加し学科の運営に貢献した。また学生のメンタル的な相談を個別で受け、自身の専門性を活かした視点でサポートを行った。次年度より施行される新カリキュラムとコース制編成のための将来構想ワーキンググループでは、主にメンタルヘルスコースの編成、新カリキュラムの内容(シラバス)作成作業に従事し来年度以降のコース制導入に貢献した。

社会活動としては佐世保市の地域自立支援協議会にて副委員長に任命された。実施される議会の会議には欠席することなく参加し、より良い議会運営に貢献した。来年度も引き続き委員を務めることとなっているので運営には積極的に協力し貢献したいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 助教 氏名 中村 尚生

1. 教育理念

高等教育における教育理念および目標、ならびにそれらを達成するための方法論について述べる。

第一に、大学生が修学生活において自主性や創造性を涵養できるような教育実践をおこないたいと考える。特に、私の専門である障がい児・者の心の有り様や、その奥深さについて履修生や指導学生に教授したいと考える。それにあたっては、旧来の受動型の授業ではなく、アクティブラーニングによる教育形態を積極的に実践する。そのなかで、教員としてさまざまな問題提起をおこない、履修生などには主体的・能動的に学びの場に参加することを奨励したい。

次は、大学生の立場に立った教育を心掛けることである。具体的には、きめ細やかにコミュニケーションを図り、修学意欲を高めたいと考える。大学という高等教育機関における目標の最たるものが、学生の知的好奇心を刺激し、引き出すことであると考え。そのために、学生たちが“知的好奇心を持って学問を楽しく修める”きっかけを与えることは、大学教員の大きな役目だと認識している。また、よりよい修学環境を保障するために、障がい学生への合理的配慮を怠らぬように留意する。

次は、多様な価値観に開かれた人材育成をおこなうことである。それにあたっては、障がいの有無や、国籍、世代の違いによらない多様な交流の中で、多様な価値観に触れ、既存の価値体系を再構築する機会を提供できるように、教員としても障がいに対する理解啓発を積極的におこなうことや、留学生との国際交流や世代の異なる地域の人々との交流を学生たちに奨励したい。

ここからは、教員として大学生をどのように支援するか、について述べる。

まず何より、学生の心に寄り添った支援を心掛けたいと考える。具体的には、臨床心理学を専門とする教員として、専門性を活かした知識、技法を用いながら、心理的な危機状態にある学生や障がいを有する学生に対して支援をきめ細やかにおこなっていきたいと考える。さらには、共生社会の実現やそれに伴う法整備が加速度的に推進される社会的状況と照らし合わせ、これまでの臨床実践の経験を活かし、合理的配慮の提供に伴う関係調整やコーディネーターとしての機能を果たしたい。また、セーフティーネットとしての居場所作り活動を実践し、心理的な危機を抱える学生のゲートキーパーとしての役割を果たしたいと考える。さらには、ネットワークや相談資源を活用し、教員間で日頃より情報交換をおこなったり、キャンパスライフヘルスサポートセンターなどの技術職員との多職種連携を図ったり、緊密な連携や協力体制を構築し、より効果的な支援を提供できるように尽力したい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
児童心理学	15 / 15 (後期)	2	61	①②④⑦⑨⑩
社会福祉総合演習(福祉共通)	1 / 15 (前期)	1	49	⑨
社会福祉総合演習(福祉専門)	1 / 15 (後期)	1	47	⑨
臨床心理学	15 / 15 (前期)	1.5	100	①②④⑤⑦⑨⑩⑪ ⑫
臨床心理学	15 / 15 (後期)	2	45	①②⑦⑨⑩⑫
ホスピタリティ概論	2 / 15 (前期)	2	460	①⑦⑩⑪⑫
心理学	15 / 15 (後期)	2	81	①②⑥⑦⑨⑩⑪⑫
キャリア開発 I	5 / 15 (後期)	2	258	①②⑦⑩⑪⑫
障がい者スポーツ	3 / 15 (後期)	2	30	①②⑦⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①②⑤⑥⑦⑧⑩⑪ ⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑩ ⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学生による授業アンケートの結果を受けて、授業の改善点を以下に述べる。

- ・アンケートの回答・回収率を高めることによって、学生からのフィードバックにもとづく教育効果の評価や、授業改善を的確におこなうことが必要である。
- ・授業満足度に比べ、授業理解度の数値が相対的に低いため、受講生が学習到達度をその都度確認できるような課題設定をおこなう。
- ・授業内容によっては(カウンセリング技法など)、体験的に学修することで、より高い教育効果が得られると考えられるため、対面での授業を実施することも検討すべきである。実際アンケートの自由記述では、対面での授業希望が挙がっていた。
- ・授業外学修時間(予習および復習)が少ないと推測される。そのため、予習および復習の内容を具体的に提示することや、積極的に反転学習を取り入れ、これまで以上に授業外と授業内の学修の連続性を意識した授業設計をおこなう。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

『重度・重複障がい児の主体的な反応を促進する関わり手の在り方に関する研究』

重度・重複障がい児は、意志や感情を表現するための手段が限られている。重度・重複障がい児とコミュニケーションをおこなう際には、関わり手が障がい児の意志や感情といった心理的な状態を適切に把握することが重要である。ビデオ分析という手法を用いて、関わり手と重度・重複障がい児の相互作用の様相を分析したり、生理的指標(心拍や動脈血酸素飽和度)を用いて重度・重複障がい児の応答性について多角的に検討している。そのなかで、重度・重複障がい児と関わり手のより良いコミュニケーションの在り方を探究している。

『発達障がい児をもつ保護者への集団心理療法プログラムの開発に関する研究』

発達障がい児をもつ保護者を支援したり、サポートしたりするには、専門家がおこなうものだけではなく、仲間が相互に支え合う形がある。その一形態に親の会があり、そこでは、保護者同士が日常生活や社会資源に関する情報を交換したり、発達段階や発達特性に基づいて子どもへの理解を深めたり、そのなかで受容され、承認されたりすることによって、親子関係の改善や、親としての発達プロセスに肯定的な作用をもたらす。これらの親の会の意義が果たせるようなプログラムの開発や、支援者のグループファシリテートの在り方に関心を寄せ、実践研究をおこなっている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

遠隔授業におけるピア・サポート用支援マニュアル(Ver.1) / 共著 / 2020年3月 / 学校法人九州文
化学園長崎国際大学キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター / 共著:1頁～6頁、12項～32項

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

障がい児を育てる親を対象としたセルフヘルプグループに関する研究の動向と課題—対人援助専門職によるコラボレーションのあり方を踏まえた検討/2021年3月/長崎国際大学社会福祉学会研究紀要/1頁～9頁/単著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	委員として、合理的配慮を申請している学生や身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備できるよう努めた。また、社会福祉学科のピア・サポート担当教員として、遠隔授業下におけるピア・サポートのシステム及び支援体制を新たに構築した。また、遠隔授業下におけるピア・サポート活動は新たな試みであったため、サポーターの学生と利用学生の関係調整を細やかにおこない、円滑なサポート活動が提供されるよう努めた。
教育基盤センター運営委員会	委員	委員として学習支援部門の担当者を務めた。今年度は遠隔授業の状況に不応状態を呈する学生を、ゼミ指導教員と連携を図りながら個別の学習支援をおこなった。また、同センターの編集委員として紀要の査読および編集作業に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
就学支援委員会	委員	修学上の懸念がある学生の対応や支援についてケースカンファレンスをおこない、心理学の専門職の立場から助言をおこなった。

オープンキャンパスワーキンググループ	委員	2020年8月10日に開催された第2回のオープンキャンパスでは、企画・運営にかかわる中心的役割を担い、大学および学科の広報活動に貢献した。
国家試験合格支援委員会 (社会福祉士部会)	委員	受験予定の学生に対して個別面談を実施し、学修方法や生活管理に対する助言及びメンタルサポートをおこなった。また、社会福祉総合演習や追加学修時間外に学生からの質問に個別に対応し、心理学に関する知識を教授し、国家試験合格支援に寄与した。

(3) 課外活動の指導等

特記事項なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

入試・募集委員と来年度の学科内の催事・イベントの企画・実施に関する会議をおこない、学科の広報活動の活性化に助力した。/2020年12月15日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
4	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
市町要保護児童対策地域協議会体制強化のための研修会	2020年11月6日(金)	佐世保市中央保健センターすこやかプラザ	長崎県福祉保健部 こども家庭課

佐世保市児童相談所職員研修会	2020年11月6日(金)	佐世保こども・女性・障害者支援センター	長崎県福祉保健部 こども家庭課
市町要保護児童対策地域協議会体制強化のための研修会	2020年11月13日(金)	長崎こども・女性・障害者支援センター	長崎県福祉保健部 こども家庭課
長崎市児童相談所職員研修会	2020年11月13日(金)	長崎こども・女性・障害者支援センター	長崎県福祉保健部 こども家庭課

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院人間環境学府 附属総合臨床心理センター	研究員	2020年～現在に至る	九州大学大学院人間環境学府

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①2020年9月14日 佐世保市自閉症児の子育て親育ちの会(にじいろサロン)の開催に向けた助言をおこない、2021年より専門家の立場から、定期的に学習会や親の会に参画する予定である。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特記事項なし。

7. 受賞等

特記事項なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、十分な教材研究をおこなった上で授業を展開した。担当した講義系科目は、すべてオンデマンド形式の遠隔授業によって実施したため、履修学生の注意集中の持続をねらって、視聴覚教材を多く取り入れ、具体的なコンテンツから知識を構築できるように留意した。加えて、授業の性質上、リアルタイムで履修学生の反応が確認できなかったため、使用するスライド資料には過不足なく情報を提示することや、解説時に極力指示語を用いないように留意し、かつ、口頭で

解説している箇所とスライドの情報を一致させやすいように、一度にすべての情報を提示しないように配慮した。また、毎回の授業後には履修学生にアンケートを実施し、学生のフィードバックに基づき授業内容及び方法の改善を図るよう心掛けた。しかし、授業アンケートの結果、授業満足度と授業理解度の数値に乖離があったため、学修到達度を適切に確認できるような授業課題の設定や、授業外学修と授業内学修の連続性を意識した授業展開をおこなうことが必要だと考えられる。

また、ゼミ指導学生とは継続的な面談を実施し、遠隔授業下における離学・怠学を予防し、その結果前期のゼミ指導学生のGPA平均は2.92であった。

大学運営活動においては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員および学科内のピア・サポート担当教員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら、合理的配慮を申請する学生や身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。特に、遠隔授業下におけるピア・サポートのシステムおよび支援体制を新たに構築し、ピア・サポート利用学生とピア・サポーターである学生の関係調整を細やかにおこない、円滑なサポート活動が提供されるよう努めた。

研究活動においては、2021年度科学研究費助成事業(基盤研究C)への応募及び査読制度のある学術雑誌に1報以上の学術論文を投稿することができた。投稿した論文は、原著論文として採択された。また、学長裁量経費採択プロジェクトとして、一貫した基準のもと利用学生に効果的なピア・サポートが提供されるように、遠隔授業におけるピア・サポートの方法をマニュアル化し、ハンドブックを作成した。

社会貢献活動においては、児童福祉分野における研修会の講師を4回務め、児童相談所職員などの支援技術向上の一助になったと考えられる。また、佐世保市自閉症児の子育て親育ちの会(にじいろサロン)の今年度の実施に向けた助言をおこない、実際的な活動の開催および運営を支援することができた。

今年度の振り返りを踏まえ、来年度の取り組みについて述べる。

まず、研究活動が十分におこなえなかったことは今後改善すべき点であると考えられる。来年度は精力的に研究活動をおこない、査読付き学術雑誌へ2報以上の論文投稿及び1回以上の学会発表をおこなえるよう鋭意努める。

また来年度は、学部学科を中心とする大学運営にさらなる尽力ができるよう精進する所存である。特に教育(国家資格合格率の向上など)・研究・社会貢献を通じて本学の社会福祉学科の存在を社会に発信し、社会福祉の社会的意義を高め、大学の知名度の向上および学科定員の充足に貢献したいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 助教 氏名 斐 孝承

1. 教育理念

私の教育理念は、個々の個性を尊重しながら、他人と協力(連携)できるグローバル人材を目指し、ソーシャルワーカーとして、暖かい心を持ち、なおかつ科学的なアプローチも可能な人材を養うことである。

この理念を実現するために、①多様性を知る&理解すること、②お互いが分かり合うこと(コミュニケーション力を高める)、③社会現状(課題など)を、的確に分析し、社会福祉を探究すること、④実習教育を徹底的に行うことを教育方針に入れている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
相談援助実習	90 / 90 (通年)	4	5	⑦⑫
高齢者福祉論	15 / 15 (後期)	2	55	①②④⑤⑨
相談援助実習の理解	15 / 15 (前期)	1	52	①②④⑥⑦⑪
加齢と障害に関する理解	5 / 15 (後期)	2	11	①②③⑫
相談援助実習指導ⅡA	15 / 15 (前期)	1	5	①④⑤⑥⑪
相談援助実習指導ⅡB	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
社会福祉調査論	8 / 15 (前期)	2	58	①④⑤⑦⑨
社会福祉総合演習(福祉共通)	2 / 15 (前期)	1	49	⑫
社会福祉総合演習(福祉専門)	2 / 15 (後期)	1	47	①⑪⑫
専門基礎演習A	15 / 15 (前期)	1	9	⑤⑥
専門基礎演習B	15 / 15 (後期)	1	9	⑤⑥
相談援助演習Ⅰ	15 / 15 (後期)	1	7	⑤⑥⑦
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①②④⑤⑥⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	①③④⑤⑥⑦⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年の授業アンケートは、「相談援助演習Ⅰ」と「教養セミナーB」を行った。両方とも学生の満足度

は、5点と4.8点であり、高い方であった。しかし、学生の準備学習の平均点が低かったため、今後学生が予習できる教材などを準備する必要がある。また、少人数の相談援助演習の授業では、学生へのきめ細かな配慮が授業への参加意欲につながることを経験した。今後もこのことについては、気を付けて授業を行いたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 1) 介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究
- 2) 社会福祉養成課程にいる学生のボランティア経験に関する研究
- 3) 障害児を持つ親のレスパイトに関する研究
- 4) 子ども育成に関する地域のニーズ
- 5) 海外におけるギャンブル依存症の支援取り組みに関する研究
- 6) 認知症ケアに関する東アジア比較

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	3	3	190万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

A Study on the Proficiency of Social Welfare Institution Care Managers Through Participation in the Knowledge Community. / 2020 / Journal of Academy of Korean Social Welfare Administration22(3)/1-39/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

介護支援専門員に対するサポート現状と課題に関する文献的研究ーCommunity of Practiceの適応可能性に着目してー./2020/第28回日本介護福祉学会

介護老人福祉施設における医療的ケアを実施する介護職の現状と課題. 第28回日本介護福祉学会/2020/第28回日本介護福祉学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究	日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究	2018年4月～2021年3月	130万円
ソーシャルワーク実習における実習指導者の実習指導を通しての成長と学び	長崎国際大学	2021年1月～2021年12月	10万円
QSP「子ども育成」専門委員会共同研究	QSP子ども育成」専門委員会	2020年4月～2021年3月	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	委員として、学科への情報周知と委員会の会議に参加。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSP「子ども育成」専門委員会共同研究会	共同研究者	子ども育成専門員会共同研究者として、調査を含め、他学校の教員と研究を行っている。
長崎IR研究会	共同研究者	長崎IR研究会に所属し、共同研究を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

第4回のオープンキャンパス主担当として、企画と準備を行った。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市人権施策審議会委員	委員	令和2年8月20日～ 令和3年9月30日	佐世保市

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年、復帰した年でありながらも、仕事の面についても誠実に携わりました。常に本学の人材育成の方針である「面倒見のいい大学」を意識しながら、学生対応についてはどの業務より重要視しています。特に自分のゼミ生のきめ細かな指導を行っています。また、国試対策支援にも積極的に協力し、学科プログラム以外にも自発的に学生の多様な面度を支援しています。

今年、新任教員が多かったため、自発的に学科の新カリキュラムに向けた業務や実習教育に関する業務も積極的に行いました。また、若手研究者として研究の成果も計画通り、原著論文2本、学会発表2本を出しています。個人研究のみならず、学校のQSP「子ども育成」専門委員会やIR研究会の共同研究者として活躍し、その成果を出しています。ただ、科研の進行がコロナの影響もあり、遅れていることは反省点であります。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 助手 氏名 金子 麻美

1. 教育理念

私の教育理念は、①「いつも、人から。そして、心から。」の本学のモットーに基づいた、人の心に寄り添える社会福祉人材の育成、文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究、②福祉の専門力・情報収集・分析力・コミュニケーション力・協同・課題解決力・多様性理解力を身に着けることができる教育・研究ということである。

学生には、自己覚知や1人ひとりの様々な価値観を理解し受容しながら支援に結び付けていくスキルを学んでほしいと考えており、そのために、自分自身の理解と相手の価値をソーシャルワークの価値観として理解できるような支援を行いたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業を単独でもっていないため、未記入。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
相談援助実習指導 I (面談補助)	4	51名	2020年10月6日、2020年10月13日、2020年10月20日
精神保健福祉援助実習報告会 補助	1	9名	2020年11月6日
介護実習報告会 補助	1	3名	2020年11月10日
相談援助実習指導 II B(実習報告会)	2名	35名	2020年12月12日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①障がい者福祉 地域福祉 バリアフリー SSW 等

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学科運営委員会(学科)	委員	学科運営に関わる資料準備、学科会議・専攻会議資料準備、議事録管理、連絡調整等
実習委員会(学科)	委員	実習委員会開催に際し、事前準備及び運営。社会福祉及び精神保健福祉士実習の実習先に関する連絡調整及び書類作成、集計。各実習関係学内イベントの調整、準備、運営。新カリキュラムに向けた施設・機関への説明会実施・運営。

国家試験合格支援委員会(学科)	委員	国家試験に取り組む4年生に向けた模擬試験の実施及び夏季講習の資料準備及び運営。書籍や物品購入他、学生相談対応。問題の印刷業務及び体温検査セット運搬確認。
学内学会委員会(学科)	委員	学内学会でのニューズレターのデータアップや紀要の発送。総会及び研究会の実行委員として資料準備及び運営。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・桜が丘特別支援学校学生1名 本学にて出前講義 2020年10月29日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	産休・育休
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は6月末より産休育休から復帰し、コロナ禍の中柔軟かつ迅速な対応が求められる各資格の実習配属、PCR検査、来年度からの新カリキュラムに向けた対応等々に追われる年度であった。

学科運営については、学科運営委員会に所属しており、新学科長及び学科教員と連携し、会議運営や資料等のとりまとめ、配信管理等々を行った。実習関連業務(社福・精神)についても、実習先の配属から新型コロナウイルスの対応、学生の事前事後のフォロー等々柔軟に行うことができた。いつもとは違う年度をどのように乗り越えていくのかということについて、学科教員とともに模索しながら学生にとってよりよい方法はなんなのかということを常に考えて業務にあたるように心がけた。来年度からの新カリキュラムに向けた体制の変化等々について、実習として様々な業務を担う重みを感じているが、実習業務が効率的に進められるように努めていきたいと考えている。また、例年の課題であるが、助手研究室がどこまでの学科及び実習業務を担うべきなのかという点についても、今後新カリを契機に整理する必要性を感じており、学科長等々と相談していきたいと思う。

コロナ禍の中、学生1人ひとりが充実した大学生活を送れるように支援できる方法を模索していきたい。

研究活動については、研究活動及び日常業務との両立を図るよう取り組んでいきたいと考えている。

今後は、新カリキュラムに向けた実習関連の整備が急務となるため、旧カリキュラムの学生と合わせて円滑に取り進めていけるよう努めたい。また、地域の施設・機関との連携も重要となってくるため、今以上に密な連携のもと取り組んでいきたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 社会福祉 職名 助手 氏名 毎熊 亜美

1. 教育理念

私の教育理念は、広い視野を持つ為は何事にもまず積極的に挑戦してみる学生を育てることである。そのためにアルバイトやボランティア、部活動などを通して色々な人と関わることを大切にしてほしい。学生の中には将来の目標が決まっていない人、将来の目標がしっかり決まっている人もいるだろう。どちらの学生においても、たくさんの人と関わる中で物事の考え方の幅が広がり、広い視野を持つことができるのではないかと考えている。

そのために私は学生の一番身近な社会人の一人として関わっていきたくため、色々な情報提供ができ、気軽に相談しやすい助手研究室の雰囲気づくりをしていきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

担当科目がないため特になし。

先生方の補助に入ることによって、講義が円滑に進められるように支援できたと感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
相談援助実習指導ⅡA(授業補助)	3	35	2020/6/16、2020/6/30、 2020/7/28
相談援助実習指導Ⅰ(授業補助)	3	55	2020/9/29、2020/10/6、 2020/10/13、2020/10/20

相談援助実習指導ⅡB(実習報告会)	1	35	2020/12/12
精神保健福祉援助実習指導ⅡB(実習報告会)	1	9	2020/11/6
教養セミナーB(オリエンテーション補助)	1	49	2020/12/24
専門基礎演習B(オリエンテーション補助)	1	70	2020/12/23

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

自閉症児者の余暇活動におけるコミュニケーションとQOLの関連性の研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学科内運営委員会(学科)	委員	学科運営に関する資料作成、学科会議・専攻会議の資料作成、連絡調整等を行う。

実習委員会(学科)	委員	毎月の実習委員会開催において、事前準備及び運営を行う。 相談援助実習及び精神保健福祉援助実習を行うにあたり、実習先へ連絡調整をする。 各実習に関する学内イベントの調整・準備・運営を行う。 新規実習施設等への出席及び連絡調整を行う。 その他に実習を行うにあたって、関係書類作成を行う。
国家試験合格支援委員会(学科)	委員	国家試験に取り組む4年生が学修で使用する模擬試験の準備を行う。 国家試験対策書籍や物品購入を行う。 その他面談や体調管理を行う。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

2013年4月～現在に至る/自閉症児者の余暇活動支援/活動企画補助/長崎県自閉症親の会佐世保支部

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は本学着任2年目として、昨年度より業務を円滑・効率よく行うことに専念した。学科内業務では主に学科会議等の資料作成を行った。また、コロナ渦において業務内容が変わったのが①実習関係と②国家試験対策である。

①実習関係

各資格実習(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)の受け入れが困難となり、実習先や実習時期の変更を行った。そのため、授業や国家試験対策などに影響し、学生にとってはかなり負担をかけてしまった。だが、無事に実習を終了することができて良かったと思う。

②国家試験対策

今までは対面で過去問題を解いてもらっていたが対面での授業が困難となったため、過去問題をmanabaの小テスト機能を用いて実施した。また、後期は対面で授業を行う場面が増えた。そのため体温チェックをしっかりと行うことも感染予防対策に繋がると考え、国試対策の際は学生に体温チェックを行うことを促した。

国家試験当日は付添も行い、学生の体調面・精神面を支えることができたと感じている。

このことから、コロナ渦において業務内容が変わったが、できる限り学生のサポートを行うことができたのではないかと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 野村 秀一

1. 教育理念

私の教育理念は、主体的に学び、考え、行動できる人材(管理栄養士)の育成を教育の柱として、学生の専門力と課題解決力およびホスピタリティーの伸長を支援することである。

よって、管理栄養士の国家試験の合格と将来就くであろう職業の現場で使える知識と技能を修得できる内容を構成し、講義と実習において、意欲喚起を図る手段を組み込み、主体的な学びを誘引して高い専門力の育成を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	①
臨地実習 I (給食の運営)	1 / 30 (通年)	1	73	①
臨地実習 II (給食経営管理)	1 / 30 (通年)	1	1	①
臨地実習 II (給食経営管理論)	1 / 15 (通年)	1	85	①
臨地実習 III (公衆栄養学)	1 / 30 (通年)	1	75	①
臨地実習 IV (臨床栄養学)	1 / 30 (通年)	1	3	①
臨地実習 IV (臨床栄養学A)	1 / 30 (通年)	1	72	①
臨地実習 V (臨床栄養学B)	1 / 30 (通年)	2	1	①
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①
総合演習 II	1 / 15 (前期)	1	3	①
総合演習 II	1 / 15 (後期)	1	65	①
食品衛生学	15 / 15 (後期)	2	59	①②
微生物学	15 / 15 (前期)	2	38	①②
健康栄養入門	2 / 15 (前期)	2	72	①②
食品衛生学	15 / 15 (後期)	2	5	①②
微生物学	15 / 15 (前期)	2	40	①②
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①
微生物学実習	30 / 30 (後期)	1	33	①②
食品衛生学実習	30 / 30 (前期)	1	32	①②
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	7	⑤
食品衛生学実習	30 / 30 (前期)	1	36	①②
微生物学実習	30 / 30 (後期)	1	43	①②
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食環境学特論	15 / 15 (前期)	2	2
食品衛生学特論	15 / 15 (後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを取った実習科目では、高い評価を得た。昨年度と同じ科目でのアンケートであったが、昨年度と概ね同等の評価であり、実習内容がより実生活に密接な実習内容であることが、学生諸君の興味を引き、実習に積極的に参加してくれた結果であると考えている。次年度以降も、本実習の目的は、感染症の予防対策を学生諸君が自分で考え実行できるようになることであるので、より実践的な実習内容にしていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 食品及びヒト由来の薬剤耐性菌の疫学的研究
- ② ヒトの常在細菌叢に関する研究
- ③ 食品成分の抗菌作用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 エキスパート管理栄養士陽性シリーズ 食品衛生学 第4版/共著/2020年9月/化学同人/117
 ～123

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	全学共通科目の実施大志で遠隔授業で十することでの健康管理学部代表者として審議。決定に参画した。
教員資格審査委員会	委員	新規採用、昇任人事における健康管理学部の代表者として審議。決定に参画した。健康管理学部から2名の昇任人事、大学院では2名の昇任人事に関与した。
防火・防災委員会	委員	定例会議に出席し、審議を行った。
安全衛生委員会	委員	定例会議に出席し、審議を行なった。
危機管理委員会	委員	定例会議に出席し、審議を行なった。
輸出管理委員会	委員	定例会議に出席し、審議を行った。
グローバル推進協議会	委員	定例会議に出席し、審議を行った。
全学教育会議	委員	健康管理学部健康栄養学科及び大学院健康管理学研究科の教育方針・体制などを立案し、定例会議に出席し、学部・大学院報告を行なった。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

エイサーサークルの顧問として、新入生に対してサークル活動への参加を促した。またコロナ渦下でのサークル活動の指導を行なった。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

本年は活動ができなかった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、研究活動においてこれまでの積み残した研究テーマの推進を計画していたが、コロナ渦下で、十分な研究活動ができなかった。来年度は、共同研究・実習担当として助教に昇任した先生と研究活動を実施することを計画しており、研究成果をあげたいと考えている。学部運営において、学部と大学院において、次年度での教員の昇任人事を提議していたが、無事、昇任が認められ、教員体制の充実を図ることができた。次年度以降の学生の教育指導、研究活動の推進を推し進めたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 熊井 まどか

1. 教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

- ・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。
- ・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。
- ・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。
- ・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。
- ・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	④⑫
解剖生理学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	3	①②⑨
解剖生理学Ⅰ	14 / 15 (前期)	2	35	①②⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (前期)	1	3	①⑧
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①⑧
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①②④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑩⑫
解剖生理学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	63	①②⑨
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧
解剖生理学Ⅰ	14 / 15 (前期)	2	37	①②⑨
解剖生理学実習	30 / 30 (前期)	1	37	①⑨⑩⑪
解剖生理学実習	30 / 30 (前期)	1	30	①⑨⑩⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	①④⑥⑩⑫
栄養生理学実習	14 / 30 (後期)	1	37	①⑩⑪
栄養生理学実習	14 / 30 (後期)	1	39	①⑩⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
形態機能学特論	15 / 15 (前期)	2	1
健康科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	—
代謝栄養学特論	15 / 15 (後期)	2	3
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・授業アンケート

[前期]

授業アンケートは実施していない。

[後期]

教養セミナーAの評価の平均は4.96、満足度は5.0であった。

解剖生理学Ⅱの評価の平均は、1年生クラスが4.4、再履修クラスが4.8であった。満足度は、1年生クラス4.4、再履修クラス5.0であった。

・授業改善と教育効果

解剖生理学Ⅱは、全てオンラインで実施したため、学生の反応が分かりづらく、理解度を図るのが難しかった。そのため、マナバを活用し、授業内で確認テストを行うことにより授業参加を促し、復習ドリルや小テストを実施して自主学習や反復学習を習慣づけるよう工夫した。授業の動画は、授業後1週間のみ視聴可能としていたが、アンケート結果から復習に活用している学生がみられることから、定期試験まで視聴できるよう改善したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	27
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	27

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策	26	77	10/8、10/12、10/15、10/19、 10/22、10/29、11/5、11/16、 11/19、11/26、12/3、12/7、 12/10、12/21、12/24、 12/25、1/14、1/18、1/21、 2/10、2/12、2/15、2/24

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

妊娠期の栄養が胎児に及ぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	15万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響/2020年9月/第67回日本栄養改善学会学術総会

妊娠期の鉄制限が脾臓鉄量及び母乳の脂肪酸組成に及ぼす影響/2021年3月/第8回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
胎児期栄養環境エピゲノム変化による生活習慣病発症機序と予防の形態・テロメア解析	2019年度科学研究費基盤研究(C)一般(研究分担者)・日本学術振興会	2019年度～2021年度	15万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務事項の審議等
自己点検・評価委員会	委員	大学評価に関わる事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等
発明等審査委員会	委員	発明届等の審議等

利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関わる事項の審議等
産学連携・研究支援センター	委員	産学連携・研究支援に関わる事項の審議等
全学教育会議	委員	大学・大学院の教育活動の総合的实施に関わる事項の審議等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・夢ナビライブ2020福岡会場 まなびステーションでの栄養学の紹介/10月17日/オンライン開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(NPO) 日本栄養改善学会	評議員	(2018年11月)～ 2020年10月 2020年11月～	(NPO) 日本栄養改善学会
(NPO) 日本栄養改善学会九州・沖縄支部	幹事	(2018年8月)～2020年7月 2020年8月～	(NPO) 日本栄養改善学会九州・沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・第8回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会(オンライン開催)の開催校として事務局を担当

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
第8回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会	オンライン開催 開催校の事務局担当	2021年3月6日	(NPO) 日本栄養改善学会九州・沖縄支部

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、コロナ禍の影響で遠隔授業の対応に追われた。後期に実施した学生による授業アンケートの評価は低下したが、授業方法についての評価は高く、コメントも概ね肯定的な内容であった。次年度も遠隔授業は継続するため、学生の意見や遠隔授業の利点を活かし、改善を図りたい。

研究面では、十分な活動を行うことができず、共同研究者として学会発表のみに留まった。また、社会活動としては、日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会を本学で開催し、学会員の協力のもと、事務局としての責務を果たした。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 岡本 美紀

1. 教育理念

人々の健康の維持・増進のための取り組みを食からアプローチし保健・医療・福祉などの場で尊厳と責任を持って科学的根拠に基づいた高度な技術をもって「栄養の指導」を実践できる、社会に貢献する人材の育成を目指すものとする。そのような人材となるために、人間や食などについて基本的な知識を身につけた上で、居住地域の居住形態やその環境、ひいては生態系について、広い視野をもって対応できる知識及び技能を伝えていくことで、専門力と課題解決力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	1 / 30 (通年)	1	75	②⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	30 / 30 (後期)	1	33	①③⑩
調理学実習Ⅲ	30 / 30 (後期)	1	34	①③⑩
健康栄養入門	5 / 15 (前期)	2	72	②③⑧⑪
公衆栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	67	①②③④⑨⑪
栄養情報処理	15 / 15 (後期)	2	32	②③④⑥⑧⑨⑪
公衆栄養学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	41	①②④⑨⑪
公衆栄養学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	31	①②④⑨⑪
公衆栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	-	①②③④⑨⑩
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
公衆栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	41	②③④⑥⑩⑪⑫
公衆栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	36	②③④⑤⑥⑩⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	④⑩⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
公衆栄養学特論	15 / 15 (前期)	2	0
栄養科学演習	30 / 30 (通年)	4/1~2年	-
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1~2年	-

特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	1
------	--------------	--------	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

公衆栄養学Ⅱで授業アンケートを行った。

その結果、従前の結果よりも1つのクラスでは評価が良くなかった。今年度は遠隔授業で対面授業と授業形態は異なるが、評価が低い理由として、評価の最低評価の「1」に全て2名つけられた。他方のクラスの学生ではそのような評価がないことから、評価の悪いクラスには、公衆栄養学Ⅱ自体の教科や、担当教員を嫌っていることがその理由であると考えられる。

自由記述で「早口で何を言っているか分からない」と書かれていた。これについては今まで「早口」と書かれることがよくあるため、早口を気をつけながら何回も繰り返して言うようにし、さらに重要なところはゆっくり繰り返すようにしていた。しかし、このように書かれていたことは、私の説明が悪いことも考えられることと、記述した学生が予習もせず、復習もせず、言葉の意味を理解していないため、説明が理解できないことが考えられた。授業の予習や復習を促すだけでなく「難しい」と思い込まないようにと話をしたが、通じなかったことに力が及ばなかったことを残念に思い反省する。

授業で使用したスライドや配布プリントについては、評価はそこまで悪くはないが、自由記述のなかに、「分かりやすい」「まとまっている」と記載が増えた。このことについては、以前「読みにくいところがある」と書かれていたことを踏まえて改良したため、その評価や自由記述であったと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 食意識・食行動が及ぼす影響について
2. 集団の健康・栄養状況に関する研究
3. 集団の嗜好等の特性に関する研究
4. 地域産物を用いた新規活用に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	6	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
陰膳食事調査法による透析患者のリン摂取量の実測の試みとリン管理状況との関連についての検討/令和2年3月31日/長崎国際大学論叢 第20巻 /101～110/共著/論文
長崎県健康・栄養調査における食生活の自己評価と食習慣、身体状況、栄養摂取状況の関連/令和2年3月31日/長崎国際大学論叢 第20巻/113～122/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
血液透析患者の口腔状態と生活の質(QOL)の関係について/令和2年2月/第18回 長崎栄養改善学会
大学生の朝型・夜型指向性と健康度・生活習慣の関連/令和2年9月/第67回日本栄養改善学会学術総会
特定の調味料を好む者の食嗜好とかけ調味料の使用の関連について/令和2年9月/第67回日本栄養改善学会学術総会
夜食習慣者の食生活とかけ調味料使用量の関連についての検討/令和2年9月/第67回日本栄養改善学会学術総会
管理栄養士養成課程での学修が学生自身の食生活に及ぼす影響/令和2年9月/第67回日本栄養改善学会学術総会
食事提供時におけるかけ調味料の必要量の推定/令和2年9月/第67回日本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	全学的な観点から、研究費の不正使用防止のための活動(具体的な研究費不正防止の計画策定・実施、不正発生要因に対する改善策策定・実施、適正なチェック体制の構築やルール統一提言、本学の取り組みの浸透を図るための方策の推進、公的研究費に関する内部監査計画の策定と実施)を行う。
CHサポートセンター運営委員会	委員	「保健室」・「学生相談室」・「学生生活サポート室」の3つの相談窓口で、学生の「からだ・こころの健康、修学・大学生活など」のサポート業務を行うためのセンター運営の基本方針やセンターにかかる企画立案や実施、規程規則、他の期間にかかる相互協力等の審議を行う。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

時間割とは関係なく健康栄養学科4年生の国家試験対策授業を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

8月のオープンキャンパスにて模擬授業を担当して、食事調査を行う管理栄養士の必要な知識についての授業を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	欠席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

日本栄養士会正会員表彰(在籍25年)／2020年10月／公益社団法人 日本栄養士会(東京)

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、昨年度末に体調を崩した影響があったため、大学、学科には活動を控えめにすることの配慮をいただき、大変ありがたく感じるが多かった。

教育面では、新型コロナウイルス感染症予防のために、対面授業から遠隔授業になったこともあって授業形態が大きく変化し、遠隔授業で授業だけでなく実習を行うことになり、どのような物を見せれば、体験していない学生も理解しやすいかといつも考える日が続き、とても勉強になった。それと同時

に、対面で行う授業がどれだけの効果があるのかを学生だけでなく教員としても影響が大きいことを身をもって体験することができ、これからの授業を考える上で良い経験となった。授業アンケートを行った「公衆栄養学Ⅱ」では、1つのクラスがとても評価が低かったことは、とても反省すべき点があり、魅力的な授業を行う工夫は必要であると考えます。

学生指導に関しては、学生の状況を把握した上で、適度な対応ができたと考えます。

大学運営活動においては、研究費不正使用防止委員会もキャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会もいずれも委員としての確かな活動を行ったと考えている。今後も大学の運営が円滑になるために自分ができることを精一杯行っていければと考えている。

研究では、所属学科が栄養で食べることを中心に考える分野でもあるため、調査、研究で食べる事に関する事を行うことはとても困難であった。そんな中にも協力して感染予防に気をつけつつ、協力してくれる人がいてくれたことはありがたいと感じ、その研究を発展することができたことから、「人」が関わることの効果の大きさを身を以て感じた。さらに、自分が研究ということよりも、共同研究の取りまとめや責任者としての業務が年々多くなり、持つべき視点を今まで以上持つように努力していかなければならないことを痛感することが多かったため、専門に関する情報を収集し、その応用や展開方法を考えていけるように努力していきたいと考えます。

また、今後は外部機関と連携した研究などを行い、関わる人々の栄養改善を図れるための協力の一端となるべく、体調を整えつつ、研究活動を行っていこうと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 古賀 貴子

1. 教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものである。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
調理科学(食品加工学を含む)	15 / 15 (前期)	2	41	⑨⑩
調理学	15 / 15 (前期)	2	70	⑨⑩
調理科学(食品加工学を含む)	15 / 15 (前期)	2	37	⑨⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	6	①②④⑥⑨⑩⑫
調理学実習Ⅰ	30 / 30 (前期)	1	38	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	36	②⑩⑪⑫
調理学実習Ⅰ	30 / 30 (前期)	1	36	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	36	②⑩⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養科学特論	15 / 15 (前期)	2	2

調理科学特論	0 / 15 (後期)	2	—
--------	-------------	---	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教育面において、遠隔授業となった科目については、学生の理解度と満足度が高まるようにZoom、マナバ、レスポンを全て使用し、スライドの作成や講義および実習の仕方も工夫したと思うが、前期の授業評価は出ていない為不明である。しかし、後期の授業評価を見ると、遠隔と対面を交互に行った実習において満足度4.6、教養セミナーBの満足度5.0であったことから、授業内容や進め方は悪くはなかったものと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策講座	30	77	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究
食品の調理特性(調理科学的变化)に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
大量調理機器を用いた湿式加熱が野菜類の性状に与える影響
/2021年3月31日/長崎国際大学論叢/129頁～138頁/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	大学評価に係る事項の審議等
IRセンター	副センター長	大学評価及びマネジメントに資する基礎情報の調査・収集・分析に係る事項の審議等
教育基盤センター運営委員会	委員	IR・研修部門の部門長

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター	IR・研修部門 部門長	IRコンソーシアムの在学生調査の結果を長崎国際大学教育基盤センター紀要に報告した。
教育基盤センター 初年次教育(教養セミナーA)	ワーキンググループメンバー	全学の教養セミナーAにおける教材作成・企画等を行った。
教育基盤センター 紀要編集委員会	紀要編集委員長	教育基盤センター紀要の発行に向けた業務を行った。
教務委員会(学科内)	委員	学科内教務委員会の委員としての業務を行った。
倫理委員会(学科内)	委員	学科内倫理委員会の委員としての業務を行った。
管理栄養士国家試験対策委員会	委員長	学科内管理栄養士国家試験対策委員会の委員長としての業務を行った。
卒業研究(学科内)	グループ長	卒業研究の履修に向けて学生対象に説明会を実施した。 卒業研究発表会を運営した。 卒業研究抄録集並びに論文集の作成・編集を行った。
教養セミナーB	グループ長	教養セミナーBにおける企画等を行った。
作問・校閲グループ	グループ員	推薦入試(総合問題)および編入学試験(調理学分野)を作問した。 学科の編入学試験の責任者として問題の編集等を行った。 採点業務に携わった。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

国立研究開発法人科学技術振興機構採択 令和2年度「女子中高校生の理系進路選択支援プログラム」「継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」に関し、児童・生徒用プログラム(お話しと実験)を担当、「食品中のタンパク質の調理による変化」11/29開催(開催場所:九州文化学園小・中学校)

令和2年度女子中高生の理系進路選択支援プログラムの紹介を兼ねて、オープンキャンパス時にブースを設けて管理栄養士の仕事内容等のポスターを掲示して説明をした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
21	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度 幼児教育センター「離乳食講座と実習」離乳初期・中期	7月9日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和2年度 幼児教育センター「離乳食講座と実習」離乳後期・完了期	7月16日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和2年度 幼児教育センター「離乳食講座と実習」離乳初期・中期	9月17日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和2年度 幼児教育センター「離乳食講座と実習」離乳後期・完了期	9月24日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター

令和2年度 幼児教育センター 「離乳食講座と実習」離乳初期・ 中期	10月1日	佐世保市幼児教育 センター	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 幼児教育センター 「離乳食講座と実習」離乳初期・ 中期	12月1日	佐世保市中央保健 福祉センター	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 幼児教育センター 「離乳食講座と実習」離乳後期・ 完了期	12月8日	佐世保市中央保健 福祉センター	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 幼児教育センター 「離乳食講座と実習」離乳後期・ 完了期	令和3年2月18日	大学内古賀研究室 よりZoomを使用して 開催	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 幼児教育センター 「離乳食講座と実習」離乳初期・ 中期	令和3年2月18日	大学内古賀研究室 よりZoomを使用して 開催	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 佐世保市乳幼児食 育アドバイザーフォローアップ講 座「離乳食についての基礎講 座」	5月14日	佐世保市中央保健 福祉センター	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 佐世保市父親向け 食育講座	9月6日	佐世保市幼児教育 センター	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度 佐世保市幼児向け 食育講座「行事食」	令和3年3月11日	佐世保市幼児教育 センターよりZoomを 使用して開催	佐世保市幼児教育 センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	7月6日	中部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	8月24日	北部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	9月14日	東部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	10月12日	中部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	11月16日	北部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	12月21日	東部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	令和3年1月25日	中部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	令和3年2月15日	北部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター
令和2年度「たんぼぼの会」栄養 士離乳食講話	令和3年3月8日	東部子育て支援セ ンター	佐世保市子育て支 援センター

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議委員会	委員	2019年11月1日～現在	佐世保市教育委員会
日本調理科学会九州支部役員	長崎県常任幹事	2018年7月～現在	日本調理科学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

遠隔授業は学生の理解度と満足度が高まるように工夫し、回を重ねるごとに改善しながら進めた。学生からの授業内容に関する質問にもZoomのチャット機能やマナバを使用して丁寧に対応したと思う。研究面ではデータの蓄積や追加実験等を進めてきたため、その一部について長崎国際大学論叢へ原著論文を1編投稿したが、今年度は行わなかった学会発表も次年度は行うようにする。また、学会誌への投稿にも努める。社会貢献については、学外の委員を複数務め、またコロナ禍で当初の依頼件数より減ったものの講演会や講習会の講師を年間合計20回以上行い、一部はZoomを使用した遠隔でも実施した。学外の講師依頼が令和3年度分についてすでにあるため、参加者からの高い満足度が得られるように務める。大学運営面においては、自己点検・評価委員会の委員、IRセンター委員会の副センター長として、教育基盤センターではIR・研修部門長、初年次教育(教養セミナーA)のワーキンググループのメンバーとして円滑に業務を行うようにつとめた。教育基盤センターの紀要委員長として紀要の発行に従事し、IR部門からの部門報告の執筆も行った。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 佐々木 裕

1. 教育理念

学部教育では、担当する講義において最新の医学・医療情報を解説し学習させるだけでなく、疾病の発症や治療・予防に栄養学的因子がどのように関与しているかという基本メカニズムを理解させ、将来、チーム医療の一員として栄養指導はもとより、栄養学的な観点からの治療への新たな提言や助言を行える管理栄養士を育成する。

大学院教育では修士学生の研究を支援し、研究テーマの設定の仕方、データの収集法や解析法を教育し、得られた結果を学会発表や論文発表を通して広く情報を発信し、栄養学の進歩に貢献できるような修士学生を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	②③
栄養学応用演習 II	1 / 15 (後期)	1	44	②③
臨床医学入門 I	15 / 15 (前期)	2	40	①②⑨
解剖生理学 II	2 / 15 (後期)	2	3	②③
解剖生理学 I	1 / 15 (前期)	2	35	②③⑨
管理栄養士演習	1 / 30 (前期)	2	52	②③⑨
臨床医学入門 II	15 / 15 (後期)	2	70	①②⑧⑨
総合演習 II	1 / 15 (後期)	1	65	②③
臨床医学入門 I	15 / 15 (前期)	2	35	①②⑨
栄養と薬	11 / 15 (後期)	2	70	②③⑨⑩⑫
スポーツ医学	3 / 15 (前期)	2	58	②③⑨⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①②④⑤⑥⑦⑧⑩ ⑫
解剖生理学 II	2 / 15 (後期)	2	63	②③
栄養学専門演習	1 / 30 (後期)	2	50	①②③
解剖生理学 I	1 / 15 (前期)	2	37	②③⑨
学際連携研究	1 / 15 (前期)	2	254	②③⑨⑩
管理栄養士演習	1 / 30 (後期)	2	25	①②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学特論	15 / 15 (前期)	2	1
地域保健学特論	15 / 15 (後期)	2/1・2年	1
健康科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	—
特別研究	30 / 30 (通年)	8/1～2年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

就任1年目であり、またコロナ禍での遠隔授業がメインであったので、学生のニーズが十分に理解できていない状況でのスタートであった。ただ、遠隔授業において毎回アンケートを取り、講義内容についての質問や要望を受けたので、後期には学生のニーズに、より近い内容の講義ができたと考え。とりわけ、後期には4年生の国試対策を担当し、より実践的な講義内容を徹底した。

授業アンケートでは、学生からの反応はおおむね良好であった。特に質問に対する回答が高評価であったため、今後も継続する予定である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
熊本大学医学部	肝臓学概論	1/15(後期)	2	120

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

【細胞環境がもたらす代謝プログラミングの解明に基づく肝発癌増殖進展の制御】

原発性肝癌(以下、肝癌)は世界的には悪性新生物の死因の第2位を占めている(GLOBOCAN 2012, WHO)。本邦では肝癌死亡数は減少傾向にあるも依然として年間3万人の方が亡くなる予後不良の癌種の一つであり、発癌予防や治療成績向上は喫緊の課題である。

肝発癌進展には、約30個のドライバ-遺伝子をはじめとした遺伝子変異に加え、後天的因子によるepigeneticな遺伝子変化が関与している。なかでも肥満、糖尿病、飲酒を背景とした非B非C型肝炎が増加していることから、後天的因子である異常な細胞環境、栄養環境がepigenome制御因子を介して代謝プログラミングをもたらし、時空間的に発癌進展に関与する可能性がある。

一方、進行肝癌の治療の選択肢は広がっているが、奏効率は低く再発・再燃のために長期生存は望めない。その一因として、治療によりもたらされる肝癌組織の低酸素・低栄養状態に対応して、肝癌細胞は糖代謝、エネルギー代謝などの代謝プログラミングを行い、エネルギーと脂質、核酸などの高分子化合物を確保して、増殖や免疫からの回避を可能にしていることが想定される。そこで代謝プログラ

ングを解明しその制御法を新たに開発することで、肝発癌予防や治療成績の向上に結び付くものと期待される。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	3	2	2	1940万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Risk stratification of advanced colorectal neoplasia after baseline colonoscopy: a cohort study of 17 Japanese community practices./2020/Digestive Endoscopy/32:106-113/共著/論文

Endoscopic and clinicopathological features of superficial Barrett's esophageal adenocarcinoma - With special reference to difference derived from Short-segment versus Long-segment Barrett's esophagus -/2020/J Gastro Hepatol/35:211-217/共著/論文

Prognostic and clinical impact of PD-L2 and PD-L1 expression in a cohort of 437 esophageal cancers./2020/Brit J Cancer/122:1535-1543/共著/論文

Loss of skeletal muscle mass affects the incidence of minimal hepatic encephalopathy: A case control study/2020/BMC Gastroenterology/in press/共著/論文

Prostaglandin E2-EP4 Axis Promotes Lipolysis and Fibrosis in Adipose Tissue Leading to Ectopic Fat Deposition and Insulin Resistance/2020/Cell Reports/doi.org/10.1016/j.celrep.2020.108265/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

「女性医師の選択、ジェネラリストかスペシャリストか - 新専門医制度に向けて-」/2020年11月6日/JDDW(日本消化器関連学会機構)2020 女性医師・研究者プログラム 基調講演

A novel serum biomarker, Clusterin, and related predictive scoring could be an early predictor of response to sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma/2020年11月13日-16日(web発表)/AASLD(アメリカ肝臓病学会)

肝発癌進展研究の最前線/2020年8月29日/第56回日本肝臓学会シンポジウム3 司会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(B)「細胞環境がもたらす代謝リプログラミングの解明に基づく肝発癌増殖進展機構の解明」 課題番号 18H02798 (代表)	日本学術振興会	2018年度～2020年度 (代表)	1790万円
基盤研究C「進行肝細胞癌に対する薬物治療効果予測法の確立」	日本学術振興会	2018年度～2020年度 (分担)	150万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター	委員	紀要の出版に向け、構成の企画、査読等に携わった。
CHサポートセンター運営委員会	委員	センター長として、CHサポートセンターの円滑な運営を行い、コロナ禍における学生の身体的、精神的な問題点の解決に努めた。
安全衛生委員会	委員	産業医として教職員の健康管理を行ってきた。なかでも定期健康診断の有所見者の中で希望者(10名弱)に対して、個別の医療相談を実施し健康を維持するための適切な指導を行った。長崎短期大学の安全衛生委員会委員(産業医)としても活動している。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席

2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
AMED産学連携イノベーション創出プログラム課題評価委員会	委員	2019年～現在	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)
医薬品医療機器総合機構(PMDA)	専門委員	2015年～現在	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)
JDDW将来構想委員会	委員、JDDW社員・監事	2020年～現在	一般社団法人 日本消化器関連学会機構(JDDW)
編集委員会、財務委員会	委員、副理事長	2018年～現在	日本門脈圧亢進症学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

医薬品医療機器総合機構(PMDA)専門委員として、ウイルス性肝疾患に対する治験薬の承認審査を行った。またAMED 産学連携イノベーション創出プログラム課題評価委員として、2020年度の中間審査6件を担当し、研究方法や得られた成果に対して適切な助言を行った。さらに佐世保市総合医療センターにて専門外来を担当し、地域の肝疾患診療を支援している。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
A novel serum biomarker, Clusterin, and related predictive scoring could be an early predictor of response to sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma	ポスターWeb発表	2020年11月 13-16日	Web開催	アメリカ肝臓病 学会

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

日本肝臓学会 功労賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

就任1年目のため、大学内のシステムに慣れるのに時間が必要であった。そのような状況でコロナ禍の遠隔授業を中心に講義を行った。対面講義とは異なり、学生からの反応を受け取りにくい面はあったが、毎回の講義後にアンケート調査を行い、講義内容について質問や要望を収集し、ある程度の学生の反応は把握できたと考える。後期には前期での学生の反応、要望を受け、資料の作成を含め、できるだけ学生に分かりやすい講義を行えたと感じている。授業改善アンケートにおける学生からの意見にそれが反映されていると考える。

研究に関しては、熊本大学時代より行っている基礎研究を持続しているが、来年度より本学においても基礎的な研究の立ち上げを考えている。それ目指して科研費の申請(代表、分担を含め)を昨年10月に行った。

運営活動に関しては、CHサポートセンター長や産業医として参画しており、今後も教職員や学生の身体的、精神的な健康管理を行っていく。

社会活動においては、学会活動に加え、AMEDやPMDAの委員として、日本における基礎研究の推進や、新たな薬の承認に関与しており、今後も継続していく。またコロナ禍が落ち着いてからは、これまでの熊大における経験を活かし、栄養学科の主催する市民公開講座(生活習慣と病気などのテーマ)などの広報活動を提案していく予定である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 教授 氏名 水江 文香

1. 教育理念

学生に教育を通じて、将来さまざまな困難、失敗などへの対応を自己で解決、対処できる能力を修得してほしいと考える。そこで授業では、現状を認識できる知識、これに「気づき」と「振り返り」を繰り返すことを重視し、学生が基礎学力、応用力の重要性を学びとり、そのために全講義へ出席することで学習し続ける習慣として「気づき」「振り返り」のできる授業方法を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	2 / 15 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	2 / 15 (通年)	1	1	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	2 / 15 (通年)	1	85	⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (前期)	1	3	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	15 / 15 (後期)	1	33	①③⑩
調理学実習Ⅲ	15 / 15 (後期)	1	34	①③⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫
給食経営管理論Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	71	①③⑨⑩
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①②③⑧⑨
給食経営管理論Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	32	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	-	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	38	①③⑨⑩
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
給食経営管理実習(学内)	15 / 15 (前期)	1	36	①②④⑥
給食経営管理実習(学内)	15 / 15 (前期)	1	36	①②④⑥
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食生活科学特論	15 / 15 (前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

○授業アンケート:「講義・実習・演習」科目は、学力や読解力の低下が顕著で、授業内容改善だけで学生の理解度を深めることが難しくなっている。ただ、今年度の授業形態である遠隔式は担当教員も慣れるまでは戸惑いながら授業をしていたことから、学生も、不安な中で受講していたかと考える。アンケートの結果は良好だが、例年通り予習や復習の自己学習の評価が低かった。対面式では質問できるが遠隔式では質問ができない学生もいたり、授業後も入室のまま質問する学生もいるなど様々であった。授業後に質問ができるようにマナバに設定していたが、活用する学生はいなかった。

「教養セミナー」は、新しい全学統一した内容に変更し3年目であるが、使用テキストで教員の負担が軽減され内容も充実してきた。後期は対面式ではあったが、セミナーメンバーと仲良くなりたかった、とするコメントがあり、メンバー間のコミュニケーションが少なかったことを感じた。これまでは、前期・後期を通じ教養セミナーメンバーで1つの課題やテーマについて話し合い、検討しまとめる等の作業を協力し行ってきたが、今年度はそういう時間の共有が少なかったことが要因と感じた。導入教育として教養セミナーを通じ学ぶことも多く、大学生としての自覚が少しずつ芽生えてきたと感じたが、活動そのものは興味・関心に個人差があった。

○授業改善は、「講義・実習・演習」科目は厚生労働省の「管理栄養士国家試験ガイドライン」や日本栄養改善学会提案の「管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム」に準拠した授業内容にし、興味が持てる、また他の履修科目と関連づけたものとし、配付資料等で達成度や評価の向上を図りたい。また、単に管理栄養士国家試験にポイントを置いた授業内容ではなく、卒業後にも十分な知識や技術の習得のレベルアップにつながる授業にしていきたい。また、質問ができる時間を増やしたり、授業後に気づく質問に対してもマナバで対応できることを周知したい。遠隔式授業のアンケート結果ではあるが、意外に学生の評価は高く、コメント内容も改善すべき点も少ないことから対面式と遠隔式のメリットを取り入れながら授業を組み立てることも検討していきたい。

○教育効果は年度により差(個人・クラス間)があり、これまで改善してきた点も効果があまりみられないものも見受けられたが、再度見直し評価を向上させられるようにしたいと考える。今後も課題レポート提出、小テストの実施、講義内での予習・復習用の確認問題等や解説を実施し、学生の理解度で効果があったものは継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 各年代における食行動について
- ② 給食経営管理業務における新調理システムの利用について(主に真空調理)
- ③ 胚芽精米の研究
- ④ 大量調理施設業務に必要な帳票類の検討及び様式について
- ⑤ 六次産業化における商品・メニュー開発について
- ⑥ 調理学実習における加工品の改良に関する研究
- ⑦ 地域食材を利用した商品開発、レシピ提供について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

食事提供時におけるかけ調味料の必要量の推定/2020年9月/第67回 日本栄養改善学会学術
総会(誌上開催)

特定の調味料を好む者の食嗜好とかけ調味料の使用量の関連について/2020年9月/第67回
日本栄養改善学会学術総会(誌上開催)

夜食習慣者の食生活とかけ調味料の使用量の関連についての検討/2020年9月/第67回 日本
栄養改善学会学術総会(誌上開催)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	大学及び学科の教務事項の審議・決定他(学科専任教員担当科目のシラバス作成・成績処理・履修者名簿管理、試験監督案作成、再試実施計画、卒業・進級判定に伴う資料作成、原級留置学生・3年次編入学生指導等)。
研究倫理委員会	副委員長	学科審議内容の報告他。
教務委員会(健康栄養学科)	委員長	学科内教務事項審議、連絡、諸資料の作成他。
倫理委員会(健康栄養学科)	委員	申請された研究の審査他。
臨地実習委員会(健康栄養学科)	委員	臨地実習事前指導。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
臨地実習ワーキング・グループ	委員	栄養士・管理栄養士研究教育協議会九州ブロックにおいて、臨地実習の学生割り振り、依頼文書・実習ノート作成等を行う。
「食育に関するアンケート」ワーキング・グループ	委員	佐世保市委託事業協同作業(データ入力、集計、分析)
「佐世保市民の健康に関する実態調査」ワーキング・グループ	委員	佐世保市委託事業協同作業(データ入力、集計、分析)

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①夢ナビライブ 2020Web Week「まなびステーション」進学イベント 進路ガイダンス(栄養分野)説明/2020年10月17日/福岡会場(Zoom開催)

②令和2年度保護者懇談会 4年次生説明担当/2020年度10月/本学動画配信

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意

2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

○令和3年1月、長崎県精神医療センター給食業務委託の落札者決定基準への学識経験者に就任。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

○なし

7. 受賞等

○なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

(1) 教育活動においては対面式・遠隔式授業となり学生支援・指導の時間も増え、特に後期は例年以上に、「管理栄養士国家試験受験対策」の指導や担当教科等の活動に時間を費やした。管理栄養士国家試験のガイドライン改正により、授業アンケート結果をもとに次年度に向けた講義資料の変更や演習内容の変更を進めてきた。また、全学教務委員会や学科係として教務全般のとりまとめ、履修、再試験調整などの活動等で、本来講義準備や研究に充てる時間を学科教務に費やさざるを得ない状況が続いた。ただ、余裕がない状態で様々な業務をしているが、少しずつ改善しいい教材が配布できるようになり、その結果、授業アンケートもよい評価を継続できるようになった。今年度は、後期に入り退学や卒業延期となった学生の指導に迫られた上に、臨地実習では学外での実習ができなかった学生へ校内実習を実施し、その指導(給食調理実習、講義、PC業務、栄養教育他)が加わり、定期試験と追・再試験の合間での実習で提出物のチェック(添削、コメント)、評価と多忙となる年度であった。今後も従来通り教育に関して振り返りと反省点を見直し受講者に沿った授業を心がけていきたい。

(2) 研究活動は、卒業研究で、近年、商品・メニュー開発に携わる機会がふえ、卒業研究テーマとして学科内の複数の教員と学生で様々な活動を進めている。その中で、完全栄養食の研究では市販品が普及しない要因と調製(調理)の難しさを感じた。また、レシピの公募で入賞するなど、従来と異なる分野へ挑戦する学生も出てきており、新たに担当する実習レシピ(実習書)を再考するための研究により、実習で調理する加工品として活用できるテーマを卒業研究での活動に加えている。今後は対象者別(例えば、試験勉強の夜食、スポーツ時の簡便・簡易食など)に提供できる食品や料理も視野に入れ、教員および学生と研究を進めたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 林 俊介

1. 教育理念

私の教育理念は、管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一步を踏み出す活力を育むことである。

学生には、管理栄養士として将来働くために求められる知識と技能を修得し、確実に国家試験合格を目指すという高い目的意識を高めることを期待している。よって、授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルで進めて行く。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	2 / 15 (通年)	1	77	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑪
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	5 / 30 (通年)	1	3	①④⑦⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学A)	5 / 30 (通年)	1	72	①④⑦⑪⑫
臨地実習Ⅴ(臨床栄養学B)	5 / 30 (通年)	2	1	①④⑦⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	⑪
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	194	①②④⑤⑩⑪
栄養教育論Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	42	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑪
栄養教育論Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	38	①②③④⑤⑦⑧⑩ ⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	4	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	⑪
臨床栄養管理学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	67	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	-	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	41	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	38	②③⑩⑪
治療食実習	30 / 30 (前期)	1	36	①②③④⑧⑩⑪
治療食実習	30 / 30 (前期)	1	36	①②③④⑧⑩⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	④⑥⑦⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養管理学特論	15 / 15 (後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、授業は講義・実習ともにオンライン形式の授業となり、これまでは違った対応が求められることとなった。前期は、教員側も学生側もこの授業スタイルに慣れるのに苦労があった。通信環境や授業プリントを自分で印刷して準備しなくてはならない等の問題もあり、前期はそれらの点に不満の声がみられた。

教員と学生も徐々に互いにオンライン授業にも慣れてきて、manabaとZoomの各機能を使いこなして、講義科目であればオンラインでも対面授業と変わらない程度の授業の質を保った授業展開ができるようになったと思われる。授業アンケートでの評価は、後期のものは、これまでの中でも満足度など非常に高いスコアであった。コメントもこの科目での授業展開などに満足度が高い評価につながるものであった。また、後期の臨床栄養管理学Ⅱの授業は、授業公開を行い、多くの先生方に授業を参観して頂き、良好なコメントを頂いた。オンライン授業に適した対応をすることができたと考えている。

オンライン授業でもアクティブ・ラーニングの種々の手法を用いた授業展開を積極的に実施している。学生が受動的な授業の受け方では無く、能動的な取り組みができるように促した。

履修者の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)は、毎年出来るだけ新しいトピックス(話題、ニュース)と入れ替え、改善している。

予習の範囲を知らせ、復習を促し、学修を深めるためにポートフォリオを活用した授業前後での情報提供などを行っている。前時の復習について、これまで出席カードを活用し行っていたことをオンラインでもできるよう工夫をして授業展開を行った。

本年度は、感染予防のため定期試験(筆記試験)を実施せず、課題による評価を行うことにした。そのため、課題レポートも例年のものよりも「調べ学修」に繋がるように、自身の出身地での疾病状況や生活習慣や食習慣を調べるが必要な内容を設定し、より学生の学修が深まり、興味関心が高まるようにした。

また、manabaを活用した課題レポートへの取り組みや学修のふり返りが出来るようにしている。

いつも授業の中で、様々な症例の影像や臨床現場で使用される栄養剤、補助食品、治療用特殊食品などを教材として提示することで、臨床栄養への興味と関心を高めることを狙っているが、本年は、遠隔授業であったため、授業後に実際に研究室前に栄養剤等のサンプルを展示して実際に見られるよう配慮をした。学生の反応も良いものである。

来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄養指導Ⅱ	8/8(後期)	2	31

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 血液透析患者の生活の質(QOL)と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
- 血液透析患者における口腔環境と生活の質(QOL)と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
- 血液透析患者における食事療法と栄養教育に関する研究
- 腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養士の関わりについて
- フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育と食事療養の実践に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	副委員長	教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長及び事務局と取り組み、各学部との調整を行った。
広報委員会	委員	大学公式ホームページのコンテンツ作成・教員情報の更新、公式サイト、Instagram、Facebookへのトピックス投稿、広報催事事業の実施、マスメディアの取材対応
私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」	委員(高等教育の質向上専門委員会・教務系WG)	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、高等教育の質向上専門委員会及び教務系WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。 <ul style="list-style-type: none"> ・QSP参画校での教学(IR)に関する共同IRデータ収集と公開 ・情報教育科目(共通授業)の開発と導入 ・共同FD・SDの企画と実施 ・留学生支援事業 日本語学修支援システムの開発と導入 ・QSP人材バンクの構築と運用 ・高大接続事業 理系女子(リケジョ)育成プログラムの実施 ・委員会・WGの合同会議の開催 ・申請書類の作成
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎	運営委員	「在宅医療概論」、「在宅医療・福祉早期体験学習」などの科目担当。※いずれもNICEキャンパス長崎の登録科目

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

令和2年度(2020)よりボランティアサークル「絆」の顧問を務めている。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 敬徳高校 進学ガイダンス 模擬授業/3月11日(木)/敬徳高校(伊万里市)

その他

地域の栄養士の先生方や卒業生からの求人依頼に対し、キャリアセンターや学生、卒業生などへの紹介を行い、就職に繋がるよう支援を行った。

地域の栄養士の先生方や卒業生へ臨地実習受け入れについて依頼を行い、数件の実習施設の確保に努めた。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
①「はつらつ人生・美しく・逞しく(たくましく)・感染症にも負けない! : 基礎編 保とうお口の健康、のぼそ健康寿命」 ②「はつらつ人生・美しく・逞しく・感染症にも負けない! : 応用編 免疫機能を高める食事と生活習慣の実践」	10月29日(木)～11月4日(水)	web開催	長崎県栄養士会

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会 研究教育協議会	運営委員(副会長)	令和2年4月～	長崎県栄養士会

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

担当学生について

本年度は教養セミナーでは5名の新生を担当した。昨年度、入学後不登校のため休学となっていた1名が、1年を掛けてサポートし、復学へと繋げることができた。新1年生とともに大学生活をスタートさせることができた。

しかし、他の1名が、入学後6月頃から出席不良となりその後、退学の申し出があったが、面談等を重ね休学することになった。学生課とも連携し、復学へ向けた支援を行って来て、次年度より復学することとなった。今後、本人の希望を確認し、スムーズに通学や履修ができるようにサポートして行きたい。

1年生の他のメンバーは休学、転学科もなく次学年へ進級させることが出来た。大きな問題は発生することなく一年目の学修活動を支援することが出来た。

2年生で病気療養のため1年間休学していた1名も、CHサポートセンターとも連携して、支援を行って来た。後期より復学し学校生活を順調に送ることができている。他のメンバーは2年次をこれまでのところ順調に学生生活を過ごせてきている。離学防止の取り組みは十分できていると考えている。

3年生は、これまで同様、6名のゼミ生が卒業研究の活動を行っている。例年北松中央病院にて調査活動等を行わせて頂いていたが、昨年2月より新型コロナウイルスによる感染予防のため、病院での調査活動ができなくなってしまった。患者等は新型コロナウイルスに感染した場合の重症化リスクが高く、また状況が改善の見通しが立たないため、今年度の病院での調査活動は断念することとなった。

4年生も調査活動の途中で中断することとなり、4名は収集できたデータを使って、分析を行った。他の2名は、別テーマで活動を行った。困難な状況の中、卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表、論文提出する事が出来た。卒業試験には4名合格し、卒業する事が出来、国家試験を受験した。2名は

単位未充足のため卒業延期となった。今後について話し合いを重ね、秋期卒業を目指すこととした。本年度の就職状況は、卒業までに4名は内定を得て、それぞれ就職先が決定することができた。

私立大学等改革総合支援事業 タイプ3

私立大学等改革総合支援事業タイプ3「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、高等教育の質向上専門委員会・教務系WGの事業推進の実務を担っている。本委員会・WGは、本学が責任校である。プラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の全14校の連絡調整の窓口となり、合同会議の実施や資料作成を行っている。

本年度は、これまで取り組んできた留学生の日本語能力向上支援「日本語e支援」や大学間共同の情報教育科目の導入、長崎県、佐賀県と連携した人材派遣事業などを進めた。その他に連携校との共同FD・SDを実施した。高大接続事業の一つとして理系女子(リケジョ)育成プログラムにも取り組んだ。大学の質保証の取組として、教学(IR)に関する連携校の情報収集を行い、情報公開を行った。様々な取組はQSP公式サイトでも情報発信を積極的に行った。

本年度は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、様々な事業計画が縮小、中止、実施見送りなど事業推進が困難な状況であったがQSPが始まって4年目となり様々な事業が進められた。かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

教務委員会

本年度より教務委員会の副委員長となった。教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長及び事務局と取り組み、各学部との調整を行った。

広報委員会

昨年度より広報委員会担当となった。総合改革支援事業で求められる情報公開に沿った形での改定を行った。大学公式ホームページに掲載する「教員データベース」の更新を行った。広報催事は企画(科学教室、離乳食講座等)を行ったが、実施困難と判断し、いずれも中止した。そのためニュースリリースの配信もできなかったが、今年度は初めて卒業研究発表会の実施に関してニュースリリースを配信したことでテレビ佐世保の取材に繋げることができた。

大学公式ホームページへのトピックス及び学科のInstagram、Facebookへの記事掲載を積極的に行った。学科に関する投稿を30件、大学院に関する投稿を4件行った。本年度のトピックス年間掲載目標(学部30本、大学院5本)を達成する情報発信を行った。本年度、Instagramのアカウントを作成して、運用を開始した。

新聞・テレビ等への露出件数(3件)およびニュースリリースの件数(2件)は、年間目標には届かなかったため、次年度の課題となる。情報発信の工夫をして、露出を増やしていきたい。

本年度の取組としては、大学院の情報発信が全学的にも課題になっているため、トピックスの件数を増やし、修士課程修了生(山田彩加さん)の紹介記事等、新しくコンテンツ作成を行った。「卒業生と

連携した広報活動の推進」が求められているため学部卒業生(牟田真衣奈さん)及び勤務先の協力を得て、コンテンツ作成を行った。

次年度の取組として3年次編入学に関する情報が学部のページに無いためこれに関するコンテンツを作ることを計画している。

入試・募集委員会と連携した形での広報活動が求められているため、入試・募集委員とも協力した形での展開を行っていきたい。

研究活動

研究活動では、本年度は研究発表などを予定していた学会、研究会が中止、延期となり、発表を行うことができなかった。

これまで研究活動をさせて頂いていた北松中央病院では昨年度末から感染予防のため見合わせている。調理教室も延期することとなった。本年度に入ってから状況が改善せず病院での活動再開には至っていない。3年生の卒業研究活動は別テーマで行うこととした。

学生と患者等調査対象者との直接の接触が難しい状況のため、できるだけ非接触の形での研究活動が行えるよう考えている。

腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いている。昨年度末に実施する予定であった訪問調査、感染予防のため延期することとしたため、今回は、訪問する学生は2名に絞り、事前に自分と学生もPCR検査を実施して陰性を確認した上で、訪問調査を行った。他のメンバーは大学で待機し、Zoomで結び、オンラインで調査に参加させた。

フェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動も移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関わる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生や一緒に研究活動を行っている助手の先生らの学びとなるものと考えている。

昨年度はフェニルケトン尿症親の会連絡協議会へ調理教室のレシピの記事を作成し、提供した。協議会ニュースに掲載された。本年度、2回目の調理教室を本学で開催する予定であったが新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、延期し、Zoomを活用したオンライン形式の調理教室の開催も検討したが、難しく断念をした。現在は低たんぱくミートを用いたPKUの食事療法に役立つレシピの開発とそれらを利用した情報発信に取り組んでいる。これらのテーマで論文作成、学会発表へとつなげたい。

卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えられる。多くの卒業生が病院など臨床現場に就職し、様々な業務に従事している。

今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 松尾 嘉代子

1. 教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。

人が「食べること」を楽しむことは、QOLを高めるために重要なことです。

食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるような工夫、実習では、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、実際の場面を想定し活用できる知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

2. 教育活動

(1) 授業 (科目名 / コマ数 (開講時期等) / 単位数 / 単位授与 / 学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの 類型
総合演習 I	4 / 15 (通年)	1	77	①⑤⑥⑪
臨地実習 I (給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	1	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理論)	15 / 15 (通年)	1	85	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	3	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学 A)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習 V (臨床栄養学 B)	30 / 30 (通年)	2	1	⑪⑫
事前・事後指導(栄養)	7 / 8 (通年)	1	5	④⑦
栄養教育実習	20 / 40 (通年)	1	5	⑦
応用栄養学 I	15 / 15 (前期)	2	31	①②③⑨⑩
応用栄養学 II	15 / 15 (後期)	2	67	①②③⑨⑩
応用栄養学 I	15 / 15 (前期)	2	38	①②③⑨⑩

管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
応用栄養学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	-	①②③⑨⑩
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	41	①②③⑨⑩
健康栄養入門	5 / 15 (前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教職実践演習(栄養教諭)	5 / 15 (後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
応用栄養学Ⅲ	15 / 15 (前期)	2	34	①②③⑨⑩
学校栄養教育論	8 / 15 (後期)	2	3	①②③⑤⑥⑦
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	6	⑪⑫
応用栄養学実習	15 / 15 (後期)	1	36	①④⑥⑦⑩
応用栄養学実習	15 / 15 (後期)	1	36	①④⑥⑦⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養教育学特論	15 / 15 (前期)	2	2
栄養科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	-
栄養科学演習	30 / 30 (通年)	4/1～2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、前期はすべてオンライン授業となったため、授業アンケートを実施できなかったが、後期はオンライン授業科目について授業アンケートを行った。

初めての形式での授業であったが、評価は対面授業と変わらず高評価を得ることができた。

今後も、どのような形式の授業になっても、学生が興味を持って取り組めるような授業展開を意識し、管理栄養士として必要な知識や実践的な能力も身につけることができるよう、日々、工夫していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期の栄養教育に関する研究
 食物アレルギー児の支援に関する研究
 スポーツ栄養に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
 管理栄養士養成課程の臨地実習における「自己学習ノート」の有用性に関する研究/令和2年
 10月/第79回日本公衆衛生学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	海外大学との交流協定締結や交換留学等について検討。
ハラスメント対策委員会	委員長	ハラスメント案件(2件)に対応。ハラスメント防止の普及啓発活動やFD開催。
教育基盤センター運営委員会	委員	教育課程や資格取得過程等について検討。

臨地実習委員会(学部内)	委員長	臨地実習に関する必要事項について検討。今年度はコロナ禍での実習対応調整についての検討も多くあった。
--------------	-----	---

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 学科広報催事(公開講座)実施/令和2年12月20日(日)/場所:本学科調理実習室/「食物アレルギー児を支える地域づくり講座」を開催計画/参加者:保護者等18名予定 /新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
6	6

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度「平戸市南部地区介護支援ボランティア講習会」	令和2年10月23日	平戸市南部多目的研修センター	平戸市・社会福祉平戸市社会福祉協議会主催
令和2年度「長崎県西彼杵郡学校給食研究会」	令和2年11月20日	時津中学校	西彼杵郡学校給食研究会主催

令和2年度「食育研修会」	令和2年11月26日	長崎県総合福祉センター	一般社団法人長崎県保育協会主催
令和2年度「食事サービス講習会」	令和3年1月18日	波佐見町農村環境改善センター	波佐見町社会福祉協議会主催
教員免許状更新講習会「食を通して健康を考えるA」	令和2年9月12日	長崎国際大学(オンライン開催)	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
教員免許状更新講習会「食を通して健康を考えるB」	令和2年9月19日	長崎国際大学(オンライン開催)	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大村市食育推進県民会議	委員	2019/07/01～ 2021/06/30	大村市長
健康ながさき21栄養・食生活部会	委員	2020/3/01～ 2021/03/31	長崎県福祉保健部 国保・健康増進課長
県北保健所地域・職域連携推進協議会作業部会	委員	2020/05/22～ 2021/3/31	長崎県県北保健所
(公社)佐世保市学校給食会	評議員	2014/06/01～	(公社)佐世保市学校給食会長
けんこうシップさせぼ21推進会議	会長	2020/7/15～	佐世保市長
佐世保市食育推進会議	会長	2019/07/01～ 2021/06/30	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、当初から新型コロナウイルス感染症への対応で、異例の授業運営、研究活動、社会活動を強いられたが、その中で可能な限り工夫をして、教育の質を落とさない努力を行った。その結果、後期の授業アンケートでは例年と変わらず高評価を得ることができたことは、今後の教育活動に自信を得ることができた。

担当科目の臨地実習では、学外に学生を送り出すのが難しい状況であったが、実習施設との調整を充分に行い、全員ではなかったが多くの学生を学外の実習に送り出すことができたので、一定の教育効果を得ることはできたと考える。

また、社会活動も新たな委員会の会長就任や、外部からの講演依頼に4件対応できた。コロナ禍ではあったが、感染予防対策を徹底し社会活動を途絶えさせなかったことは、一定の評価ができる。しかし、学内で実施を予定していた広報活動は、参加者の募集まで終了していたが、調理実習を伴うものであったため、中止せざるを得なかった。次年度は、実施方法や参加人数を検討しながら、何とか開催できないか検討していきたい。

研究活動については、大学院生の指導を行いながら、論文投稿の準備を進めていたが、実際に投稿までは出来なかったため、来年度は論文投稿につなげるように進めていきたい。

次年度も、コロナ禍での研究、教育、広報活動が継続していくと予測されるが、工夫してできることが多くあることに気づくことができたので、今年度の教訓を活かしながら、よりよい教育・研究活動を推進できるように尽力していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 准教授 氏名 山口 留美

1. 教育理念

私の教育理念は、管理栄養士として必要な知識および技能を修得し、医療や福祉等の現場において、相手の立場を尊重し思いやり、そして貢献できる人材の育成を支援することと考えている。

臨床栄養学の基礎知識を学んだ後に、アクティブラーニングを用いて様々な角度から物事を観察・提案ができるよう授業を構成している。その時点で自らの不足した知識や技能を振り返り、主体的に学び知識獲得を目指すものとする。また、アクティブラーニングを通し、自ら発言するだけでなく、相手の立場を十分に理解し尊重し合うコミュニケーション力を身に付けさせ、食の専門家として「チーム医療」の中での管理栄養士の役割を学ぶこととする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 /学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	15 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	2 / 30 (通年)	1	3	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学A)	1 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習Ⅴ(臨床栄養学B)	1 / 30 (通年)	2	1	⑪⑫
管理栄養士演習	1 / 30 (前期)	2	52	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	-	②③⑩
臨床栄養管理学Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	66	②③⑩
健康栄養入門	1 / 15 (前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅳ	15 / 15 (前期)	2	41	②③⑤⑩
臨床栄養管理学Ⅳ	15 / 15 (前期)	2	38	②③⑤⑩
給食栄養管理実習(学内)	15 / 30 (後期)	1	28	④⑥⑦⑧⑩
給食栄養管理実習(学内)	15 / 30 (後期)	1	33	④⑥⑦⑧⑩
臨床栄養管理実習	15 / 30 (後期)	1	39	④⑥⑦⑧⑩
臨床栄養管理実習	15 / 30 (後期)	1	38	④⑥⑦⑧⑩
管理栄養士演習	1 / 30 (後期)	2	25	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業に対する評価は概ね良好であったが、前期後期を通して学生の自己学習評価点数が低い傾向である。今後は自己学習を促す授業の進め方への工夫が必要であると感じる。そのため次年度は課題レポートの他に学生への質問時間を多く取り入れるなどし、改善していきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者における栄養管理に関する研究

妊娠糖尿病患者の食生活に関する研究

緩和ケアチームにおける管理栄養士の関りに関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	奨学金関係や大学生活に関する事柄に関しての検討を行った。また、クリーンキャンパスなどの活動を行った。
臨地実習委員会(学科)	委員	学外実習に向けて事前指導や事後報告に関しての指導を行った。今年度は学内実習となった学生に対し、学外と同じ内容となるよう検討し実習を行った。
倫理委員会(学科)	委員	研究開始に伴う倫理審査について検討を行った。
駐車場・駐輪場委員会	委員	学内の駐車場における問題等を検討を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

北松農業高等学校の進路ガイダンス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外

2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度はコロナ禍でなかなか思うように活動ができなかったが、研究の準備段階として活動を行っ

た。授業アンケートにおいても実際の医療現場で得た経験が評価されており、研究の内容についてもその視点を生かした内容で行いたいと考えている。

また、臨地実習Ⅳが学外で行えなかった学生に対し、実際の医療現場と同じような内容で学内実習を行うために、他の先生方とともにカンファレンス等を取り入れた内容で実施し充実したものであったと思われる。

今後も研究活動を行いながらも、より学生に寄り添った活動を行っていきたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 小田 和人

1. 教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	④
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	⑧
総合演習Ⅱ	1 / 15 (前期)	1	3	⑧
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	⑧
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	⑧
スポーツ栄養学	15 / 15 (後期)	2	19	①②③⑩
スポーツ栄養学	15 / 15 (後期)	2	69	①②⑨
運動生理学	15 / 15 (前期)	2	25	①②③⑩
地域の理解と連携	5 / 15 (後期)	2	236	②④
学際連携研究	4 / 15 (前期)	2	254	⑩
地域栄養論	15 / 15 (後期)	2	5	②④⑩
スポーツ栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	6	⑥⑩⑪
実践栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	3	⑥⑩⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①②④⑥⑩⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・後期 スポーツ栄養学(健康栄養学科)

質問12:4.6、質問13:4.6と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味を持てる授業を行う必要があると感じた。今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・後期 スポーツ栄養学(観光学科)

昨年度と大きく変わらない評価(質問12:4.5、質問13:4.6)であり、過半数が理解でき、満足できたという結果であった。

・後期 教養セミナー

質問12:4.8、質問13:4.8と過半数の学生が満足していた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	7
長崎短期大学	運動生理学	15/15(後期)	2	21
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	12

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
管理栄養士国家試験対策(2302教室)	14	43	2020/10/14, 2020/10/28, 2020/11/5, 2020/11/9, 2020/11/12, 2020/11/16, 2020/11/17, 2020/11/24, 2020/12/4, 2020/12/11, 2020/12/16, 2020/12/17, 2020/12/23, 2021/2/17
管理栄養士国家試験対策(5101教室)	12	34	2020/10/14, 2020/10/28, 2020/11/2, 2020/11/9, 2020/11/18, 2020/11/24, 2020/11/30, 2020/12/13, 2020/12/16, 2020/12/23, 2021/1/29, 2021/2/17

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質の関係

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	1	1	97.3万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
イラスト スポーツ・運動と栄養－理論と実践－/共著/2020年4月/東京教学社/
35-47,60-64,123-142,151-166頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
大学女子バレーボール選手の骨密度と骨代謝マーカー/2020年9月/第67回日本栄養改善学会
(誌上開催)
男子バスケットボール選手の競技開始時期の違いによる骨密度および栄養素等摂取状況/2021
年1月23日/第19回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和2年度学長裁量経費「地域協働による健康増進プログラムの作成を通じた学生・地域支援」	長崎国際大学	2020/5/27～ 2021/2/28	97.3万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	なし
ボランティアセンター運営委員会	委員	なし

教育基盤センター運営委員会	委員	共通教育・初年次教育・リメディアル教育・入学前教育の企画及び運営
安全衛生委員会	委員	なし
学生委員会(学科)	委員	本学保護者会の運営
倫理委員会(学科)	委員	なし
国家試験対策委員(学科)	委員	栄養士実力認定試験および模擬試験の運営
入試募集委員(学科)	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター委員会 ホスピタリティ概論ワーキンググループ	係	授業の運営について協議、シラバスの修正、授業担当者の選出、SAの募集・選出、講師依頼
卒業研究担当	係	説明会及び発表会の運営、希望調査の集計、発表会時の抄録集および研究論文集の作成(取り纏め・編集)
4年演習担当	係	定期試験問題の編集および採点、結果表作成

(3) 課外活動の指導等

①長崎国際大学空手道部 男女空手道部顧問

第69回全九州大学空手道選手権大会(10/18)

男子団体組手 第3位、女子団体組手 準優勝、男子団体形 第3位、女子団体形 準優勝

②NIUスポーツ栄養サポートチーム:本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に本学空手道部、九州文化学園サッカー部、佐世保北高校空手道部部に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。本学ホームページのトピックスに活動状況を定期的に掲載中。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①スポーツ栄養サポートチームの活動記事を定期的にweb上に掲載

②本学空手道部の活動記事を定期的にweb上に掲載

③各種空手道大会での次年度入学生の募集活動を実施(2021年度9名が入部予定)

④夢ナビライブ2020「まなびステーション」において高校生に対する講話をオンラインにて5コマ(1コマ 30分)担当/令和2年10月17日

⑤高校内進路ガイダンス『栄養士・管理栄養士の仕事について』/令和2年10月7日/長崎県私立西海学園高校

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
運動部に所属する高校生のための食事と栄養(高校生空サッカー選手のためのスポーツ栄養学)	令和2年8月27日	(株)南風崎MGLエデュテンスにて実施	九州文化学園高校サッカー部
運動部に所属する高校生のための食事と栄養(高校生空手道選手のためのスポーツ栄養学)	令和2年9月19日	長崎県立佐世保北高等学校	長崎県立佐世保北高等学校空手道部

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県空手道連盟理事会	学連理事	2019年4月～現在に至る	長崎県空手道連盟

(3)社会貢献・ボランティア活動等

- ①令和2年4月～令和3年3月 九州文化学園高校サッカー部への栄養サポート
- ②他大学との連携による動画配信「スポーツ栄養情報配信チャンネル」を開設

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

令和2年度 学長裁量経費表彰制度 きらめき大賞受賞「スポーツ栄養指導」

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、遠隔授業および対面授業による実施のため、実習科目など学生により進行状況が異なることもあったが、個別対応に合わせ授業を展開するとともに配布資料の改善を行った。卒業研究担当学生を地域での活動に参加させることが難しかったが、競技選手への具体的な栄養サポート方法等を指導した。また、学生生活や学修状況を把握し、定期的に支援を行った。

教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門担当として共通教育や初年次教育等の企画及び運営に携わった。またホスピタリティ概論ワーキンググループでは、授業の運営について協議し、シラバスの修正や授業担当者の選出等を行っており、今年度の反省を活かした運営に励みたい。

『スポーツ栄養学的サポート』をテーマに研究を行っており、今年度、学会発表を2件行った。また、他大学との連携による動画配信「スポーツ栄養情報配信チャンネル」を開設し、本学アスリートおよび一般向けの情報を配信した。

社会貢献として競技選手および保護者への講演を実施した。次年度以降も外部依頼があれば貢献していきたい。

NIUスポーツ栄養サポートチームとして本学強化クラブや高校ジュニア選手への栄養サポートを実施し、また男女空手道部顧問として大会引率等を含め、選手の学生生活やコンディションのサポートを行い、高校生への募集活動も行った。全九州大会では男子団体組手で第三位、女子団体組手は準優勝と、目標達成には及ばなかったことから、次年度は学業面との両立も図れるよう指導を続けていきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 川内 美樹

1. 教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、4年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。

私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、4年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、放課後には化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習 I	2 / 15 (通年)	1	77	①
栄養の化学演習	15 / 15 (前期)	1	33	⑧⑨
管理栄養士演習	4 / 30 (前期)	2	52	⑧
総合演習 II	2 / 15 (後期)	1	65	⑧
生化学	15 / 15 (後期)	2	63	①⑨
栄養代謝学	15 / 15 (前期)	2	29	①③⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	⑤⑥⑧⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	4	②⑥⑫
生化学	15 / 15 (後期)	2	2	①⑨
栄養学専門演習	4 / 30 (後期)	2	50	⑧
栄養代謝学	15 / 15 (前期)	2	36	①③⑨
基礎化学実習	6 / 30 (後期)	1	24	⑪
生化学実習	30 / 30 (後期)	1	37	⑩⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	⑥⑫
生化学実習	30 / 30 (後期)	1	30	⑩⑪
基礎化学実習	6 / 30 (後期)	1	24	⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床生化学特論	15 / 15 (後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、初めてのオンライン授業での授業アンケートであったので、今までの対面での授業のやり方や学生の受け止め方とは違う結果を覚悟していた。学生と距離がある分、授業の進め方の工夫や宿題(予習復習)の出し方など試行錯誤しながら行なっていった。結果、そこまで独りよがりな授業となったわけではなかったようで、対面よりも結果が上昇している質問も多く、本当に良かったと思う。

来年度は、また対面に戻るのでオンライン授業での学生の評価が高かったところなどは継続して、より良い授業を目指して頑張りたいと思う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校 衛生看護専攻科	栄養学	8/8(前期)	1	43

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	76	前期(水曜4,5限目)
国家試験対策	15	77	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 酒粕が与える2型糖尿病モデルマウスへの影響
2. 酒粕を混合した飼料でのタマゴの栄養価食味健康機能性研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
2021年管理栄養士国家試験全国统一模擬試験「かんもし」第2回解答と解説/共著/2020/09/
株式会社インターメディカル/21～28

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書の選書の取りまとめ、選書ツアー、ビブリアバトル
ハラスメント対策委員会	委員	相談への対応
IRセンター委員会	委員	卒業アンケートの学科意見のまとめ IRコンソーシアム学生アンケートの学科意見のまとめ
学科学生委員会	委員	学生指導など
国試対策委員会	副委員長	模擬試験と取りまとめ、国試対策の実施、朝テストの実施

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
入試問題作問	作問責任者(化学基礎・化学) 作問グループ(総合問題、生物基礎・化学基礎)	推薦入試2回分作問 一般学力入試2回分作問

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① オープンキャンパス(7月、8月、3月)への参加

② 高校ガイダンスへの参加(佐賀清和高校) /3月8日/オンラインにて実施

③ 夢ナビ 栄養学ブースの担当/10月18日/ オンラインにて実施

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
第3回オープンキャンパス 学科紹介	8月23日	長崎国際大学	健康栄養学科

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本栄養・食糧学会九州沖縄 支部参与	なし	10年	日本栄養・食糧学会 九州沖縄支部

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

- ① 学長裁量経費「あすなる大賞」 酒粕を混合した飼料でのタマゴの栄養価食味健康機能性研究
- ② 学長裁量経費「あすなる大賞」 管理栄養士国家試験対策(健康栄養学科教員一同)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、コロナ禍の中、前期は対面授業がなくなりオンライン授業という新たな試みの中の授業であったが、担当科目は全て滞りなく進めることができた。授業アンケートの結果もオンライン授業の中学生の評価が心配であったが、コメント欄は例年通り「わかりやすかった」という意見が多くよかったと思う。

研究面においては、目標としていた論文作成や学会発表を行うことができなかった。来年度は早々に論文を提出できるように頑張りたいと思う。

また、委員会等の活動では図書館委員としては学科の選書を行ったり、ハラスメント対策委員でも相談に対応するなど職務を全うすることができた。IRセンター委員会でも学科の意見をまとめたりと滞りなく行うことができた。

学科の国家試験対策委員のメンバーとして、模擬試験の実施から学生教員、保護者への結果のフィードバック、さらに朝テストの作成から実施までをメンバーと協力しながら行うことができた。

来年度はどのような実施になるかは不明であり、学生も大変になると思われるが、与えられた任務に加えて学生へのサポート、さらには自分自身の研究面も充実させていきたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 川野 香織

1. 教育理念

私の教育理念は、対象者に寄り添った支援によって、多くの人々のよりよい食生活の実現に貢献できる管理栄養士の育成を行うことである。

私が担当している栄養教育論は、人々の生涯を通じた健康の維持・増進、QOLの向上に寄与する健康的な食行動の形成や行動変容のために、いかに支援すべきかの学問である。それは、単に知識を伝えるだけでなく、行動科学や教育的な幅広い視点を踏まえ、一人ひとりに応じた栄養教育を行う必要がある。そして、その一步は、対象者を理解し、尊重することから始まると考える。

よって、学生には、人々の価値観や社会的背景の特徴等の多様性の理解と尊重ができる豊かな人間性や広い視野、コミュニケーション能力を身につけてほしいと考えている。その点を踏まえながら、講義中心の授業では、実践の場をイメージできるよう、かつ、意欲喚起を図る手段を取り入れ、知識やスキルを伝え、実習では、グループ討議や発表等を通して、コミュニケーション力、協働・課題解決力を育成に努める。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	15 / 15 (通年)	1	77	④⑤⑥⑦⑪⑫
臨地実習 I (給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	1	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理論)	30 / 15 (通年)	1	85	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	3	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学A)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習 V (臨床栄養学B)	30 / 30 (通年)	2	1	⑪⑫
事前・事後指導(栄養)	4 / 8 (通年)	1	5	④⑦
栄養教育実習	20 / 40 (通年)	1	5	⑦
栄養教育論 I	15 / 15 (後期)	2	68	①②③⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習 II	1 / 15 (前期)	1	3	①②③⑧⑨
総合演習 II	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
栄養教育論 I	15 / 15 (後期)	2	-	①②③⑩
栄養教育論 II	15 / 15 (前期)	2	36	①②③⑩
栄養教育論実習 II	30 / 30 (後期)	1	36	②③④⑥⑪

栄養教育論Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	38	①②③⑩
健康栄養入門	3 / 15 (前期)	2	72	②③⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩ ⑫
教職実践演習(栄養教諭)	5 / 15 (後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
学校栄養教育論	8 / 15 (後期)	2	3	①②③⑤⑥⑦
栄養教育論実習Ⅰ	30 / 30 (前期)	1	39	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅰ	30 / 30 (前期)	1	38	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	42	②③④⑥⑪
卒業研究	30 / 30 (通年)	2	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教養セミナーB:受講者全員からの受講に対する満足度が高かった。

栄養教育論Ⅰ:昨年度の授業アンケート評価を踏まえ、わかりやすい板書や資料作成、明瞭な話し方等に心がけ、受講に対する満足度は昨年度より上昇した。自由記述には使用媒体や進行速度が適切であったという内容が多く、このことが満足度上昇に繋がったと考える。

しかし、満足度に比べ、理解度は低かったため、本年度、やや低評価であった「授業内容への興味」を上昇させられるよう、本科目が実践でどのように役に立つのかなど、事例を踏まえ理解を促す工夫をしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

ライフステージにおける効果的な栄養教育に関する研究(主に乳幼児期)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
日本における外国人持久走選手への栄養サポートの課題/2020/3/31/長崎国際大学論叢第20
巻/93-100/共著/論文
長崎県健康・栄養調査における食生活の自己評価と食習慣、身体状況、栄養摂取状況の関連/
2020/3/31/長崎国際大学論叢第20巻/113-122/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
管理栄養士養成課程の臨地実習における「自己学習ノート」の有用性に関する研究/2020.10/第
79回日本公衆衛生学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職に関する事項の協議および本学科の就職ガイダンス等の計画実施等を行った。
地域連携センター	委員	地域連携に関する事項の協議および本学公開講座の調整等を行った。
臨地実習委員会(学科)	副委員長	臨地実習に関する事項の検討を行った。
入試募集委員会(学科)	委員	入試募集に関する事項の検討を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

・進学ガイダンス 2020/10/15 佐賀県清和高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
教職免許更新講習会「食を通して健康を考えるA」	2020/9/12	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会
教職免許更新講習会「食を通して健康を考えるB」	2020/9/19	長崎国際大学	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育向上委員会	協力教員	2020/4/1～ 2021/3/31	長崎県食品安全・消費生活課
佐世保市食育推進会議	委員	2017/4/1～	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎県食育向上委員会の大学生委員の活動サポート: 県内大学生委員が作成した媒体の掲示に

向けた調整等

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでと大きく異なる一年となったが、工夫を重ねながら一定の諸活動を行うことができたと考える。教育活動では、遠隔での授業や実習の充実に向け通常より準備に時間をかけ、丁寧な授業展開に心がけた。後期の授業アンケートの結果では、昨年度より満足度の高い授業となった。また、臨地実習では、担当教員と検討を重ね、可能な限り学生が学修できる環境づくりに努め、今後の臨地実習指導体制の充実に繋がるものとなったと考える。研究活動では、就学前の教育・保育施設の食育関連の論文を学会誌へ投稿することができた。引き続き次年度も食育関連の論文作成を進めて行く予定である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 高江洲 有沙

1. 教育理念

私の教育理念として、対象者の個性を尊重した行動を実践し、主体的に考えて行動する力ならびに社会で柔軟に生きぬく力を身につけ、地域・国際社会に貢献できる人材の育成を支援することである。相手を尊重し行動することは社会生活において人間関係をよりよくするための基本的なことと捉え、そのうえで、管理栄養士の専門的な知識と技能を生かして人々の健康の維持増進に必要なことは何なのかを主体的に考えて行動することが地域社会や国際社会への貢献へとつながっていると考えている。

また、管理栄養士は様々な社会的背景を持った対象者の「食」と係わるが増えてきており、個々の特性に寄り添った支援をしていく必要がある。そこで、基礎・基幹科目がどのように実践で生きてくるのか、各科目を関連付けて講義を進め、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの手法を用い、専門力だけでなく、多様性理解力や課題解決力を育成したいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ(給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	1	⑪⑫
臨地実習Ⅱ(給食経営管理論)	15 / 15 (通年)	1	85	⑪⑫
臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	3	⑪⑫
臨地実習Ⅳ(臨床栄養学A)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習Ⅴ(臨床栄養学B)	30 / 30 (通年)	2	1	⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	36	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ	30 / 30 (後期)	1	42	②③④⑥⑪
健康栄養入門	1 / 15 (前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
食教育論	15 / 15 (前期)	2	32	①②③⑥⑩
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
国際栄養論	15 / 15 (後期)	2	8	②③⑤⑥⑩

栄養教育論実習 I	30 / 30 (前期)	1	39	②③④⑥⑪
栄養教育論実習 I	30 / 30 (前期)	1	38	②③④⑥⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期は授業アンケート未実施であるため、終了後の学生からの評価は不明であるが、なるべく学生が知っている内容や体験したことについても触れ、オンライン上のグループ学習も実施しながら行ったため、概ね食や健康・栄養に興味を持ったのではないかと考えている。

後期の授業では、教養セミナーB、国際栄養論では授業内容の興味・関心は概ね良好であった。しかし、国際栄養論のハイブリット形式授業はオンラインの回では、学生の様子を伺うことに難しいところもあり、進めるスピードや話し方は聞き取りやすいよう、さらに配慮する必要があったと感じた。また、多様性の理解と情報収集・分析力が問われる分野であったことから、学生自身が考えて必要な部分を記述する資料を作成し、授業後には重要な内容のスライドを配布、自らの学習へつなげるように伝えていたが、十分な理解が得られていない自由記述があり、今後は学生への適宜説明と積極的な質問を促し、学習意欲につながるような授業展開の工夫など、改善していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

教育現場における食育に関する指導方法の研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	なし
教職課程委員会	委員	なし
臨地実習委員会(学科内)	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① オープンキャンパス 管理栄養士の仕事について講話/7月26日/長崎国際大学
- ② オープンキャンパス 「管理栄養士の仕事紹介(ポスター)」/8月10日/長崎国際大学
- ③ 長崎県立大村城南高等学校1年生大学見学会 「食教育論」模擬授業/10月21日/長崎国際大学(2201教室)
- ④ 夢ナビライブ2020 まなびのステーション「栄養士・管理栄養士について」/10月18日/長崎国際大学(zoom遠隔対応)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

・2018年9月～ 日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)のリーダー登録後、定期的な訓練へ参加

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

初年度ということもあり、授業をこなすことで精一杯であったため、大学での諸活動においては十分に把握することが出来なかったが、教職員の方々から助言をいただきながら授業及び活動を進めることができたと考える。

また、初めてのオンライン授業は当初、機器のトラブルなどもあったが、概ね順調に取り組めたと感じている。

さらに、実務家教員として、給食現場や栄養教育の経験した内容を取り入れながら、学生の探求心に応えられるような授業展開を心掛けることができたと考えているが、次年度はアクティブラーニングを効果的に取り入れながら、学生自らが考えながら実践できる授業を進めていきたいと思う。

研究においては、新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言で、教育現場(小学校等)が臨時休校となり、計画通りに進むことはできなかった。しかし、大幅な時期の遅れはあったものの、オンラインにて事前調査を実施することができたため、調査研究の実施方法の可能性が広がり、これから積極的に活用していきたいと考えている。

今後は授業だけでなく学生サポートおよび研究面も充実させ、社会貢献と大学の運営に積極的に取り組んでいきたいと考える。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 藤井 俊輔

1. 教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持たば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ?」、「どのように?」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ?」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないように、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか?」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①②③⑧⑨
栄養の化学演習	15 / 15 (前期)	1	34	①⑧⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
食品学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	63	①⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
食品学Ⅱ	15 / 15 (後期)	2	2	①⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
食品学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	38	①⑨
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
食品学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	32	①⑨
基礎化学実習	30 / 30 (後期)	1	24	⑨⑪
基礎化学実習	30 / 30 (後期)	1	24	⑨⑪
食品学実習	30 / 30 (前期)	1	30	①⑩
食品学実習	30 / 30 (前期)	1	37	①⑩
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食品機能科学特論	15 / 15 (後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、zoom等を用いたオンライン講義を主とした講義の実施となった。オンライン講義の運用当初は、本ツールの使用方法等で教員側および、学生側において、多少の戸惑いもあったが、大きな問題もなく前期、後期ともに全講義を終了することができた。また、オンデマンド形式の講義など、新しい講義の在り方について触れることができ、今後の授業の在り方が大きく変化するであろうと感じた一年でもあった。

授業アンケートの結果から推察すると、オンライン講義となった影響は極めて小さかったと肌感として感じているが、一部の学生からは、対面時授業の方がやる気が出るなどの意見があった。その一方で、比較的自由に受講可能なオンデマンド形式の講義も好評であり、次年度以降は、これらをうまく組み合わせた講義展開を視野に入れ、講義内容を構築していきたい。さらに、講義に対する満足度に関しても大きな下方変化は認められなかったことから、上手くオンライン講義に対応ができたので

はないかと感じている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	28
長崎短期大学	食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	28
長崎短期大学	食品学実習	30/30(後期)	1	20
唐津看護専門学校	代謝栄養学	15/15(前期)	2	38

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製と免疫化学的分析手法の開発

本研究では、生薬や食品に含まれる薬理作用または、三次機能が見いだされている天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製を実施し、作成したモノクローナル抗体を研究ツールとして、種々の免疫化学的分析手法の開発を行い、生薬の品質管理や標準化への応用、また、食品の安全性評価法へと応用している。

2. 骨粗鬆症の予防に着目した機能性成分に関する研究

骨粗鬆症は骨の病的老化であり、骨形成と骨吸収を司る骨芽細胞と破骨細胞のアンバランスが生じた結果引き起こされる骨代謝疾患である。骨粗鬆症の予防には、ライフステージの初期段階から生涯をかけて取り組むことが重要である。本研究では、骨芽細胞の増殖、分化に影響をを与える食品成分の探索を実施し、その作用機序の解明を目的としている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	2	2	437万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Kwakhurin-magnetic particles conjugates enable fast enzyme immunoassay for the detection of

kwakhurin in Pueraria candollei. / 2020 / Phytochemical Analysis / 31(6), 930-936 / 共著 / 論文
 Rapid magnetic particles-based enzyme immunoassay for the quality control of Glycyrrhiza spp.
 based on glycyrrhizin content / 2020 / Fitoterapia / in press / 共著 / 論文
 Applications of monoclonal antibodies against natural compounds for functional analysis of crude
 drugs. / 2020 / Current Pharmacology Reports / 6, 192-201 / 共著 / 総説

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

Development of magnetic particles-based enzyme immunoassay for the detection of kwakhurin in
 Pueraria candollei. / 2020年11月 / 3rd International Conference on Traditional Medicine,
 Phytochemistry and Medicinal Plants

Bioimprinting technique for the quantitative analysis of kwakhurin / 2020年11月 / 3rd International
 Conference on Traditional Medicine, Phytochemistry and Medicinal Plants

磁気ビーズイムノアッセイを用いたプエラリア・ミリフィカに含有するクワクリンの定量分析法の確立 /
 2021年3月 / 日本薬学会第141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
オートファジーを制御する機能性成分の作用機序解析	科学研究費補助金 若手研究(代表)	2018-2020年度	377万円
プエラリア・ミリフィカ含有健康食品の安全性評価法の確立	厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業(分担)	2019-2020年度	60万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会(全学委員会)	委員	入試・募集委員として、各種ガイダンス担当教員の振り分けや、入試監督業務、オープンキャンパスの学科担当などを務めた。
CHサポートセンター運営委員会	委員	CHサポートセンター運営委員として、種々の配慮申請等に対する対応や、学生サポート室室員を務めた。
入試・募集委員会(学科内委員会)	委員	オープンキャンパスにおける学科スケジュール案の調整を行った。

教務委員会(学科内委員会)	委員	新年度オリエンテーションスケジュール調整や取りまとめを行った。また、保護者宛のコメントの添削などを行った。
国試対策委員会(学科内委員会)	委員	国家試験対策演習の実施方法や、朝テストの作成、採点、取りまとめを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

バレーボールサークルの顧問を務めた。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

各種進路ガイダンスでの模擬講義や、専門分野の説明、大学説明などを務めた。また、全てのオープンキャンパスに参加し、学科のオープンキャンパス担当として実施内容などの取りまとめを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
食べ物がもつホントの「機能」とは!?	10月14日～10月20日	オンライン開催	夢ナビライブ

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①テレビ佐世保の依頼で、下記の番組に出演した。

1. 「スポットインサセボ」出演 令和3年2月15日「ふぐの栄養素について」
2. 「職場へGO!」出演 令和3年3月16日

②論文査読:1件(欧文)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育面】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イレギュラーな講義形式となったが、授業アンケートの結果を見ても、講義の満足度の大きな下方変化がなかったことから、大きな問題もなく遂行することができたと感じている。また、zoom等のツールを利用したオンライン授業も学生からは好評であった。来年度以降は、基本的に対面授業を主として講義を行うが、今年度取り入れたツールをうまく活用することも必要であると考えているため、講義そのものの在り方を考える時期に差し掛かっているようにも感じた。オンライン授業となり、講義内容に関する質問等が行いにくいとの声もあったことから、従前どおりマナバを活用したり、授業時間外に、zoomを設定し、質問を受け付け回答するといった個別対応も、積極的に行うことができた。

【研究面】

今年度は、共著者として論文3編、学会発表3報、獲得中の外部研究費2件に加えて、さらに2件の外部資金の申請を行った。しかし、論文、学会発表ともに筆頭著者または演者となったものがなく、十分なアウトプット活動ができず、憫然たる結果となってしまった。来年度以降は、この点に関してより積極的に研究活動を行っていきたいと考えている。

【運営面】

各種委員会における活動や、募集活動、社会貢献に関して幅広く積極的に行うことができ、微々たる成果であるかもしれないが、本学の知名度を高めることができたのではないかととらえている。来年度以降も教育面、研究面と併せて積極的に取り組んでいきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 宮原 恵子

1. 教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、管理栄養士の国家試験に合格できる力はもちろん、社会で管理栄養士として働く際の基礎力を育成することです。

よって、講義系の授業では、学生の想像力を補う展開を重視しています。私が担当する講義は皆さんの生活に関する内容であり、学生には、自身の現在や過去・未来の生活を想像しながら知識を深めてほしいと考え、そのために、一つの項目をいくつもの視点から説明する授業方法です。

また、実習系の授業では、講義で得た知識を実践に結びつける展開を重視しています。学生には、応用する意識や力を身に付けてほしいと考えており、そのために、講義の内容も振り返りながら、実習に取り組む、レポートやプレゼンテーションなどでまとめる・発表することを取り入れた授業方法です。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	15 / 15 (通年)	1	77	①②④⑪⑫
臨地実習 I (給食の運営)	30 / 30 (通年)	1	73	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理)	30 / 30 (通年)	1	1	⑪⑫
臨地実習 II (給食経営管理論)	15 / 15 (通年)	1	85	⑪⑫
臨地実習 III (公衆栄養学)	30 / 30 (通年)	1	75	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学)	30 / 30 (通年)	1	3	⑪⑫
臨地実習 IV (臨床栄養学A)	30 / 30 (通年)	1	72	⑪⑫
臨地実習 V (臨床栄養学B)	30 / 30 (通年)	2	1	⑪⑫
公衆衛生学 II	15 / 15 (前期)	2	35	①②⑨
健康管理論	15 / 15 (前期)	2	38	①②④⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習 II	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
栄養の生物学	15 / 15 (前期)	2	35	①②⑨
公衆衛生学 I	15 / 15 (後期)	2	1	①②⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
公衆衛生学 I	15 / 15 (後期)	2	65	①②⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
公衆衛生学 II	15 / 15 (前期)	2	39	①②⑨

栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
健康管理論	15 / 15 (前期)	2	39	①②④⑩
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
健康科学実習	30 / 30 (後期)	1	38	①④⑥⑩
健康科学実習	30 / 30 (後期)	1	33	①④⑥⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
生活環境科学特論	15 / 15 (前期)	2/1・2年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

まず、授業アンケート(後期のみ)の結果からの評価については、講義科目の理解度や満足度は昨年度とほぼ同様であったが、その科目のアンケートをオンラインで行ったためか、例年より自由記述が多くみられ、その上、「授業の分かりやすさ」を評価する記述がほとんどであった。これはオンラインの利点である、様々な情報の共有がしやすいことが理由と考えられる。

次に、授業改善と教育効果に関する評価については、先述したオンラインの利点により、これまで以上に授業内で様々な関連資料を示すことができ、それが学生の評価につながったと考えられる。ただし、画面を共有することで内容を把握したと学生が感じるリスクもあると思われるため、学生自身が調べたり確認したりする時間を確保するなど工夫が必要であった。また、実習科目では、これまで班単位で行っていた内容を個人単位に切り替えたことで、個人での十分な取り組みが班やクラス単位での成果に良い影響を与えたと感じられた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習Ⅰ	30/30(前期)	1	3
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習Ⅱ	30/30(後期)	1	2
佐世保市医師会看護専門学校	健康と運動	15/15(後期)	1	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
保育士試験合格対策講座(オンライン)	1	不明	2021年3月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・食事摂取状況に与える因子の検討:現在は咀嚼状況と身体状況の関連を検討している。
- ・食生活における使い捨てプラスチックに関する意識調査と消費状況調査

・管理栄養士臨地実習における学生サポートの検討

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	2	2	75万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

大学生の朝型・夜型指向性と健康度・生活習慣の関連/2020年9月/第67回日本栄養改善学会
学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和2年度学長裁量経費「管理栄養士臨地実習における心理的な学生サポートの検討」	長崎国際大学	令和2年5月27日～令和3年2月28日	15万円
令和2年度学長裁量経費「地域協働による健康増進プログラムの作成を通じた学生地域支援」	長崎国際大学	令和2年5月27日～令和3年2月28日	60万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	特になし
教育基盤センター運営委員会	委員	特になし
教務委員会(学科)	委員	オリエンテーション担当 保護者コメント担当
臨地実習委員会(学科)	委員	特になし
国家試験対策委員会(学科)	委員	朝テスト担当
入試募集委員会(学科)	委員長	オープンキャンパス企画担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

- ・硬式野球部副部長: 栄養サポート

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 大学見学会模擬講義(清峰高校)/7月14日/長崎国際大学
- ② アクティブラーニングを用いた進学ガイダンス/8月18日/龍谷高校
- ③ 大学見学会施設説明(佐世保東翔高校)/10月8日/長崎国際大学
- ④ 夢ナビライブ/10月24日/長崎国際大学(オンライン)
- ⑤ 1年生対象進学ガイダンス/12月11日/創成館高校
- ⑥ 1・2年生対象進学ガイダンス/3月6日/川棚高校(オンライン)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

まず、教育活動については、オンラインでの実施が多く、当初はオンラインツールをうまく活用できなかったが、徐々に慣れ、オンラインであることを有効に活用することができ、これまでの授業とは違うアプローチを行うことができた。授業アンケートでは「説明のわかりやすさ」についてコメントが多くみられたため、一定の効果は得られたと考えられる。また、対面で実施できた実習では、例年とやや異なる方法で進めた結果、これまで以上に学生一人一人の取り組みの充実につながったため、実習の流れを見直すこともできた。

次に、研究活動については、学会発表1本のみであったため、反省すべき点である。しかし、来年度の学会発表および論文投稿につながる、新規のテーマに関するデータ収集と来年度からの実施計画は進めることができた。

そして、大学運営活動については、主に学科内の委員会活動にて、担当業務を円滑に遂行することができた。ただし、業務の効率性や効果については、引き続き検討していく必要がある。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 講師 氏名 吉村 亮二

1. 教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力(専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力)を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

(講義科目)

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

(実習・演習科目)

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から考察結果までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 15 (通年)	1	77	①②④⑪⑫
基礎栄養学	15 / 15 (後期)	2	63	①⑨
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (前期)	1	3	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1 / 15 (後期)	1	65	①②③⑧⑨
基礎栄養学	15 / 15 (後期)	2	-	①⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
生物有機化学	15 / 15 (後期)	2	21	①②③⑩
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①②③⑧⑨
卒業研究	30 / 30 (通年)	4	6	①②④⑥⑨⑩⑫
基礎栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	36	①⑩⑪
栄養生理学実習	16 / 30 (後期)	1	37	①⑩⑫
基礎栄養学実習	30 / 30 (前期)	1	37	①⑩⑪
栄養生理学実習	16 / 30 (後期)	1	39	①⑩⑪
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康免疫科学特論	15 / 15 (後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

満足度は4.2であった。本年度は新型コロナウイルスにより例年のような実習を行えなかったが、自宅で行える実習は自宅で行えるように工夫したことは評価につながっていると考える。しかし、初めての試みであったため、実習行程等が少し学生に伝わらなかったことが、内容のわかりにくさにつながったと考える。来年度は本年度の反省を活かして改善に努めたい。また、授業内容の理解度が低いいため、課題や解説の内容の改善にも努める。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院非常勤講師	栄養学	15/15(前期)	2	25
佐世保市医師会看護専 門学校	環境論	15/15(前期)	2	33

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理機能に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

1) ロイシン・アルギニン・リジン摂取による骨格筋、肝臓タンパク質の合成と分解に及ぼす影響/令和2年11月/日本アミノ酸学会第14回学術大会

1) ロイシンと食事の摂取は、骨格筋のmTORC1活性化に効果的である
/令和3年3月/第8回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	学生委員会の委員を務め、オンラインフェス実施や卒業アルバム作成など、委員会の議案や課題の解決のために、所属する学部・学科と円滑な連携を図りました。
動物実験委員会	委員	動物実験倫理審査等の委員会活動を行いました。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

フットサルサークルの顧問を務め、学生の相談などを受けることができました。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

長崎県立猶興館高等学校進路ガイダンスに参加しました。また、佐世保ケーブルテレビに取り上げられた卒業研究発表会の実行委員として積極的に協力しました。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
健康のための筋肉と栄養の役割	11月21日	ひらど市民大学(た びら活性化施設)	平戸市教育委員会 生涯学習課

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

ひらど市民大学において「健康のための筋肉と栄養の役割」について講演しました。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育

昨年度から改善を試みていた実習題目を実施することができ、より充実した実習内容へ改善することができました。本年度は新型コロナウイルス感染対策としてオンラインにより授業・実習を行い、授業アンケート結果からも改善項目が見つかったためそれを基に引き続き各授業の改善に努めたいと思います。

・研究

非採択となりましたが、これまでに得られた研究結果を論文として国際誌に投稿しました。また、研究代表者、分担者として新規科研費申請を行いました。

・大学運営

学生委員会の委員として、学内行事実施に取り組みました。また、動物実験委員会、健康管理学部健康管理学研究科研究倫理委員会の委員として委員会の運営に協力しました。さらに、国試対策委員会の委員として国家試験合格率100%を目標に講義スケジュール調整や朝テスト作成、採点に積極的に取り組みました。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助教 氏名 菊地 優子

1. 教育理念

探究心をもち、自ら学ぶことのできる学生を育成する。

私は生物や化学といった専門科目の土台となる科目を担当している。これらは高校までの学習状況が大きく反映され、スタート時から理解度の差が大きく、苦手意識をもっている学生が多い。1年次のこれらの科目を通して、不足する能力に対して避けることなく前向きに、積極的に学ぶことのできる学生を育成したい。そのためには、なぜ生物や化学の知識が必要なのかを説明し、管理栄養士の専門科目と結び付けた授業展開を行う。また、実習では一人ひとりの理解度や意欲を把握しながら学生と接するよう心がける。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 15 (通年)	1	77	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2 / 30 (前期)	2	52	①⑧⑨
総合演習 II	1 / 15 (後期)	1	65	①③⑧⑨
栄養の生物学	15 / 15 (前期)	2	38	①②⑨
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
栄養学応用演習 I	15 / 15 (前期)	1	64	①②⑤⑥⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2 / 30 (後期)	2	50	①⑧⑨
栄養英語	15 / 15 (後期)	2	3	①⑥⑧
基礎化学実習	30 / 30 (後期)	1	24	⑨⑩
基礎化学実習	30 / 30 (後期)	1	24	⑨⑩
管理栄養士演習	2 / 30 (後期)	2	25	①⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「基礎化学実習」の授業アンケートでは全体的に得点が低く、特に「理解できたか」に関しては3.3、3.8と2クラスとも低かった。学生の苦手意識の強い科目であり、取り組みや理解度の個人差が大きい

ため、実習中に積極的に声をかけ、授業についていけない学生に対しては個別に対応していくことが必要であると感じた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園 歯科衛生士学院	生化学	15/15(後期)	-	25
九州文化学園 歯科衛生士学院	国家試験対策	2/74(後期)	-	25

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	2	10	7/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

食物アレルギーや炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ロイシン・アルギニン・リジン摂取による骨格筋、肝臓タンパク質の合成と分解に及ぼす影響/2020年11月/日本アミノ酸学会第14回学術大会(ウェブ開催)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員	なし
健康栄養学科 倫理委員会	委員	なし
健康栄養学科 国家試験対策委員会	委員	模擬試験担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 夢ナビライブ2020 まなびステーション「栄養学」/10月18日/ Web開催

② 九州文化学園高等学校1・2年生対象内部学校進学説明会/3月8日/長崎短期大学、九州文化学園高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、助教となり科目担当となった初年度であった。初めての講義が遠隔という形になり、手探り状態であったが、遠隔授業なりの工夫はできたと考える。しかし、対面で実施するようになり、学生の反応が見られるようになったことで自身の不慣れな部分、不足する部分が学生の様子からわかるようになった。来年度は同じ科目であっても対面授業となりうることから、内容や資料を見直し、また一から授業を作っていきたい。また、国家試験対策も担当させていただき、今まで直接的には関われな

かった管理栄養士国家試験対策に携われたことを嬉しく思う。

大学・学部運営業務においては初めてのことも多かったが、周囲の先生方にサポートしていただき、なんとか遂行できた。来年度はより広い視野を持って積極的に様々な業務に取り組みたい。

研究面では、論文投稿と新規のテーマの実験系確立を目標としていたが、どちらも達成することができなかった。来年度は時間を有効に活用し、今後主となる研究テーマを確立させたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 芦塚 淳美

1. 教育理念

学生との信頼関係を築き、過ごしやすく学びやすい環境づくりに努める。

特に、次の2点を重視する。①自ら学生とコミュニケーションを図る ②学生を理解し、個を尊重する

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

競技選手の身体組成および栄養素等摂取量と骨代謝の関係

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
日本における外国人持久走選手への栄養サポートの課題/2020/3/31/長崎国際大学論叢/
93-100/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
大学女子バレーボール選手の骨密度と骨代謝マーカー/2020年9月/第67回日本栄養改善学会
男子バスケットボール選手の競技開始時期の違いによる骨密度および栄養素等摂取状況/2021
年1月/長崎県栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加/7月26日、8月10日・23日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

①PCR検査業務 大学が運営しているPCR業務を月に数回行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育面】

本年度は遠隔授業となり、初めての取り組みが多く準備不足が目立った。来年度は3年目にもなるので責任を持って業務に取り組む。また、実習中だけでなく、実習前の準備・実習後のまとめ等、時間をかけて徹底して行う必要があると感じた。リメディアル教育(化学)では、学生とコミュニケーションを多くとり、理解度を把握して授業を進めることが出来た。今回は、グループの中で理解度に差があったが、個別に対応するように取り組めたため次回も、学生に合わせて授業を進めていきたい。

【研究面】

修士課程2年目ということで、修士論文を完成させた。積極的に研究を行うことができていなかったが、科研費へ応募することはできた。また、知識不足を痛感した。今後は、積極性と計画性を意識して研究活動に取り組み、論文作成や学会発表に臨みたい。他学科の先生方と共同で行う「地域協働による健康増進プログラムの作成を通じた学生・地域支援」の取り組みに参加させていただくことが出来、スポーツ栄養の観点から動画配信を行った。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 射場 仁美

1. 教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生化学	30/30(前期)	1	79

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学のリメディアル	5	7	7/15、7/22、7/25

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

腸炎ビブリオの病原因子について

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

葉物野菜の部位別細菌汚染状況/2021年3月6日/第8回 日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
臨地実習委員会	委員	臨地実習で学生が実習先へ提出する書類の作成等を行った
学科教務委員会	委員	議事録の作成

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

長崎国際大学PCR検査センターにおいて、新型コロナ検査の検体採取業務を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では食品衛生学実習、栄養教育論実習、微生物学実習、栄養生理学実習の実習補助を行った。前期の実習オンラインで行ったため、実験手順の動画を撮影し、オンラインでも充実した内容となるよう工夫した。実習後はレポートの採点をmanaba上でコメントのやりとりをしながら行った。実習内容に関する質問も、zoomやmanaba上で返答し、理解度が高まるよう努めた。

化学リメディアルでは少人数の学生に対して演習形式で指導を行った。それぞれの学生の理解度にあわせた演習問題を準備し、全ての学生の理解度が高まるよう努力した。

学外では佐世保市立看護専門学校で生化学の講義を担当した。学内での業務にも活かしていきたい。

研究活動では博士号を取得のための論文を執筆し、学術誌に投稿し受理され、博士(栄養学)を取得した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 嘉数 圭祐

1. 教育理念

私の教育理念は思いやりのある人、社会で活躍できる人を育てることであり、そのために出来る範囲で学生のサポートをしていきたいと考えています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	8	7	2020年7月1日、8日、15日、25日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

サルコペニアに対する運動とアミノ酸による影響に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究等倫理委員会	委員	研究倫理のために倫理審査の書類等を企画し委員会に貢献した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加/7月26日、8月10日、23日/場所:長崎国際大学

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年は主にオンラインでの実習の補助を主に担当した。実習で大きな事故もなく円滑に進めることができた。途中で対面での実習となったが特に変わることなく行うことができた。

教育活動ではリメディアル教育が昨年に比べ少なくなったため駆け足で進めることになったが最低限理解してほしいところを重点的に行い特に学生の混乱はなかった。

研究活動では研究を始めるのが遅かったためデータ収集等はできていない。今後は機敏に動き、研究結果を出すようにする。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 川邊田 晃司

1. 教育理念

食べ物と健康のプロフェッショナルである管理栄養士がエビデンスに基づく正しい情報を発信できる力を身につけてもらいたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

記載事項なし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	6	2020/7

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大豆タンパク質の生理機能に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動について、昨年度の経験を活かして、学生実習が円滑に進めるように心掛けて取り組んだ。

1年生を対象にした化学リメディアルでは、それぞれの学生の理解度に合わせた教材を用いて、化学の理解度が高まるように努めた。

研究面では、継続して行なっている内容を論文投稿する予定である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 古田 美咲

1. 教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	8	7	2020年7月1日、2020年7月15日、2020年7月22日、2020年7月25日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が新生児の糖代謝に及ぼす影響

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響/2020年9月2日/第67回日本栄養改善学会学術
総会

妊娠期の鉄制限が脾臓鉄量及び母乳の脂肪酸組成に及ぼす影響/2021年3月6日/第8回日本
栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会(学科)	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①オープンキャンパス/7月26日、8月10日、8月23日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、解剖生理学実習、治療食実習、生化学実習、栄養教育論実習の実習補助を行った。遠隔授業などで昨年までとは違う形となったが、問題なく円滑に進めることが出来た。また、1年生の化学リメディアルを担当し、実際に化学の講義で配布されている資料を用いながらすすめた。講義でわからなかった問題に再度取り組むことで、理解しないまま講義が進まないよう工夫した。感染対策のため学生間の距離が遠く、学生同士で教え合いながら問題解決をさせることが出来なかったが、活発に質問してくれたため、理解度の把握がしやすく個人に合った対応ができた。次回からもできる限り学生間の理解力に差が生じないようにサポートに努め、どんな状況でも臨機応変に対応できるようにしたい。

研究面では、「母体の鉄制限が新生仔の糖代謝に及ぼす影響」について学会発表を行った。来年度も学会発表や論文投稿等で研究成果をアウトプット出来るよう努力したい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 健康栄養 職名 助手 氏名 吉永 奈津希

1. 教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等、日頃から考える力をつける支援を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品)	13/13(前期)	-	11
九州文化学園調理師専門学校	食品学(介護食士講座)	1/1(前期)	-	11
九州文化学園調理師専門学校	食品と栄養の特性(食品)	17/17(後期)	-	8

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
健康栄養学科 化学リメディアル	6	8	7月1日、7月15日、7月22日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究
2. 大量調理における食品の調理特性に関する研究
3. 大量調理におけるかけ調味料に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
大量調理機器を用いた湿式加熱が野菜類の性状に与える影響/2021年3月/長崎国際大学論叢
第20巻/129頁～138頁
/共著/原著論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
食事提供時におけるかけ調味料の必要量の推定/2020年9月/第67回日本栄養改善学会学術総
会
夜食習慣者の食生活とかけ調味料の使用量の関連についての検討/2020年9月/第67回日本栄
養改善学会学術総会
特定の調味料を好む者の食嗜好とかけ調味料の使用量の関連について/2020年9月/第67回日
本栄養改善学会学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会(学科)	委員	議事録作成、学科内成績管理等を行った。
臨地実習委員会(学科)	委員	臨地実習事前指導および臨地実習Ⅰ・Ⅱに関する業務を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス開催補助/8月10日・23日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
聞いてみよう! 体験してみよう! 「理系女子の世界」 「食品中のタンパク質の調理による変化」	11月29日	九州文化学園小・中学校	主催:長崎国際大学・佐賀大学・西九州大学

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会佐世保支部	運営委員	令和元年度～現在 に至る	公益社団法人 長 崎県栄養士会
長崎口のリハビリテーション研究会(県北地区)	実行委員	令和元年度～現在 に至る	長崎口のリハビリ テーション研究会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

健康栄養学科広報催事「食物アレルギー児のための料理講座」開催準備/12月20日(中止) /長崎国際大学

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、調理学実習Ⅰ、給食経営管理実習、調理学実習Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ、応用栄養学実習およびコロナ禍で臨地実習を学外で行うことができなかった学生を対象とした学内実習(臨地実習Ⅰ・Ⅱ)の実習補助を務めた。例年とは異なる対応が必要な場合が多く、学生の不利益にならないよう考えながら実習の準備等行うことができたと考える。調理師専門学校では、昨年に引き続き食品学の講師を務めた。留学生の理解度を上げることが今後の課題である。研究面では、予定していた官能評価を行うことができなかった。来年度は対策を考えて実施し、その成果について論文投稿できるよう努めたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 安東 由喜雄

1. 教育理念

佐世保を愛し、compassion, そしてhospitalityを持つ学生を育てる。絶えず世界を意識し、佐世保から世界を目指し情報発信できるような人材を育成する。3S: speed, service, scienceを意識し、絶えずhospitality (service)の心を持ち、合理的・科学的見地からスピーディーに物事に対処できる人材を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
臨床医学概論	3 / 15 (前期)	1.5	125	②③⑪
ホスピタリティ概論	1 / 15 (前期)	2	460	④⑤⑥⑦⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	2	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

概ね良好な評価であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
熊本大学脳神経内科学	(神経アミロイドーシスについて)	1/18 (2021/02/04)	2	110

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. アミロイドーシスの診断・病態解析と創薬治療の実践
 - a: アルツハイマー病の病態解析と創薬治療の実践
 - b: 遺伝性アミロイドーシスの診断・病態解析と創薬治療の実践
 - c: 老人性全身性アミロイドーシスの天然化合物による予防戦略の確立

2. 宇宙医学的見地からのアミロイド形成阻止研究

3. 脳アミロイドアンギオパチーの創薬による阻止研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	22	3	11	11	6032万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 別冊・医学のあゆみ 神経変性疾患の治療開発の現状—新たな戦略構築の基盤をめざして—/共
 著/2021年2月15日/医歯薬出版株式会社/84-92
 イヤーノート2020 31th edition/共著/2021年3月5日/メディックメディア/157-159

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
 De novo p.G696S mutation in COL4A1 causes intracranial calcification and late-onset cerebral
 hemorrhage: A case report and review of the literature/2020/04/01/Eur J Med Genet/103825
 /共著/Article
 Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: The essential role of pathological
 diagnosis in the selection of type-specific therapeutics/2020/04/01/Pathol Int, 70/191-198/
 共著/Report.
 ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for
 multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 2 of 2-Diagnostic criteria and appropriate
 utilization/2020/04/01/J Nucl Cardiol, 27/659-673/共著/Article
 A comprehensive analysis of the clinical characteristics and laboratory features in 179 patients
 with autoimmune autonomic ganglionopathy/2020/05/01/J Autoimmun, 108/102403/共著/
 Article
 Needle-shaped amyloid deposition in rat mammary gland: evidence of a novel amyloid fibril protein

／2020/05/01／Amyloid, 27／25-35／共著／Article
Galectin-lattice sustains function of cationic amino acid transporter and insulin secretion of pancreatic β cells／2020/06／J Biochem, 167／587-596／共著／Article
Insulin-derived amyloidosis without a palpable mass at the insulin injection site: A report of two cases／2020/07／J Diabetes Investi, 11／1002-1005／共著／case-report
A Nationwide Survey and Multicenter Registry-Based Database of Cerebral Autosomal Dominant Arteriopathy With Subcortical Infarcts and Leukoencephalopathy in Japan／2020/07/14／Front Aging Neurosci, 12／216／共著／Article
Monitoring of asymptomatic family members at risk of hereditary transthyretin amyloidosis for early intervention with disease-modifying therapies／2020/07/15／J Neurol Sci, 414／116813／共著／Journal Article
Trends in Diagnostic Imaging of Cardiac Amyloidosis: Emerging Knowledge and Concepts ／2020／08／Radiographics, 40／:961-981／共著／Periodical
Novel dot-blot assay for detection of vascular Notch3 aggregates in patients with CADASIL／2020 Aug 15／J Neurol Sci, 415／116931／共著／Short Communication
Characteristics of Patients with Hereditary Transthyretin Amyloidosis and an Evaluation of the Safety of Tafamidis Meglumine in Japan: An Interim Analysis of an All-case Postmarketing Surveillance／2020 Sep／Clin Ther, 42／1728-1737／共著／Article
Antibodies to the $\alpha 3$ subunit of the ganglionic-type nicotinic acetylcholine receptors in patients with autoimmune encephalitis／2020 Dec 15／J Neuroimmunol, 349／577399／共著／Journal Article
Amyloid fibril formation is suppressed in microgravity／2020 Dec 17／BB Rep, 25／100875／共著／Article
Avoiding misdiagnosis: expert consensus recommendations for the suspicion and diagnosis of transthyretin amyloidosis for the general practitioner／2020 Sep 23／BMC Fam Pract, 21／198／共著／Original Paper
Usefulness of relative apical longitudinal strain index to predict positive (99m) Tc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings in advanced-age patients with suspected transthyretin amyloid

cardiomyopathy. / 2020 Nov 4 / Echocardiography / Online ahead of print / 共著 / Journal Article

Pre-Hospital Delay in Patients with Acute Ischemic Stroke in a Multicenter Stroke Registry: K-PLUS / 2020 Nov / J Stroke Cerebrovasc Dis, 29 / 105284 / 共著 / Article

Temporal Change in Longitudinal Strain After Domino Liver Transplantation With Liver Grafts Explanted From Patients With Hereditary Amyloidogenic Transthyretin Amyloidosis / 2020 Nov / Circ Rep, 20 / 0106 / 共著 / Article

Apolipoprotein AI amyloid deposits in the ligamentum flavum in patients with lumbar spinal canal stenosis / 2020 Dic / Amyloid / Published online / 共著 / Journal Article

Plasma growth differentiation factor 15: a novel tool to detect early changes of hereditary transthyretin amyloidosis / 2020 Dec 30 / ESC Heart Fail / Online ahead of print / 共著 / Journal Article

Design and Rationale of the Global Phase 3 NEURO-TTRansform Study of Antisense Oligonucleotide AKCEA-TTR-L(Rx) (ION-682884-CS3) in Hereditary Transthyretin-Mediated Amyloid Polyneuropathy / 2021 Feb 26 / Neurol Ther / Online ahead of print / 共著 / Journal Article

Clarification on the definition of complete haematologic response in light-chain (AL) amyloidosis. / 2021 Mar / Amyloid, 28 / 1-2 / 共著 / Editorial

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)

21世紀の疾患・ATTRvアミロイドーシス(FAP)最新の知見, / 2020年8月31日 / 第61回日本神経学会ランチョンセミナー, 岡山Web開催

遺伝性アミロイドポリニューロパチーの診断・病態解析・治療の実践と総合センターの設立と運営 / 2020年9月1日 / 第61回日本神経学会受賞者講演, 岡山Web開催

ATTRv amyloidosis (TTR-FAP) 患者の最適な検査および薬物治療 / 2020年10月7日 / Faizer medical Advisory Board Meeting

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費・基盤研究(B) 「健康長寿の切り札、天然化合物を用いたTTRアミロイドーシスの予防戦略」についての研究	文部科学省	2019年4月～2021年3月	1183万円

厚労科研 「難治性疾患政策研究事業に おける アミロイドーシスに関す る	厚生労働省(福井大 学)	2020年度	80万円
杉村病院助成金	杉村病院	無し	40万円
シノテスト助成金	シノテスト	無し	54万円
カネカ助成金	カネカ	無し	135万円
株式会社正晃 助成金	正晃株式会社	無し	45万円
Alnylam 助成金	Alnylam	無し	318万円
受託事業 prothena助成金	prothena	無し	177万円
受託事業・共同研究(熊本大 学) 「アミロイドーシスのアミロイド沈 着機構の解析」	熊本大学	無し	1418万円
科研費(分担金)基盤(C) 「高齢者の消化管出血を来す新 疾患EFEMPT アミロイドーシス の	熊本大学(田崎助教)	2020	5万円
アミロイドーシス学会 預り金研 究費	アミロイドーシス学会	無し	2577万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員長	委員長として活動した。
研究費不正使用防止委員会	委員長	委員長として活動した。
教員資格審査委員会	委員長	委員長として活動した。
防火・防災委員会	委員長	委員長として活動した。
危機管理委員会	委員長	委員長として活動した。
グローバル推進協議会	委員長	委員長として活動した。
全学教育会議	委員長	委員長として活動した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

【メディア出演】NBCラジオ出演/第2. 第4月曜日 24回/年間

【メディア掲載】①長崎新聞「長崎国際大学、教職員の感染履歴検査」2020/06/10

②朝日新聞「医学部無くても検査センター」 2020/06/27

③読売新聞「コロナ検査施設稼働へ」 2020/06/27

④長崎新聞「長崎国際大学が検査所設置」 2020/06/27

⑤西日本新聞「PCRセンター設置」 2020/06/27

⑥毎日新聞「長崎国際大学にPCRセンター」 2020/07/03

⑦朝日新聞「ひと〜ラジオパーソナリティを務める長崎国際大学学長 安東由喜雄さん」2020/07/09

⑧長崎新聞「感染者の早期発見重要」 2020/08/05

⑨朝日新聞「長崎国際大学 学内に診療所」 2020/08/06

⑩毎日新聞「地域や学生向け診療所」 2020/08/06

⑪西日本新聞「長崎国際大診療所開設」 2020/08/06

⑫長崎新聞「長崎国際大に診療所」 2020/08/06

⑬西日本新聞「地域人事枠を新設」 2020/08/19

⑭長崎国際大学「長崎国際大学オープンキャンパス 着ぐるみ」2020/08/24

⑮長崎新聞「インフルエンザ無料接種全学生2300人」 2020/10/07

⑯長崎新聞「コロナ検査センター増設」 2020/10/10

⑰西日本新聞「オピニオン 安東由喜雄氏 PCR検査気軽に受けられる体制を」
2020/11/08

⑱西日本新聞「PCR検査機器を長崎国際大学に寄贈」 2020/12/03

⑲教育学術新聞「21世紀の病気アミロイドーシスの解明に挑む」 2021/01/27

⑳長崎新聞「安東学長のシネマ時々医学 ①」 2020/02/19

㉑長崎新聞「安東学長のシネマ時々医学 ②」 2020/03/12

【メディア取材】 ①朝日新聞「ひと〜ラジオパーソナリティを務める長崎国際大学学長 安東由喜雄さん」2020/07/09

②西日本新聞「オピニオン 安東由喜雄氏 PCR検査気軽に受けられる体制を」
2020/11/08

【エッセイ寄稿】12件(メディカルクオール2020年4月〜2021年3月)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国民保護協議会	委員	なし	佐世保市

(3)社会貢献・ボランティア活動等

2020/06/27 利休庵診療所の設立
 2020/08/06 PCR検査センターの設立

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
ISA2020 International symposium on amyloidosis	Mechanisms and patterns of cardiac deposition in amyloidosis.	2020 Sep 14	Tarragona, Spain, web	International society of amyloidosis
ISA2020 International symposium on amyloidosis	Tarragona, Spain, web	2020 Sep 17	Tarragona, Spain, web	Pfizer
Alnylam Kumamoto Scale Sweden	A Simple and useful score for ATTRv progression	2020	Sweden, web	Alnylam

(3) その他特記すべき活動

世界アミロイドーシス学会の理事長として活動。

2020年3月開催予定の世界アミロイドーシス学会へ向け、国際電話会議にてボードミーティングを重ね、

スペインタラゴナでの国際学会開催(世界アミロイドーシス学会)を理事長として取り纏める。

学会は2020年9月に延期となった為、引き続き国際学会の開催へ向けて尽力し、

Web開催となった世界アミロイドーシス学会でも、大会長として演者として講演も担当し 会期成功をおさめた。

7. 受賞等

令和2年度 佐世保市医師会医学研究報奨金受賞 2021/03/09

「PCR法および抗原検査を用いた新型コロナ感染症の実態把握と予防戦略の推進」

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教育面:薬学部の系統講義を行うと共に、学生と積極的に対話する時間を設けた。

2. 研究面:コロナ禍の中で、例年のように直接海外に出向き講演を実施することは出来なかったが、アミロイドーシスを中心に国際Zoomカンファレンス等で特別講演、招聘講演を行った。

また科研Bを始め、様々な競争的資金、企業献金を受け、大学に間接経費を上納した。遺伝性アミロイドーシス、老人性全身性アミロイドーシスの創薬研究で有力な薬剤、天然サプリメントの開発を行い成果を上げた。年間21編の査読付き英文原著論文を書き、クオリティーの高い国際誌に掲載された。特許申請も行い、ただいま出願中である。

(トランスイレチン四量体安定化剤、及び、予防剤または進行抑制剤: 出願番号 2020-169842, 2020-163831)

3. 社会活動として、NBC長崎放送「Dr安東のシネマ回診」月に2回のラジオ番組を持ち、啓発活動を行った。

遺伝性アミロイドーシスの患者会を通して啓発活動を行った。様々な招聘講演、webセミナーを通して、啓発活動を行った。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 藤田 英明

1. 教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。

そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味を持てるような導入を工夫している。

国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	①⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑥⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	①⑨
機能形態学Ⅰ	8 / 15 (前期)	1.5	111	①②⑨
機能形態学Ⅱ	7 / 15 (後期)	1.5	104	②③⑨
総合基礎学習Ⅰ	12 / 15 (通年)	0.5	121	②④⑥⑨⑩
薬学入門	7 / 15 (前期)	1.5	109	②③⑩
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	125	①②⑥⑦⑩
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	14	②③⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	2 / 15 (後期)	2/1~3年	4
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

機能形態学Ⅰ

遠隔授業中心のため、manaba小テストを導入した。

機能形態学Ⅱ

授業アンケートは概ね良い評価であった。

2教室での講義のため、聞き取りにくいなどの指摘があった。

教室ハード面の充実を望む。

機能形態学実習

対面は半数ずつで実施したため、学習効果は高くなった。

遠隔は、レポート作成指導を中心に課題や小テストを課した。

発表形式を実施できなかった。

基礎の数学

遠隔授業ではあったが、少人数なので板書で十分対応できたと思う。

高校科目の復習なので、一定レベル以上の学生には退屈な講義となるが、仕方が無い。

入学生のレベルを高めて、大学の講義として満足度の高い講義ができるようにしてほしい。

薬学入門

遠隔授業で外部講師が多い科目であるが、特に問題なく実施できた。

アンケートを毎回提出させ、理解度を確認させた。

総合基礎学習Ⅰ

対面でのグループ学習が実施できなかった。遠隔でCAI補習を行った。

臨床体験学習は遠隔ではあったが、長崎リハビリ病院の協力で、様々な医療職現場の様子をビデオ配信と質疑応答で体験学習させた。事前にグループで質問事項等を用意させた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- 1) 細胞内オルガネラへのタンパク質選別輸送に関する研究
- 2) メラニン合成酵素チロシナーゼに関する研究(美白の科学)
- 3) 膜結合型ユビキチンリガーゼの機能に関する研究

4) 海洋生物由来レクチンの細胞外分泌機構に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	0	1	1	30万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
The structure of SeviL, a GM1b/asialo-GM1 binding R-type lectin from the mussel *Mytilisepta virgata*. / 2020/12 / Scientific Reports / doi: 10.1038/s41598-020-78926-7. / 共著 / 論文
MARCH8 inhibits viral infection by two different mechanisms / 2020/8 / eLIFE / 9:e57763. / 共著 / 論文
Costunolide and dehydrocostuslactone from *Saussurea lapparoot* inhibit autophagy in hepatocellular carcinoma cells / 2021/1 / Journal of Natural Medicines / 40-245 / 共著 / 論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
メラニン合成酵素チロシナーゼを分解へと導く新規美白剤の作用機構解明	ポーラ化成工業	2020年	30万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育委員会	委員	2021年度の全学共通科目の授業形態について方針を議論した。
教員資格審査委員会	委員	2021年度新規採用予定教員、昇任教員、非常勤講師等の資格審査を行った。

発明等審査委員会	委員長	4件の発明について審議した。
防火・防災委員会	委員	なし
安全衛生委員会	委員	なし
危機管理委員会	委員	なし
利益相反マネジメント委員会	委員長	3件の申告について審議した。
輸出管理委員会	副委員長	なし
グローバル推進協議会	委員	なし
全学教育会議	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①薬学部バスケットボールサークル顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本色素細胞学会	理事	2020年	日本色素細胞学会
日本生物学オリンピック委員会	委員 作問担当	2020年	日本生物学オリン ピック委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

日本生物学オリンピック委員として、国際生物学オリンピック(リモート大会)の運営に携わった。

また、日本生物学オリンピック2020大会の試験問題作問・採点業務に携わった。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/
主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・薬学部長として、コロナ感染に留意しながら講義、実習、国家試験等を滞りなく進めることができた。次年度も、国家試験合格率・合格者数の向上を目指し、必要な対策を講じていきたい。

・留年生(特に2年生)の増加が顕著であった。コロナの影響もあるが、根本的には学力の低い学生の入学が大きな要因であると考え。次年度入試までに大学の知名度アピール等を進め、偏差値の向上に努めたい。

・コロナ対応で教室増設や各種ICTの充実を要請していきたい。

・人事面で、1名の実務系教員採用ができた。今後、教育支援センター薬学分室教員、薬物代謝専門教員、化学系教員の補充が急務である。

・共同研究を増やして、研究活動のレベルを上げていきたい。共著論文はそれなりに出ているが、自分のテーマでの論文が増えるように努力する。研究費獲得もトライを続ける。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 佐々木 茂貴

1. 教育理念

1. 身近で、親しみやすい、街の中の科学者・化学者として、地域の健康と福祉に貢献する薬剤師を育成する。

1) 科学的思考力を養うため、物事を分析的に解釈し、総合して理解する知識と能力を習得させる。

2) 物質の変化を説明するために化学的な思考力を育成する。

3) 話す相手に適切な態度と言葉で安心感を与えつつ科学・化学を伝える技術を習得させる。

4) 医療従事者としての自覚と責任感を育成する。

2. 病気の治療薬開発に向けた新進気鋭の気概をもつ研究者を育成する。

1) 既存薬の記憶にとどまらず、その創成過程に関心をもつ気風を育てる。

2) 確立した概念に満足せず、さらなる真理への探求心を奨励する。

3) 治療現場の課題や疑問点を基礎科学にフィードバックする能力を育てる。

4) 自発性・積極性を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	②③⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	②③⑨
構造解析学	2 / 15 (前期)	1.5	103	②③⑨
創薬化学	1 / 15 (前期)	1.5	120	②③⑨
有機薬化学Ⅱ	2 / 15 (前期)	1.5	122	②③④⑨
有機薬化学実習	3 / 11 (後期)	1	123	②③⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	2 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学生による授業アンケートは実施し、評価点数は4点中3.25点で、研究内容が聞けて勉強になったなどのコメントがあった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
久留米大学医学部	薬理学I 薬学研究と創薬: 核酸医薬品の研究と開発	1/15(後期)	1.5	80
九州大学大学院	大学院有機化学	2/15(前期)	2	20

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習I	1/61	108	11月26日
総合演習II(5留)	1/47	6	11月16日
総合演習IIIB	1/45	110	10月27日
総合演習II	1/29	94	11月16日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

今世紀初頭に非コードRNAが関与する新たな遺伝子発現制御機構が明らかになり、診断や創薬に大きなインパクトを与えている。などの疾患に係る遺伝子には1塩基異常が最も多く含まれており、ゲノムDNAや長大なRNA中の1塩基をピンポイント的に正確に識別する手法の開発が望まれている。私は遺伝子発現機構を標的とする研究領域において極めてユニークなアプローチを提案し、「ゲノム標的化学」として展し、革新的な診断や治療法への発展可能性をもつ多数のユニークな機能性ゲノム標的分子を創成している。主に、(1) RNA配列および塩基選択的反応、(2)3本鎖DNAコードの拡張、(3)8位酸化グアノシン認識分子、(4)繰り返しDNA配列に自己集積する分子、という4つのテーマについて研究を行ってきた。2020年度は(3)以外のテーマについて研究を実施した。

(1) RNA配列および塩基選択的反応: DNA中のシトシン5位メチル化はエピゲノム制御機構として広範な研究が展開されている。近年は、これまで化学修飾がないと考えられていたmRNAにおいても塩基修飾による発現制御がエピゲノム制御として注目されている。そこで、標的RNAに機能性分子を転移させ選択的に化学修飾する手法を開発した。この方法では、標的RNAに相補的な人工核酸を用いて、標的位置のグアニン、アデニンおよびシトシンを配列および塩基特異的に化学修飾する技術を確立した。2020年度は、本RNA修飾技術を活用し、機能的RNA編集反応への展開を目的にmRNAの化学修飾と翻訳への影響について調査した。

(3) 8位酸化グアノシン認識分子: DNAは絶えず酸化やアルキル化などの反応に晒され損傷塩基を発生している。8-オキソグアノシン(8-oxo-dG)は代表的な酸化損傷塩基で強い変異原性を有する。従って8-oxo-dGの選択的で簡便な検出法の開発が望まれている。また、8-ニトログアノシン(8-nitro-dG)は活性酸素と活性窒素によって生じ、シグナル伝達の構成成分となり細胞のレドックス状態を反映するマーカーとなることが示唆されている。2020年度は、人工捕捉分子による8-nitroguanosine 3,5-cyclicphosphateの細胞内反応を検証し、学術論文に掲載された。

(4) 繰り返しDNA配列に自己集積する分子: 脆弱X症候群(FXS)に関連するFMR1遺伝子にはCGGリピート領域があり、このリピート数が55以下では正常であるのに対し、200以上では遺伝子が転

写されず、発症する。近年、CGGリピート領域のシトシン5位メチル化の阻害が、FMR1遺伝子転写を活性化し、症状を軽減させることがわかり、新しい創薬戦略として注目されている。2020年度には、CGGリピート配列に自己集積する低分子が、細胞内で高リピートを含む疾患モデル細胞のFMR1遺伝子の転写を活性化させることを見出した。また共同研究によって、この低分子のエピジェネティクス機構に関連する酵素阻害作用について検討した。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	2	5	9	3	3	13370万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
核酸医薬の基礎/共著/2020年12月/(株)講談社/256-264

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
中分子医薬品/2020年7月/化学と教育/290-293/単著/総説
ゲノムを標的とする精緻な化学

Fine Chemistry targeting Genome/2020年9月/有機合成化学協会誌/905-907/単著/総説
Development of novel C-nucleoside analogues for formation of antiparallel-type triplex DNA with DNA that includes TA and dU Abase pairs/2020年4月/Organic & Biomolecular Chemistry/2845-2851/共著/論文

Enhancements in the Utilization of Antigene Oligonucleotides in the Nucleus by Booster Oligonucleotides/2020年8月/Chemical Communication/9731-9734/共著/論文

Synthesis of Nucleotide Derivatives of N-Acyl-7-Nitroindoline, their Incorporation into the DNA Oligomer, and Evaluation of Their Photoreactivity in the DNA/RNA duplex / 2020年12月/Chemical and Pharmaceutical Bulletin/1210-1219/共著/論文

Synthesis of C-nucleoside analogues based on the pyrimidine skeleton for the formation of anti-parallel-type triplex DNA with a CG mismatch site /2020年12月/ Bioorganic and Medicinal Chemistry/115782 (5 pages)/共著/論文

Protection of all cleavable sites of DNA with the multiple CGCG or continuous CGG sites from the restriction enzyme, indicative of simultaneous binding of small ligands / 2020年8月 / Bioorganic and Medicinal Chemistry/115730 (4 pages)/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

CG塩基対とアンチパラレル型三本鎖DNAを形成するC-ヌクレオシドアナログの開発/2020年11月/2020年日本化学会九州支部秋期研究発表会(オンライン)

アンチジーン核酸の開発を指向した人工核酸の合成と核移行核酸の創成／2020年11月／核酸医薬シンポジウム2020

遺伝子を標的とした人工核酸搭載核酸医薬の新展開／2020年9月／第69回高分子討論会

反応性核酸を用いた環境応答型solvatochromic蛍光分子の蛋白質への導入と修飾蛋白質の評価
／2020年9月／第14回バイオ関連化学シンポジウム2020

リピートDNA配列中の複数連続する結合サイトに協奏的に全サイト結合する低分子リガンドの開発
／2020年11月／反応と合成の進歩2020特別企画シンポジウム

中性水溶液中で8-nitro-cGMPを効率的に捕捉する人工宿主分子の開発／2020年11月／反応と合成の進歩2020特別企画シンポジウム

DNA配列中での8-オキソグアノシン発生位置検出を目指したデアザプリン人工ヌクレオチドの開発と評価／2020年3月／日本薬学会第140年会

3本鎖DNA形成領域の拡張を目指した5-メチルCG塩基対を認識可能な人工核酸の開発／2020年3月／日本薬学会第140年会

反応性人工核酸を用いた効率的なRNA糖部2'OH基選択的アセチル化／2020年3月／日本薬学会第140年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(B)(代表)	日本学術振興会	平成30年—令和2年	1330万円
特別推進研究(分担)	日本学術振興会	2019年—2023年	12,000万円
受託研究	(株)RINAT Imaging	2020年度	40万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
危機管理委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
グローバル推進協議会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
全学教育会議	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
学務協議会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
運営会議	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
奨学金変換免除にかかる候補者選考委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
教員資格審査委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学改革総合支援事業	タイプ2対策WG 委員	タイプ2対策WG会合に参加し、対策を話し合った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	欠席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
福岡万有シンポジウム30年の歩み	2020年10月24日	オンライン講演	福岡万有シンポジウム組織委員会
日本薬学会会頭挨拶 薬学の教育・研究の国際的競争力の強化を目指して	2021年3月27日	オンライン講演	日本薬学会第141年会組織委員会
長井記念薬学奨励支援事業の現状と採用者からのメッセージ(シンポジウム) 「もの(薬)から人へ」「人からもの(薬)へ」研究奨励	2021年3月29日	オンライン講演	日本薬学会第141年会 薬学会長井記念薬学奨励支援事業委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大学改革支援・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会	委員	令和2年2月1日～ 令和3年3月31日	独立行政法人大学 改革支援・学位授与 機構
学術変革領域(A)物質共生 総括班評価者	総括班評価者	2020年11月19日 ～2025年3月31日	文部科学省・令和2 ～6年度科学研究費 助成事業
日本薬学会	次期会頭候補副会 頭	2020年3月25日～ 2021年3月26日	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日本ケミカルバイオロ ジー学会第15回年会	組織委員長	2020/6/8-6/10 (コロナ感染のため 延期)	日本ケミカルバイオ ロジー学会
万有福岡シンポジウム2020	組織委員	2020/10/24	万有福岡シンポジウ ム組織委員会

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/
主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
日仏医薬精密有機化学 会議	日本とフランスの創 薬化学研究者の学 術協力、日本側組 織委員長	2020/9/20- 9/24 (コロナ感染の ため中止)	Nice, France	日仏医薬精密 有機化学会議
Pharmaceutical Sciences World Congress 2020	薬科学に関する世 界大会、プログラム 委員	2020/5/22- 5/27 (コロナ感染の ため中止)	Montreal, Canada	世界薬学連合 (FIP)

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

2020年8月 日本核酸化学会 池原賞受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動については、講義、演習の一部を分担し、各種試験問題作成を行い、目的を概ね達成している。
2. 研究活動については、新規実験室の整備などがあったが、英文論文の発表(5報)はじめ、新規の実験結果を得ること、共同研究を展開したことなどから、当初の予想を超えて計画を実施できている。
3. 大学運営活動には、全学委員会委員として活動に参加し、FS/SDに参加するなど、目的を概ね達成している。
4. 社会活動では、日本薬学会次期会頭候補副会頭として、種々の活動を行った。また、福岡万有シンポジウムでは、顧問として、シンポジウム30年を振り返る講演を行うなどの活動を行った。このように、学会活動については、一般的程度を超える活動を行った。
5. コロナ感染拡大のため国際的な活動はリモート会議に限定されたが、いくつかの活動を継続した。
6. 核酸化学分野で我が国でもっとも権威のある、日本核酸化学学会から池原賞を授与されたことは、高く評価される。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 梶島 力

1. 教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切に社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

また、薬学は化学・物理・生物・医療と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切に、学生の不安を少しでも軽減するためにも、

積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	4 / 45 (通年)	2	100	④
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	④
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	④
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	④
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	④
総合演習ⅢB	3 / 30 (後期)	2	96	④
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	④
薬剤学	15 / 15 (後期)	1.5	113	④⑨
臨床薬物代謝学	12 / 15 (後期)	1.5	93	④
物理・生物薬剤学演習	8 / 15 (前期)	1	96	④⑪
生物物理化学	7 / 15 (後期)	1.5	85	④⑨⑪
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	101	④⑩⑪
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	47	④⑨⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	8	④⑤⑥⑩⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2 / 15 (前期)	2	4
特別研究	0 / 45 (通年)	12/1~4 年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期は授業アンケートが実施されなかったため、「基礎の数学」は不明であるが、後期の担当科目については、すべての授業の満足度は4以上であり、次年度も満足度を4以上になるように努力する。次年度も対面と遠隔授業の併用になると思うので、今年度の授業アンケートの要望などを参考に、資料の配布や演習問題の改善を行う。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
CBT対策の薬剤学分野の補習	2	32	2020年12月8日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①miRNAの高感度検出法の開発
- ②エピジェネティクス関連酵素の網羅的解析法の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Simple and rapid analysis of tocilizumab using HPLC-fluorescence detection method./2019年5月
/Luminescence/347-352/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	学部教授会で教務関係の報告や説明を行った。薬剤系の講義の取りまとめを行った。卒業研究に関する取りまとめを行った。

自己点検・評価委員会	委員	薬学教育評価機構へ提出する「改善」や「助言」に対する報告書の作成を行った。 また、授業アンケートをもとにした、個別面談を担当する予定である。
発明等審査委員会	委員	2件の提出案件について審査した。
全学教育会議	委員	会議に提出する学部資料の作成を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	長崎大学および県内の薬剤師会関係者と実務実習や共用試験に関する情報交換を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスにおいて保護者へ説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州支部	幹事	平成28年度～現在に至る	日本薬学会九州支部
日本分析化学会九州支部	幹事	平成24年度～現在に至る	日本分析化学会九州支部
日本薬学会	代議員	2019年度～現在に至る。	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

8月7日「佐世保西高等学校(理系課題研究)長崎国際大学薬学部訪問」の実験指導

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、前期授業アンケートは実施されなかったが、後期担当分については満足度がすべての科目で4以上であり、一定の評価は得られたと思う。今年度から遠隔授業が始まったが、次年度以降も遠隔授業は続くと考えられるので、授業アンケートなどを参考に、十分に準備を行い、改善点などを検討する。

研究に関しては、論文発表が1報だったので、次年度はさらに論文発表ができるようにする。学会発表もできなかったのも、効率的な研究の進め方を検討する。外部資金への応募も増やしていきたい。

大学運営に関しては、学部長をはじめ多くの先生方や事務職員の方々の協力のおかげで、学科長として最低限の仕事はできたかと思うが、力不足を痛感した。次年度は、大学・学部の運営にさらに貢献できるように努力する。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 市川 和洋

1. 教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。

物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に付け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	⑨
物理学演習	12 / 12 (後期)	0.5	20	①④⑧⑩
基礎の物理学	15 / 15 (前期)	2	10	②③⑥⑨
薬品物理化学演習	15 / 15 (後期)	1	76	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅰ	13 / 15 (前期)	1.5	117	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	13 / 15 (後期)	1.5	108	①④⑧⑩
生物物理化学	8 / 15 (後期)	1.5	85	①④⑧⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	103	①④⑧⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本学部での高校時の物理未履修者割合は例年60-70%程度であり、大きく二分化されています。

担当科目の授業アンケートの評価は入学時の物理成績とほぼ一致し、2年次の講義において、非常に良いとのコメントの一方で、全く分からないとのコメントもあるなど2分化していることと一致します。

薬剤師国家試験の要求水準を満たすために、講義水準や速度を著しく緩めることは困難ですから、専門科目に入る前の、入学時、初年度教育の改善を図ることが教育効果の向上に結び付きます。

2020年度から4次カリキュラムでは、1年次に”物理学演習”を開始し、物理化学の能力の底上げを見込んでいます。これら物理化学系科目の全体的な改善が、教育効果や学生の理解度向上に寄与すると考えています。

本年度はCOVID-19下、遠隔授業が中心となり、学生の理解度を確かめるため繰り返しや言い回しを変えるなどの対応は困難でした。次年度は引き続き遠隔授業も行われると思われまますので、アンケートや小テスト等を拡充し、理解度に合わせた講義を進めていきたいと考えています。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

- (1) 生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物(分子プローブ)の開発
- (2) 生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
- (3) 抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
- (4) がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	1	2	2	2249万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

Overhauser Magnetic Resonance Imaging (OMRI): Noninvasive Imaging of Redox Processes, in "Measuring Oxidants and Oxidative Stress in Biological Systems"/共著/2020/Springer /221-229

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Dual channel EPR excitation coil array for Overhauser-enhanced MRI/2021/Journal of Magnetic Resonance/323:106890/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

電気泳動を利用したニトロキシルプローブ分離分析法の開発(第3報)/202011/電子スピンスイエンス学会2020年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金 基盤研究(B)	日本学術振興会	2018-2020	1729万円
科学研究費補助金 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	日本学術振興会	2018-2021	520万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員長	特になし
全学教育会議	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

該当なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学部 入試募集委員を務め、リーフレット作成等を行っている。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

該当なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
国際共同研究加速基金による学術交流	科研費の補助を受け国内外の拠点大学と学術交流を行う	2018-2021	北海道大学、長崎国際大学、West Virginia University

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

特許取得2件

令和2年10月27日登録 特許第6783982号(日本)「生体計測方法」

令和3年2月16日登録 特許第10918744号(米国)「生体計測方法」

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面では、アンケート結果も踏まえ、物理化学複数科目全体のコマ運用で理解度アップをはかりました。主に担当する1、2年次の学生について、フォローアップに努めました。しかし、生物・化学系など他科目と同様に、COVID-19下で成績のばらつきがみられた点が次年度に向けた改善課題です。

研究面では、論文掲載、外部資金取得、国際共同研究推進もほぼ計画通り進捗しました。また、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢献に努めました。

薬学部では近隣に薬学部が新設され、受験者数の維持・増加と定員充足へ向けた改善実施が喫緊の課題です。入試・募集委員長としても、高校へのアウトリーチに努め、受験者数確保を目指しました。また、薬学部入試募集委員として、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 岸原 健二

1. 教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。また、持続可能な社会の実現にSDGsが国際社会共通の目標として国連のサミットで採択されている。この精神を理解し、どのように社会貢献ができるのかを考え、実践できる能力を兼ね備えた薬剤師の育成にも努めていきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑨
薬学英語	3 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
薬学英語	3 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	51	①⑧⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	52	⑧⑨

免疫学	15 / 15 (後期)	1.5	109	⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	⑥⑦⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑥⑦⑩
総合基礎学習Ⅱ	15 / 15 (通年)	0.5	100	①④⑥⑨⑪⑫
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	109	⑩
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	103	①④⑤⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
最先端医薬品学特論	3 / 15 (前期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・「教養セミナーB」 評価Q10: 4.7 (2020)

できるだけ学生手主導になるようにした。全員が協力しあって、テーマを決め、調査し、スライドを作成し、発表に至った、学生間も良い関係を築き、概ねよい授業となった御感じている。

テーマ別学習のテーマは、「食品添加物」であり、各学生が分担して協力し合って発表にまで至った。アンケートの評価は、セミナーの雰囲気や参加学生の性格などにも大きく左右される。今年度の学生は、概ね積極的にテーマ学習に取り組んでおり、問題はなかった。また、リーダー的な学生が存在したことも、問題なくテーマ別学習が進行した大きな要因となった。学生のコメントにネガティブな意見はなく、とくに問題はなかった。

・「免疫学」 Q13(満足度2011～2020): 3.6→3.6→4.0→3.7→4.2→4.2→4.1→3.9→3.8→4.1

遠隔授業で実施されたが、評価を見るととくに大きな問題はなかったようだ。課題の提出や成績が、試験結果とほぼ相関していることから、より復習を促す対策が必要であることが明らかとなった。質問は、manabaのアンケート機能を利用したが、質問の回数は少なく、またこちらの返答が遅れるなどあまり機能しなかったのは、反省点である。理解が難しい単元に関しては、サブノートやまとめなど課題以外に理解をより深める工夫が必要であると感じた。来年度の課題としたい。

今年度は、コロナ禍の中、遠隔授業で授業動画の配信という形で実施された。学生の顔が見えない状況で、学生の反応から理解度を感じることができないため、不安を感じながらの授業であった。しかしながら、評価を見るととくに大きな問題はなかったようだ。

今年度も定期試験の結果からみると、二相性が明らかに出ており、課題提出や成績が悪い学生は、授業内容を理解できていないと館が和えられる。そのような学生に対してどのようなサポートをするかが、授業の改善において最重要であると認識している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱに関連する補習(留年生対象)	1	6	2020年5月26日
総合演習Ⅱ	1	103	2020年11月19日
総合演習Ⅱの補講	1	8	2020年3月4日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

若年者と比較して高齢者より株化したB細胞ではストレス・炎症性シグナル因子が活性化に依存し抗原提示に重要なHLA-DR分子の発現が低下することを明らかとした。さらに、これらの細胞において細胞老化を規定することが知られているテロメラーゼ触媒サブユニット遺伝子発現はストレス性因子の活性化に依存して抑制されていることが明らかとなった。加齢に伴う免疫力の低下は様々なストレスの蓄積による免疫細胞の老化によると考えられ、その詳細なメカニズムについて免疫細胞におけるテロメラーゼ制御の分子基盤をはじめ若年者と高齢者における解析により得られた細胞老化関連遺伝子群における網羅的機能解析および細胞老化マーカーを用いた免疫細胞老化評価系の構築を行っている。(九州大学農学研究院との共同研究)

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究

細胞分裂に伴って細胞老化(cellular senescence)表現型を呈するヒト正常線維芽細胞株であるTIG-1を用いて、細胞分裂回数が異なる細胞間における分裂老化(replicative senescence)および過酸化水素処理による酸化ストレスから惹起される早期老化(premature senescence)での遺伝子発現の変化を転写産物RNA 5'キャップ構造を認識して網羅的シーケンスによる精度の高い遺伝子発現解析が可能となるCAGE (Cap Analysis of Gene Expression)法によって、新しい細胞老化の指標となる発現遺伝子、特異的転写産物やプロモーターの同定を試みている。

③Notchシグナル伝達系の免疫細胞の分化と機能における役割に関する研究

Notchシグナル伝達系の免疫細胞の分化や機能における役割を調べるために、Notchシグナル伝達系に関わる機能分子のノックアウトマウスにおける免疫細胞の分化・機能を網羅的に解析している。現在、共同研究を継続中である。(徳島大学大学院医歯薬学研究部生体防御医学分野との共同研究)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員長・図書館 長	購入書籍類の選書 定期購読雑誌の点検・更新 eBookとデータベースの新規導入の促進 九文杯ビブリオバトルのオンライン開催
自己点検・評価委員会	委員	3ポリシーの点検 ベストティーチャー賞の選考 各種アンケートの実施・評価 コロナ禍における学生の実態調査の実施 委員会活動の自己点検・評価
防火・防災委員会	委員	災害時の避難場所における保存食・備品の点 検・整備 火災訓練の計画・実施
危機管理委員会	委員	コロナ禍における感染防止対策の作成と強化

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】に関しては、主担当科目である「免疫学」の評価がやや改善したが、学生のコメントを参考に更なる改善を目指していきたい。【研究】に関しては、今年度の学会・論文発表はなかった。今年は研究プロジェクトの中で良い結果の出始めたので、来年度は学会発表や論文投稿に注力したい。【大学運営】に関しては、(1) 図書館長として、コロナ禍の中で九文杯ビブリオバトルをオンラインで開催し、無事終了した。また、eBookの購入促進やデータベースの新規登録を推進した。(2) 自己点検・評価委員会委員として、授業アンケートおよびその後の面談の実施にも尽力した。(3) 薬学部入試募集委員として、オープン・キャンパスや韓国入試への対応をサポートした。(4) 3年次の学年主任として、「総合基礎学習Ⅱ」や学修指導に尽力した。

以上のように、教育、大学運営に関しては、一定の成果を上げることができたが、研究に関する実績は低迷している。研究に関しては、良い兆しも見られるので、来年度は重点的に推進していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 大磯 茂

1. 教育理念

私の教育理念は、医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成することです。

一般的な学修事項のみならず自らの実務経験に基づいた知識と技能を含む実践的能力をつけてもらうための授業を展開します。学生には自己研鑽する習慣をつけて欲しいと考えており、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れます。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
病院	1 / 19 (通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	1 / 21 (通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①⑪
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑪
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑪
実務実習(病院・薬局)	1 / 54 (通年)	20	99	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	5	①⑪
治験コーディネイト論	7 / 15 (前期)	1.5	49	①⑥⑨
在宅医療概論	3 / 15 (前期)	2	194	①②⑤⑩⑪
生物薬剤	27 / 30 (後期)	3	105	①②④⑥⑦⑨
物理・生物薬剤学演習	7 / 15 (前期)	1	96	①②④⑨
処方箋解析	18 / 30 (後期)	3	105	①②④⑥⑦
総合実習	18 / 18 (後期)	1	105	①④⑪
医薬品情報論	9 / 15 (後期)	1.5	95	①⑥⑧⑨
福祉と緩和ケア	4 / 15 (前期)	1.5	37	②
調剤Ⅰ	35 / 38 (前期)	3	105	①②④⑪
調剤Ⅱ	27 / 31 (前期)	3	105	①②④⑪
医薬品安全性学	8 / 15 (前期)	1.5	99	①②④
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	8	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は実習以外の授業のほとんどが遠隔授業となったが、例年小グループディスカッションをしている授業をレポートの課題提出にする以外は、例年と同様な内容で授業を行った。今年度は医薬品情報論のみ授業アンケートを取ったが、満足度は3.8と昨年度よりも低い評価点であった。授業形態が大きく異なるため、一概に比較できるものではないと思うが、履修者から寄せられた改善要望に対しては次年度において改善に努めたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。卒業研究の指導においても研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発
 がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究
 医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析
 摂食調節ペプチドホルモンを介した肥満制御に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	351万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
 なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Upregulating effect of wheat on brain-derived neurotrophic factor in human lung adenocarcinoma A549 cells./in press/Journal of Oleo Science/in press/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

牛蒡子に含まれるアルクチゲニンのオートファジー阻害作用と展望/2020年3月/長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	日本学術振興会	2018年4月1日～2021年3月31日	351万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部実務実習運営委員会	委員長	実務実習運営管理
薬学部共用試験OSCE実施委員会	委員長	OSCE統括
薬学部教務委員会	委員	研究室配属など
CAI運用・活用委員会	委員	CAI問題内容精査など
長崎国際大学教育基盤センター学習支援部門薬学分室運営委員会	委員	分野別演習
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	在宅医療・福祉コンソーシアム長崎活動内容策定など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ(薬学部)	担当者	教養セミナーBにおける薬局および病院の早期体験学習の統括 など

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス/2020年7月、8月、2021年3月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎在宅医療・福祉コンソーシアム	運営委員会委員	令和2年4月1日～令和3年3月31日	長崎在宅医療・福祉コンソーシアム
九州山口地区調整機構	大学委員	令和2年4月1日～令和3年3月31日	九州山口地区調整機構
長崎県薬剤師会実務実習委員会	委員	令和2年4月1日～令和3年3月31日	長崎県薬剤師会
九州山口薬学会	委員	令和2年4月1日～令和3年3月31日	九州山口薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、講義等の授業形態が大きな影響を受けた。遠隔授業の導入に戸惑いを感じながらも何とか授業を実施できてよかったと思う。遠隔授業の良い面にも触れることができ、次年度はその良い面も取り入れながら授業を進めたいと思う。研究活動はなかなか進めることが難しい状況があったが、1報の原著論文を出すことができた。次年度、研究活動により力を入れ、より多くの成果を出せるよう努めたい。大学運営活動や社会活動では、大学内の7の委員会等および大学外の4つの委員会等で活動を行った。今年度も実務実習運営委員長およびOSCE実施委員長として実務実習およびOSCEの運営に関わった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けてしまったが、大きな問題等なく運営できた。次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、大学運営等に貢献したい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 大庭 義史

1. 教育理念

薬学における分析化学分野に関する専門的知識・技能の教授を教育・研究を通して行い、高い倫理観と豊かな人間性を有し、医療薬学分野で実践的に活躍できる薬剤師を育成することを目的とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①②③
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	114	①④⑨⑩⑪⑫
日本薬局方概論	8 / 15 (後期)	2	96	①②③④⑨
分析化学Ⅱ	13 / 15 (前期)	1.5	118	①②③④
構造解析学	4 / 15 (前期)	1.5	103	①②③④
分析化学演習	7 / 15 (前期)	1	128	①②③④⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	8 / 15 (後期)	1	6	⑥⑦⑩
総合基礎学習 I	13 / 15 (通年)	0.5	121	②④⑥⑨⑩
機器分析学	3 / 15 (後期)	1.5	109	①②③④⑩
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	109	②③
分析化学・放射線化学実習	6 / 9 (前期)	1	122	①②③④⑤⑩
分析化学 I	13 / 15 (後期)	1.5	103	①②③④⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑩⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	2 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

「分析化学I」(1年後期必修)の満足度は4.5で、前年度と比べ0.2ポイント上昇した。1、2の評価をつけた学生も0名であった。

講義は全てZoomによる遠隔講義により実施した。講義資料は、講義スライドとほぼ同一書式で一部

空欄としたものを用意し、遅くとも講義の2日前に事前配布(PDFまたは印刷物)した。出席はマナバの小テストにより実施し、質問はレスポンスを利用し、掲示板にて回答した。マナバの小テストは、定期試験過去問、薬剤師国家試験の過去問等を用いた。講義後公開する動画は、学生の集中が途切れないよう分割しアップした。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習II	1	103	11月17日
総合演習II(5留)	1	6	11月12日
総合演習III(6留)	1	24	4月16日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ASAP(大気圧固体試料プローブ)-MSによる医薬品、医薬部外品の一斉分析法の開発
- ・重粒子線照射マウスの脳中及び腸管中のアミノ酸分析
- ・サンゴに含まれるタンパク質の特性調査に関する研究(福岡大学理学部との共同研究)

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	1	1	70万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Simple Simultaneous Assay of Methotrexate and Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs by HPLC
/2020/Chromatography/79-84/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Two novel allergic proteins which induce allergic asthma, from the Octocoral / 2020/10 / JSA-
WAO Joint Congress 2020 (17 Sep. ~20 Oct. 2020), in Kyoto (Online Meeting)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金「サンゴアレルギー発症とサンゴ由来蛍光蛋白質の関係解明とアレルギー診断技術への展開」基盤研究(C)(一般)	研究分担者	2020-2023年	70万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員長	第1回男女共同参画委員会(6/16) 第2回男女共同参画委員会(3/19)
研究費不正使用防止委員会	委員	第1回研究費不正使用防止委員会(7/13) 第2回研究費不正使用防止委員会(2/25)
薬学部教務委員会	委員(副委員長)	担任割り振り、研究室配属割り振り等
薬学部共通機器管理委員会	委員	メール会議
図書選定委員会	委員	図書館収蔵図書の選定
薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の確認など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

美術部 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスへの参加(7/26, 8/10, 8/23)

8/23のオープンキャンパスでは体験学習(「ホテルの光!?」を体験しよう ― 蛍光・化学発光の観察―)を担当

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席

2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市男女共同参画審議会	委員(会長)	令和元年7月30日～	佐世保市長、佐世保市人権・男女共同参画推進課
佐世保市少年科学館運営委員会	委員(副委員長)	令和元年度～	佐世保市、佐世保市少年科学館
下村脩ジュニア科学賞選考委員会	委員(委員長)	第4回(平成24年)～	佐世保市、佐世保市少年科学館
日本分析化学会九州支部	幹事	平成17年度～	日本分析化学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特に無し

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面:アンケートを実施した「分析化学I」については、全回が遠隔講義になったため資料等を遠隔用に作り替えるなどしたこともあり、前年度を上回る結果となった。対外模試等における担当領域の正答率については概ね全国平均以上であった。

研究面:論文1、学会発表1(いずれも共同研究者)。研究室所属学生の研究期間も制限されたこともあり、十分な研究はできていない。

その他:昨年度より男女共同参画委員会の委員長となったが、佐世保市男女共同参画審議会においても会長となった。また、佐世保市少年科学館関連では、従来の下村賞の審査(審査委員長)に加え、運営委員会(副委員長)にも継続し関わっている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 小川 由起子

1. 教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。AI化が進む中、薬剤師として何ができるか、何を求められているかを瞬時に判断し、地域社会の中で求められる薬剤師になるための人材育成をする。

薬剤師国家試験に合格させるためには低学年の基礎科目の理解、それに紐づけられた専門科目を通じて薬剤師国家試験に対する意識づけが常に必要であると考え。そのため、低学年から薬剤師国家試験問題に触れることも重要であると考え、担当科目では小テストや課題で問題を解答させるようにしている。また、受動的な学習ではなく、能動的、自発的な学習ができるように指導を心がけている。5年生の配属学生には、勉強だけではなく研究の面白さを伝え、研究を通して薬をはじめとした医療を見る目を養わせるように指導している。

チーム医療の中で、薬剤師の立場として発言するためには化学に裏打ちされた知識が必要になってくるが、同時にコミュニケーション能力も不可欠である。傾聴、承認をし、自分の意見を簡潔に述べることができるような人材を育てていくように心がけている。

今般、社会の中で不安や悩みをもっている学生が多いので、それぞれにあった指導を心がけ、相談しやすい環境を整えるように心がける。学生生活6年の中で経験することは、社会に出てからも大きな影響力を与えるので、自己研鑽しながら社会に貢献できる人材育成に心がけていく。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	3 / 45 (通年)	2	100	④⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	④⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	①⑨
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	5	④⑨
微生物薬品学	15 / 15 (後期)	2	96	②③⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	52	⑧⑨

公衆衛生学Ⅱ	4 / 15 (後期)	2	120	①⑨
薬物治療学Ⅲ	6 / 15 (後期)	1.5	91	①②③⑨
病原微生物・ウイルス学	7 / 15 (前期)	1.5	99	①⑨
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	103	①④⑩
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	102	②⑦⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	2 / 15 (後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

① 授業改善

授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

イ) 授業方法として、新薬などをおりませたオリジナルプリントを作成し、zoom授業を録音したものを配信し、復習ができるようにした。

ロ) 授業での話す速度、進行速度を調整し、理解を深めるように努力した。

ハ) 過去の実力試験問題、国家試験問題を解かせることにより、重要ポイント理解させた。

② 教育効果

コロナ渦により、リアルタイムzoom、You Tube配信、オンデマンドによる授業に移行し、資料づくりや授業の在り方を考え、試行錯誤しながらの講義になった。対面時よりも授業アンケートのポイントが下がった講義もあり、来年度に向けての課題が多く残った。逆にYouTube配信をすることで、復習ができ大変助かった、丁寧な説明でとてもわかりやすかったという意見も聞かれ、学生の意見が真逆なのが、成績によるものなのかを授業アンケートの統計で成績分布と一緒にあらわしていただけるとありがたい。

今年度の国家試験を見ると、より臨床に近い内容が増えてきていたこと、考えて解く問題が多かったことから、次年度はオンデマンドの資料を刷新し、できるだけポイントを絞った講義にし、自宅で学びやすいような授業を組み立て、学生が主体的に学ぶ姿勢が取れるように考えていきたい。また、年々新薬が増え、さらに副作用の問題も大きいことから、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。今年度はリアルタイムでの「スグキク」導入ができず、双方向授業をすることが難しかったので、受け身の授業が多かったが、次年度はresponをうまく使い、双方向授業をzoomの中でもうまく活用できるように心がけたい。また、トピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。また昨年同様、その日の講義内容の課題をmanabaで出し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。話す速度が速

いと指摘が毎年あったが、今回はYouTube配信もし、復習が自分でできるせいか話す速度に関する意見は見られなかった。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出し、単元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。次年度も引き続き遠隔授業になる可能性が高いので、授業アンケートの高い教員の遠隔授業法を参考に、自分の授業を見つめなおし組み立てていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティアート専門学校	衛生管理	90/90(通年)	3	72
福岡ビューティアート専門学校	美容知識 I	60/60(通年)	2	20

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	120	2020年5月22日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ① 国産冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索
- ② 両生類由来レクチンの生理活性に関する研究
- ③ 凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	3	6	2	2	445.75万 円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
食品衛生学【第4版】/共著/2020年9月/化学同人/103-133

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
冬虫夏草菌シアル酸結合性レクチンを用いた糖尿病性インスリンレセプターの回復技術/2020年5月/アグリバイオ/379-381/単著/論文

Haprin-deficient spermatozoa are incapable of in vitro fertilization / 2020年5月 / Mol. Reprod. Dev. / 87(5):534-541 / 共著 / 論文

Determination of α -1,3-linked mannose residue in the cell wall mannan of *Candida tropicalis*

NBRC 1400 strain/2020/Advances in Microbiology/10, 14-26/共著/論文
 A GM1b/asialo-GM1 oligosaccharide-binding R-type lectin from purplish bifurcate mussels
 Mytilisepta virgata and its effect on MAP kinases/2020/FEBS J./ 2020 Jun;287(12):2612-2630
 /共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法/2021年3月/日本薬学会141年会
 冬虫夏草によるインスリン抵抗性改善作用/2021年3月/日本薬学会141年会
 シアル酸結合性レクチンの抗微生物活性/2021年3月/日本薬学会141年会
 ピリジン-マレイミド誘導体の効率的合成と蛍光特性/2021年3月/日本薬学会141年会
 量子化学計算に基づくピリジン-マレイミド誘導体の蛍光特性の解析/2021年3月/日本薬学会
 141年会
 光触媒装置のフィールドにおける脱臭評価と健康影響の考察/2021年3月/日本薬学会141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究C	文部科学省・日本学術振興会	2018年から2020年	442万円
あすなろ大賞	学長裁量経費(表彰)	2020年度	3.75万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員長	定例・臨時委員会開催 開国祭:オンラインフェス 禁煙対策(全学生誓約書提出) クリーンキャンパスウィークを企画し、全員で感染予防を再確認し、教室等の消毒をする。 学生生活及び大学行事の円滑な運営への取り組みおよび改善に努める。
防火・防災委員会	委員	特になし
危機管理委員会	委員	特になし
薬学部 学生委員会	委員	フレッシュマンセミナー企画、入学時特待生の継続、薬学特待、その他表彰者、同窓会奨励金等交付者検討 学部卒業式準備・進行

薬学部 国家試験・CBT対策委員会	委員	国家試験対策に関わる業務一般
薬学部 教務委員会	委員・4年生学年主任	4年生学年主任としてCBT対策一般、CBT不合格者への補習企画、オリエンテーション、保護者会用のビデオ作成 教務から生活に関し、学生支援、環境整備等
薬学部 教育支援センター運営委員会	委員	学年主任として、成績不良者への面談など
薬学部 図書選定委員会	委員	微生物学・感染制御学担当

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
駐車場駐輪場小委員会	委員長	教員・学生駐車場のすみわけ等の検討
学生サポート室	相談員	前期担当
薬学部 教育支援センター SA	委員	4年学年主任として従事

(3) 課外活動の指導等

1. 6年生勉強合宿(8月、1月)
2. 5年生 日本薬学会第141年会(2021年3月) 発表指導(3演題)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

1. オープンキャンパス/2020年7月26日,8月10日,8月23日,2021年3月20日/本学
2. 地域の期待に応える実践活動/11月8日/本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
新型コロナウイルス感染対策～ てピカジェルつくり～	8月8日	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(一社)日本女性科学者の会	理事	2019年5月～2021年 4月	(一社)日本女性科学者の会
(一社)日本女性科学者の会 中国四国九州沖縄ブロック	ブロック長	2015年5月～	(一社)日本女性科学者の会
(一社)日本女性科学者の会 学術誌編集委員会	編集委員長	2016年5月～	(一社)日本女性科学者の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

1. 「継続・育成型 STEAMガールズ in SAGA・SASEBO」

① 大島造船ツアー(中高生向け 10月11日)

② 聞いてみよう！体験してみよう！～理系女子の世界～(九州文化学園小中学校 11月29日)

③ ようこそサイエンスの世界へ～ダイバーシティ入門講座付き実験体験会(対馬市立久田中学校
12月15日)

2. NIU疾患検査センター

PCR担当要員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

1. あすなる大賞(学長裁量経費表彰制度)

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面において、今年度は、コロナ渦において当初予定していた対面授業ができなくなり、遠隔授業を余儀なくされた。慣れないzoomやオンデマンドでの講義となったが、You Tube配信により学生が試験前等でも復習できる環境を整えられたことはよかったと思う。一方、内容が多すぎて頭がパンクする、対面の方がわかりやすいなど、課題も多く見えてきた。次年度は内容を吟味し、より簡潔に学生に伝えることができるように資料を作り直すことから始める予定である。対面授業時には、「いまきく」を使用し、双方向型の授業を取り入れていたため評価が高かったが、今回はすべて遠隔であったため、zoomの中でも双方向授業ができるように次年度は工夫をしていきたい。

研究面では、今年度科研費最終年度であったため、総まとめをする予定であったが、授業の準備や学生の相談をzoomですることに時間がかかり思うように進めることが困難であった。しかしながらその中でも、5年の配属学生3名全員が学会発表できるように指導ができ、自分自身も論文執筆ができたことは良かったと思う。次年度は、COVID-19に関する研究を含め、人類に貢献できる研究をすすめていき、競争的資金獲得を目指す。

NIU検査センター一員として、大学教職員、学生、地域住民の新型コロナウイルス感染に関するPCR検査の一端を担った。社会貢献できたことに喜びを感じている。センター員は月に1回の定期検査があるため、自分自身も感染しないように細心の注意を払って生活していたため感染することなく過ごすことができた。次年度も検査センターでの仕事を始め、地域に貢献できるような仕事を引き受けていきたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 隈 博幸

1. 教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	②⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	②⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	②
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①②
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	②⑨
疾病学Ⅰ	15 / 15 (後期)	1.5	116	①②③⑤⑥
生命倫理	1 / 15 (後期)	2	28	②
医療生命倫理	1 / 15 (後期)	1.5	104	①②⑩
臨床生理学演習	15 / 15 (前期)	1	44	②⑤⑥⑨
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	102	①②④⑤⑦
地域の理解と連携	1 / 15 (後期)	2	236	②⑥⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	①②③④⑤⑥
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	①②③④⑤⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	2 / 15 (後期)	2/1~3年	4
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	1
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は遠隔授業に切り替わったため、教員も学生も不慣れで試行錯誤を繰り返したが、割と対応

はできたように思う。その中で後期の授業アンケート(疾病学Ⅰ)の満足度が4.5と昨年度より向上したことは幸いであった。また、今年度より授業資料を授業前に配布し、予習に役立ててもらおうと試みたが、予習に関するアンケート結果は向上しなかった。個人的には復習重視のため問題視していないが、引き続き予習対策は継続する予定である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	臨床検査学	15/15(前期)	—	36

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	121	5月25日
総合演習ⅢB	1	121	10月2日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
2. 赤血球膜蛋白質バンド3の構造と機能相関の解明
3. 活性化プロテインC凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	490万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(C)	日本学術振興会	2019年4月～2022年3月	390万円
委託研究費	株式会社シノテスト	2019年4月～ 毎年更新	100万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員長	ボランティアセンターの円滑な運営・調整、委員会議事進行、その他
入試作問委員会	委員	本学入試(数学)の校閲等
薬学部国家試験・CBT対策委員会	委員長	薬学部6年～4年次生に対する国家試験及びCBT対策等
薬学部研究等倫理委員会	委員	研究倫理審査、規定・申合せ作成等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IBO2020長崎大会WG	SCIBO/Buddy担当 ワークショップ担当	IBO2020長崎大会の開催におけるボランティアスタッフの活動内容立案等(最終的には対面開催中止)

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

NIU疾患検査センター設立記者会見(新聞:地方紙1面、TV等メディア媒体)

オープンキャンパス参加

その他

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席

2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会	運営委員	2020年4月～現在	佐世保市社会福祉協議会
科学研究費審査委員会	委員	2016年4月～現在	日本学術振興会
創発的研究支援事業審査委員会	審査委員	2020年6月～現在	JST科学技術振興機構
日本臨床化学会九州支部	評議員	2019年3月～現在	日本臨床化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

ボランティアセンターとしての活動は、本年度はコロナウイルス感染防止の観点から活動を中止し、学生も含めたボランティア活動は出来なかった。

一方で学内に立ち上げた「NIU疾患検査センター」はセンター長として管理運営・実際の検査に携わり、地域医療に大きな貢献ができたと考える。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

大学運営面においては、ボランティアセンター長として運営委員会の円滑な運営に務めた。残念ながらコロナ禍により実際のボランティア活動はできなかったが、来年度以降新しい形でのボランティア参加を検討したい。学部内の活動としては、昨年度に引き続き国家試験・CBT対策委員長として、6・5・4年生の演習や勉強合宿などの企画立案及び実施に尽力し、一定の効果を上げることができた。特に6年生については、学習状況の把握だけでなく、学習環境の整備やメンタルケアなど国家試験受験までの学生生活サポートを積極的に行った。

教育面では、通常の講義(2年、4年)に加え実習や卒業研究、学生の学会発表指導及び系列校の非常勤講師など、依頼された講義や実習は全てこなしてきたつもりである。授業アンケートの評価も一定水準を保っており、満足な活動を実施できたと考える。

研究面では諸学会が開催中止、Web開催へ変更といった状況下で、論文を出せなかった。学会発表そのものは行っていないが、学会内でWeb開催とは言えシンポジウムを開催し事務局長を務めた。科研費をはじめとして各種研究費を受託しているので、研究費用に見合った成果を出せるよう、さらに精進する所存である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 黒川 健児

1. 教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑪
細胞生物学	9 / 15 (後期)	1.5	115	①②⑨
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
生物学演習	7 / 15 (前期)	1	80	①②⑨⑪
生物学演習	7 / 15 (前期)	1	18	①②⑨⑪
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	97	②④⑨
総合基礎学習 II	13 / 15 (通年)	0.5	100	①②④⑤⑨⑩⑪⑫
生化学実習	5 / 9 (後期)	1	122	①②④⑪⑫
生化学 II	15 / 15 (前期)	1.5	118	①②⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習 II	1 / 23 (通年)	1.5	103	①④⑪
総合演習 II	1 / 23 (通年)	1.5	5	①④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

生化学 II では隔週で計6回の小テストと中間テスト、細胞生物学でも担当回について隔週で計3回の小テストと中間テストを実施するなどして、コロナ禍で遠隔授業となり、懸念された学力の低下に備

え、学生による復習と反復学習を誘導した。前期の生化学Ⅱの授業アンケートは実施されなかったが、後期の細胞生物学の授業アンケートでは勉強になったと概ね好評であった。授業の満足度は4.0を超えていた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	103	2020年11月19日
総合演習ⅢB	1	123	2020年10月16日
総合基礎学習Ⅱ	9	109	2020年6月10日 2020年6月17日 2020年7月1日 2020年10月14日 2020年10月21日 2020年11月11日 2020年11月18日 2020年11月25日 2020年12月2日
総合演習Ⅱ(過年度)	2	6	2020年5月12日 2020年11月19日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 細菌感染症の予防と治療に関する研究
- (2) 細菌感染に対する生体防御機構に関する研究
- (3) 微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	2021年度薬学科の入試制度の改定を推進し、QSP入試科目の設定、外国人編入試験制度の整備等を行った。 2021年度薬学科リーフレットの作成を推進した。 高校生向け薬学科紹介YouTube動画の作成と公開を行った。 福岡県薬剤師会や熊本県薬剤師会の会報向け広告を作成した。 薬学科オープンキャンパスの企画立案等、通常業務を行った。
研究センター	センター長	第二十一巻 長崎国際大学論叢の編集及び発行を行った。 第21回学術研究報告会の準備・実施を担当した。
作問委員	委員	出題委員としての通常業務に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部国試・CBT対策委員会	CBT部会長	総合演習 I の単位認定試験の運営 4年生向けの外部講師講習会の設定

薬学部CAI運用・活用委員会	副委員長	CAI強化策として国試向けの学内過去問のCAIへの入力を進めた 2年から6年生で実施するCAI実力試験の実施と成績管理を協働して行った 成績下位者に対するCAI補習の実施、夏期・春期休暇中のCAI課題の提示と管理を、学年主任と協働で進めた
薬学部研究等倫理委員会	委員	委員としての通常常務に貢献
薬学部生涯教育委員会	委員	今年度はコロナ禍を受け、活動なし。
薬学部安全管理委員会	委員	委員としての通常常務に貢献

(3) 課外活動の指導等

剣道サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・ 薬学部入試・募集委員長として、薬学科オープンキャンパスプログラムの策定と実施を担当した。
- ・ 薬学部入試・募集委員長として、オープンキャンパスに参加出来なかった高校1、2年生を対象に薬学部説明会を実施した。
- ・ 薬学科の広報を目的とし、薬学科リーフレットの作成を主導し、また長崎県、佐賀県、宮崎県、鹿児島県、大分県の薬剤師会会員への発送を主導した。
- ・ 薬学科の広報を目的とし、薬学科を紹介する高校生向けYouTube動画を8本作成し、公開した。
- ・ 薬学科の広報を目的とし、福岡県薬剤師会並びに熊本県薬剤師会の会報に広告を作成し、掲載した。
- ・ 韓国SKY語学院早期入試を含む学内入試、共通テスト等の試験監督、並びに面接官を担当した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本ブドウ球菌研究会運営委員会	委員	2016年度より。	日本ブドウ球菌研究会
文部科学省審議会	委員	2020年度より。	文部科学省

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

欧文国際学会誌の査読を2件、邦文国内学会誌の査読を2件務めた。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2020年度は特になし。

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

・ 2020年度は教育・研究活動の傍ら、「入試・募集委員会」委員としての活動に注力した。これは2020年4月に福岡県大川市に、国際医療福祉大学福岡薬学部(附属病院有り)が定員120名で新設

され、本学薬学科では長崎県外の受験生確保が困難化し、2020年4月の入学者数が113名と定員割れを生じたためである。九州地区、並びに中四国地区としては、私立薬科への入学者が定員割れを来している現状もある。そのため薬学科の入試・募集委員長として、オープンキャンパス運営、高校訪問の指揮等の通常業務に加え、昨年度に続き薬学科リーフレットを作成し、長崎、佐賀、大分、宮崎、鹿児島薬剤師会への配布を通じた広報活動、また入試制度改革などへの対策を積極的に立案、実施した。2020年度はコロナ禍の影響でオープンキャンパス参加者を3年生に絞ったことで参加者が激減した。そこで薬学部生による薬学部紹介動画を作成してYouTube上で公開し、高校生に届ける活動を進めた。また1、2年生向けの薬学部説明会を8月22日に実施した。

- ・「CBT部会長」として4年生試験運営を指揮し無事に終えた。「CAI運用・活用委員会」副委員長として、全15回のCAI試験を運営し、また国試対策の学内教員作成問題の問題入力や、北陸大学教員作成の画像入力問題のテキスト入力化を終えるなど、学生の基礎力養成に務めた。

- ・教育面では、概ね目標に沿って実施した。生化学IIでは7回、細胞生物学では3回の小テストを実施し、学生からは復習に有用であると好評であった。3次カリ3年生の「総合基礎学習II」の運用を学年主任の先生方と共同し滞りなく務めた。5年生の卒業研究は1名を実験研究とした。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 小林 秀光

1. 教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期(低学年次)から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかりと修得することは、「病原微生物・ウイルス学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における直接の出題数としては決して多くはないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といてもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス(特に、微生物学分野における最近の研究等)を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること(アクティブラーニング)で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーニングは、研究の最新トピックス等でなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目(学内実習を含む)では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験(随時、定期)を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。これにより、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習 I	5 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	①⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	52	⑧⑨
生命倫理	2 / 15 (後期)	2	28	⑤⑥⑩
医療生命倫理	2 / 15 (後期)	1.5	104	⑤⑥⑩
衛生化学Ⅱ	8 / 15 (前期)	1.5	100	①⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
病原微生物・ウイルス学	8 / 15 (前期)	1.5	99	①⑨⑪
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	103	①④⑤⑧
微生物学	15 / 15 (後期)	1.5	111	①②
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	3 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

【教養セミナー】

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

5年ぶりに1年次「教養セミナー」を担当した(7名:韓国人留学生1名を含む)ので、評価の推移は表示できない。

FBアンケートの結果(満足度:4.9、全項目4点以上、韓国人留学生:5.0)は、おおむね良好であった。

次年度も本科目を担当することになっているので、今年と同様、話し易い雰囲気づくりに心掛けた。

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法

コロナ禍により、前期Aは完全リモートであったが、後期Bについては殆ど対面で実施することができ

た。

しかし、韓国人学生の来日が遅れ、後期Bでも前半1/3は一人だけリモート受講となった。

まだ日本語能力に不安のある韓国人留学生にとっては、本科目の内容や効果性について少々不満が残ったかも知れない。

もし、次年度も韓国人留学生を担当する場合は、もっと平易な日本語で、しっかりと説明するように心がけたい。

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

FBアンケートの結果(日本人:4.9、韓国人留学生:4.0)は、おおむね良好であった。

殆どの学生が教養セミナーの意義を理解して、課題に真剣に取り組んでいたことが伺われる。

今年と同様、話し易い雰囲気づくりに心掛けたい。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

韓国人留学生を含めて全ての受講生から、全項目とも「5」の評価を得た。

真摯に学生と向き合い、どの取り組みにおいても適切なアドバイスができたと思う。

次年度も本科目を担当することになっているので、一人一人の個性を尊重して良い結果を導くように頑張りたい。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感(1000文字以内)

コロナ禍におけるリモート授業は致し方ないが、「教養セミナー」のような少人数の参加型授業に関しては、対面での効果が著しく大きい。

完全リモートであった前期では、お互い打ち解けるのに苦労したが、対面が多くなった後期は、皆の表情が全く違うものになった。

対面により打ち解けたことで、テーマ別学習では時間外でも学生同士が電子ツールを用いて活発な討論がなされていたと思う。

来年度はコロナ騒動がおさまリ、学生たちが正常な大学生活が送れるよう心から願っている。

【微生物学】

(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策

FBアンケートの結果(総合満足度:4.2、日本人学生:4.3、韓国留学生3.9)

昨年の総合満足度は4.1であったので、少々改善されたのかも知れない。

しかし、昨年は完全対面授業、今年は「完全リモート授業」であったので安易には比較できない。

自由記述により、多くの日本人学生が楽しみつつ興味を持って本科目を聴講していたことが伺える。

一方、これまでになく韓国人留学生からの評価が著しく低かったことがショックである。

留学生は2年目であるが、日本語の授業について来れているのか心配である。

次年度は、もっと明瞭な日本語でゆっくりと話すように努力したい。

(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法(1000文字以内)

2学生を対象とする必修専門科目であり、微生物系科目(病原微生物・ウイルス学、微生物薬品学、免疫学、衛生化学、公衆衛生学など)や臨床系科目(実務実習など)の基礎となる重要な科目である。

従って、導入教育的性格を持っているので、先ず学生がこの分野に興味を持てるように、社会的に注目を集めている事例についてスライド枚数を昨年よりさらに増やして紹介した。

また、出来るだけ分かり易い言葉を使って解説し、項目ごとに自作のプリント「まとめ」を配布する等して学修サポートしたつもりだが、一部の学生には全く伝わらないようだ。

(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

▽該当質問

FBアンケートの結果(日本人:4.1~4.3、韓国人留学生:3.9)。

特に、留学生には「微生物学」の面白さが伝わっていないものと考えられる。

来年度はアクティブラーニングの内容をさらに吟味してから授業に臨むようにしたい。

自由記述の中に、動画や資料のマナバへの再掲載を求める声が数件認められる。

YouTube動画や資料(まとめプリント)はLive授業後1週間開示しているが、ダラダラ掲載し続けることには抵抗がある。

時間割り通りのLive配信で緊張感を持って聴講し、プリント資料も掲載期間中にしっかり印刷して欲しい。

この程度のことを面倒くさがるようでは、細心の注意を要する薬剤師業務には不向きと言わざるを得ない。

また、受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。

(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策

FBアンケートの結果(日本人:4.1~4.4、韓国人留学生:3.7~4.3)。

今年の韓国人留学生には、なかなか教員サイドの熱意が伝わらないようだ。

次年度はこれらの評価が上昇するように、さらにALを工夫して充実させたい。

(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感(1000文字以内)

300文字 あと700文字です。

ある程度の学生(特に日本人学生)が興味を持ちつつ楽しんで本科目を聴講していたものと思われる。

一方、日本語能力に不安のある韓国人留学生にとっては、少々理解するのに苦労したかも知れない。

しかし、この学年の留学生のポテンシャル(主に集中能力)は平均的に低いと言わざるを得ない。

リモート授業の影響もあるかも知れないが、Live授業に遅刻や欠席が目立つ者が明らかに多い。授業途中や終了時の参加チェックの様子を見ても、残念ながら授業を真剣に聴講しているとは思えない。

総合成績(試験結果)も例年になく低調であることから、この学年の留学生は早期に気持ちを入れ替え、もっと真摯に学業に向き合う必要がある。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡医科歯科専門学校 歯科衛生士科	生化学	15/15(前期)	2	60
福岡医科歯科専門学校 歯科衛生士科	国家試験対策演習	3/3(後期)	0	60
佐世保医師会看護専門学校 看護科	微生物学	15/15(前期)	2	40

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 病原性Candida酵母の細胞壁多糖抗原の免疫化学および構造化学的研究

これまでCandida属酵母の免疫化学的性状の解明を研究テーマとして、多くの菌種の細胞壁マンナンの化学構造を多糖限定加水分解法やNMR分析を用いて明らかにしてきた。現在、薬剤耐性のみられる病原性Candida酵母のうち、数種の菌種由来の細胞壁マンナンの構造解析を進めている。

② 抗生物質を利用した新しい研究試薬の開発

微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られている。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出した。このあたかもレクチンの様な性質を利用して、新しい研究試薬への応用を試みている。現在はカンジダ細胞壁マンナンの研究を通して、その有用性を検討している。

③ 国産の冬虫夏草の産生する生理活性物質について

冬虫夏草(サナギタケ)は古来より滋養強壮、免疫増強などの民間薬(漢方薬)として用いられてきた。日本に生息する冬虫夏草は、サナギタケを含めて600種を超えるとも言われている。日本産各種冬虫夏草の様々な癌細胞に対する抗腫瘍効果をスクリーニングした結果、数種の冬虫夏草で強い抗腫瘍活性が認められている。各種活性画分を様々なクロマトグラフィーにより分画し、生理活性物質の特定と作用機序について解明を試みている。また、研究材料の確保・安定供給の観点から、カイ

コを用いた新たな冬虫夏草人口培養法の確立を目指して研究を進めている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

管理栄養士養成シリーズ12「食品衛生学:第4版」(甲斐達男・小林秀光編)

/編集/2020年9月30日/化学同人/204頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Distribution of Oligomannosyl Side Chains in the Cell Wall Mannan of *Pichia pastoris* Purified by Benanomycin A.,/2019年12月/Int. J. Curr. Microbiol. App. Sci./8:2926-2935/共著/論文

Specific Antiproliferative Activity against Several Human Cancer Cells with Metabolites from

Onygena corvina/2019年12月/Int. J. Curr. Microbiol. App. Sci./8:1659-1668/共著/論文

Determination of α -1,3-Linked Mannose Residue in the Cell Wall Mannan of *Candida tropicalis*

NBRC 1400 Strain/2020年6月/Adv. Microbiol./10: 14-26/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	担当職務について全うした。
産学連携・研究支援センター	委員	担当職務について全うした。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

第7回地域の期待に応える実践活動(2020年11月8日)

—薬剤師として働くことの魅力と地域で働くことをについて考える—

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

入試募集活動:八幡高校出張講義(2020年3月18日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
5	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
新型コロナウイルスについて知ろう	2020年8月12日	長崎国際大学薬学部	第9回夏休み研究薬学体験 佐世保北高校他、近隣の高等学校
新型コロナウイルスについて知ろう	2020年8月20日	長崎国際大学薬学部	高大連携事業 第13回猶興館高校体験学習

「ウイルス」って何だろう？	2020年10月23日及び11月19日	九州文化学園中学校 1年生・2年生	九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献 (学長裁量経費)
新型コロナウイルス感染症について知ろう	2020年11月9日	九州文化学園高校 1年生	九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献 (学長裁量経費)
「ウイルス」って何だろう？ —新型コロナウイルス感染症について知ろう—	2021年3月18日	八幡高校(北九州市) 1年生・2年生 オンライン利用	ライセンスアカデミー (募集関連)

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

学長裁量経費:九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献:150千円

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】コロナ禍により、担当科目の殆どがZoomまたはYouTube利用の遠隔授業となった。前期授業アンケートは未実施であったが、独自に「病原微生物学」及び「衛生化学Ⅱ」についてアンケートを

実施した結果、いずれも98%以上の受講者より「満足」との評価を得た。後期「微生物学」のフィードバックアンケートの結果もほぼ良好であった。

【研究】コロナ禍による学会不開催により学会発表が2件に止まったが、これまでの研究成果を、英文原著論文2報(コレスポンディングオーサー)を国際誌に掲載、共同研究で1報を公表することができた。次年度は、科研費等の公的資金の獲得に努力したい。

【社会貢献】佐世保地域の中等教育における「理科啓蒙」と「高大接続」をテーマに活動を展開した(R2年度:学長裁量経費)。夏休み薬学研究体験や地域の期待に応える実践活動では中心的な役割を担った。

【大学運営】全学入試募集委員会、産学連携委員会委員として職務を全うした。

【学部運営】教務委員会(地域の期待に応える実践活動など)、地域連携委員会(高校生夏休み体験学習、猶興館高校体験学習)などの職務を全うした。

次年度は、「研究」活動に力を入れたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 佐藤 博

1. 教育理念

私の学問的バックグラウンドである環境科学では、「持続可能な」という言葉が一つのキーワードとなっている。これは社会のなかにおいて、色々な考えをもつ学生がそれぞれのもっている個性を大事にして地道に目標に向かっていくことに対して、真摯に継続して係っていくことが重要と考えている。そこで、次に3つを教育理念として挙げる。

- 学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。
- 個を認め、その主体性を育むことによって、ホスピリティを獲得する教育を行う。
- 心が豊かになる教育を目指して、国家試験に対して乗り越えられるように育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	②③⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	②③⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	②
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	②⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	②③⑨
環境科学	15 / 15 (前期)	1.5	101	②③
地球環境論	15 / 15 (後期)	2	135	③⑨⑩
公衆衛生	15 / 15 (前期)	2	23	②⑨⑩
化粧品学	13 / 15 (後期)	1.5	115	②⑩
総合基礎学習Ⅱ	1 / 15 (通年)	0.5	100	①②⑩
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	109	①②③⑩
衛生薬学実習	8 / 8 (前期)	1	103	①②④⑤⑦⑪⑫
毒性学	6 / 15 (後期)	2	96	②
地域の理解と連携	2 / 15 (後期)	2	236	②③⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

イ)出来るだけ、新聞記事を多用して講義をすると同時に、プリントのまとめを今後も活用していく。

ロ)まとめのプリントの配布回数を増やす。

ハ)授業前に時間的に余裕を持って教室に行き、学生との会話を心がける。

ニ)時間に余裕を持って講義をゆっくりと進行させる。また、話す速度にも気をつける。

高校での理解力が不十分と思われる学生については補習を行うなどした。教育効果についてはこれからだと思うが、学生がノートをしっかりとるなど授業への積極的な姿勢が見られた。

地球環境論(後期)回答者144名:質問12(4.4) 質問13(4.4)

化粧品学(後期)回答者119名:質問12(4.1) 質問13(4.1)

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ(5留)	1	6	2020年11月18日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① セカンドハンドスモーク・サードハンドスモークの臭い成分に関する研究

環境中タバコ煙(ETS)はガス状及び粒子状物質から構成され、ヒトの嗅覚に対して複合臭として作用する。またガス状物質はタバコ煙の付着物から放散していわゆるThird hand smoke(THS)を引き起こす可能性が示唆されている。そこで、タバコ煙における測定を行い官能的に一致するにおい成分を把握し、臭いとETS曝露量との関連性を検証している。また、THSの成分分析・経時的観察なども行うと同時に、最近普及している加熱式タバコについても検討を行っている。

② 長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析

アロマ精油の成分分析や抗菌試験を行っている。特に長崎県内で栽培されている月桃という植物や、波佐見町で栽培されているバラから各々水蒸気抽出を行い、得られたアロマ精油やフローラルウォーターのガスクロマトグラフィー分析(GC)や抗菌性能を調べている。栽培時期によって成分の違いが判明した。精油調製時に同時に得られる月桃水も、抗菌・抗ウイルス作用があることが判明した。さらに月桃茶は嗅覚障害の回復に効果が期待できる。

③ 微生物を用いた芽胞状態での真菌抑制及び消臭作用の検討(T.Mエンタープライズ社との共

同研究)SDGs該当

長崎県の土壌から採取した単離菌(TM-N5株及びTM-I-3株)を企業と共同研究しています。これらの菌は非接触状態で抗真菌作用や消臭能力を発揮することが分かっています。我々の研究では、乾燥状態でも単離菌が真菌抑制作用や消臭作用を示すことが分かってきました。現在は芽胞状態での菌の可能性を検討している。

④ 光触媒を利用した脱臭に関する研究(㈱イナヅマ電気工事との共同研究)SDGs該当

光触媒材料はほとんどの有機物を効率良く分解除去できることが知られており、最近では大気浄化や水質浄化等に広く応用されています。LED照明器具の面状拡散板(光触媒フィルム)に担持した酸化チタンが開発され、この開発品の居住空間における消臭・除菌効果についての評価を実施している。

⑤ 細菌・ウイルス対応消毒剤に関する研究SDGs

『自然(ホタテ貝殻)由来』『環境に負荷がかからない』『健康影響がない』『SDGsの理念に合致する』このような細菌・ウイルス消毒剤の開発・評価を実施しています。

⑥ 自然界由来の微生物による切削油の臭気抑制など腐敗防止に関する研究(ホテイ産業研究所との共同研究)SDGs該当

大手自動工場の切削湯の臭気抑制を検討した結果、自然界由来の微生物が有効であることが判明した。メカニズムと効率化を検討中である。

(2)研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	7	3	3	160万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Bacillus 属 TM-I-3株の性状および非接触抗菌作用に関わる揮発性物質の探索

／2020年12月／tsukuru FUJICO Technical Report 2020 No. 28／pp. 10-16

／共著／論文

Sample Introduction Method in Gas Chromatography / 2021年1月 / ANALYTICAL SCIENCES
VOL. 37, No.1 / pp. 159-165 / 共著 / 総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

光触媒LED 照明のフィールドにおける脱臭評価に関する研究

／2020年9月14日(月)～10月4日(日)(誌上開催)

／第61 回大気環境学会年会

爽快な香気を有する月桃水の抗菌評価と検討

／2021年3月12日(金)

／室内環境学会九州支部第14回研究発表会

TM-I-3株とBacillus sporothemodurans M215株の性状と遺伝子配列の比較

／2021年3月26日(金)～29日(月)／日本薬学会第141年会

新型酸化カルシウムna-CaOのウイルス不活性化に関する評価

／2021年3月26日(金)～29日(月)

／日本薬学会第141年会

長崎県産月桃エキスのCandida albicansとTrichophyton rubrumに対する抗菌活性の評価

／2021年3月26日(金)～29日(月)／日本薬学会第141年会

光触媒脱臭器のウイルス不活性化に関する評価

／2021年3月26日(金)～29日(月)

／日本薬学会第141年会

光触媒装置のフィールドにおける脱臭評価と健康影響の考察

／2021年3月26日(金)～29日(月)

／日本薬学会第141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
災害用トイレ処理脱臭剤に関する研究	(株)ワールドバイオ	令和2年4月1日～令和3年3月31日	50万円
新型カルシウム化合物の抗菌抗ウイルス作用に関する研究	(株)クオリテ	令和2年7月1日～令和3年3月31日	100万円
光触媒小型除菌脱臭器の評価	(株)日本理工医学研究所	令和2年7月1日～令和3年3月31日	10万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	センター長	地域連携行事の円滑な遂行と大学でのSDG活動推進に貢献した。

薬学部就職委員会	委員長	就職ガイダンスを企画実施して、学生のキャリア教育に貢献した。
薬学部地域連携委員会	委員長	公開講座等の講師選定、寄附講座を円滑に運営した。
薬学部安全管理委員会	委員	水銀使用器具の回収と廃棄に貢献した。
薬学部図書選定委員会	委員	適切な図書の選定に貢献した。
教務委員会	委員	教務の円滑な運営に貢献した。
大学20周年記念事業(薬学)	担当	記念事業はコロナ渦により中止
学生サポート室	室員	コロナ渦により研修受講のみとなる

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和2年度 私立大学等改革総合支援事業 対策会議・WG	タイプ2・副ワーキンググループ長	タイプ2の改善点の抽出と対策
薬学部自己点検・評価委員会	評価委員メンバー	自己点検報告書に対する提言や意見

(3) 課外活動の指導等

薬学部野球サークル 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

就職ガイダンス(薬学部5年生対象)

【日程】

第1回: 令和2年5月15日(1期が実習中のため、1期終了～2期開始の間の時期に実施)

第2回: 令和2年11月10日(対面 実習等で出席できない場合はZoom or YouTube視聴)

第3回～5回: 令和3年1月13、14、15日(3日ともZoom。実習4期はYouTube視聴)

【内容】

5月開催内容(オンライン 講師:マイナビ)

- ・就職活動スタート講座(就職活動の基礎知識、最新の採用動向とスケジュール、Webセミナーについて等)

11月開催内容(対面・オンライン 講師:マイナビ)

- ・Web上での就職活動の方法について
- ・自分に合った就職先を選ぶための自己分析
- ・キャリアプランの作成方法
- ・業界別選考スケジュール

1月開催内容(オンライン 講師:マイナビ、エムスリー、ユニヴ)

- ・就活準備…就活への心構え、社会情勢等、一般的な就活に関すること
- ・就活対策…薬学生のための履歴書の書き方・面接(Web含む)対策講座
- ・業界研究…奨学金返済プランを利用した就職活動と、職種全般の動向と推移

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	10

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
(株)サティスファーマ社内研修講演	2021年3月14日(日)	サティスファーマ東千石事務所(鹿児島市)	(株)サティスファーマ社

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県環境審議会環境基本計画策定部会	委員	令和2年11月～令和4年10月	長崎県知事
長崎県環境審議会環境計画部会	委員	令和2年11月～令和4年10月	長崎県知事
長崎県環境審議会環境監視部会	委員	令和2年11月～令和4年10月	長崎県知事
令和2年度海洋技術開発研究委託事業審査会委員	審査委員	令和2年7月～令和3年6月	(公財)長崎県産業振興財団
学校医(学校薬剤師)	学校薬剤師	令和2年4月～令和3年3月	九州文化学園高等学校

佐世保市上下水道事業経営検討委員会	副委員長	令和元年5月15日～ 令和3年5月14日	谷本薫治(佐世保市 水道事業及び下水道 事業管理者)
佐世保市環境政策審議会	副委員長	令和元年6月20日～ 令和3年6月19日	佐世保市長
佐世保市環境教育等推進協議会	副委員長	令和元年7月1日～ 令和3年6月30日	佐世保市長
(一社)室内環境学会九州支部会	支部長	2012年4月～	(一社)室内環境学 会
(公社)日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会	委員長	2018年3月～	(公社)日本分析化 学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

【講演】

2021年3月14日(日)、(株)サティスファーマ社内セミナー講演「生活空間のにおいについて・爽快な香気を有する月桃水の抗菌評価と検討」

場所:(株)サティスファーマ東千石事務所(鹿児島市)

依頼者等:(株)サティスファーマ

2021年2月19日(金)、講演企画、「ガスクロマトグラフィーで用いるヘリウムガスの供給に関する話題と技術的対応」WEB 開催

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry (日中韓分析化学シンポジウム)の日本側事務局(長)として2006年から交流に力を入れています。シンポジウム発表を通じての分析等の技術交流がメインではありますが、中韓の研究者等と緊密な連絡をとっています。2019年は韓国で行われ、2020年は中国の予定でしたが、コロナ渦により2021年に延期になりました。

2021年度の中国開催に当たっては、依然として不透明ではありますが、これまで以上に日中韓で連絡を取りあつて有意義な交流になるように計画しています。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

室内環境学会九州支部長(九州支部事務局)としてまた、分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会委員長のとして学会活動に力を入れてきた。学内では、10年目となる第10回薬学部合同就職説明会は120施設参加する予定であったが、コロナ渦の状況で実施できなかった。施設プロフィール集は作成して学生に配布できた。

また、4年生を対象として、昨年に引き続き【第7回地域の期待に応える実践活動(2020年11月8日)】を実施した。この活動により、学生が地域で働くことへの魅力を認識し、延いては地元への就職率の向上へ繋がると期待している。本活動は、コロナ渦での開催でもあり新聞に掲載された(2020年11月12日長崎新聞掲載、タイトル:地方で働く魅力を考える長崎国際大学薬学部)。

現在、採択された外部資金を運用して研究面を特に推進している。その成果として、これまで共同研究をしていたイナヅマ電気工事(長崎市)の光触媒LED型照明装置が除菌脱臭器としても改良されその評価を行った結果、除菌効果が認められた。令和3年度の長崎市製品・技術「優れモノ」に認証される可能性が高い。

また、これまでNBCコーポレーションと(長崎市)と共同研究している月桃エキスに関しては、白癬菌抑制等の成果に対して放送局が取材に訪れて、2021年1月13日のNBC「Pint 特集:月桃から水虫薬」で放送されるに至った。

昨年からはじめた佐世保西高等学校2年理系課題研究(理系課題研究プロジェクト)は、今回も佐世保西高等学校の依頼をうけてコロナ感染防止に最大限の注意を払って本学薬学部で体験実験を実施した。当日は、長崎放送(NBC)の取材を受けて、様子が放送された(令和2年12月7日(月) Pint 2)。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 高井 伸彦

1. 教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	103	②⑧
総合演習ⅢB	3 / 30 (前期)	1	23	②⑧
総合演習ⅢB	3 / 30 (後期)	2	96	②③⑧
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	5	②⑧
日本薬局方概論	4 / 15 (後期)	2	96	①②⑧
分析化学Ⅱ	2 / 15 (前期)	1.5	118	②③⑧
放射線化学	10 / 15 (後期)	1.5	106	①②⑧⑨
放射線医療学	15 / 15 (前期)	1.5	134	①②⑩
分析化学演習	6 / 15 (前期)	1	128	①②⑧
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①②⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	②④⑦
機器分析学	5 / 15 (後期)	1.5	109	①②⑧
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	122	②⑦⑩
分析化学Ⅰ	2 / 15 (後期)	1.5	103	②⑧
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	⑤⑥
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	⑤⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義の方法について、98.3%の学生が良いと評価をしており、いずれのQにおいてもオンラインの方法を含め全体平均より高く評価されていた。推移においても2018-2019と比較しても良い評価がな

れており、講義方法としてある程度理想形に近づいていると考えている。

- ・放射線という難しい題材ですが分かりやすくテンポよく教えてくださりとても分かりやすい授業だと思えます。
- ・難しい内容のものも分かりやすく丁寧に説明して下さるので分かりやすく理解しやすいです。授業もとても楽しいです。
- ・授業のはじまりや途中の休けいなど、授業がとても取りくみやすいと感じました。内容は難しいですけど、それでもあまり苦と感じず、これからもがんばりたいと思いました。

これらの学生コメントからも、理解が難しいものを知りたいと思わせる導入と、理解して覚えたことが役に立つ実感を与えてあげる講義を心がけて随時講義内容をアップデートしていることが高評価につながっていると思っています。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

近年、放射性診断薬によるがんの早期発見や、放射線療法や放射性医薬品によるがん治癒率は目覚ましく向上しており、放射線に対する知識、放射性医薬品の取扱いは、薬剤師として身につけなければならない重要事項の1つです。放射線薬学では、重粒子線がん治療の高度化のため、放射性医薬品・診断薬を用いて正常組織の副作用の軽減に向けた研究を実施することで、学生自ら放射性医薬品の安全管理と良質な医療を提供できるようになることを目標としている。

① 脳腫瘍放射線療法における副作用の軽減に向けた画像診断法の開発

がんの治療前に、患者個々に異なる腫瘍の特徴や悪性度の診断ができれば、その患者に適した抗がん剤の適用や、難治がんの克服が可能な放射線療法の選択が可能となり、高度ながん治療によりQOLの高めることが可能となります。当研究室においては、抗がん剤と放射線の有効性とその副作用を画像生体分析法により明らかにし、最適な医療の確立を目指しています。

② 腹部がん放射線療法における副作用の軽減に向けた研究

子宮頸がんなどの腹部がんの放射線治療では、放射線感受性の高い小腸において穿孔や炎症・

出血などの副作用が生じやすいため、その防護が非常に重要になります。これらの腸管障害を軽減するため、関連する受容体の診断と防護薬の開発研究を実施している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	1	1	1	100万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

Precision Medicine 2020年4月号 がん診療の副作用マネジメント/共著/令和2年3月26日/北
陵館/41-45

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

脳腫瘍の放射線治療に伴う副作用の機序の解析/令和3年2月25日/第21回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
重粒子線がん治療装置等共同 利用研究 重粒子線感受性に影響を与え る末梢性NMDA受容体の解析	国立研究開発法人 量 子科学技術研究開発 機構(QST) 量子医学・医療部門 放射線医学総合研究 所(NIRS)	2020-2022	100万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員長	広報催事の企画および運営と、本学ホーム ページの更新管理による広報活動
放射線障害予防委員会	委員	放射線の安全な運用
教育基盤センター運営委員会	委員	薬学教養セミナーのサポート

CBT実施委員会	委員長	本学CBT体験受験および本試験・再試験の適切な運用 今年度は大雪によるリカバリー試験の対応や、九州大学の長崎大学のCBTモニター員の業務を適切に実施した。
薬学就職委員会	副委員長	薬学就職委員会における広報活動を担務

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学の広報催事を企画し(めざせ水の薬学博士)、ハウステンボスを協賛として調整作業を実施した。本年度は緊急事態宣言の解除を目安に、募集を開始する予定であったが、3/21まで延長されることから、本年度の実施を中止した。

来年度は、この企画がより募集力のあるものにするため、環境衛生に適した教員を導入する予定である。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
放射線影響懇話会	世話人(理事)	2015-2021(継続中)	放射線影響懇話会
日本量子医科学会	評議委員	2021-	量子科学技術研究 開発機構 量子医 学・医療部門長 中野 隆史

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

新型コロナウイルスの対応のために、採択されていた重粒子線がん治療装置共同利用研究は、全てキャンセルしなかなければならなかった。またオンラインに特化した講義資料の作成、今年度から引き継いだCBT実施委員長の業務、長崎大学や九州大学へのCBTモニター員業務およびその後の自宅待機期間など、それらの対応に苦慮した1年となった。

しかしながら、オンライン講義による授業評価は、思っていた以上に高評価4.7-4.8を得ており、講義後の動画配信やオンラインでの質問対応などが、学生の意欲につながることを確認することができた。

またこれまでの研究業績が評価され、国の量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門長 中野 隆史氏より、新たに設立される社団法人日本量子医科学会の評議員として推薦され、今後の学会運営に携わることができたのは、粒子線等に関する研究基盤の連携と発展を推進し、学術的理解の深化と社会還元拡大を果たすことにつながる良い1歩となった。さらにこれまで文部科学省より支援(採択)を受け、新学術領域研究先端モデル動物支援プラットフォームに参加してきたが、本年度よりオブザーバーとして活動することになった。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 長岡 寛明

1. 教育理念

私の教育の理念は、学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく、公衆衛生学・衛生化学、環境科学、毒性・代謝学、レギュラトリーサイエンス等の視点をもって考えることができる広い視野を持った良い医療人を育てるというものである。良い医療人とは、医学、薬学、社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し、更に、協調性に富み、幅広い視野と豊かな教養を持ち、高い人間性及び倫理観を持ち合わせ、自ら学び続けることができる人材であると考え

る。
 本学の卒業生のほとんどは、病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し、一般社会に接した医療現場で働き、多忙な業務をこなすことになる。学生には、将来、疾病を見るだけでなく、疾病に罹っている患者本人及びその家族、患者が生活する地域、属する組織や社会に対し、目を向けて考えること、自ら行う医療行為について評価することができるようになること、加えて、疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている。

以上のことより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、生涯にわたって、やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①④⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①④⑨
公衆衛生学 I	15 / 15 (前期)	1.5	128	①⑨
公衆衛生学 II	11 / 15 (後期)	2	120	①⑨
衛生化学 I	7 / 15 (後期)	1.5	116	①⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑩⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	①④⑤⑥⑪⑫
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	109	①②⑩
衛生薬学実習	6 / 8 (前期)	1	103	①②④⑤⑦⑪
健康薬学	15 / 15 (前期)	1.5	26	①⑧⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートはおおむね良好な結果が得られていると考える。

昨年度は資料を冊子体で配布したが、情報量が多くなったため、冊子体を諦め、A4用紙に印刷し、ステープラで留め、さらに2穴パンチ穴を空けた者を配布したところ、学生からは好評だった。

Zoomによる遠隔授業が多かったが、講義の映像をYouTubeで配信したため、学生からは好評だった。

manabaを活用して、小テストを毎回実施し、学生の理解を深めることに努めた。

manabaを活用して、質問やコメントを求めたところ、多くの質問やコメントが寄せられた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	公衆衛生	15/15(前期)	2	70
佐世保市医師会看護専門学校	公衆衛生学	15/15(後期)	2	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB 補習	1	121	10月13日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・医療用医薬品の承認審査に関する研究
- ・カテキン類の高速液体クロマトグラフィー蛍光検出法を用いた微量測定法の開発
- ・茶抽出液中のテアニンの溶出挙動に関する研究
- ・食品中の腐敗アミンの分布及び挙動に関する研究
- ・大村湾の海洋調査に関する研究
- ・環境汚染物質の分析およびそれらの生体への影響評価に関する研究
- ・COVID-19に関する疫学研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Development of a system for the detection of the inflammatory response induced by airborne fine particulate matter in rat tracheal epithelial cells/令和2年7月/Toxicology Report/859頁～866頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書館の運営及び図書館の充実に関する業務を行った。
薬学部共同機器管理委員会	委員	薬学部にある共同機器に関して管理運営を行った
薬学部生涯教育委員会	委員長	薬学部生涯教育委員会として、1回の卒業教育セミナーの開催を予定していたが、COVID-19の影響で開催を断念した。その他に同委員会の運営に関する業務を行った。

薬学部教務委員会	委員	薬学部教務委員会委員として、教養セミナーにおける長崎県環境保健研究センターの見学を計画したが、COVID-19の影響で実現しなかったが、その代わりに長崎県環境保健研究センターの協力のもと、学生にDVDを見せ、長崎県環境保健研究センターの見学に代わるものを実施した。
----------	----	--

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし。

(4) 広報活動等 (募集・就職活動を含む)

広報委員会より依頼があったが、コロナの影響で中止となった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	5

(1) 講演／講座その他 (題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本食品化学学会	第12期評議員	平成23年1月～ 現在に至る	日本食品化学学会 事務局長
佐世保市廃棄物処理施設専門 委員会	委員	平成18年10月～現 在に至る	佐世保市長
独立行政法人医療品医療機器 総合機構	専門委員	平成18年5月～ 現在に至る	独立行政法人医療 品医療機器総合機 構 理事長 藤原康 弘
長崎県総合公衆衛生研究会	幹事	平成20年11月～現 在に至る	長崎県総合公衆衛 生研究会
長崎県薬剤師会 生涯学習委 員会	委員	令和元年7月～ 現在に至る	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/
主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1 本年度は、講義、実習及び演習の準備等で瞬間に過ぎてしまった1年であった。このため、活動全般では、他の教職員の方々の理解と協力を得て、果たすことができたと考えている。

1 教育活動においては、自分なりに精一杯努めたつもりではあるが、まだまだ反省し、改善すべき点があると考えている。

1 研究活動においては、今年度は論文1報、学会発表3回であった。来年度は更なる研究に情熱を

燃やしたい。

1 委員会活動においては図書館委員として、図書館の蔵書の充実に寄与した。また、薬学部生涯教育委員会委員長をとしては、卒後教育セミナーがコロナの影響で開催できなかった(しなかった)。来年度は講演会を開催し、本学が知の拠点となる一助としたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 早川 正信

1. 教育理念

臨床の薬剤師としての確かな知識、技能を習得し、医療に貢献できる、豊かな人間性と倫理観をもつ人材を養成し、社会の健康と福祉の向上に貢献できる薬剤師の育成を行います。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
病院	19 / 19 (通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21 / 21 (通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①⑨⑩
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①②④⑩
実務実習(病院・薬局)	1 / 54 (通年)	20	99	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	①⑨⑩
医療統計学	15 / 15 (後期)	1.5	101	②③④⑧⑩⑪⑫
調剤学	8 / 15 (前期)	1.5	105	②③⑧⑫
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	105	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	105	①②④⑥⑦
総合実習	6 / 6 (後期)	1	105	①②⑩
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	105	①②④⑪
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	105	①②④⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度は赴任初年度であったため、講義等の資料の作成に力を入れた。担当の科目が演習を含むものが多いが、コロナウイルスなどの関係で遠隔講義になったため、学生の進捗状況を確認しながら講義を進めることができず反省すべき点と考える。来年度はさらに理解が深まるような講義資料の作成を考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

臨床研究におけるデータ解析の手法開発

ジェネリック医薬品の選定の研究

臨床データへの統計学の応用

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	欠席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐賀県薬剤師会研究倫理委員会	委員	2018/4～今現在	佐賀県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

赴任初年度であったため講義資料の作成とまず年間における業務の流れを把握することと生活に慣れることに重点を置いた。コロナウイルスなどの問題もあり講義も遠隔講義となり演習などは十分とは言えない状況であった。来年度はこれを教訓により工夫を行い業務、講義等を行いたいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 深澤 昌史

1. 教育理念

長崎国際大学の建学の理念は、「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究。」である。薬学部薬学科では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人(薬剤師)を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育の実践を目指している。このホスピタリティを構成する5つの能力のうち、私の担当教科で最も重視されるのは「専門力」である。特に生命科学の主流である遺伝子関連の講義では、日々進歩する研究内容から薬剤師として必要な情報を読み取り、また生涯に亘って生命に関心を抱き、学び続ける態度を養うように導きたいと考えている。また、教育支援センターの専任教員として、学生を如何に進級・卒業に向かってモチベーションを保たせるかという命題に対峙し、学修効果を得るためにホスピタリティに根ざしたきめ細やかな指導を行いたいと考えている。さらに一昨年度より韓国人留学生に対する学修支援も活動に加わり、国際理解力を含めたコミュニケーション能力の向上を教育理念に加えることとする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	⑨
生物学演習	5 / 15 (前期)	1	80	①⑨⑩
生物学演習	5 / 15 (前期)	1	18	①⑨⑩
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	97	①⑨⑩
生化学Ⅲ	8 / 15 (前期)	1.5	117	①②⑨⑩
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	122	①②④⑩⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	2 / 15 (後期)	2/1~3年	4
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期は授業アンケートが実施されなかった。

後期はオムニバス科目のみで殆どコマ数が無く、唯一分子細胞生化学演習(2コマ担当)のみ実施申し込みを行ったが、アンケート結果の配信は無かった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生物学	15/15(前期)	2	80

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	120	2020年5月20日
生化学Ⅰの補習	1	14	2020年12月9日
総合演習ⅢAの補習(勉強合宿)	2	55	2020年8月9日～11日
総合演習ⅢBの補習(勉強合宿)	3	50	2021年1月15日～17日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①薬学教育におけるICTの活用と評価
- ②乳酸菌代謝生産物質の有用作用に関する研究
- ③グルコース濃度依存的な肝転写因子ChREBPの活性化機構の解明

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Evaluation of Fermented Product, PS-B1, Obtained from Soybean Milk Using Lactic Acid Bacteria in a Stelic Animal Model (STAM™) of Nonalcoholic Steatohepatitis - A Preliminary Study. /2020年11月/Int J Probiotics Prebiotics 15巻/45頁～51頁/共著/論文

Improvement in high-fat diet-induced obesity and insulin resistance upon uptake of PS-B1, a fermented product prepared from soy flour using lactic acid bacteria. /2020年7月/J. Food Nutr. Sci./81頁～88頁/共著/論文

教育基盤センター薬学分室 令和2年度活動報告/2021年3月/長崎国際大学教育基盤センター

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

高脂肪食投与マウスのインスリン抵抗性に対する乳酸菌発酵ろ液(PS-B1)の影響／2020年5月(誌上開催)／令和2年度日本生化学会九州支部例会

新型酸化カルシウム na-CaO のウイルス不活性化に関する評価／2021年3月(オンライン)／日本薬学会第141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員	委員長と活動の企画及び運営委員会をオンラインで数回開催
国試・CBT対策委員会	委員	拡大委員会のメンバーとして勉強合宿の運営等、国試・CBT対策に携わった。
薬学部図書選定委員会	委員	図書館予算で購入する図書の選定を行った。
教育基盤センター運営委員	委員(分室長)	薬学分室長として、委員会活動に寄与した。
入学前・初年次教育委員会	責任者	入学前教育の取り纏め、およびリメディアル教育に関する立案などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
SA担当責任者	メンバー	SA学生の募集等をサポートした。

(3) 課外活動の指導等

NIU天文会 顧問

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

① 第1回オープンキャンパス/7月26日/本学

② 第3回オープンキャンパス/8月23日/本学

③ 第4回オープンキャンパス/3月20日(予定)/本学

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
4	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
特別講演「新型コロナウイルスからのメッセージ」	3月6日	長崎国際大学	日本栄養改善学会九州・沖縄支部
夏休み薬学研究体験	8月11日～12日	長崎国際大学	地域連携室
高大連携事業第13回 猶興館高等学校体験学習	8月20日～21日	長崎国際大学	猶興館高等学校長
佐世保西高校体験授業	11月26日	長崎国際大学	佐世保西高等学校長

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

特になし。

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

- ① 入国出来ない1年留学生のためにeラーニングによる日本語学習(漢字読み書き、語義、文法、慣用句、短文読解など)を実施
- ② 入国直後の1年留学生に対する「日本語を話そう」(Zoomを利用した日本語会話トレーニング)を3回実施
- ③ オリエンテーションと先輩留学生との交流会(12月19日)

7. 受賞等

特になし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

〈教育活動〉

- ① 対面での教育がほぼ制限された中で、教育支援センターとしてオンラインを活用し、面談、オンライン留年生保護者会、Zoom自習室の開設など様々な取組みを行った。しかし留年生の取組みは少なく、遠隔主体となると学習習慣に問題のある留年生は益々成績上位者と離されていく危機感を募らせられる1年間であった。次年度は対面が中心となる可能性が高いが、また遠隔主体となった場合に、如何に留年生と密に関われるかが大きな課題となろう。
- ② 入学前教育に関しては、数学のeラーニングを加えて内容を増し、さらにオンラインスクーリングを実施することで多数の生徒のフォローアップが可能となった。オンラインスクーリングは遠方の入学予定者も無理なく参加できるため、今後もオンラインでの継続の可能性を残した。
- ③ 留学生に関しては、入国が12月までずれ込んだため、計画していたような日本語教育サポートがあまり出来なかった中で、急遽実施したZoomによる日本語を話すトレーニングなど、次年度以降の参考になる取組みを行えた。
- ④ 授業アンケートは、前期末実施により対象科目がなかったため、評価は行わない。

次年度は、近年横ばいとなっている留年生数をさらに減少に転じるべく、担任や学年主任との連絡をさらに密にしながらかきめ細かい指導に取り組んでいきたい。

〈大学運営活動〉

- ① オープンキャンパスは、高大連携事業と重なった1日を除き全て参加。
- ② 高校性対象の体験学習に3回参加した。

新型コロナウイルスのパンデミックにあって、専門であるウイルス関係の依頼が多かった。次年度も積極的に事業に参加し、学生募集や地域貢献に関与したい。

〈研究活動〉

- ① 主指導教員を任された大学院生1名の学術論文投稿・受理、学位論文の作成と学位取得に貢献できた。
- ② 自身のこれまでの研究データをまとめて学術論文を1報英文の専門誌に発表できた。
- ③ 新型コロナウイルスに対する抗ウイルス効果の研究依頼を受け、実験をコーディネートした。

今年度は研究面でも一定の成果をあげることができたと評価している。特に様々な試料の抗ウイルス効果に関する実験依頼が数件きており、今後P2レベルの実験施設を整備して受託研究を行う予定である。また、現在までに得ているデータをまとめてさらに論文を投稿し、今後科研費獲得など外部資金調達に結びつけることを目標とする。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 藤原 俊幸

1. 教育理念

大学における教育は、初等、中等教育とはやや目的が異なり、学問に対する面白さを伝授するのが、第一義的なものと考えている。昨今は、入学してくる学生の多様化に伴い、若干様相が異なってきているとはいうものの、やはりこの面を押し出していくのが大事なことだと思う。学生に手取り足取り教えるというより、「自分で面白さに気づく」、「自分で何故そうなるのか考える」を促進できる学生教育をしていきたい。そのためには、いつも答えを教えるのではなく、80～90%のところまで、一旦立ち止まり、考えさせるということが肝要ではないかと考えている。自分で考えさせるということを目指し講義・実習を組み立て、社会に出てからの糧となるような教育をしていきたいと思う。今年度をもって本学を定年退職することとなるが、どの程度までこの理念が達成できただろうか考えるとき、甚だ心許無い気がする。しかしながら、今年の1年次の科目「機能形態学Ⅱ」の授業アンケートで、「何故そうなるのかを考えさせるような授業がよかった」という声をもらった時は、救われる思いがした。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	37	①②④⑨⑩
機能形態学Ⅱ	8 / 15 (後期)	1.5	104	②③⑨⑩
生物学演習	5 / 15 (前期)	1	80	①②⑨⑪
生物学演習	5 / 15 (前期)	1	18	①②⑨⑪
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	④⑥⑫
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	125	①②⑥⑦⑩
生化学実習	6 / 9 (後期)	1	122	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、前期がほぼ全て遠隔授業となり、授業アンケートも行われなかったため、後期のみのアン

ケートとなった。後期授業も完全な形での対面授業は行われず、受講者と教室収容人員の都合から、受講学生を半分ずつに分けて、一方は教員が対面で授業を行い、もう一方がzoomの機能を用いて、離れた教室へ遠隔で授業模様を中継するという半対面方式をとった。アンケートをとった科目は、薬学部1年生の「機能形態学Ⅱ」である。慣れない方式に最初は戸惑い、機器の具合も完全に問題ない状態とは言えなかったため、学生アンケートの結果に不安を持ったが、予想外に学生の評価は高く、少なくともこちらの熱意は伝わったかと思い、安堵した。「授業がわかりやすい」「興味を持った」という自由記述を多く目にしたときは、大変うれしく思った。思い返すと、前期にほとんど登校できなかった1年生は、対面授業に飢えていたのではないだろうか？そのため、ほぼはじめて行われる対面授業にいい印象を持ったのではないかと思われる。いずれにしても、十分に理解でき、わかりやすかったという結果が出て満足している。それと同時に、「教育理念」でも書いたが、学問の楽しさを教える授業に多少なりとも近づけたような気がする。薬学部という学部特性上、学生の頭の中には資格試験というものが常に付きまとう。そのため、学生は国家試験にでる項目のみを優先し、試験にでるから覚えなければならないという「学問の楽しさ」からはかなり遠いところに学習が向かいがちである。少なくとも低学年のうちには、将来医療に携わる人間として、人体の不思議さ、神秘さを楽しんでもらいたい。自分の講義が、そのための一助になれば幸いである。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	組織・発生学	10/10(通年)	1	25
佐世保市医師会看護専 門学校	形態機能学(人体のしくみ)	15/15(前期)	2	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
機能形態学Ⅱ 補講(再試験対策)	1	28	2021年2月12日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. 学生の主体的学びと社会的基礎力要請への取り組み
2. 細胞内タンパク質輸送の分子機構の解析
3. 電子顕微鏡試料作製技術の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

建学の精神の徹底を図る初年次教育の実践と課題-ホスピタリティ概論の分析から-/2020年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第3巻/1～23/共著/原著
初年次教育の深化に向けて-ホスピタリティ概論の分析から-/2019年3月/長崎国際大学教育基盤センター紀要 第2巻/27～54/共著/原著

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	副委員長	教育基盤センター学修支援部門の部門長として、学生の教育支援を行った。
薬学部教務委員会	委員	1年次前期科目「教養セミナーA」の薬学部内取りまとめを行った。
長崎国際大学教育基盤センター紀要編集委員会	委員	長崎国際大学教育基盤センター紀要 第4巻の編集業務を他の編集委員4名とともにを行った。
薬学部入学前教育委員会	委員	入学前教育の英語の採点・添削を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
ホスピタリティ概論ワーキンググループ	委員	2020年度1年次全学必修共通科目である「ホスピタリティ概論」(遠隔授業)の立案および授業運営を行った。

教養セミナーAワーキンググループ	委員	2020年度1年次全学必修共通科目である「教養セミナーA」の薬学部委員として、主に遠隔授業の運営、取りまとめを行った。
------------------	----	---

(3) 課外活動の指導等

薬学サッカー部の顧問として、学生の指導を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・学外講座(ひらど市民大学)で講演を行い、本学の認知度上昇に貢献した。
- ・オープンキャンパスに参加し、募集活動の一翼を担った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
ひらど市民大学	2020年10月17日	長崎県平戸市田平町たびら活性化施設	長崎県平戸市教育委員会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2007年4月に本学に赴任以来、14年にわたって長崎国際大学にお世話になった。前半は、薬学部機能形態学研究室にて、教育、研究に携わり、後半のうち3年ほどは、薬学教育支援センターにて主に薬学部学生教育に携わった。直近4年は、全学の施設である教育基盤センターにて、全学の教育に従事した。複数の異なった部門を経験できたことは、大変有意義であったと思っている。自分がどの程度、長崎国際大学に貢献できたか極めて心許無い。何らかの委員会活動をし、学生の指導を行い、多少の研究もした。その中で、一番楽しかったのは、学生との交流であったと今は感じている。何気ない学生との語らい、顧問をしている部活の新生歓迎会、卒業研究生との実験や飲み会等、学生との付き合いは大変楽しいものであった。このような関係が今後なくなってしまうのは、寂しい思いがする。今年はなかなか叶わなかったが、卒業生が訪ねてくることもあり、その時に卒業生はこの大学を卒業したことを誇りに思っているのだと感じた。「講義をするのが実は楽しかったのだ」、と感じたのも、このコロナ禍の中で対面授業がなかなかできずに縮こまっていた時期にあぶりだされてきた知見である。

大学で教育をすることの楽しさに飢えてしまった1年間であったといえる。この大学で得た14年の経験は、未永く自分の心の中に残るであろうと信じて疑わない。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 室 高広

1. 教育理念

薬学部での教育は、6年制カリキュラム導入を機に「臨床」上必要な知識と技能態度を習得させるためのカリキュラムのウエイトが増した。私は、病院薬剤師として長年臨床現場で勤務してきた経験を活かし、本学の教育理念である①専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成②地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成③異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を行い、これらを基盤とした「臨床現場で必要とされる薬剤師」になるための教育を実践する。実習や講義のみならず、研究においても、臨床現場で研究を行うために必要な研究マインドの育成と、研究手法の指導を行い、「臨床現場で研究できる薬剤師」を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
病院	19 / 19 (通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	21 / 21 (通年)	10	4	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅰ	1 / 23 (通年)	2	100	①②
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①②
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	3	①②⑧⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①②⑧⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①②⑧⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	①②⑧⑨
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	99	①④⑥⑦⑪⑫
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	5	①②
薬事関係法規	8 / 15 (前期)	1.5	101	①②③⑨
治験コーディネート論	7 / 15 (前期)	1.5	49	①②③⑨⑩
病院薬学	5 / 15 (後期)	1.5	99	①②③⑨
臨床薬物代謝学	3 / 15 (後期)	1.5	93	①②③
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	105	①⑪
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	105	①②③⑤⑥⑨⑩⑪
総合実習	6 / 6 (後期)	1	105	①②③⑪
医薬品情報論	7 / 15 (後期)	1.5	95	①②④⑨⑪
薬事関係法規演習	8 / 15 (前期)	1	96	①⑧⑨
調剤Ⅰ	4 / 11 (前期)	3	105	①②⑪
調剤Ⅱ	4 / 9 (前期)	3	105	①②⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫

卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫
----------	--------------	---	---	-------

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

本年度前期は授業アンケートは行われなかった。

Zoomによる遠隔授業に関しては、すべてオンタイムで実施し、対面授業との差異を減らすよう努力した。遠隔授業に関しても問題なく実施できたと考える。

後期は授業アンケートをWEB上で実施され、評価は概ね良好だった。アンケートでの意見を参考に次年度以降の講義の改善を図る。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
4年生CBT対策補講 薬学と社会	2	50	2020年12月15日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

安全で安心なセルフメディケーションの実践に関する研究

感染制御と抗菌薬適正使用に関する研究

薬剤師実務分野に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	7	9	1	1	1729万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

ナルデメジン導入後の下痢発現に関する予測因子 ナルデメジン導入前のオピオイド鎮痛薬の投与期間に着目した解析/2020年4月/Palliative Care Research/Page101-109/共著/論文

ダプトマイシン投与患者におけるクレアチンキナーゼ測定の実施に関する実態調査と病棟薬剤師による測定推奨の取り組み/2020年9月/日本病院薬剤師会雑誌 /Page1020-1023/共著/論文

シスプラチン連日投与レジメンにおけるマグネシウム投与の有無による腎機能変動の実態調査/2020年10月/日本病院薬剤師会雑誌/Page1168-1174/共著/論文

九州・山口地区の医療機関におけるClostridioides(Clostridium) difficile感染症の診療に関する実態調査/2020年11月/九州薬学会雑誌/Page49-52/共著/論文

抗菌薬適正使用支援に対する病棟薬剤師の意識調査/2020年11月/九州薬学会雑誌/Page53-57/共著/論文

薬剤師による入院前持参薬確認外来の開設/2020年9月/日本医療マネジメント学会雑誌 /Page106-109/共著/総説

Development of a dna vaccine for melanoma metastasis by inhalation based on an analysis of transgene expression characteristics of naked pdna and a ternary complex in mouse lung tissues /2020年6月/Pharmaceutics/Page1-12/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

入退院センターにおけるMSC術前検査・持参薬業務の取り組みと評価/2020年10月/日本医療マネジメント学会

「薬剤管理指導業務モデルケース」の作成と活用に関する報告/2020年10月/日本医療マネジメント学会

入退院センター(MSC)における入院前持参薬確認および術前休薬確認業務の取り組み/2020年10月/日本医療マネジメント学会

ダプトマイシン投与患者におけるクレアチンキナーゼ測定の実施に関する実態調査と病棟薬剤師による測定推奨の取り組み/2020年9月/日本化学療法学会

RNAワクチン開発を目的としたmRNA内包三元複合体の開発/2020年5月/日本薬剤学会

オキサリプラチンによる末梢神経障害に及ぼすラベプラゾールの影響の検討/2020年5月/日本臨床腫瘍薬学会

シスプラチン分割投与レジメンにおける制吐薬変更前後の制吐効果の比較検討/2020年5月/日本臨床腫瘍薬学会

シスプラチン分割投与レジメンにおけるマグネシウム補充の有無による腎機能障害発現の比較/2020年5月/日本臨床腫瘍薬学会

抗真菌薬の投与実態調査に基づくAFS(Antifungal Stewardship)への取り組み/2020年5月/日本化学療法学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業 基盤研究(B)	日本学術振興会	2018年4月-2021年3月	1729万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学学生委員会	委員	学生生活支援に関する企画立案及び実務として学籍移動、各種奨励制度、離学防止対策検討等、審議検討した。
薬学部CAI活用委員会	委員	CAI活用に関する実務として問題の評価修正、学生質問対応等行った。
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部学生委員会	副委員長	学生生活支援に関する企画立案として、特待生制度等に係る審査、クリーンキャンパス運動、各種奨励賞該当者の選定等行った。
薬学部在宅医療福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	特になし
薬学部事前学習運営委員会	委員	事前学習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	実務実習支援として学生と実習施設のマッチング作業、コロナ対策の検討、実習時の交通手段の審議等行った。
薬学部図書選定委員会	委員	特になし
薬学部生涯学習教育委員会	委員	特になし
大学内薬局開設検討委員会	委員	大学内薬局開設の準備検討を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
離学防止対策面談結果に対する今後の取り組み検討会	メンバー	離学防止対策面談結果に対する今後の取り組みについて検討した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加 (第1回-4回すべて)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎文化学園中学校お薬教室	2020年10月17日	長崎文化学園中学校	長崎文化学園中学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本病院薬剤師会編集委員会	委員	令和2年6月から現在	日本病院薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

学術雑誌の査読(Yakugaku-Zasshi: 3件、Bulletins of the Pharmaceutical Society of Japan:1件)

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

赴任初年度であることに加え、コロナ禍により大学の教育方法等が大きく変わり、ルールも流動的な状況であったこともあり、授業の準備にかなり労力を要した1年だった。

しかし、Zoomによる遠隔講義において、1週間前には資料を配布し、講義はすべてリアルタイムで行うなど学生の修学環境を悪化させない様努力した。さらに、講義内容はすべて動画配信しいつでも復習できる環境の確保にも努めた。

研究においては、新たな研究テーマである安全で安心なセルフメディケーションの実践に関して、長崎県薬剤師会や九州文化学園グループの各教育施設の協力を取り付け、基盤を作ることができた。従来より行っていた医療施設との共同研究についても論文化し成果を残すことができた。次年度は少なくとも講義資料を0から作成する必要はなくなるため、本年度よりもさらに研究活動に注力できると考える。これまで行ってきたレセプトデータベースの研究を継続すると共に、感染症分野の研究を拡大したいと考えている。

また、現在模擬薬局に薬局レセプトシステムを情報発生源とした薬局部門システムが構築されているが、活用が不十分であるため、他の実務系教員と協働し、次年度以降の学生教育に対して有効活用することを検討する。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 拓

1. 教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識(疾病学、病態生理学、病理学)、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識(生化学、生理学、解剖学など)を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。

・卒後の実臨床を念頭において、薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本知識を修得することができる。

以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	2	100	②③
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	②③
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	3	②③
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	114	②③
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	1	23	②③
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	②③
総合演習Ⅱ	3 / 23 (通年)	1.5	5	②③
薬物治療学Ⅰ	15 / 15 (後期)	2	89	①②③⑨⑩⑪
薬物治療学Ⅲ	9 / 15 (後期)	1.5	91	①②③⑨⑪
薬物治療学Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	100	①②③⑨⑩⑪
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	101	①②③④⑥⑩⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
最先端医薬品学特論	4 / 15 (前期)	2/1~3年	4
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

講義は薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを担当し、薬物治療学Ⅲは小川由起子教授とのオムニバスとなっている。演習は薬物治療学のみならず薬理学も担当し、昨今の薬学教育新コアカリキュラムに準じた薬理学と薬物治療学の融合領域も視野に入れて講義を実施している。薬理学実習では薬剤師を題材にした漫画「アンサンングシンデレラ 病院薬剤師 葵みどり(荒井ママレ著)」を題材に、実際に一部のストーリーを読ませて、その中に登場する疾患(高血圧症、アナフィラキシー)や救急医療と薬剤(アドレナリン、βブロッカーおよびグルカゴン)に関わる内容について学生によるアクティブラーニングを実施した。

前年度までの経験ならびに授業アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹介した。しかし、今年度はオンライン講義後の動画配信の義務による著作権の都合から、理解度を深めるための講義関連項目に関する動画による解説を取り入れることができなかった。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行い、事後(自宅)学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後(自宅)学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目・分野の事前学習(予習)を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断・治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。今年度から成績評価の10%に相当する課題として10回の小テストを実施した。また、3年生講義(薬物治療学1)では学習方法に関連する書籍の紹介(「薬剤師国家試験のための薬単 試験にでる医薬品暗記帳:薬単」や「くるみぱんの薬学×付箋ノートBOOK」など)をオンライン講義にて今回初めて行った。

一方で、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある(講義時間が足りない)。また一部の講義では対面講義とオンライン講義のハイブリッド講義を実施した。ハイブリッド講義では、使用機器の不手際や使用機器およびシステム現状の限界の都合で、特に音声に問題があったことを承知しており、さらにこのハイブリッド講義スタイルのセットアップに非常に時間を費やし、講義時間に大きく影響した。ハイブリッド講義のスタイルは、使用機器や設備の対策や向上が急務で次年度も継続して実施する場合には十分な検討が必要であり、次年度は是非、対面講義あるいはオンラインのどちらか1つのスタイルにて限定して実施すれば少なくとも解消されると考える。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ストレス関連精神疾患に関する神経精神薬理学的研究
- ・発達障害(特に注意欠如多動性障害および自閉症)に関する神経精神薬理学的研究
- ・大麻(マリファナ)/脳内カンナビノイドの役割とその創薬への応用に関する研究
- ・依存性薬物に関する神経行動薬理学および神経化学的研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	5	1	1	403万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

「標的分子」第1章 薬理学総論、『薬がみえるvol.4』、医療情報科学研究所編/編集/2020/メ
ディックメディア/15-37

「薬物の共通語幹(ステム)」、『薬がみえるvol.4』、医療情報科学研究所編/編集/2020/メディッ
クメディア/後ろ見返し両ページ

「第2章 大麻・フィトカンナビノイドの有害性と医薬品としての応用:基礎と臨床」、大麻問題の現状
(厚生労働省科学研究班 編、厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課監修) / 共著/
2020/真興交易(株)医書出版部/18-32

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

- ・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

メタンフェタミン退薬後に発現するPrepulse inhibition 障害に対するカンナビノイドCB1 受容体拮抗
薬の効果/2020/8/第50回日本神経精神薬理学会年会第42回日本生物学的精神医学会年会第
4回日本精神薬学会総会・学術集会合同年会 仙台:オンライン

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現するプレパルス抑制障害に対するカンナビノイドCB1受容体拮抗薬の効果／2020/11／第73回 日本薬理学会西南部会 熊本:オンライン

マウスの恐怖記憶の想起におけるエンドカンナビノイドによる双方向性の制御／2021/3／第94回日本薬理学会年会 札幌:オンライン

雄性幼若SHRSP/Ezoの注意欠如・多動症(AD/HD)様行動に対するアドレナリン α 2A受容体作動薬グアンファシンの改善効果／2021/3／第94回日本薬理学会年会 札幌:オンライン

ジェネラリストとスペシャリスト～ネズミの行動観察と薬理学研究から～／2020/9／第4回育薬研究教育センター若手シンポジウム 長崎大学薬学部

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金 基盤研究(C), 幼若期ストレスによる精神機能発達障害と養育行動の機序解明からの薬物治療戦略	日本学術振興会	2019年度～2022年度	403万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
学生委員会(薬学科)	委員長	薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。
国家試験・CBT対策委員会(薬学科)	副委員長	本学における薬剤師国家試験の合格率向上のために、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。
動物室管理担当者(薬学科)	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
研究等倫理委員会(薬学科)	委員	薬学部における研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会(薬学科)	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
共同機器管理委員会(薬学科)	委員	薬学部における共同実験機器の運用および機器購入に関わる円滑な遂行に貢献した。
学生実習委員会(薬学科)	委員	薬学部における学内学生実習の実施計画および運用に関わる円滑な遂行に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎IR研究会	委員	IR(カジノを含む統合型リゾート施設)が地域に与える影響について調査、検討する。
長崎薬学・看護学連合コンソーシアム運営委員会	運営委員	活動期間:2011.4～現在

(3) 課外活動の指導等

実務実習(病院・薬局)

早期体験学習引率(病院)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加、特に保護者懇談会(2020年7月26日、8月10日、23日、2021年3月20日)

令和2年度薬学部説明会(本学薬学部、2020年8月22日)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
2	10

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度長崎県教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育の実践に向けて」	令和2年8月22日(土)	長崎国際大学(オンライン)	長崎県

第4回育薬研究教育センター若手シンポジウム「ジェネラリストとスペシャリスト～ネズミの行動観察と薬理学研究から～」	令和2年9月29日 (火)	長崎大学薬学部	長崎大学薬学部 育薬研究教育センター
--	------------------	---------	-----------------------

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
北海道大学大学院医学研究科	客員研究員	2019/04/01～現在	北海道大学大学院 医学研究科
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集い世話人会	世話人・顧問	2012～現在	神経行動薬理若手 研究者の集い
日本アルコール・アディクション医学会評議員会	評議員	2012～現在	日本アルコール・ア ディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員会	評議員	2012～現在	日本神経精神薬理 学会
日本薬理学会代議員会	代議員	2016～2020	日本薬理学会
日本薬学会学術誌編集委員会	Editor (YAKUGAKU ZASSH:薬学雑誌、 Biological and	2019～現在	日本薬学会
薬剤師国家試験問題検討委員会 病態・薬物治療部会	委員	2012年度～現在	日本私立薬科大学 協会
薬剤師国家試験問題検討委員会 薬理部会	委員	2017年度～現在	日本私立薬科大学 協会
薬理学関連教科担当教員会議	委員	2017年度～現在	薬学教育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和2年度長崎県教員免許状更新講習の講師を行った。

令和2年8月22日(土)「薬物乱用防止教育の実践に向けて」

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

受賞

令和2年5月

長崎国際大学令和元(2019)年度ベストティーチャー賞・ベストプラクティス部門 受賞(共同)
(書籍「大麻問題の現状」の執筆・出版)

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、科研費採択継続中の研究課題を遂行し、3つの学会においてオンラインでの発表となったが、一般発表を実施することができた。今後、これまで継続している研究課題および科研費採択継続中の研究課題を勢力的に遂行すること、研究成果の論文執筆に注力したいと考えている。しかし、学内運營業務および講義・演習の準備に費やす時間が大半を占め、さらに講義等においてはオンライン講義のための準備やフォローアップに非常に時間を要したため、研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。厚生科研課題である大麻に関する調査研究では年次報告書の作成を終えて、これまでの研究成果を厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課監修の「大麻問題の現状(厚生労働省科学研究班 編)」として分担執筆し、出版した。学会活動として、評議員、代議員に就任している学術学会での学術発表、学会優秀賞の審査、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。

大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。また、全学学生委員会委員、薬学部学生委員会委員長として、本学および薬学部学生の学生生活に関わる諸活動の円滑な遂行に貢献した。特に、本年度初のリモート学園祭「NIUオンラインフェス2020」の企画運営に携わり、運営委員の学生と共に成功裏に開催できた。さらに、薬剤師国家試験対策委員会副委員長として本学の薬剤師国家試験合格率の向上のために、学生の学習環境の整備、薬剤師予備校との渉外業務を担当することで円滑な国家試験対策に貢献した。

教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。また、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。昨年から(公社)日本薬理学会が認定する「薬理学エドゥケーター」の資格を取得し、資格継続のためのポイント取得も完了した。この「薬理学エドゥケーター」の資格は、研究面および教育面に活かしていきたいと考えている。

社会貢献では、長崎大学薬学部・育薬研究教育センターから講演依頼を受け、第4回育薬研究教育センター若手シンポジウムにおいて「ジェネラリストとスペシャリスト～ネズミの行動観察と薬理学研

究から～」というタイトルにて薬学生に向けて薬学研究への取り組み方や卒後のキャリアアップについて講演した。また、長崎県教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育の実践に向けて」の講師を担当した。今後も依頼があった場合は継続したいと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 山口 泰史

1. 教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場ではほかの職種の方から尊敬 (respect) は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	①
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①
総合演習Ⅲ	1 / 23 (通年)	1.5	5	①
有機薬化学Ⅰ	15 / 15 (後期)	1.5	101	②⑨
薬化学総論	15 / 15 (前期)	1.5	105	②
有機薬化学演習	15 / 15 (後期)	1	97	②⑨
創薬化学	6.5 / 15 (前期)	1.5	120	②
有機薬化学Ⅱ	13 / 15 (前期)	1.5	122	②
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	123	①②④
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

【総評】

- ・ 本年度前期は、遠隔授業導入等のため、学生アンケートが中止された。
- ・ そのため、後期1科目(有機薬化学 I)のみ、アンケートを実施した。
- ・ 授業に対する満足度の評価結果は、5点満点中、4.3点であった。
- ・ 上記結果は、平均点以上であり、学生からは、それなりの評価を得られた、と理解している。
- ・ その他の項目も、4.3-4.5位であり、おおむね良好であった。

【具体的な事例】

- ・ 授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。
- ・ 学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら(低学年の学生に有効と判明している)板書のみで授業を行った。
- ・ 90分授業の途中に、1-2分の休憩を挟んだ。(授業後半に対する集中力が増した)
- ・ 厳格に出席をとることで、欠席者を若干減らした。
- ・ MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。
- ・ 有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。
- ・ 科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。

【問題点】

- ・ アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、成績とアンケートの評点に乖離があるように思う。
- ・ 薬学部で課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。
- ・ 1年次を終わった段階で、6割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。
- ・ しかし、一方で、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。
- ・ ほとんど毎年、満足度4.3-4.5程度で変化がないのは、学生の二極化のため、と考えられる。満足度を上げるだけなら、面白おかしく授業を行えばよいが、それでは、薬剤師を育てることができない。
- ・ 1年次の学習態度・習慣が、有機化学のみならず、全ての科目の理解度を決定する、と言われていいる。この問題に対して、学部で取り組んでいるが、万能の解決策は見つからない。一人でも多くの学生を薬剤師へと、育てていくのみである。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学大学院 医歯薬研究科	創薬プロセス特論	1/7(後期)	1	30

九州大学 薬学府	創薬化学	1/7(後期)	1	76
-------------	------	---------	---	----

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅲ(6年留年生の授業)	1	23	5月11日
総合演習ⅢB	2	121	9月29日 10月20日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ アデノシン三リン酸(ATP)をキーワードとする医薬品化学および生物有機化学
- ・ 抗感染症薬を目指す創薬研究
- ・ 抗原虫活性をもつ四環性イリドイド・オルワシンの化学とその標的タンパク質へのアプローチ

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	3	1	468万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費基盤C	日本学術振興会	2017～2020年度	468万円
化血研究助成	一般財団法人 化学 及結成療法研究所	2020年度	0万円
研究助成金	上原記念生命科学財 団	2020年度	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する申請を審議した。
薬学部共同機器管理委員会	委員長	共同機器費の管理。 次年度以降の新規購入機器の選定。 そのほか、共同機器および共同機器室の管理。
薬学部教務委員会	委員	学生成績の管理。
薬学研究科 大講座医療基盤 薬学	講座責任者	出講科目の日程および担当者の管理。
NMR管理	管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 液体ヘリウム充填管理 その他

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第105回薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部 会委員会	委員	本学の物理・化学・生物分野のアンケート結果を編集集計し、回答した。
第15回有機化学系教科担当 教員会議	委員	事前のアンケートに回答。2020年11月7日、遠隔会議に、本学代表として参加した。

(3) 課外活動の指導等

実務実習:

実務実習担当教員として、学生3名を指導した。具体的には、事前訪問(2月14日: 島原病院、その他薬局)、中期訪問、毎週の報告書へのコメント記載、最終評価である。今年度は、コロナウイルスのため、2月の事前訪問を除き、直接訪問ができず、電話での事情聴取となった。

共用試験OSCE:

共用試験OSCEで評価を担当した。薬剤監査、令和2年12月20日。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

募集活動:

7月、8月に実施された3回のオープンキャンパスにおいて、高校生と会話をを行った。

就職活動:

研究室所属の学生に対し、医薬品開発業務等について、説明を行った。(主として開発業務を行っ

ている病院への就職が内定)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
CBT問題管理委員会	一般委員	2020年度	特定非営利活動法人 薬学共用試験センター
日本薬学会九州支部支部会	副支部長	2021年2月から	日本薬学会九州支部

(3)社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。今年度は、新型コロナウイルス蔓延のため、遠隔授業への対応が大きな課題であった。この難しい状況下、教育の量と質どちらも、一定以上の成果を出せた、と思う。量については単位数に単位取得者数をかけて求めた数字の和が示す。また質については、学生アンケート等の数字である。量と質のどちらの視点からも一定以上の貢献ができた。1、2年生の有機化学関連科目5科目、および6年次の創薬化学等を担当した。全学生の学力をある一定レベルまで引き上げることを目標に、小テスト実施を含め努力した。また、今年度、正規授業科目である総合演習とその補習で、4年生、5年生および6年生の化学「演習」を担当した。本学大学院の講義を15回中1回担当した。学外の教育活動として、九大薬学部の学部講義「創薬化学」を2年生に対して1回、また、長崎大学大学院 医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。(どちらの大学も、継続の依頼を受けて、講義を行った。)

薬剤師国家試験問題検討委員会 基礎薬学部会委員会の物理・化学・生物分野のアンケート結果をまとめた。コロナウイルスのため、会議そのものは行われなかったが、最終文章作成に本学代表として参加した。また、薬学教育協議会主催・第15回有機化学系教科担当教員会議のアンケート回答をまとめた。また、その遠隔会議に、本学代表として、参加した。その他、6年制薬学における実務実習担当教員(3名)として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、実習先訪問および電話での事情聴取を行った。更に、5年生および6年生に対して、卒業研究の指導を行った。

利益相反マネジメント委員会委員として、利益相反に関する申請を審議した。薬学部では、引き続き、薬学部共同機器管理委員会の委員長／薬学部教務委員会の委員として、学部運営にも貢献した。また、大型機NMRの管理業務を行った。大学院教育では、大講座医療基盤薬学の責任者として、貢献した。オープンキャンパスを通して、広報募集活動にも参加した。

学会および社会活動では、昨年度に引き続き「薬学共用試験センター 2020年度CBT問題管理

委員会」の委員を拝命した。問題の精査、編集等の業務で貢献した。(このため、4年生への補習授業を減らした)

著作活動では、化学同人から出版予定の「臨床医薬品化学(仮)」(がん治療薬担当)の編集作業を引き続き行っている。

研究面では、感染症分野に力を注いでいる。「breakthrough」を育て上げる努力をしている。2017度から4年間、科学研究費基盤研究C (17K08382)助成を受けている。現在、研究進展が緩やかで、努力を要する。

九州大学や長崎大学からの非常勤講師の依頼、名のある出版社からの教科書編集者・著者や外部機関(一部上場企業の研究部門)のコンサルタントに推挙されることは、研究業績と共に学会内外での知名度がなくてはありえない。学外にそれなりの認知度があることは名誉なことである。本学薬学部を世間に認められるものにするため、今後、医薬品化学および有機化学の分野の研究結果を発表していく。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 淀 光昭

1. 教育理念

物理系・化学系・生物系の基礎的専門知識を土台にして、衛生系・医療系・臨床系の薬学専門知識の確実な修得を図り、薬剤師国家試験に合格できる力を養成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	2	100	④
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	④
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	3	④
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	④
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	1	23	④
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	④
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	④
構造解析学	9 / 15 (前期)	1.5	103	③
放射線化学	6 / 15 (後期)	1.5	106	⑨
薬品製造学Ⅰ	15 / 15 (前期)	2	100	⑨
薬品製造学Ⅱ	12 / 15 (後期)	2	91	⑨
創薬化学	7 / 15 (前期)	1.5	120	⑨
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	123	②
分析化学・放射線化学実習	4 / 9 (前期)	1	122	②⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	⑥
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	4	⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬品製造学Ⅰ(前期):コロナ禍の影響で中間試験以外の授業が遠隔実施となったため、各回の授業を前半と後半に分け、それぞれの最後に授業内容のポイントを確認する5分程度の小テスト(manaba)を実施するよう工夫した。前期は授業アンケートが実施されなかったため学生による評価は分からないが、理解度は向上しているものと判断する。

薬品製造学Ⅱ(後期):授業アンケートの評価結果(Q1~Q13の平均評価)は、R01年度4.13からR02年度4.23へと向上した。前期の薬品製造学Ⅰと同様、遠隔授業となったことを受けて、前半・後半の各授業の最後にmanaba小テストを実施し、また、授業動画をYouTubeで限定公開したこともあって、全体的に評価ポイントは前年度より向上したと考える。次年度は評価ポイントを維持、更に向上できるよう、授業の内容や方法を工夫したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 病気の早期診断や創薬研究に役立つ放射性分子プローブの開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	薬学科の教務委員として、編入学者の修得単位読替え、対面授業希望調査などを行った。
就職委員会	委員長	就職委員会を開催し、キャリアセンターと連携して学生の就職・進学に係る企画立案などに関する事項を審議した。
放射線障害予防委員会	委員長	委員会会議を開催(6/11, 12/21)し、放射線管理状況報告書の提出と、放射線業務従事者の被ばく状況と健康診断結果の確認を行った。
薬学教務委員会(薬学科)	委員長	薬学科時間割・履修の手引・シラバス冊子体の編成、編入学志願者の受験資格判定(単位読替え)、オープンキャンパス保護者懇談会での教育体制の説明、教務部長会への参加などを行った。
地域連携センター	アドバイザー	地域連携センター会議に出席し、アドバイザーとして同センターの運営と活動に助言を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席

2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関して、3年生科目「薬品製造学Ⅱ（後期）」は遠隔授業となったことを受けて、前半・後半の各授業の最後にmanaba小テストを実施し、また、授業動画をYouTubeで限定公開したこともあつてか、授業アンケートの評価ポイントは全体的に前年度より向上した。

研究活動に関して、教務委員長業務、講義・演習の準備、各種作問に時間を取られ、研究活動に殆ど時間が割けず、研究面での成果が出せなかった。

委員会活動に関しては、薬学教務委員長として、薬学科時間割・履修の手引・シラバス冊子体の編成、教員の担当科目・コマ数の一覧表作成、編入学志願者の受験資格判定(単位読替え)などを行い、薬学部の教務活動に貢献した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 教授 氏名 和田 守正

1. 教育理念

先ず第一に「自ら学ぼうとする意欲を向上させること」を目標とする。

次に、「予測不可能な困難に直面した際に、問題点を発見し、解決できる能力を身に着けること」を目標とする。

そのような姿勢、能力の醸成は、医療分野で活躍できる質の高い薬剤師を養成するために必須であるし、国家試験を突破する学力を身につけることにもつながる。

この2本を柱としてさらに、あるいは並行して、ディプロマ・ポリシーに掲げている5つの資質、すなわち、1) 専門的な知識、科学的能力としての専門力、2) 有用な科学的データを収集し、論理的に考察できる情報収集、分析力、3) および4) 医療チームや患者との関係性において発揮されるコミュニケーション力、および協働・課題解決力、5) 健常人から患者に至る様々な状況や、患者の背景を形作る要素を把握できる多様性理解力、を育成することを目指す。

自ら学ぼうとする意欲や、予測不可能な困難を乗り越える力を育むためには、画一的な方向性や方法論を排することが肝要と思われる。教員から学生への一方向的な教育ではなく、両者の相互作用から、学生一人一人がきっかけをつかむ事が重要である。すなわち、学生ごとに異なる学びを達成できることが自然であり、理想である。その意味で、到達目標を過度に掲げる昨今の方向性は、決められたことを無難にこなすステレオタイプ型の人間を量産し、予測不可能な状況に対処できる応用力を醸成できないと危惧する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	103	①④⑥⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	①⑨
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	5	①④⑥⑨
ゲノム創薬学	8 / 15 (前期)	1.5	120	②④⑨
生命倫理	3 / 15 (後期)	2	28	⑤⑥⑩

基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	51	②④⑨
医療生命倫理	3 / 15 (後期)	1.5	104	⑤⑥⑩
分子細胞生化学演習	3 / 15 (後期)	1	97	②④⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	8 / 15 (後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
薬学入門	1 / 15 (前期)	1.5	109	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	9 / 9 (前期)	1	103	①④⑤⑩
分子生物学	5 / 15 (前期)	1.5	95	①⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	5 / 45 (通年)	12/1~4 年	1

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

教育に関して、アドバンス科目のゲノム創薬で理想的なフィードバックが実現できた。具体的には、昨年度に毎回の確認試験と、定期試験の範囲改善、という大きな変革をしたことに加え、授業アンケートで「内容が理解できたか」と「満足したか」の評価の低さが足を引っ張っていることが見て取れたので、本年度は、採点と解答例の開示によるフィードバックを毎週こまめに行ったところ、評価の圧倒的上昇につながった。アドバンス科目で全教員の平均値を上回る結果(満足度4.5)を出せたことは特筆すべきであると思いつつも、授業内容そのものを改善するだけでは不足であり、こまめな確認試験とフィードバックが相まって満足度に繋がるということを実感した。

自由記述もポジティブなものばかりであったが、特に下記のコメントはうれしいものであった。

- ・他のアドバンス科目と違って、国試の内容に捕らわれ過ぎず、ほどほどにアドバンスな内容に触れることができ、知的好奇心をくすぐられた。薬学部らしい講義である。
- ・内容は難しく、到底90分で完結するとは思わないが、プリントや説明が分かりやすいので、表面的には理解できていると思う(2名)。
- ・興味深い内容ばかりで、毎回の授業が楽しかった。

その一方で、授業アンケートを批判のツールとのみ考えている学年、あるいは学生がおり、あらゆるコメントの多い学年が有るのも事実である。具体的には、3年後期の分子細胞生化学演習であり、ランダムな2クラス制なので、授業の進め方等、全く同じはずにもかかわらず、授業評価がクラス間で異なった。従って、構成学生の質と性格の偏りによる結果であることは明白である。

例えば自由記述で、Aクラスでは「授業プリントはとても分かりやすかった」に対して、Bクラスでは「プリントが分かりづらい」、「スライドの切り替えが早くて写せない時があった」などである。また、「講義内容が、教科書に書いていないことが多く、問題に対応できないので別の参考書調べることが多々あつ

た。」とのコメントを見て愕然とした。教科書に記載済みのことのみしか講義してはいけないと受け取れるコメントと理解できるが、そうならば教科書で自学すれば良いことになる。まさか薬学の理想的な教育が、国家試験の過去問に関する演習型授業であるとは、ゆめゆめ考えてはいまいな、と感じてしまうコメントであった。このようなコメントは、教員のモチベーションを下げ、そのことが学生に伝わり、負の連鎖を引き起こすこともありうることを学生に伝えるべきと感じている。授業は教員と学生の連携で作ってゆくものであること、授業アンケートは結果として学生のためのツールであるべきこと、の当たり前な2点を教職員と学生の全員が再確認しないと、本末転倒のシステムになってしまうと危惧している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- テーマ1. 膜輸送タンパク質の構造、作動機構、生理機能と疾病
- テーマ2. 薬剤応答性と疾患感受性の予測による個の医療と予防
- テーマ3. がんの発生機構

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Tanaka H, Wada M, and Park J. HASPIN kinase inhibitor CHR-6494 suppresses intestinal polyp development, cachexia, and hypogonadism in Apcmin/+ mice. / 2020 / Eur J Cancer Prev 29 / 481-485 / 共著 / 論文

Aoki Y, Tsujimura A, Kaseda K, Okabe M, Tokuhiko K, Ohta T, Moira K O'Bryan KM, Okuda H,

Kitamura K, Ogawa Y, Fujiki T, Wada M, Horie S, Nishimune Y, Tanaka H. Haprin deficient spermatozoa are incapable of in vitro fertilization
 / (2020). / Mol Rep Dev. / 87:534-541 / 共著 / 論文

・学会発表等(題名 / 発表年月 / 学会名等)
 なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称 / 委託者・採択機関 / 期間 / 研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先 / 研究テーマ / 期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名 / 職名 / 特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター	委員	論叢の査読委員の選出、査読適正度の評価
国際交流委員会	委員	国際交流に関する討議、日本語弁論大会評価等
薬学部・研究等倫理委員会	委員長	審査の厳密性と迅速性の向上、文書による改変要望に加え、口頭による直接説明により事務処理を効率化した
薬学部図書選定委員会	委員	図書の選定および図書館利用の啓発
薬学研究センター運営委員会	委員	客員教授、特別研究生、訪問研究員の受け入れ審議及び決定
FD委員会	委員長	新任教員研究発表会の開催、薬学研究発表会の主催等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名 / 職名 / 活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
倫理審査委員会	委員	R2.4～R3.3	長崎川棚医療センター

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関して、アドバンス科目のゲノム創薬で理想的なフィードバックが実現できた。具体的には、昨年度に毎回の確認試験と、定期試験の範囲改善、という大きな変革をしたことに加え、授業アンケートで「内容が理解できたか」と「満足したか」の評価の低さが足を引っ張っていることが見て取れたので、本年度は、採点と解答例の開示によるフィードバックを毎週こまめに行ったところ、評価の圧倒的上昇につながった。アドバンス科目で全教員の平均値を上回る結果を出せたことは特筆すべきであると思うとともに、授業内容そのものを改善するだけでは不足であり、こまめな確認試験とフィードバックが相まって満足度に繋がるということを実感した。

その一方で、授業アンケートを批判のツールとのみ考えている学年が有り、あら捜し的なコメントの多い学年が有るのも事実である。この場合、教員のモチベーションを下げ、そのことが学生に伝わり、負の連鎖を引き起こすこともありうることを学生に伝えるべきと感じている。あくまでも、学生のためのツールであるべきだからである。

一方、研究に割ける時間がますます減る状況で、如何に能率的に成果を出してゆくか、いかに長期的視野に立った独自性の高い研究を志向するか、が大きな問題となっている点も従前と変わらない。

大学運営活動については、薬学部倫理委員会委員長等を務め、厳密且つ能率的な審査等を目指している。特に、従来は所掌事務からの文書による改変要望で問題なく解決できていたが、最近では趣旨が伝わらない事例が増加しているので、今年度は、従来の文書による方法に加え、口頭による直接説明により事務処理を効率化し、実績を上げた。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 一木 裕子

1. 教育理念

近年の医療の高度化・複雑化に伴い、薬剤師に求められる職能は多様化してきている。実際の医療現場で通用する実践力や専門性のみならず豊かな人間性や倫理観が必要とされ、次世代を担う人材の教育もまた、薬剤師の重要な責務である。薬学生が薬剤師の社会的使命を十分に理解しながら患者を中心とした視点で学習するために教員のサポートは重要であり、そのために私は、自身の臨床薬剤師としての様々な経験を広く伝えたいと考えている。

私は、調剤薬局および病院薬剤部に勤務してきた経験もあり、九州大学大学院 薬学研究科にて臨床薬学博士を取得した。特に病院で働いている時は、薬局長として麻薬管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理委員、院内感染対策委員、DI室長、薬事委員会副委員長、NST委員会アシスタントディレクター、糖尿病対策委員会委員などの役職を歴任した。社会に求められる薬剤師の現状、理想の薬剤師像を学生が考えるうえで現場の話に触れる機会は重要であるにも関わらず、学生は未だイメージするのが難しい状況にある。そこで私は、自身の経験をイメージしやすいような易しい言葉で積極的に伝えるよう心がけている。学生からは「糖尿病療養指導士とは具体的にどのような仕事か」「がん専門薬剤師になるにはどうしたら良いか」といった将来を意識した相談が増え、学習に対する積極性の向上のみならず、薬剤師という職業へ自信や誇りをもつ学生の増加へと繋がった。また、実務事前学習の指導においては、自身の経験談を伝えることで、様々な視点を持って自分で考え解決する能力を身につけるよう指導を行っている。患者にとって本当に必要なのはベストな解決策を提示することだけではなく、患者の抱く不安に寄り添い一緒に考えていくことであると学生に伝えている。これからを担う薬学生には、患者が本当に求めているものは何かを気づき考える力があり、それぞれの個性を発揮した人間性豊かな薬剤師になってほしいと思う。

また、薬学の更なる向上を目指すべく、指導・教育と共に、研究にも意欲的に取り組みたいと考えている。社会人博士課程として九州大学に在学中は、“病院薬剤師の職能”に注目した研究に取り組んだ。薬剤師の存在感を積極的に発信していくことは重要であると考え、まずは“医療費削減への取り組み”に着目し、薬剤師の積極的な介入によって後発医薬品の採用促進および医薬品の在庫金額削減の研究を行いとなり、病院経営へ大きく貢献できたことを報告した。次に、患者にとって従来待ち時間であった診察までの時間を利用し、病院薬剤師が糖尿病患者に服薬指導を行い医師の診察前に情報をフィードバックすることで、医師との信頼関係の構築できた。また、看護師や栄養士などのコメディカルスタッフとのチーム医療の大切さ、患者の意見をしっかり理解することによる新たな問題点の発見、およびアドヒアランス改善に繋がることを明らかにした。これらは薬剤師が主導して取り組んだ研究であるが、学生と共に研究を進め、1) 薬剤師の使命として“研究能力を身につける”こと 2) 医療に貢献しうる有益な情報を“発信する能力を身につける”ことを目指すものである。

これからも、薬剤師が医師と協力し合い薬学的管理していくことに着目した研究を薬学生や若手薬剤師と一緒に研究を進めていきたい。そのためには多くの経験とコミュニケーション能力が問われる

ことになるため、これからも薬学生や若手薬剤師の育成に熱意をもって先導的な役割を果たして行きたいと考えており、『「自分で考える力」、「他者と対話する力」を磨き心もケアできる人間性豊かな薬剤師を育てます。』という本学のスローガンに基づき、今まで自身が経験してきた臨床薬剤師としての様々な経験を若い世代に伝えることを自身の教育理念とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
病院	19 / 19 (通年)	10	4	⑦
薬局	21 / 21 (通年)	10	4	⑦
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	②⑫
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	3	①⑫
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	114	②⑫
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	1	23	②⑫
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	①②⑫
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	99	①⑩
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	①②⑪⑫
病院薬学	5 / 15 (後期)	1.5	99	②⑨⑩⑫
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	105	③⑫
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	105	⑫
総合実習	6 / 6 (後期)	1	105	⑨⑫
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	⑫
総合基礎学習Ⅰ	2 / 15 (通年)	0.5	121	①④⑥⑩⑪⑫
総合基礎学習Ⅱ	6 / 15 (通年)	0.5	100	①⑤
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	105	①⑪⑫
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	105	①⑪⑫
医薬品安全性学	8 / 15 (前期)	1.5	99	①②⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

アンケート結果はとても素晴らしい結果であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 病院薬剤師によるファーマシーマネジメントの実践に関する研究
- (2) 神経関連アミロイドーシスに関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
21世紀の疾患 神経関連アミロイドーシス/共著/令和2年4月/医学と看護社/77

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Need for Prescription Suggestions for Long-term Inpatients in the Psychiatric Ward/令和2年8月
/YAKUGAKU ZASSHI/140, 1023-1033(2020)/共著/論文

Amyloid fibril formation is suppressed in microgravity / 2021年 / Biochemistry and biophysics
reports/100875/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Do plants become a good tool for amyloid fibril formation study?/令和2年9月
/ISA(International Society Of Amyloidosis)in Tarragona Spain Web 国際学会
AMYLOID FORMATION IS SUPPRESSED IN MICROGRAVITY/令和2年9月/ISA (International
Society Of Amyloidosis)in Tarragona Spain Web 国際学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	なし
OSCE委員会	委員	なし
実務実習委員会	委員	なし
事前学習委員会	委員	なし
在宅医療福祉コンソーシアム運営委員会	委員	なし
長崎コンソーシアム運営委員会	委員	なし
教務委員会	委員	なし
図書選定委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席

2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席
------------	-------	--	---------------------------------	----

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
福岡県糖尿病療養指導士 北九州地区 役員	監事	平成12年4月～現在	福岡県糖尿病療養指導士 北九州地区CDEの会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

糖尿病療養指導士であり医療人として社会貢献を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
ISA(International Society Of Amyloidosis) in Tarragona Spain Web 国際学会	ISA(International Society Of Amyloidosis) in Tarragona Spain Web 国際学会発表	令和2年9月	Web	ISA

(3) その他特記すべき活動

特に無し

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

与えられた仕事は全て完璧に行った。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 宇都 拓洋

1. 教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。

薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。

地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。

異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑨
和漢薬概論	15 / 15 (前期)	1.5	97	①②⑨
生薬学Ⅱ	12 / 15 (後期)	1.5	104	①②⑨
生薬学Ⅰ	15 / 15 (前期)	1.5	126	①②⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
生薬学実習	8 / 8 (後期)	1	120	①②③④⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	1 / 45 (通年)	12/1~4 年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

コロナ禍における授業形態で、講義前半では試行錯誤を繰り返したが、最終的に対面講義と同程度の学習効果になったと考えている。次回の講義内容の詳細な予告、終了時のマナバでの小テストは、これまでにない取り組みであったが、学生にも好評で対面講義になっても続けていきたい。

生薬学Ⅰ、生薬学Ⅱでは、毎回講義開始時に前回の講義の復習を行った。生薬学Ⅰでは生薬の写真や実物をみること、各生薬に関する豆知識、裏話、生薬学Ⅱでは各成分の構造式を常に意識した

講義、和漢薬概論では生薬学ⅠとⅡの講義内容を振り返りながらアドバンス的な講義になるように意識した。また昨年と同様、すべての講義において、15回の講義の中で確認テストもしくは小テストを実施した。小テストは評価の対象とはせず、自主的な努力を促すようにし、高得点者の氏名を公開するようにした。

授業アンケートを行ったすべての科目およびすべての質問項目において、学内平均を上回るポイントであった。このことから、概ね授業満足度は高かったと考えている。

各種演習は、過去の国家試験を分析したデータを公開し、得点力アップに直結するような内容にし、模擬試験などでも生薬・天然物分野は全国平均より高い得点率である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
早稲田大学大学院人間科学研究科	食薬融合研究からの新しいヘルスケアサイエンス	4/10(前期)	1	5

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	120	2020/4/23

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

我々の本研究室では天然薬物の資源となる薬用植物、特に漢方薬の素材である「生薬」に関する研究を中心に展開している。これまで、生薬に含まれる有効成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、それを利用した様々な免疫測定システムや新規分析ツールを開発してきた。これに加えて、抗がん、オートファジー制御、抗炎症、メラニン合成制御、精子活性化などの活性を持つ天然化合物の単離・精製から作用メカニズム解明まで、幅広い研究を行っている。国際共同研究も積極的に行っており、アフリカ・東南アジアの植物を中心に医薬品シーズの探索研究も行っている。

① 天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析

尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が最近見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。

② がん細胞におけるアポトーシス誘導およびオートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

我々は、国内外で用いられている伝統医薬から、がん細胞増殖抑制能を持つものを探索し、活性成分の単離同定、さらにアポトーシス誘導機構を中心とした作用機序解析を行ってきた。これに加えて、現在、オートファジー制御能を持つ天然物に注目して研究を行っている。生薬エキスイブラリーのスクリーニングの結果、いくつかの生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序の解析を進めている。がん細胞において様々なアプローチで機能する天然物のメカニズム解明を目指す。

③ 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

薬用植物は古来、漢方薬や医薬品の原料として用いられてきているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。限られた薬用植物資源の有効活用が強く求められているが、これを解決するための1つの取り組みとして、これまで薬用として利用されなかった部位(非薬用部位)の有効利用が注目されている。我々はこれまでサイコ地上部から癌細胞増殖抑制成分の単離同定を行い、またトウキ地上部が根と同様に強い抗炎症作用があることを見出した。そこで本研究は、薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化推進するための科学的エビデンス提供を目指す。現在、地黄の地上部に種々の活性を見出しており、成分解析を行っている。

④ 生薬成分に対するモノクローナル抗体を機軸とした分析法の開発と応用

我々はこれまで生薬成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、これらのモノクローナル抗体をツールとしたユニークな分析法や応用活用法を開発し世界に発信してきた。本年度は甘草のグリチルリチンとリクイリチゲニンに対するモノクローナル抗体を用いたダブルイースタンブロットイングに成功した。甘草には500種以上の成分が含まれるが、その中から2成分のみを色分けして検出出来るのは本法のみで画期的な手法と言える。

⑤ 出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明

生薬エキスは多種多様な成分からなる多成分系薬物であり、生薬エキスとしての薬理作用と、個々の含有成分の作用機序や成分間の相乗効果との因果関係は解明されていない部分が多い。我々は、ケミカルジェネティクスの手法により約4000株の遺伝子破壊出芽酵母株を用いて甘草エキス高感受性株の網羅的解析を行ったところ、甘草エキスは既知の薬剤とは違う経路を標的としていること、さらに制御する遺伝子の機能は多岐にわたり、特異的な細胞内局在はないことを明らかにした。本研究では、他の生薬エキスでも感受性株の変動パターンを解析し比較することで、エキス中に混合物として存在する条件において、個々の生薬成分が標的分子群にどのように作用するのかを明確にする。さらに、エキス高感受性株の解析により、混合物条件下での生薬成分の真の標的分子および成分間の相乗効果の解明を行い、生薬・漢方製剤の新たな科学的エビデンス提供に貢献することを目指す。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	7	1	4	4	2256.5万 円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Costunolide and dehydrocostuslactone from *Saussurea lappa* root inhibit autophagy in hepatocellular carcinoma./2021/Journal of Natural Medicines/75(1): 240-245/共著/原著論文

(-)-Epigallocatechin-3-gallate inhibits RANKL-induced osteoclastogenesis via downregulation of NFATc1 and suppression of HO-1-HMGB1-RAGE pathway./2020/Biomedical Research/41(6): 269-277/共著/原著論文

Okubo S, Ohta T, Shoyama Y, Uto T. Arctigenin suppresses cell proliferation via autophagy inhibition in hepatocellular carcinoma cells./2020/Journal of Natural Medicines/74(3): 525-532 /共著/原著論文

Tung NH, Ngan DT, Ohta T, Uto T, Watanabe H, Shoyama Y. Phytochemical profile of the aerial parts of *Rehmannia glutinosa* Liboschitz var. *purpurea* Makino./2020/Pharmacognosy Magazine /16(67): 128-131/共著/原著論文

Hsu YC, Chang PJ, Tung CW, Shih YH, Ni WC, Li YC, Uto T, Shoyama Y, Ho C, Lin CL. De-glycyrrhizinated licorice extract attenuates high glucose-stimulated renal tubular epithelial-mesenchymal transition via suppressing the Notch2 signaling pathway./2020/Cells/9(1): 125. doi: 10.3390/cells9010125/共著/原著論文

The old pharmaceutical oleoresin labdanum of *Cistus Creticus* L. exerts pronounced in vitro anti-dengue virus activity. / 2020 / Journal of Ethnopharmacology / 257: 112316. doi: 10.1016/j.jep.2019.112316/共著/原著論文

Applications of monoclonal antibodies against natural compounds for functional analysis of crude drugs./2020/Current Pharmacology Reports/6: 192-201/共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

オートファジーを活性化する新奇機能性食品の栄養シグナル非依存的分子機構と作用成分の解明, 2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学会西日本支部合同大会/2020年11月/
2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学会西日本支部合同大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2019年度科研費(基盤C) 「出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明」	日本学術振興会	2019年4月～2023年3月	442万円
2020年度科研費(基盤B) 「天然医薬資源を基盤とした希少難病の革新的治療法の開発」	日本学術振興会	2020年4月～2024年3月	1768万円
研究受託金 「メラニン産生促進及びオートファジー制御機能を有する天然物に関する研究」	一丸ファルコス株式会社	2020年4月～2021年3月	30万円
研究寄付金 「薬学部薬学科薬品資源学研究室におけるジオウをはじめとした薬用植物研究」	シナノアグリ株式会社	2021年1月	16.5万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	副委員長	ハラスメント案件に対応し、委員長および委員と連携して委員会運営を行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	園長	薬学部薬用植物園の管理や見学者への案内を行った。
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーション調整等を行った。
薬学部CBT実施委員会	委員	CBT実施において、PC管理者を担当した。
薬学部入試・募集委員会	委員	入試募集活動として中高生に模擬講義などを行った。
国試・CBT対策委員会	委員	各種試験の編集および実施管理を行った。
図書選定委員会委員	委員	図書選定を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 佐賀清和高等学校(佐賀県佐賀市)／出張講義／2020年10月14日
- ② 夢ナビライブWeb WEEK(インターネット配信)／講義ライブ／2020年10月14～20日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	6

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生薬学会	代議員	2016年4月～現在	日本生薬学会
日本フードファクター学会(JSoFF)	評議員	2016年12月～現在	日本フードファクター学会(JSoFF)
日本生薬学会関西支部	委員	2018年4月～現在	日本生薬学会関西支部
日本薬学会九州山口支部	幹事	2020年4月～現在	日本薬学会九州山口支部
2020年度日本薬学会九州山口支部	学術奨励賞選考委員	2020年10月	2020年度日本薬学会九州山口支部
Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine	Editorial Board Member	2014年11月～現在に至る	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

表彰

2020年6月: ベストティーチャー賞 学生による授業アンケート部門

2020年6月: ベストティーチャー賞 ベストアウトリーチ部門(地域貢献活動等)

感謝状

2020年9月: 第31回国際生物学オリンピック2020長崎大会組織委員会から感謝状贈呈, 「植物生理学・生化学・植物形態学」の実験作題者としての協力に対して

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】コロナ禍における授業形態で、講義前半では試行錯誤を繰り返したが、最終的に対面講義と同程度の学習効果になったと考えている。しかしながら実習においては、遠隔では難しい部分があり、対面と同等とは言えない。次回の講義内容の詳細な予告、終了時のマナバでの小テストは、これまでにない取り組みであったが、学生にも好評で対面講義になっても続けていきたい。各種演習は、過去の国家試験を分析したデータを公開し、得点力アップに直結するような内容にし、模擬試験などでも生薬・天然物分野は全国平均より高い得点率である。

【研究】原著論文6報、総説1報、科研費基盤C(代表)継続1件、科研費基盤B(共同)新規1件、研究寄付金1件、特許出願1件。原著論文6報、総説1報であるが、このうち筆頭もしくは責任著者は3報のみで満足できる結果ではない。研究は、コロナ対応で計画通り進めることができなかった。

【社会貢献】長野県上田市とのジオウ栽培および活用プロジェクトが進行中である。

【大学運営】広報活動として、高校生への講演などを今年も実施した。夢ナビにおいて高校生に薬学

の学びの魅力を伝える講義・質問対応を行った。高校生との遠隔での講義や質問対応であったが、より高校生の良い反応を感じることができた。今後も高校生が薬学の学びに興味を持つように活動を続けたい。全学ハラスメント委員会の副委員長として会議や事案に対応した。その他複数の委員会に所属し多くの活動を行ったが、担当した業務は責任をもって遂行するように努めた。附属薬用植物園の園長として薬用植物園の整備運営を行った。

【全体】コロナ対応でイレギュラーなことが多い中、教育・研究共に最大限の努力をした。教育面は、実習を除いて対面講義と同等のレベルを維持できたと思う。しかしながら、研究面は、計画通り実施することは出来ず猛省すべき点である。来年度はこれらの遅れを取り戻せるように研究に力を入れたと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 太田 一寿

1. 教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。

- ・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
- ・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
- ・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
- ・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	①
在宅医療概論	1 / 15 (前期)	2	194	⑩
生命倫理	8 / 15 (後期)	2	28	②⑤⑥
医療生命倫理	8 / 15 (後期)	1.5	104	②⑤⑥
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	④⑤⑥
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	④⑤⑥⑫
臨床生理学演習	15 / 15 (前期)	1	56	①④⑤⑨⑪
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	102	⑦
疾病学Ⅱ	15 / 15 (前期)	2	92	④
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	④⑤⑥⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	1 / 15 (後期)	2/1～3年	4
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

遠隔講義でも従来通りの講義満足度・学習効果が得られるように心を砕いた。その甲斐あってか講義評価も低下せず、ほっとしている。今後とも工夫を継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① プロテインSを改変したFRETセンサーによる血栓性素因の病態解析

我が国において頻度の高い先天性血栓性素因であるプロテインS遺伝子異常の分子メカニズムを、以下(A-C)のような分子内構造変化解析を通じて明らかにすることを目的とする。

- A. 優れた発現系である出芽酵母を用いて、プロテインSを改変したFRETセンサーを構築する。
- B. センサーの基底状態と相互作用因子添加状態との比較により構造変化機序を考察する。
- C. センサー分子に血栓性素因関連変異を導入し、天然型との比較により病態解明を目指す。

② 出芽酵母を用いた有用細胞工学システム(疾病モデル等)の構築

数あるモデル生物の中でも、出芽酵母は遺伝子・ゲノム改変が容易でそのためのツールやリソースの充実から「生きた試験管」と称されている。当研究室でも「がん進化のモデル系」や「幹細胞の非対称性分裂のモデル系」など独自のアッセイ用「試験管」の構築に取り組んできた。今後も学内外の様々な研究室との共同研究を通じて、有用な酵母システムを作り出し、幅広く生命科学・生物学・薬学の発展に貢献していきたい。

③ 出芽酵母を用いた生薬成分のターゲット分子の探索

現在、本学薬品資源研究室と共同研究を進めている。

④ 液液相分離に関する基礎研究

近年、生体分子の一分子レベルでの挙動と細胞内などの分子クラウディング状況での挙動の間を橋渡しする概念として「液液相分離(Liquid-Liquid Phase Separation、以下 LLPS)」が提唱され、これに関する重要な報告が相次いでいる。当研究室でもLLPSに関する基礎研究を実施し、様々な生体现象、疾患メカニズム等への関わりを明らかにしていきたい。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	委員会の円滑な運営のために尽力した

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	委員	特になし
利休庵診療所	常勤医	週1時間程度の診療を行った

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席

2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市の基幹4病院の1つである佐世保共済病院で週に1回ではあるが外来を担当し、市民の健康増進に寄与している。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

IBO2020リモート大会の国際交流プロジェクトにファシリテーター・評価者として参加し、プロジェクトの成功に貢献した。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2020年度はコロナ禍での講義形式の変更に右往左往していた感がある。来年度は少し余裕ができると予想されるので、教育活動以外にも注力していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 神谷 誠太郎

1. 教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。

研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。

自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。

教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの種類
総合演習Ⅰ	3 / 45 (通年)	2	100	⑧
総合演習Ⅱ	2 / 23 (通年)	1.5	103	⑧
総合演習ⅢA	4 / 23 (前期)	1.5	3	⑧
総合演習ⅢA	4 / 23 (前期)	1.5	114	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	⑧
総合演習ⅢB	2 / 30 (後期)	2	96	⑧
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	⑧
薬物動態学	15 / 15 (前期)	2	99	①⑧⑨
製剤学	15 / 15 (後期)	2	93	③⑨
コンピュータ基礎演習ⅡB	1 / 15 (後期)	1	—	⑦⑧⑨
統計学	15 / 15 (前期)	2	34	④⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	⑤⑥⑦⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	⑤⑥⑦⑪
総合基礎学習Ⅱ	15 / 15 (通年)	0.5	100	④⑦⑪
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	101	④⑪⑫
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	8	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
物理化学実習	1 / 7 (前期)	1	103	⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

製剤学が3.8と例年4.2から大幅に減少した。学生からのコメントでは試料の文字が小さすぎて全く文字が読めなかったとあった。彼らに十分なコンテンツを提供できずに反省している。来年度はこの反省に基づき授業を行ないたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① ナノ粒子の粉末化の検討

これまでのドラッグデリバリー システム(DDS)の研究では、水溶性、疎水性薬物のナノ粒子の調製方法の確立および開発などが行なわれてきており、現在も行なわれている。しかし、ナノ粒子状態を安定に保存する方法は凍結乾燥法以外にはあまり検討されてこなかった。凍結乾燥法によって調製されたナノ粒子は、吸湿性が高いためにバイアル瓶などでの保存が出来るために、コスト的なデメリットが大きい。それらを克服するために新たな保存方法を探索する。

② シェラックを用いた腸溶性製剤の開発

大豆ペプチドは胃の中で胃酸と反応し、においの強烈なゲップを産生する。その問題を克服するために胃酸で分解されずに腸液で分解する腸溶性製剤を創ることには、大変意義がある。以前にヒアルロン酸の腸溶性製剤を調製したことがあるためにその手法を生かして、新たな腸溶性製剤を創造する。

③ シェラックの可塑剤の開発

シェラックはラックカイガラムシの分泌液から生成され、お菓子などのコーティング剤として用いられている。適切な可塑剤を添加することで、コーティング操作が効率よくできるため、性能の良い可塑剤を検討している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	今回はコロナのために派遣は中止となっている。
安全衛生委員会	委員	毎月の報告会に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

サイエンス広場で遊ぼうの依頼があったが直前でコロナのため中止

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今回は授業及び演習が多く、問題作りなど多くのタスクがあったと思う。

教科教員数のバランスが悪く、その辺りのしわ寄せがきている。早急の対策をお願いしたいものである。

実際にほぼ毎年論文を執筆してきたが3年間何も書いていない状態である。

授業評価に関しては反省点も多く来年以降には改善した結果を報告できるようにしたい。

係の仕事に関しては十分な貢献が出来たとは言えない一年であった。その辺りも改善していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 田中 宏光

1. 教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動

日本の教育制度の充実、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。

社会の発展は、特定の人々の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の必要な要素として教育環境があげられる。

最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	②③
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	②
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	②
基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	20	②⑨
ゲノム創薬学	6 / 15 (前期)	1.5	120	②⑨
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	97	①②⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①②③⑤⑪
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑪
微生物学・免疫学実習	2 / 9 (前期)	1	103	②④⑨
分子生物学	8 / 15 (前期)	1.5	95	①②⑨
地域の理解と連携	1 / 15 (後期)	2	236	②③⑩⑪

卒業研究(6年)	30 / 60 (通年)	4	6	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑩⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期はアンケート調査がなかったので、アンケートに基づいては入力できない。

講義全般に対して、新型コロナ禍の影響で、はじめてウェブでの授業を組み立てた。学生の顔を見ることができないことから、学生個々人の理解度に不安がある中、シラバスに沿って授業を進めた。

○教養セミナーA

私の担当の学生がビブリオバトルで学生投票で一番に選ばれた。

学生は授業にまじめに取り組めたと考えている。

○薬学 分子生物学 3年

学生の顔を確認できない中、シラバスの予定を講義時間いっぱい進めることができた。一方、学生に分子生物学の魅力を伝えるための、教科書外のお話はできなかった。学生はそれぞれの項目ごとに正解を記憶する学習を望み、問題を思考によって解決することに時間をさきたがらない。来年度は、対面の講義、またウェブにおいても分子生物学を通して、生物学に興味を持ってもらえるように工夫したい。

○薬学 ゲノム創薬 6年

アドバンスの授業ではあるが、ウェブでの講義でもあり、ゲノム創薬に関する復習の講義になった。来年は、ゲノム創薬に関するトピックを交えた講義に戻し、より難解になった生物分野の国家試験に対応できるよう、学生にゲノム創薬に関する各論を伝えたい。

○文系の基礎の生物学

例年、学生の生物に関する習熟度が異なる。来年はどのような学生さんと出会うのか楽しみにしている。生物学を面白く感じてもらえる授業にしたい。

○薬学英语

対面講義で、学生と楽しく進めたい。来年はウェブでもできるだけ双方向の講義になるように進めた

い。

○教養セミナーB

今年度の私の担当の学生は、非常にまじめに教養セミナーに取り組んだ。成績も優秀な学生が集まっている。新型コロナ禍がおちついたら、他学年との交流を持つ会を例年のように催したい。

○分子細胞生化学演習

例年に従って講義を進めることができた。担当の箇所の細胞生物分野において、学生の習熟度に大きな差が見られた。本演習では、習熟度の下位の学生に焦点をあてた。一部の学生には、重要項目の確認のみのお話になったと思われる。来年は成績上位の学生さんにも対応した課題についての講義にしたい。

○地域の理解と連携

出席者のレポートの内容から、講義の内容が学生に伝わったものと思われた。私からの話題提供が新鮮であるように、自身の研究をすすめ、世界の情勢を分析し、時代にあった講義にしたい。

○大学院

私からの話題提供は伝わったものと考えている。後の研究活動でも、必要に応じて技術を提供したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 遺伝子診断にもとづいた治療薬の開発

男性不妊症患者の精液から得た染色体DNA やmRNA、タンパク質をマイクロアレイや、特異抗体を用いることによって、非侵襲的に解析する系を確立し、男性不妊症原因の診断法及び治療法に役立てる。

<代表論文> Aoki Y, Tsujimura A, Kaseda K, Okabe M, Tokuhiko K, Ohta T, Moira K O'Bryan KM, Okuda H, Kitamura K, Ogawa Y, Fujiki T, Wada M, Horie S, Nishimune Y, Tanaka H. Haprin deficient spermatozoa are incapable of in vitro fertilization. Mol Rep Dev. 87: 534-541(2020).

② IVFの受精率を上げるフラボノイドの作用機序の解明

マウス人工授精の系において、生薬の甘草の添加によって受精率が上がることを明らかにした。さらに甘草から受精率を上げる成分を同定した。これらの成果を、動物やヒト不妊症に応用するため、作用機序について解析を進める。

大学発ベンチャー企業 株式会社リプロム 食品サンプル完成
アルプス薬品工業との共同研究(100万円)

③ 染色体分配到に機能するHASPINの解析と応用

HASPINキナーゼは、ヒストンH3および生殖細胞特異的ヒストンH2をリン酸化し、ヒストンのリン酸化を通じたエピジェネティックレギュレーションに関与している。さらに、Auroraキナーゼと複合体を形成して染色体分配到に深くかかわっていることが、我々を含む世界の研究者から報告されてきた。HASPINは、細胞増殖の盛んな細胞において細胞分裂の進行に必須の役割をはたしている一方、遺伝子破壊マウスの実験から、一般の体細胞分裂では、他のタンパク質によって相補されると考えられる。HASPINの機能解析を深めるとともに、HASPINをターゲットとしたがん抑制薬の開発を進めている

<代表論文> Tanaka H, Fukuda M, Wada M, Keizo T, Matsushita H, Ando Y

Inhibitory effect of HASPIN inhibitor CHR-6494 on pancreatic cancer cell BxPC-3-Luc (In press).

本学に来てから13年間何らかのグラントを取り続け、2021年度末までは、研究費の目途が立っている。しかし、次は難しい。文科省以外の研究費の確保にむけて活動する。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	2	2	2	115万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Haprin deficient spermatozoa are incapable of in vitro fertilization. / 2020 Apr 20 / Mol Reprod Dev / Vol 87:534-541 / 共著 / 論文

Physiological role of actin regulation in male fertility: Insight into actin capping proteins in spermatogenic cells. / 2020 / Reprod Med Biol

. / Vol 19:120-127 / 共著 / 総説

Rat in vitro spermatogenesis promoted by chemical supplementations and oxygen-tension control.

／2021 Feb／Sci Rep／Vol 11:3458／共著／論文

Identification and characterization of the antigen recognized by the germ cell mAb TRA98 using a human comprehensive wet protein array. Genes Cells. /2021 Mar／Genes Cells／Vol 26:180-189
／共著／論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

ヒト大腸がんモデルApcMin/+マウスにおいて、HASPIN阻害剤CHR6494は腸管ポリープ数と生殖機能不全及び悪液質を抑制する。／2021 Jan／第39回日本アンドロロジー学会
HASPIN阻害剤CHR-6494の乳がん細胞増殖抑制効果の検証／2021 Dec
／日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
共同研究	アルプス薬品工業	R02.9.1-R04.3.31	100万円
大阪大学共同研究	大阪大学微生物病研究所	R02.4.1-R03.3.31	15万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	外部の研究倫理委員会委員を交えて、長崎国際大学での研究活動に関して、倫理規定を逸脱した活動がないかについて、各学部からの報告を議論し、問題がないことを確認した。
動物実験委員会	副委員長	長崎国際大学での動物を用いた教育および研究を円滑に行うために、一般動物使用に関する倫理教育、飼育動物の感染モニター、市民に公開すべきデータの収集、動物実験審査、等の施設運営を滞りなく進めることができた。また、今年度は、設備の更新作業等を大学に行っていただき、円滑に遂行することができた。
薬学部 共同機器委員会	委員	薬学部内で用いられる教育・研究に関する共通機器の補修に関して、委員として審議をすすめ、滞りなく薬学部の共通機器のスムーズな利用を遂行できた。

薬学部 学生委員会	委員	薬学部での学生の活動における諸問題に関して、対応、審議に参加した。卒業式の係りとして、今年度最後の仕事に取り組む。滞りなく任務を遂行したい。
-----------	----	--

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等 (募集・就職活動を含む)

開催されたオープンキャンパスにすべて参加した。まもなく、本年度最後のオープンキャンパスが開催されるので、任務を全うしたい。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他 (題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

佐世保市から依頼の「イノシシ対策」の長崎国際大学委員

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

長崎国際大学発ベンチャー企業 リプロム株式会社で、完成商品および、私の作製した血清などの副商品の販売で売り上げを得た。さらに、私が世界に先駆けてクローニング・同定を行った遺伝子に対する阻害剤を、植物内に発見した。これに関して特許を提出した。来年度早々、阻害剤を含む植物を、新会社を立ち上げ販売する。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

【教育】新型コロナ禍の影響で、はじめてウェブでの授業を組み立てた。学生の顔を見ることができないことから、学生個々人の理解度に不安がある中、シラバスに沿って授業を進めた。

○薬学 分子生物学 3年

学生の顔を確認できない中、シラバスの予定を講義時間いっぱい進めることができた。一方、学生に分子生物学の魅力を伝えるための、教科書外のお話はできなかった。学生はそれぞれの項目ごとに正解を記憶する学習を望み、問題を思考によって解決することに時間をさきたがらない。来年度は、対面の講義、またウェブにおいても分子生物学を通して、生物学に興味を持ってもらえるように工夫したい。

○薬学 ゲノム創薬 6年

アドバンスの授業ではあるが、ウェブでの講義でもあり、ゲノム創薬に関する復習の講義になった。来

年は、ゲノム創薬に関するトピックを交えた講義に戻し、より難解になった生物分野の国家試験に対応できるよう、学生にゲノム創薬に関する各論を伝えたい。

○文系の基礎の生物学

例年、学生の生物に関する習熟度が異なる。来年はどのような学生さんと出会うのか楽しみにしている。生物学を面白く感じてもらえる授業にしたい。

○薬学英语

対面講義で、学生と楽しく進めたい。来年はウェブでもできるだけ双方向の講義になるように進めたい。

○教養セミナー

今年度の私の担当の学生は、非常にまじめに教養セミナーに取り組んだ。成績も優秀な学生が集まっている。新型コロナ禍がおちついたら、他学年との交流を持つ会を例年のように催したい。

○分子細胞生化学演習

例年に従って講義を進めることができた。担当の箇所の細胞生物分野において、学生の習熟度に大きな差が見られた。本演習では、習熟度の下位の学生に焦点をあてた。一部の学生には、重要項目の確認のみのお話になったと思われる。来年は成績上位の学生さんにも対応した課題についての講義にしたい。

○地域の理解と連携

出席者のレポートの内容から、講義の内容が学生に伝わったものと思われた。私からの話題提供が新鮮であるように、自身の研究をすすめ、世界の情勢を分析し、時代にあった講義にしたい。

○大学院

私からの話題提供は伝わったものと考えている。後の研究活動でも、必要に応じて技術を提供したい。

【大学運営】●長崎国際大学動物実験委員会／副委員長として動物実験センターの運営を滞りなく13年間すすめることができた。また、全てのオープンキャンパスにも参加できた。また、大学の研究成果をまとめたシーズ集に貢献できた。ベンチャー企業で商品を販売することができた。●長崎国際大学薬学部共同機器委員会委員として薬学部の研究に支障が出ないように機器の予算配分を進め、長崎国際大学薬学部 学生委員会委員として、学生の意見を拾えるように、学生との関係を築けていると考えています。新たに、全学倫理委員会委員に参加し、全学の研究活動が現在の倫理規定に対応していることを外部の倫理委員に伝えることができたと考える。

【研究】●25年以上続けてきた研究テーマについて、国際科学雑誌に報告で来た。宣伝効果でベンチャーの知財である商品がさらに販売できることを期待する。●本学に来てから13年間、何らかのグラントを取り続けることができた。今後も科研費や文科省以外の研究費の確保にむけて活動する。●新しい研究成果から、新商品を開発することができた。4月から販売を始める。商品の安全性に十分に気を配り、商品を世界に広めて、長崎国際大学の評価につながることを期待して、必要としている人の助けになればと考えている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 西奥 剛

1. 教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、疾患だけを診るのではなく、病気を患っている人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	①⑨⑩
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑨
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	①⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	4	⑥⑦⑩
薬理学Ⅱ(末梢-1・前臨床)	15 / 15 (後期)	1.5	114	①②③
薬理学Ⅰ(総論)	15 / 15 (前期)	2	116	①②③
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	101	①②③④⑥⑩⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
最先端医薬品学特論	2 / 15 (前期)	2/1~3年	4

特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4年	—
------	--------------	---------	---

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期の薬理学Ⅰは授業アンケートが実施されなかった。後期の、薬理学Ⅱは概ね評価が高かった。

しかし、現状の講義内容では、薬剤師国家試験に対応できにくくなりつつある。

新薬も続々と上市されているため、講義内容に工夫が必要であると思う。

2年生で薬の作用機序を教えるため、基礎ができていない学生は太刀打ちできない。そういった学生をいかにするのか、機能形態学の復習をどう取り組むのかが課題となる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市看護専門学校	治療論Ⅰ	15/15(後期)	1	70

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1. フマル酸ジメチルによる破骨細胞分化抑制機構の解析

(長崎大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学、岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学との共同研究)

破骨細胞は、単球/マクロファージ前駆細胞に由来する多核骨吸収細胞であり、過剰な形成および吸収活性は、関節リウマチおよび骨粗鬆症などの骨破壊に関与している。抗酸化ストレス遺伝子の転写因子であるNrf2が破骨細胞の分化を抑制することが報告されているため、Nrf2の強力な活性化因子であるフマル酸ジメチル(DMF)の破骨細胞分化の抑制機構について検討を行った。DMFは、破骨細胞の分化を用量依存的に阻害し、破骨細胞の骨吸収活性を抑制した。DMFは破骨細胞形成のマスターレギュレーターであるNFATc-1の発現を減少させ、また、Erkおよびp38 MAPKのリン酸化を有意に減少させた。また、DMFがNrf2の活性化によってHO-1をアップレギュレーションさせ、HMGB1の細胞外放出を阻害した。DMFが複数の経路を介して破骨細胞の分化を抑制することを示した。

2. (-)-エピガロカテキン-3-ガレートによる破骨細胞分化抑制メカニズム

(長崎国際大学薬学部薬品資源学との共同研究)

緑茶に含まれる最も豊富なカテキンである(-)-エピガロカテキン-3-ガレート(EGCG)の破骨細胞形成の抑制の詳細なメカニズムの解析を行った。EGCGは、NFATc1の発現を抑制し、カテプシンK、

c-Src、およびATP6V0d2の発現を減少させ、骨吸収を抑制した。また、EGCGがHO-1をアップレギュレートし、HMGB1の細胞外放出を抑制した。さらに、EGCGは、破骨細胞形成において、HMGB1の受容体であるRAGEの発現を減少させた。EGCGがNFATc1のダウンレギュレーションならびにHO-1-HMGB1-RAGE経路の抑制を介して破骨細胞の分化を抑制することを示した。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Dimethyl fumarate prevents osteoclastogenesis by decreasing NFATc1 expression, inhibiting of erk and p38 MAPK phosphorylation, and suppressing of HMGB1 release. /2020/Biochem Biophys Res Commun. /455-461/共著/論文

(-)-Epigallocatechin-3-gallate inhibits RANKL-induced osteoclastogenesis via downregulation of NFATc1 and suppression of HO-1-HMGB1-RAGE pathway. /2020/Biomed Res. /269-277/
共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
マウスの恐怖記憶の想起におけるエンドカンナビノイドによる双方向性の制御/2020年3月/第94回日本薬理学会(札幌)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	・薬学部のホームページの更新作業 ・薬学部のトピックスの掲載 ・イベントならび優秀な研究成果のニュースリリースを行った
薬学部学生委員会	委員	待生警告と薬学特待・各種賞ならびにフレッシュマンセミナーや卒業式の運営等に携わった
入試募集委員会	委員	高校ガイダンス出張ならびにオープンキャンパスの準備・運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

外活動の指導に携わっていない。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

広報委員として、薬学部のトピックスを掲載した。

オープンキャンパスに参加し、長崎国際大学の良さを参加者にアピールした。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬理学会	学術評議員	2012年4月～現在	日本薬理学会
日本薬学会薬理部会	若手世話人	2010年4月～2021年3月	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

「薬理学エデュケーター」認定 日本薬理学会

8. 活動全般についての自己点検・評価

本年度は、論文を2報投稿し、アクセプトさせた。来年度もこのペースが保たれるよう研究を行う。本年度も、科研費が採択されなかった。来年度は、科研費の獲得ならびに財団の研究助成金が獲得できるよう努力する。

教育に関しては、難化する薬剤師国家試験を念頭に置き、講義に工夫を加えるようにする。

薬理学Ⅰは遠隔の講義であったが、薬理学Ⅱは対面で講義が可能となり授業アンケートは概ね高評価であった。薬学の根幹をなす薬理学を学生が面白いを思えるような講義にするようさらに鋭意努力する。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 准教授 氏名 山田 耕平

1. 教育理念

医療、化学技術、社会構造がダイナミックに変化する時代において、社会に貢献する薬剤師の育成には、資格取得に必要な知識・技能の伝達のみならず、取得後も学び続ける姿勢、すなわち成長を楽しむ心の育成と、医療人としての責任感、すなわち人間力の育成が必須である。私はこれらの育成を以下のように実践したい。

(1) 成長を楽しむ心の育成

成長を楽しむ心を醸成できれば、社会貢献の意志とその遂行能力の向上も伴うと考えられるため、重要な素養であると言える。成長を楽しむことができるようになるには、成長を実感し、やればできるという自信をつける必要がある。成長を実感できる教育には以下の3点が肝要であると考えているので実践したい。

① 基礎の涵養、② 応用事例を紹介し関心を持たせる事、③ 小さな達成感の積み重ね

授業前半：前回の内容の小テストを行い、継続的な努力と理解を促す(③)。授業中盤：基礎知識を繰り返し説明し、知識の定着を図る(①)。授業後半：創薬研究や医薬品に応用されている事例や、関連する薬剤師試験問題を紹介することで、今勉強している内容が将来に繋がっていることを認識させる(②)。

(2) 人間力の育成

よりよい社会を創造する人材には学力だけではない、以下の3点の人間力が求められるので、その向上を支援したい。

① チャレンジ精神と行動力、② 他者と協働するコミュニケーション力、③ 高い倫理観

授業内容に関連する医療・環境などの社会問題を提起し、学生間でディスカッションする時間を設け(②)、知識を整理し論理的に説明する経験をさせる(①)。そして、自らが社会に対して何ができるかを自問する契機を与える(③)。

私の教育理念は、本学の建学の理念「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意志と健康な身体」と合致する。常に学生と向き合い信頼関係を築き、ポテンシャルを引き出す努力を続けたい。学生に対してホスピタリティを尽くすことで建学の理念を体現し、学生にその精神を伝えていく所存である。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	②③
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	①②
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	②③
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	②③
生物有機化学	5 / 15 (後期)	1.5	118	①②⑨
薬品製造学Ⅱ	3 / 15 (後期)	2	91	②③
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	②③④⑤⑥⑦
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	②③④⑤⑥⑦⑧⑩ ⑪
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	123	①②③④⑨⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートの満足度の平均は4.1で全体平均よりも少し低い結果となった。着任して初めて受け持った講義で、かつコロナ禍におけるZoomによる遠隔授業であった点を踏まえれば、思ったよりかは良い数字であった。最も大事な向上策は、本学学生のレベルをもっと考慮することである。会う機会もなく表情も見えず中間テストもできない状況で、本学学生の学力、やる気、レベルを把握しきれなかったため、私が化学者・教員として学生に望む学問のレベルを要求した。そのため、ある程度の能力ややる気のあると思われる学生からは【内容は難しいが詳しく説明するのでわかりやすい】といったコメントが毎授業後のレスポンスや本授業アンケートに多く記載されていた一方で、恐らくついていけない学生にはづらい講義であったと思う(このような学生はレスポンスにも答えない)。今後は、成績下位の学生にもわかりやすいように、基礎の基礎を何度も繰り返して教えていきたいと思う。

遠隔授業であったため、どの工夫、方法が意欲向上につながったかわからないが、レスポンス・授業アンケートのコメントを見る限り、授業の始めに前回の内容のテスト及び解説を行ったことや、有機化学の勉強の仕方、ラーニングピラミッドの紹介が好評であった。

成績下位の基礎の学習が不足している学生へのケアが必要であると感じている。有機化学は自分でペンをもって何度も書く練習が必要な学問であるため、多くの復習を要求する学問である。授業では【書いて書いて書きまくってください】を標語としていたが、それを実践しているか確認する術が本年はなかった(恐らくほとんどの学生はしていない)。今後は、【書いて書いて書きまくる宿題】の提出を義務化し、学生に嫌がられながらも最終的には学力向上につながるような授業を目指したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習 I	2	115	2020.10.29 2020.11.20
長崎国際大学大学院 疾病解析学演習	1	4	2020.10.13

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

【生体高分子の精密化学変換】を研究テーマに定めている。高分子に対する選択的な化学変換は、現在の技術では限られたものしか達成できておらず、新規の化学反応を開発することでこの課題に取り組む。

選択的システイン変換を基盤とするN-結合型糖鎖導入法の開発

N-結合型糖鎖はアスパラギン側鎖窒素上にβ-グリコシド結合を介してN-アセチルグルコサミン(GlcNAc)が結合した構造を有しており、GlcNAcに結合する糖鎖の違いによりタンパク質機能を制御している。糖鎖の機能解明やタンパク質製剤の改良のために遺伝的・生化学的手法で糖鎖導入が行われているが、有機合成的手法での糖鎖導入法は未開拓である。応募者は選択的システイン修飾法と光レドックス触媒を用いた糖鎖導入法の開発を目指す。すなわち、①電子不足芳香環によるシステイン選択的ラベル化、②光レドックス触媒による炭素-硫黄結合の開裂、③GlcNAcイソニトリルによる捕捉、④一電子酸化、⑤水和、を経てアスパラギンに変換しながらGlcNAcを導入する手法の開発を行う。糖転移酵素Endo-Mを用いたGlcNAcに対する糖鎖導入法は確立されているので、これが実現できれば有機合成的手法でN-結合型糖タンパク質を完全に合成できることになる。最終的な目標は、本技術を用いたタンパク質製剤の開発である。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	4290万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

N-Acyltriazinedione; a novel acylating reagent synthesized from a triazinone-type condensing reagent/2021/Chem. Pharm. Bull./accepted/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究(C)	日本学術振興会	2019-2021	4290万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
共通機器	委員	共通機器の管理についての会議に参加し、意見を述べた。 NMRの管理を行った。
就職	委員	11/8に行われた【地域の期待に応える実践活動】に参加し、ディスカッションのオーガナイザーを務めた。
安全管理	委員	実験の手引き編集を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
入試問題作成・編集	作成者、編集者	入試問題(化学)の作成、編集、採点を行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夏季オープンキャンパスでは、本学の大型研究機器であるNMRの解説をとおして、教育および研究の充実度のアピールを行った。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍下での着任であったため、自身も、迎えていただいた教職員も手探りの中、なかなか厳しいスタートではあったが、なんとかこなしてきたと思う。

教育に関しては、イレギュラーな遠隔授業での初めての講義であったため、非常に困難であったが授業アンケートは思ったよりは悪くなかった。改善点も理解しているので、今後とも精進したい。

研究活動に関しては、研究室の清掃・改装から始めたため、なかなか進めにくかったが、2月以降、時間を作って研究を精力的に行った結果、よいデータが出たので、さらに進めていきたいと思う。

運営活動に関しては、初任であることから特に委員会活動に関しては手加減していただいたと思うので、来季からはしっかりと貢献していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 石原 知明

1. 教育理念

私は、AIやロボットで置き換わることのできない、次世代で活躍することのできる薬剤師を養成することを目指して教育活動に取り組んでいます。

これからの薬剤師には、医師などの医療スタッフと協力して治療に関わることのできる能力がこれまで以上に求められます。そのために、「高度な専門的知識」を持つことはもちろんのこと、それに加えて「問題・課題の発見能力」、「それらを解決するための情報調査能力・論理的思考力」、「それらを適切に伝えるプレゼンテーション力と内容を議論する力」が必要不可欠であると考えます。これらの能力はいわゆる通常の講義形式の授業では習得することが難しいため、研究室での教育活動を通してこれらの能力が習得できるように、一対一での徹底的なトレーニングを行っています。これにより、将来的に活躍が期待される、真に患者さんの治療に貢献することのできる薬剤師の養成が可能になると考え、日々学生さんと向き合っています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①②③⑧⑨
細胞生物学	6 / 15 (後期)	1.5	115	①②③⑨
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	97	①②③⑨
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	122	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

8割以上の学生さんの満足度が5と4であったこと(平均は4.0)、また、1や2をつけた学生さんがいないことから、多くの学生さんにとって満足度の高い授業が展開できたのではないかと考えている。

すべて遠隔での実施であったので、資料は基本的に静止画であった。普段であればホワイトボードなどでその資料を補完する説明を絵を書きながら行うのだが、今回は難しかった。タッチペンを用いて練習を行なったのだが、ホワイトボードの代替としては不完全であったため、実施はしなかった。次年度からはパワーポイントのアニメーション機能で代替することにしたい。

初年度であり学生さんのベースの知識に関する情報がほとんどない状況であったため、かなり初歩的な内容からの解説をこころがけた。そちらに多くの時間を費やしたので、発展的な内容を取り扱う時間が減ってしまった。それらに関する判断はある程度可能になってきたと考えているので、次年度は生物分野を面白いと思ってもらうために、学生さんの知的好奇心を刺激できるような発展的なトピックスを準備したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
疾患解析学演習	1	4	2020/11/17
細胞生物学	1	29	2021/02/15

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

老化に伴い発現する脂質代謝異常とその生体恒常性制御における役割の解析

生体内には極めて多様な脂質分子種が存在し、それらの質的・量的な制御は生体恒常性において重要な役割を果たしていると考えられています。近年の質量分析器の技術革新により、生体内に存在する脂質分子種を包括的に捉えることが可能になってきました。このような技術基盤を用いてこれまでに、老化に伴い現れる様々な脂質代謝変動が明らかになりつつあります。しかしながら、そのような変動が加齢に伴う生体恒常性の破綻や老化に関連する疾患(認知症、心血管疾患、メタボリックシンドロームなど)においてどのような役割を果たすのか、その因果関係についてはほとんど明らかにされてきませんでした。そこで私は現在、加齢に伴う脂質代謝変化を包括的に解析し、その脂質代謝変化のキーとなる代謝酵素を同定することを通して、脂質代謝変化と老化に関連する表現型との因果関係を明らかにすることを分子レベルで明らかにすることを目指して研究を展開しています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Eosinophils promote corneal wound healing via the 12/15-lipoxygenase pathway /2020/FASEB J
/34(9):12492-12501/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

リノール酸のエポキシ化代謝経路に関わる脂肪酸代謝酵素の包括的解析/2020/08/29/第19回
次世代を担う若手のためのファーマバイオフォーラム

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全管理委員会	委員	「安全のしおり」の作成 本学の水銀を含む機器の保有状況調査と廃棄の手続き
入試募集委員会	委員	オープンキャンパス 薬学部紹介動画作成 高等学校における出張講義 オンラインイベントにおける薬学部の紹介
作問委員会	委員	生物の入試問題作成 採点

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高等学校における出張講義(西海学園高校・壱岐高校・錦江湾高校)

オンラインイベントにおける薬学部紹介(夢ナビ・マイナビ)

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
日本薬学会九州山口支部 特別講演会	講演会の開催	2020/09/10	黒川 健児・石原 知明

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動については、アンケートの結果、自身の手ごたえ、学生さんからの感想などから判断して、おおむね満足できるものであったと評価している。本年度は、実習を除いて対面授業の機会がなかったために、学生さんの反応を直接伺いながら授業を展開することはできなかった。しかし、ポートフォリオの機能(アンケートや小テスト)を積極的に活用しながら授業を実施することで、学生さんの理解状況を確認しながら展開できたと考えている。また、本年度が初年度であるため、他の先生の遠隔授業の動画を時間の許す限り視聴したり、ご意見を頂いたりしたおかげで、学生さんの薬学に対する理解度の状況などについては、ある程度把握することができた。来年度は、これらの情報を生かして、より効率的・効果的な授業が展開できるように準備を進めたい。それにより時間を確保し、授業の折々で該当分野に関する雑談・最新の研究結果などの話を交え、自然科学のに対する興味を持って授業に臨んでもらえるような工夫を本年以上に仕込みたいと考えている。

研究活動については、第一著者の論文を発表準備は進んでおり、来年度には発表ができると考えている。また、配属された4年生、5年生と進めている研究テーマについても、順調にデータが取れており、卒論発表は不安なく迎えることができる状況である。本年度は、教育活動に対するエフォートが予想よりも大きく、研究活動のエフォートが低くなってしまったことが大きな反省点である。今年度の経験から、本学での教育活動に関してはある程度予測ができるため、来年度は配属された学生さんとともに、積極的に研究にも取り組み、論文・学会発表、予算獲得を目標としたい。

大学運営に関しては、遠隔授業で用いられるZoomの基本的使用法、講演会やグループワークで用いられる機能などの導入を通して、学部に対して貢献することができた。また、入試募集委員会で積極的な取り組みを行なっている黒川先生のおかげで、大学運営への貢献というマインドも身につけることができた。この2点について、来年度もより良いものが出来上がるよう、調査、考察、発案など積極的に行いたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 相田 美和

1. 教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	②⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	②⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	②
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑩
裁判化学	15 / 15 (前期)	1.5	102	②⑨
化粧品学	3 / 15 (後期)	1.5	115	②③
教養セミナーA	14 / 15 (前期)	1	6	②⑥⑧
教養セミナーB	10 / 15 (後期)	1	6	②④⑤⑥⑫
衛生薬学実習	8 / 8 (前期)	1	103	②④⑩
毒性学	9 / 15 (後期)	2	96	②
学際連携研究	1 / 15 (前期)	2	254	②⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	1 / 15 (前期)	2	4
感染制御学特論	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

3年後期・必須科目 毒性学

2つの教室に半数ずつ学生が着席し、片方の教室で対面で授業、もう片方の教室の学生は授業をzoom視聴する方式であった。自分が顔の向きを変えるとzoom配信の音量が変わったり、接続に時間

がかかった講義回もあったりした。このような実施法に対して、どのような反応があるか見たかったのだが、これに関するコメントは全く無かった。学生は教員や事務の方が苦心している様を見ているので、コメントし難かったのかもしれない。満足度は薬学部の平均と同等4.2であった。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	120	2020/5/1
処方箋解析	2	105	2020/11/6、2020/11/10
総合実習	6	115	2020/11/26、2020/11/27、 2020/12/1、2020/12/3、 2020/12/4、2020/12/8

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・シェーグレン症候群の口腔乾燥症状寛解に向けた研究

シェーグレン症候群は、ドライマウス・ドライアイを主訴とする全身性自己免疫疾患である。ドライマウス症状の寛解による罹患者のQOL向上を目標に、ルテオリン等の植物成分の唾液分泌に対する効果を検討している。

- ・異所性嗅覚受容体の生理作用

嗅覚受容体は、嗅覚神経細胞上で匂い物質を感知して、その信号を直接脳に送っている。近年、嗅覚受容体が嗅覚神経細胞以外でも発現することがわかってきた。この異所性嗅覚受容体の存在意義について、ヒト気道上皮細胞に発現する嗅覚受容体とそのリガンドを用いて検討している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

気道上皮細胞におけるCinnamaldehydeの細胞増殖作用/2021年3月28日/日本薬学会第141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員	ハラスメント防止に努め、規程の改定などの議論に参加した。
国家試験対策委員会(薬学科)	委員	総合演習Ⅱ単位認定試験の実施を担当した。自宅待機中の自学用コンテンツをmanabaに設定した。
教務委員会(薬学科)	委員	学内学生実習の実施にあたり、必要な感染対策の取りまとめを行った。
研究等倫理委員会(薬学科)	委員	研究申請書等の倫理審査に参加した。
就職委員会(薬学科)	委員	今年度就職説明会の実施は未定であるが、個別に相談に応じた。
OSCE実施委員会(薬学科)	委員	OSCEの円滑な実施に務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスに参加し、参加者と交流した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意

2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県教員免許状更新講習会 薬物乱用教育の実践に向けて 2.アルコールについて	8月22日	動画配信とレポート	長崎県教員免許更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会	委員	2019/11/10より現在 に至る	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

コロナウイルス感染症対策に追われた一年であった。

学科内委員で担当の学内学生実習やOSCEを無事に実施できて安堵した。また、実務実習の日程変更のためスケジュールが空いていた5年生向け国試対策として実施した自学ツールの配信を個人差があるものの学生が活用してくれたのは、先生方のご協力のお陰である。

研究の方が思うようにはかどらず、その点が課題であるが、学生が学会発表する程度には進めることができた。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 高崎 伸也

1. 教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出るから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	⑧
臨床医学概論	12 / 15 (前期)	1.5	125	②⑪
臨床検査学	15 / 15 (後期)	1.5	95	②⑪
コンピュータ基礎演習 I B	9 / 15 (後期)	1	103	②④⑪
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	102	⑤⑥⑩
学際連携研究	1 / 15 (前期)	2	254	⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	⑤⑥⑪
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	⑥⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
感染制御学特論	2 / 15 (後期)	2/1~3年	4
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと(双方向の講義スタイル, タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り)が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も4.3-4.4と高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。

また、今年度は新型コロナウイルスの影響で講義形式をオンライン形式に変えざるを得なかったがうまく双方向

大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。毎講義の自学学習の量が少ないようだが、試験結果から習熟度は十分と判断できるため、宿題などを課すことで学生の負担を増加させすぎることが懸念されるためしないこととする。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生 士学院	生理学(1年生)	15/15(後期)	2	25
九州文化学園歯科衛生 士学院	生理学国試対策演習(3年 生)	2/2(後期)	2	35

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	103	11/20
総合演習Ⅱ (5留)	2	6	5/27,11/20
総合演習ⅢA	1	121	4/27
調剤実習2	3	117	前期
総合実習	1	117	後期

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母を用いた液-液相分離現象に伴う膜のないオルガネラの解析法の構築および治療への応用

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Effects of exogenously intrinsically disordered regional peptides on liquid-liquid phase separation in cytoplasmic RNP granules in *Saccharomyces cerevisiae*/2020年12月/日本分子生物学会年会第43回

出芽酵母におけるストレス顆粒内の天然変性領域の付加的な発現による変化

Alterations induced by additional expression of intrinsically disordered regions in stress granules in *saccharomyces cerevisiae*/2021年3月/日本薬学会 第141年会

出芽酵母の細胞質で生じる液-液相分離現象による不安定な相互作用の解析法

Methods for detecting transient interactions for liquid-liquid phase separation in cytoplasm of *saccharomyces cerevisiae*/2021年3月/日本薬学会 第141年会

出芽酵母の細胞質に存在する膜のないオルガネラの形態観察法

Morphological analysis of cytoplasmic membraneless organelles in *saccharomyces cerevisiae*/2021年3月/日本薬学会 第141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	自分らしい人生を実現させるために、効率よい時間の使い方という観点で、家族、地域、社会の在り方を問うアンケートを、薬学部の1年生に対して行い集計した。
国試・CBT対策委員会(薬学科)	幹部委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
同窓会薬学部門支援委員会	副委員長	同窓会薬学部問の支援全般
教務委員会・4年学年主任	学年主任	4年生の学年主任として、1年間にわたり、成績向上に向けた様々な企画やサポートを行った。
ネットワーク調整委員会	委員	ネットワーク調整全般
入試募集委員会(薬学)	委員	オープンキャンパス、高校訪問(オンライン1回、対面1回)などにより広報活動を行った
OSCE実施委員会	委員	OSCEの実施の企画および実施のサポートを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・大村工業高校および佐賀清和高校に訪問し、薬学、薬剤師および大学の広報を行った。
- ・全てのオープンキャンパスの運営、参加を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ・大学外の講義を受託し、社会貢献した。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、授業のアンケートもよく質も満足できるものだったと考える。また、講義の担当科目数も実習の担当数もかなり多く十分な量であったと考える。本年度は新型コロナウイルスの対応のためオンライン授業やハイブリッド方式と名ttが臨機応変に対応できたと思う。また、委員会は特に国試・CBT対策委員会では、年間を通じて複数回行われる単位認定試験の責任者として準備、実施、解析等を行い、十分な仕事量をこなしたと考える。特にコロナの影響で通常行われない試験がかなり多く行われることとなったが対応できた。また、様々な委員会で貢献した。高校に複数回、訪問し高校生に対しての広報活動にも努めることができたと思われる。また、入試問題の作成に関して、薬学部、他学部どちらも行い貢献した。研究面も研究室が変わり新たな研究にとりかかったが学会発表を複数回行うことができ順調であった。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 田中 啓太郎

1. 教育理念

私の教育理念は、学生との対話に重点を置き、主体的に学び、考え、行動できる薬剤師の育成を柱としている。講義は、薬剤師国家試験に合格を念頭に構成し、さらに学生の意欲を喚起する内容を組み込み、高い専門力の育成を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
生物有機化学	10 / 15 (後期)	1.5	118	①②
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	21	②③⑨
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	④⑤⑥⑦⑫
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	123	①②④

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

生物有機化学(後期 2年生)

講義で下記の取り組みを行った。

- ・事前に講義資料を配信して、予習できるようにした。
- ・講義の最初に、前回の復習を行った。
- ・適宜、講義中に休憩時間を入れた。
- ・チャットを活用して、講義中の学生からの質問に答えた。
- ・化学に関するトピックスをとりあげて、化学に関する興味をもてるようにした。
- ・講義中に演習問題を解かせた。
- ・講義終了後にマナバの小テストを解かせた。
- ・レスポンスやチャットに寄せられた学生の要望を講義に取り入れた。
- ・講義動画を講義終了後も閲覧できるようにした。

今年度、コロナ感染拡大防止のため、生物有機化学は遠隔ですべての講義を行った。対面形式での講義が今後も難しくなると予想されるため、これまでの形式を捨てて、マナバとZOOMの機能を活用した講義形式に変更した。そのため、準備など多くの時間と労力を必要としたが、学生評価は多人数(138人)の講義でありながら昨年度よりも大きく向上した(4.1→4.6)。チャットやレスポンスを使った学生との双方向のやり取りは、非常にアクティブな学びの場であったと感じた。また、遠隔講義に対する学生の対応力と講義の満足度に驚いている。今後、遠隔による講義は定着していくのではないかと考える。今年度、得られた多くの知見は今後自分の遠隔講義や動画での講義配信に役立てていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学、化学演習補習 第1-4回	4	24名 (6/10) 44名 (6/25) 44名 (7/08) 24名 (7/20)	6月10日、25日 7月8日、20日
6年冬季勉強会(引率・監督)	3	59名	1月15日-17日
総合演習Ⅱ(5年留年生)	2	6	9月29日、10月14日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①薬学部における効果的学習支援プログラムの開発と評価
- ②薬学教育における化学系基礎研究の重要性
- ③新規機能性化合物の開発

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

ピリジン-マレイミド誘導体の効率的合成と蛍光特性/2021年3月/日本薬学会141年会(広島)

量子化学計算に基づくピリジン-マレイミド誘導体の蛍光特性の解析/2021年3月/日本薬学会
141年会(広島)

凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法/2021年3月/日本薬学会141年会(広島)

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教育基盤センター運営委員会	委員	1、2、4年留年生担当 スチューデントアシスタント(SA)制度運用責任者 成績下位学生・留年生対応
初年度教育担当責任者(薬)	委員	入学前教育・リメディアル教育担当
教育基盤センター運営委員会	委員	薬学分室

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①オープンキャンパス 保護者・高校生対応

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

2020年度、薬学教育支援センターで卒業延期生、留年生、成績下位の学生の対応と学習指導に務めた。成績下位学生対策として、1年生の補習授業(化学)を企画して、前期に定期的に開催した。また6年生の夏期および冬期の勉強会を国家試験対策委員会と連携して企画運用を行った。3、4年留年生は、週ごとの学習記録の提出による学習指導を行った。

薬学部の学習相互支援制度であるスチューデントアシスタント(SA)制度は、新型コロナウイルス感染防止による遠隔講義導入のため、前期試験前に遠隔での運用を試行した。後期は、感染状況をみながら対面と遠隔の併用による運用を行った。前後期を通して大きな問題もなく運用することができた。

講義では、遠隔講義への対応に取り組んだ。担当科目のほとんどが遠隔講義に変更されたため、配布資料や講義スライドを大きく変更した。その結果、授業アンケートでは学生からの満足度も高く(4.6)、授業アンケートの結果を参考に、講義内容の改良も行う。

今年度も、留年生および成績下位の学生の学習指導に注力した。留年生数は減少傾向であるが、依然として成績向上が難しい学生がいる状況が続いており、次年度も指導を続けていく。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 出口 雄也

1. 教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「(2) 情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	⑨
臨床栄養学	15 / 15 (前期)	1.5	98	①②③⑩⑫
地球環境論	15 / 15 (前期)	2	156	①③⑧⑩⑫
食品機能学	10 / 15 (前期)	1.5	94	①②③⑨
衛生化学Ⅰ	8 / 15 (後期)	1.5	116	①②③
衛生化学Ⅱ	7 / 15 (前期)	1.5	100	①⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑦⑩
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑦⑩
衛生薬学実習	7 / 8 (前期)	1	103	①④⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	5	⑥

卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	⑪
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	103	①④⑧⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

前期は授業アンケートを実施していないため、後期の「衛生化学Ⅰ」において実施した。5講時の授業であったため、眠くならないように様々な形態の授業を試しながら、学生にもアンケートを取りつつ対応した。授業の方法は上記のように検討したものの、授業評価は過去3年間と比べてほぼ同じであった。満足度では多くの学生が「5」をつけている一方で、1名ではあったものの初めて「1」をつけた学生がいたため、遠隔授業の難しさを実感している。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2単位	20名
九州文化学園歯科衛生 士学院	衛生学・公衆衛生学	15/15(後期)	2単位	25名
九州文化学園調理師専 門学校	食生活と健康	15/15(前期)	2単位	10名
九州文化学園調理師専 門学校	食生活と健康	18/18(後期)	2単位	8名

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB(6年留)	1	24名	4/30
総合演習Ⅱ(5年留)	1	6名	11/10

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①食品関連物質の分析法の開発に関する研究
- ②化学物質の発がん機構の解明及び食品成分によるその抑制に関する研究
- ③大気粉塵中のエンドトキシン濃度の季節変動と喘息発作の関連に関する研究
- ④機能性表示食品の機能性と安全性に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	1	1	1	15万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
食品衛生学 [第4版]/共著/2020年9月/化学同人/123頁～130頁、140頁～142頁

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Development of a system for the detection of the inflammatory response induced by airborne fine particulate matter in rat /2020年7月/Toxicology Report 7/859頁～866頁/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
保管温度が飲料中のアスパルテームの安定性に与える影響について/2020年8月/日本食品化学学会第26回総会・学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費(九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献)	長崎国際大学学長	2020年6月～2021年3月	15万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会(全学)	委員	・全学就職委員会に薬学部代表として出席。 ・病院/.薬局の採用担当者との面談、メール対応。 ・薬学部就職委員会の業務をサポート
国試・CBT対策委員会(薬学部)	幹部	・週間試験(4年、5年留)の総括責任者 ・夏季勉強会(6年)、冬季勉強会(6年)の企画と実施 ・単位認定試験の編集作業のサポート
CBT実施委員会(薬学部)	PC管理者	・本学の体験受験、本試験、再試験に向けた準備(テストラン含む)と実施 ・他大学のCBT本試験のモニター員を遂行

OSCE実施委員会(薬学部)	委員	・OSCE実施に向けた会議に出席 ・説明会のサポート
教務委員会(薬学部)	委員	・教養セミナーBのボランティア体験の実施に向け社会福祉協議会等と調整
生涯学習・教育委員会(薬学部)	委員	・今年度は不開催のため活動なし
地域連携委員会(薬学部)	委員	・11/8実施の「地域の期待に応える実践活動」のサポート

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
大学20周年記念事業担当	委員	・開催に向けて会議を数回したが、不開催となった

(3) 課外活動の指導等

【国家試験対策】

- ・夏季勉強会:8/9(土)～11(月)@MGLレヂデンス
(企画、準備、引率、質疑対応)
- ・冬季勉強会:1/15(金)～17(日)@MGLレヂデンス
(企画、準備、引率、質疑対応)

【教養セミナー】

- ・ボランティア体験学習:11/18(水)13時～14時@小川内住宅集会所
(zoomを通して大学にいる学生と現地の高齢者の交流活動を行った)

【CBT対策】

- ・個別質疑応答:2/9(火)13時～17時@薬品情報室
(CBT再試験に向け、CAIの衛生系問題のわからない問題に対してその場で解説した)

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

8/23、3/20に開催のオープンキャンパスで学生、保護者と懇談

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席

2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
令和2年度 教員免許状更新講習「薬物乱用防止教育の在り方」	2020年8月22日	遠隔講習	長崎県教員免許状更新講習連絡協議会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

・教養セミナーBにおいて、サロン(小川内住宅集会場)の高齢者と学生の交流活動を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

この1年を振り返ると、オンライン授業への対応と授業準備に追われた1年であったが、学会のオンライン開催、教員免許状更新講習会の遠隔実施、例年協力してきた「サイエンス広場で遊ぼう」の中止、学長裁量経費事業の九文小学校での理科イベントの中止など、様々な面で変動の大きい1年であった。しかし、何とか無事に対応し1年を終えられたことに安堵している。

授業では前期は2つの実習、非常勤の1科目(15コマ)、大学院の1科目(2コマ)は対面であったので例年通りで良かったものの、5つの授業が遠隔授業となり、前期は本当に準備に追われる日々であった。6年生の週間試験が実施できなかったこと、昨年度から一部の授業を他の先生に引き継げたことから、何とか乗り切ることができたと感じている。

CBTでは新型コロナウイルス感染症対策による初の2日間での実施に加え、体験受験は台風による遅刻者への対応、本試験は積雪で中止となり初のリカバリー試験の実施と、コロナ以外にも自然災害の影響を受けた1年となった。

研究面では学生の研究室入室制限もあって卒業研究が思うように進められず、結果を出すことが難しい状況であった。学会発表は1件に留まった。これまでの共同研究成果として論文が1報掲載されたものの、今年の流れのままでは来年度以降業績を積み上げていくことは難しい状況であるため、研究時間を確保を意識していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 縄田 陽子

1. 教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

(実践内容)

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあつてこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

(実践内容)

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	103	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	⑧

総合演習Ⅱ	1 / 23 (通年)	1.5	5	⑧
薬理学Ⅲ(末梢-2)	7 / 15 (前期)	1.5	99	②⑨⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	5	②③④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	②③④⑤⑥⑦⑩⑪ ⑫
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	101	④⑤⑥⑦⑩
薬理学Ⅳ(中枢)	16 / 16 (後期)	1.5	98	②⑨⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	3	②⑤⑥⑦
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	②⑤⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
最先端医薬品学特論	3 / 15 (前期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

昨年度の授業アンケートで課題となっていた準備学習では、今年度は、授業開始時にレスポンスを用いた復習課題の実施および導入資料の充実によりポイントが0.2pt上昇した。次年度は、4.0ptを目指すとともに、学生の講義に臨む姿勢をより向上させるべく復習資料を充実させる予定である。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	117	2020年10月16日
総合演習ⅢA	1	144	2020年4月24日
総合演習Ⅱ補習	2コマ相当 (オンデマンド形式)	110	2020年7月～2021年2月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明および神経精神疾患治療薬への応用

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	2	2	439万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Bidirectional regulation by the endocannabinoid in retrieval of fear memory using the fear conditioning task in mice/2021年3月10日/第94回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
薬物依存の形成及び再燃に対するオピオイド受容体アゴニストの作用に関する研究	日本ケミファ株式会社	2020年1月1日より 2021年3月31日まで	119万円
科学研究費助成事業(若手研究)	日本学術振興会	2020年4月 ～2024年3月	320万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会(全学)	委員	動物実験室運営
入試・募集委員会(薬学)	委員	・オープンキャンパス運営(当日、施設紹介パネル設置担当) ・出張講義、ガイダンス等(2回)
国試・CBT対策委員会(薬学)	委員	総合演習Ⅲ試験編集
動物室管理担当者(薬学)	委員	・コンベ区域運営 ・メンテナンス連絡担当 ・消耗品等の物品管理(発注)
生涯学習・教育委員会(薬学)	委員	生涯学習運営補佐
教務委員会	委員	2020年度入学生学年主任

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

①進学ガイダンス

- ・夢ナビ遠隔対応(2020年10月)
- ・出張講義(鹿児島県錦江湾高校(2021年1月))

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①2020年10月23日および、11月19日 九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢

献(小林秀光教授主催)。

九州文化学園小学校において中学1,2年生を対象として講義を実施。講義タイトル「頭の中を覗いてみよう」

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

コロナ禍での講義実施ということで遠隔対応を含め新しいことへの対応が求められる1年であった。次年度に遠隔講義実施の際には、その利点を活かしながら、対面講義に近い理解度が得られるよう、課題をや講義進行を工夫し、より良い講義を目指したい。

2. 研究活動について

本年度は、外部資金獲得および学会発表において研究活動を前進させることができた。一方で、成果発表としての論文投稿が叶わなかったことから、次年度は論文受理を第一目標に掲げ研究活動を進めたい。

3. 大学運営活動、社会活動および国際交流について

大学運営活動では、昨年度同様に貢献できたと考えている。また、今年度は、社会活動の一環として、中学生対象の講義を行った。これにより、地域貢献の重要性を学ぶことが出来た。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤井 佑樹

1. 教育理念

人間性と専門性をバランスよく習得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出するため、薬剤に関する知識、自分で考える力、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞に関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの学問と関連していることをイメージさせ、学問を俯瞰出来る力を身につけさせる。

研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク質の精製や細胞増殖制御の実験方法やその原理を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される実験問題に対しての応用力を身につけさせると共に自分で考える力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立たせる。

勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことで学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティの精神を獲得した薬剤師を世に輩出し、社会貢献を行う。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅱ	4 / 23 (通年)	1.5	103	①⑨⑩
総合演習Ⅱ	4 / 23 (通年)	1.5	5	①⑨⑩
機能形態学Ⅰ	7 / 15 (前期)	1.5	111	①②⑨
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
薬学英語	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	3	②
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	5	⑥⑦⑫
コンピュータ基礎演習ⅠA	15 / 15 (前期)	1	110	②④⑪
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	125	①②⑥⑦⑩
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	101	④⑩⑪
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
疾病解析学演習	1 / 15 (後期)	2/1～3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

生物学演習と教養セミナーBの授業アンケートを行った。授業の満足度としてはいずれも5点満点で生物学演習では4.4点、教養セミナーBでは4.8点の高評価を得た。一方で、生物学演習に関しては予習に関する評価が3.2と満足度に比べると低かったため、来年度は予習も行えるようなプログラムを考えていきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
佐世保市医師会看護専門学校 非常勤講師(担当科目:形態機能学 2018年～現在に至る)	15	30	2020年6月～8月

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

1) 海洋生物由来糖鎖結合性タンパク質レクチンを用いた細胞制御機構の研究

九十九島水族館との共同研究を通じて、長崎県産の海洋生物から新規レクチンを見出し、構造と機能の研究を行っている。新規レクチンががん細胞や免疫細胞に起こす影響を調べ、創薬研究に役立たせる。

2) ポスト分子標的薬の開発を目指した人工レクチンの創製と機能解析

研究テーマ1)で得られた抗腫瘍レクチンの創薬化を目指し、安定化および低分子化を考慮した人工レクチンの立体構造を計算科学でデザインする。デザインを元に遺伝子改変させた人工レクチンが大腸菌で作製し、動物実験を行い効果の検証を行う。

3) ムール貝レクチンの生理的機能の研究

海洋の温暖化、酸性化や汚染の影響により、海洋生物の体内に変化が起こることが報告されている。レクチンはその1つとして知られている。長崎県沿岸に生息するムール貝に上記のストレスを与え、貝の体内のレクチンが新たな環境指標の分子になるかを検討する。貝の免疫についても調べ、養殖に役立たせたい。

4) メラノソーム機能阻害に関する研究(美白の科学)

機能形態学研究室の藤田英明教授との共同研究である。生薬成分等から見出した化合物がどのような作用機構で美白の効果をもたらすかを調べる。主には細胞内のメラニン合成や美白の様子を電子顕微鏡を活用して、その様子を観察している。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	4	2	2	2	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

Purification and functional characterization of the effects on cell signaling of mytilectin: a novel β -trefoil lectin from marine mussels./共著/2020年/Methods in Molecular Biology/201-213

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Thermochemical, DFT, Molecular Docking and Pharmacokinetic Studies of Methyl b-D-galactopyranoside Esters. / 2020年8月 / Journal of Computational Chemistry & Molecular Modelling/452-462/共著/論文

The structure of SeviL, a GM1b/asialo-GM1 binding R-type lectin from the mussel Mytilisepta virgata./2020年12月/Scientific Reports/22102/共著/論文

A GM1b/asialo-GM1 oligosaccharide-binding R-type lectin from purplish bifurcate mussels Mytilisepta virgata and its effect on MAP kinases./2020年6月/FEBS J /2612-2630/共著/論文

New carbohydrate derivatives: Synthesis, characterization and antimicrobial screening studies against human and plant pathogens./2020年/Current Perspectives on Chemical Sciences Vol. 3 Book Publisher International/436-448/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

OXYL: 2型ラクトサミンと結合するニッポンウミシダC1q型レクチン/2020年11月/第39回日本糖質学会年会(東京都)

“The structural and functional diversities of D-galactoside-binding lectins in marine invertebrates. (An invited lecture for the symposium Structural Glycobiology)/2020年6月/World Conference on Protein Science

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「イガイ科の生体防御に関するβ-トレフォイル構造レクチン群の作用とその比較」	日本学術振興会、科学研究費助成、基盤研究C(分担)	2019年4月-2022年3月	40万円
「冬虫夏草菌シアル酸結合性レクチンを用いた糖尿病性インスリンレセプターの回復技術」	日本学術振興会、科学研究費助成、基盤研究C(分担)	2018年4月-2021年3月	10万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	委員	毎年恒例の一般市民講演、長崎国際大学公開講座、佐世保まちなか大学、平戸市民大学の薬学部講演者の選出を行った。 5年生総合演習Ⅱ内に取り込まれている東ファーマシー主催の寄付講座の企画・運営に携わった。
(薬) 国家試験対策委員	委員	4・5年生で毎週行われている週間試験の問題編集および成績解析に携わった。
(薬) 学生委員	委員	入学式および卒業式の準備に関する業務を行った。 成績優秀者に対する授与式の準備に関わった。
(薬) OSCE委員	委員	OSCE前日の打ち合わせ日に受付および当日、試験が円滑に行えるように誘導を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

夏季に行われたオープンキャンパスにて、機能形態学主催の模擬授業を行い、光学顕微鏡の使用
方法や細胞組織の観察の仕方や考察について教授した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2)国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

【受賞】

1. 長崎国際大学学長裁量経費-表彰制度「あすなる大賞」(薬学科推薦)「糖鎖に結合するタンパク質であるレクチンに着目した研究」(2020年9月)
2. 長崎国際大学令和元年度ベストティーチャー賞ベストプラクティス部門(研究部門)「ギランバレー症候群関連糖鎖と結合する新規レクチンの発見と細胞機能解析」(2020年6月)

8. 活動全般についての自己点検・評価

「教員個人による諸活動について」に記載した教育理念を元に教育、研究、大学運営の業務をバランス良く遂行したと考える。

教育では本年度では薬学専門科目で薬理学の土台となる機能形態学を担当し、学生に人体や細胞の仕組みについて講義した。講義に資料には図や写真をたくさん挿入し、学問に興味を持たすように工夫を行った。加えて、学生の理解度を計るために講義終了後の小テストや中間試験を行い、知識の定着に努めた。専門科目以外でも全学共通科目のコンピューター基礎演習IAや教養セミナーを担当し、学問の基礎や薬学を学ぶ重要性を説明した。栄養科では基礎の生物学を担当し、基礎的な知識を教授した。

研究では、基盤研究C(分担)に供与された研究費を活用し、長崎県産海洋生物レクチンの研究を行った。そのうち以前、明らかにした一次構造情報を元に、ムラサキインコガイレクチン「セヴィル」の結晶化に成功し、タンパク質の立体構造を明らかにし、査読付き国際雑誌サイエンティフィック・リポートに共著者として発表することができた。本年度はコロナ禍の影響で、学会参加は困難であったが、誌上開催などの工夫を駆使し、2件国内で発表することができた。

大学では全学・薬学の委員に所属し、大学運営に貢献した。全学では地域連携委員として、市民講座の講演者の選出や薬学部5年時の科目・総合演習IIの中で行う寄付講座の企画、運営、評価を行った。薬学では国家試験対策委員として、4年および5年生で行われる週間試験の問題編集や成績解析を担当した。学生委員として、入学式や卒業式の準備やカメラを担当し、学部に貢献した。来年度も引き続き、業務のバランスを考慮しながら教育、研究、大学運営に務め、大学に貢献していく。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤木 司

1. 教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	②⑨
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	②⑨
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
薬学英语	2 / 15 (前期)	1	49	①⑤⑩
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	51	⑧⑨
微生物・免疫学演習	4 / 15 (前期)	1	52	①④⑤⑩
基礎の生物学	15 / 15 (前期)	2	56	②⑨
食品機能学	5 / 15 (前期)	1.5	94	②⑨
ホスピタリティ概論	15 / 15 (前期)	2	460	①②④⑦⑩
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	6	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	6	⑥⑦⑩
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	101	④⑩⑪
微生物学・免疫学実習	9 / 9 (前期)	1	103	①④⑤⑩
分子生物学	3 / 15 (前期)	1.5	95	②⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	6	①⑤⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	6	①⑤⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
最先端医薬品学特論	2 / 15 (前期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

昨年度の講義と比較して本年度は遠隔での講義が主となったため、これまで以上に学習の理解度と満足度を意識した内容を提供できるように工夫を施した。これまでのアクティブラーニングをさらに項目を増やして取り入れた形で双方向と各到達度における理解度を測れるように講義を構成した。ま

た、1年生の理解度の低いクラスにおいては補習をできるだけ組んで学習の補助を行った。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
基礎の生物学の補習	1	20	7月15日(水)
基礎の生物学の補習	1	20	8月20日(木)

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明と抗老化シグナル機構の網羅的解析に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	CHサポートセンター運営に関するサポートおよびNPSサポート業務
教育基盤センター運営委員会	委員	ボランティア概論サポート業務
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	学科内試験、演習、遠隔講義実施運営・成績管理
入試・募集委員会(学科)	委員	入試募集に関わる広報活動および出張講義など
安全管理委員会(学科)	委員	アルコール担当
CAI運用・活用委員会	委員	学科内CAI試験実施、運営

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①第1回オープンキャンパス/7月26日/長崎国際大学
- ②第2回オープンキャンパス/8月10日/長崎国際大学
- ③第3回オープンキャンパス/8月23日/長崎国際大学
- ④出張講義/11月7日/福岡県常磐高等学校
- ⑤一般入試A日程/2月4日、5日/長崎会場
- ⑥第4回オープンキャンパス/3月20日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

クリーンキャンパス活動／11月26日

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

2020年度長崎国際大学ベストティーチャー賞受賞
学生による授業アンケート部門

8. 活動全般についての自己点検・評価

2020年度は、講義教育面においてはこれまでの授業への取り組みが評価されベストティーチャー賞をいただいたが遠隔講義などが始まったためより一層、教育効果、授業理解度、満足度が向上するように工夫して取り組んだ。研究面ではこれまでの成果をもとに論文の執筆に取り組んでいるが本年度中に形にならなかった。また外部資金の獲得がなかったため今後はさらなる改善や努力を行って

いきたい。同時に各種委員会における活動、業務と合わせて教育の質や効果の向上を目指したい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 藤本 京子

1. 教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講なので、医療分野とのつながりを意識できない学生が多く存在している。そこで、本授業では細胞と食を関連付け、細胞と組織、細胞と個体、さらに疾病を連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心を持ち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
分子細胞生化学演習	2 / 15 (後期)	1	97	②④⑨
生化学Ⅲ	4 / 15 (前期)	1.5	117	①⑨⑩⑪
生化学 I	15 / 15 (後期)	1.5	105	①⑨⑩⑪
総合基礎学習 I	13 / 15 (通年)	0.5	121	②④⑥⑨⑩
コンピュータ基礎演習 I B	11 / 15 (後期)	1	103	②④⑪
生化学実習	9 / 9 (後期)	1	122	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	9 / 9 (前期)	1	103	①④⑤⑩
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	7	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45 / 45 (通年)	12/1~4 年	—

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、オンライン授業という新しい形式が導入されたため、これまで利用していた授業ファイルをすべて作り直すことから始めた。通信トラブルなどの対処法が初めのうちはあまりよく分からなかったが、徐々にスムーズに授業を進めることができるようになった。

授業資料を作り直しながら、これまでの内容を精査できたことが、今年度の高い授業評価につながったかもしれない。教科書の題目にそって授業を進めたことが、一番の要因だったのではないかと感じている。また、質問はメールで受け付け、一人一人に丁寧に返答をしたことも満足度向上につながったのかもしれない。今度も、一人一人に真摯に向き合いながら授業を展開していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	栄養生化学	15/15(通年)	1	30

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ(5留)	1	6	10月9日
総合演習ⅢA	1	144	4月29日
総合演習ⅢA(6留)	1	24	4月22日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

大腸がん発生のメカニズムと予防に関する研究

個人差と疾患の多様性に関する分子的背景を明らかにする一歩として、ヒト大腸がんモデルマウスの解析により、腸管腫瘍のサイズ増大化に関する因子を探索している。包括的遺伝子発現解析により得られた実行因子候補をクローニングし、それぞれの機能解析を行っている。特に、正常部位と比較して腫瘍細胞内で高発現していた遺伝子群と、有意に発現が減少していた遺伝子群に着目し、それらの機能解析を行っている。がん促進関連遺伝子なら、それらの発現を阻害することで腸管腫瘍サイズの増大化を抑制できる可能性がある。多くの場合、腫瘍サイズと悪性度は比例関係を示しているため、腫瘍サイズの増大化を抑制することは、転移浸潤を抑えることにつながり、医療に大きく貢献できると考えている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Improvement in High-fat Diet-induced Obesity and Insulin Resistance upon Uptake of PS-B1, a Fermented Product Prepared from Soy Flour Using Lactic Acid Bacteria
/2020年7月/Journal of Food and Nutrition Sciences/81-88/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会(薬学)	委員	オープンキャンパス、高校ガイダンス(遠隔)や入試業務などを行い、入学希望者増大に関する活動を行った。
CBT実施委員会(薬学)	委員	CBT本試験、再試験が滞りなく行われるように努めた。
薬学教育支援センター運営委員会(薬学)	委員	今年度は、特に活動を行っていない。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ(薬学)	テーマ別学習担当	今年度は、発表会後の投票は行わなかったため、特に活動はしていない。
ハラスメント相談員	相談員	ハラスメントに関する事案について、相談窓口となり聞き取りなどを行った。本人の希望により、委員会に申告することはなかった。

(3) 課外活動の指導等

特になし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高校生を対象に、夏休み薬学研究体験を実施した。

ニュースなどでよく耳にする「PCR検査」を身近な題材を用いて体験してもらった。また、理科教育の早期啓蒙と地域への貢献として、九州文化学園高等学校で味覚の実験を行った。

高校ガイドランスでは、遠隔にて薬学部6年間のながれと取得可能な資格について話し、長崎国際大学薬学部の魅力を語った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
PCRを学ぶ～PCRを利用した検査をやってみよう～	2020/8/20-21	長崎国際大学薬学部	猶興館高校
夏休み薬学研究体験 PCRを学ぶ～PCRを利用した検査をやってみよう～	2020/8/11-12	長崎国際大学薬学部	長崎国際大学
九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献	2020/11/9	九州文化学園高等学校	学長裁量経費

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

世界の子供を支援する国際協力NGOへの寄付を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

今年度は、コロナの影響でこれまでとは大きく変化した一年間だった。しかし、ネガティブなことばかりでなく、新しい試みを多く試すことができ、新しい幕開けだとも感じた。対面で他人と接することはもちろん大事だが、オンラインでも十分に人とのつながりは感じる事ができた。これまで、出張する場合は旅程に多くの時間を費やさなければならなかったが、セミナーやミーティングがオンラインで実施されることが多くなり、通常業務をしながらあらゆるセミナーに参加できるようになったことは、非常に便利だった。しかし、学生の立場になると、やはりオンライン授業だけでは精神的な負担が大きかったようだ。カメラをオフにしたまま長時間画面から流れる映像で授業を受けることは、集中力がもたないという声が多かった。教室で授業を受けると、他の学生の姿勢が目につくので、緊張感を保ったまま受講できていたということを知ることができたようだった。また、意外なことに普段あまり口数が多くない学生が、オンラインでの面談時にはよく話すという発見もあった。学生のケアを考えたとき、対面だけではなくオンラインを利用した会話も視野に入れて、多様化していく学生に幅広く対応できるようになりたいと感じた。

研究面では、今年度は学会に参加することができず、また卒業研究指導においても日数が限られていたため、思うようにはすすめられなかった。次年度は、マウスの数を計画通りに維持し摂食実験を進めていかなければならない。

広報活動では、コロナ渦ではあったものの対面にて模擬講義をすることができた。感染予防に十分に気を付けながら、高校生にPCR検査を体験してもらうことができ、アンケート結果から高い満足度を得られた。大学の宣伝に貢献できた。また、九州文化学園高等学校でも理系科目推奨を目的に模擬実習を行った。今後も継続していくことで、薬学部へのグループ内進学者数増加を目指していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 講師 氏名 吉田 達貞

1. 教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を学生に教育するだけでなく、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ、複雑さ、面白さを物理化学的観点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察することができ、医療・保健・福祉の担い手の一員として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することです。よって、担当の授業では、(1)薬学を理解する上で必須となる基礎的な物理化学の概念や原理に基づき広範な生命化学の現象を理解する能力を修得すること、(2)医療や生命現象の膨大な実データをコンピュータを活用した統計論や確率論に基づき体系的かつ客観的に整理、分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得することを重視します。薬剤師が担う医療業務は言うまでもなく全て科学的根拠に基づくものであり、現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに経験したことが無いような問題にも取り組み、独自の答えを与える力が要求されます。したがって、学部の低学年から論理的かつ厳密な思考能力を養う訓練を重ねることは、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、卒業後の将来に亘って大きな財産になるものと信じています。そのため、授業では学生には単なる公式の丸暗記ではなく、その背景にある科学的根拠や理論を辛抱強くじっくりと理解することの大切さを学んで頂きたいと考えています。その手助けをすることが私の教育の責任です。何よりも寄り添い型の授業展開を心掛け、学生との信頼関係を築くことで、一人でも多くの学習意欲を高く維持することに努めて参ります。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑨
物理学演習	12 / 12 (後期)	0.5	45	②③⑨
基礎の物理学	15 / 15 (前期)	2	43	②③⑨
教養セミナーA	15 / 15 (前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15 / 15 (後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
宇宙と薬学	15 / 15 (前期)	1.5	21	②③⑨
卒業研究(6年)	60 / 60 (通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究(5年)	30 / 30 (通年)	2	2	④⑤⑥⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Advanced Social Pharmacy	2 / 15 (前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

・「物理学演習(Aクラス)」では、満足度4.4、理解度4.2の評価を得ることができました。授業の方法に関しても、対面型(日本人学生)とZoomでの遠隔型(未入国の韓国留学生)の同時進行ながら、いずれの項目も4.5以上の比較的高い評価をいただくことができました。演習科目であることから、講義中のほとんどの時間を問題を解かせその解説を行うことに充てましたが、学生の興味は4.2とやや低い評価となりました。この点の改善が満足度の向上にも繋がると思いますので、演習問題の内容が今後履修する上位科目や薬学とどのように関わっていくかをできるだけ説明するように授業設計を見直して参ります。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	103	2020/11/17, 2限
総合演習Ⅱ(5留)	1	6	2020/11/17, 2限

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

分子科学計算を用いた医薬品及び生体関連分子の活性・機能発現メカニズムの詳細解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	3	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Protective Effect of Antioxidative Liposomes Co-encapsulating Astaxanthin and Capsaicin on

CCl4-Induced Liver Injury／2020年8月／Biological & Pharmaceutical Bulletin 43(8)／1272-1274
／共著／論文

Cytotoxic activities of sesquiterpenoids from the aerial parts of Petasites japonicus against cancer stem cells／2020年6月／Journal of Natural Medicines 74(4)／689-701／共著／論文

Chemical structures and cytotoxic activities of the constituents isolated from Hibiscus tiliaceus／2020年4月／Fitoterapia 142(1)／104524／共著／論文

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

量子化学計算に基づくピリジン-マレイミド誘導体の蛍光特性の解析／2021年3月／日本薬学会第141年会

凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法／2021年3月／日本薬学会第141年会

ピリジン-マレイミド誘導体の効率的合成と蛍光特性／2021年3月／日本薬学会第141年会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター	委員	卒業生アンケート、大学IRコンソーシアム主催の「新入生・上級生調査」の実施に協力し、その集計結果より、学部内における課題の抽出と対策の提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	2020年度教育基盤センター紀要に薬学部の状況報告を行った。
CAI運用・活用委員会(学科)	委員長	新CAIシステムの運用と整備に従事した。1年生向けのリメディアル科目の課題を新たに開設し、関連科目担当の教員の協力の下に合計490問の問題・解説の登録を行うとともに、従前どおりの週間試験問題の追加登録を進めた。新たに学生向けに利用方法のYouTube動画を作成、メールでの疑義照会の受付を開始した。
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	2～6年生の学内CAI試験の準備とその円滑な実施に努めるとともに、長期休みや実務実習中の課題、留年生向けの課題等の受験発行を行った。

CBT実施委員会(学科)	委員	本学のCBT体験受験、本試験、再試験において、管理者として試験の円滑な実施に従事した。
入学前・初年次教育委員会(学科)	委員	物理・数学系の担当として、入学者の教育教材の選定ならびに入学前教育の一環として課題の添削等を行った。
図書選定委員会(学科)	委員	図書選定に携わった。
教務委員会(学科)	委員	新入生および保護者向けの出席管理システムマニュアル、実習生向けの生涯メールマニュアルをそれぞれ作成した。
薬学部内LAN受付担当(学科)	委員	新任教員の先生方のPCおよびネットワーク設定のサポートに従事した。

(2)ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学教育協議会・物理化学系教科担当教員会議	委員	遠隔で開催された2020年度会議に参加した。

(3)課外活動の指導等

該当なし

(4)広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパス参加/2020年7月26日、2020年8月23日、2021年3月20日/本学

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性相関部会	幹事	2011年度～現在に至る	日本薬学会構造活性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

国際生物学オリンピック2020リモート大会 (IBO Challenge 2020)における情報学部門を担当し、学外委員とともにリモート試験の準備、円滑な実施に努めた。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動：今年度より初めて開講する4次カリ科目や大学院講義もありましたが、授業アンケートの結果は概ね満足のものでした。次年度も初めて開講する科目や実習の担当が増えるため、早目にスライド資料等の作成にとりかかりたいと思います。また、研究室配属の6年生2名が無事に卒業要件を充足し、国家試験を受験できたことに安堵いたしました。一方、コロナ禍でほとんど研究室に来ることがなく原級留置となってしまった5年生に対しては、保護者や教育支援センターの先生方のご協力を得つつ、より一層の勉強のサポートをして参りたいと思います。

研究活動：コロナ禍で研究棟への部外者の入構が制限され、実験機器の修繕を行うことができず、

効率が落ちてしまいました。次年度早々に機器の修繕を行い、今年度に準備をしていた研究テーマを順次遂行して参りたく思います。また、外部資金獲得の応募に関しても科研費を含め、より積極的に挑戦して参りたいと思います。

大学運営活動：今年度はCAI運用・活用委員会委員長を拝命しました。新CAIシステムの運用とコロナ感染対策下での試験の実施や遠隔試験の対応と慣れないことばかりで右往左往してしまう場面も多かったですが、周囲の先生方の的確なご助言とご協力のおかげで大きなトラブル等なくすべての学内CAI試験を終えることができました。同時に、一部の委員の先生方に大きな負担をかける結果となってしまいました。来年度も委員長をすることがあれば、業務配分を見直して参ります。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 榎本 彩乃

1. 教育理念

私の教育理念は、実践の場でも確かな知識をベースとして応用力・判断力を発揮でき、かつ生涯を通じて医薬品の専門家として社会に十分な貢献をできる薬剤師を育てることである。

現在、様々な現場において機械化が進んでおり、薬局においてもその傾向があることは否めない。機械化は、薬剤師の負担やミスの減少に貢献する反面、将来単純作業を行う人材の需要は減少すること考えられる。また諸外国をみると、ピッキング等の比較的単純な作業は薬剤師ではなくテクニシャンの仕事となっている国もある。これらの事情から、今後薬剤師はこれまで以上に機械では補えないスキルと幅広い知識・判断力といった高い能力が求められるようになると予想される。そのような社会の変化に柔軟に対応していくためには、常に自身の研鑽を怠らず、自ら学んでいく姿勢が必要不可欠である。基礎科目は薬剤師業務とは関係ないと考えがちではあるが、新しい物事を学ぶためには十分な基礎知識と応用力が重要である。そのため将来にわたっても活用できる知識を身に付け、また応用できる能力を伸ばすことを目標とする。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	2 / 45 (通年)	2	100	②③
物理学演習	12 / 12 (後期)	0.5	28	②③⑨
基礎の物理学	15 / 15 (前期)	2	27	①②③⑨
総合基礎学習 I	15 / 15 (通年)	0.5	121	④
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	103	①④⑧⑩
生薬学実習	7 / 8 (後期)	1	120	①②③④⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度の授業アンケートの結果は、昨年よりも向上していた。今年度はほぼオンライン講義ではあったが、その特性を活かした結果かと考える。

講義中にはタブレットを用いて資料に書き込む、リアルタイムでどのように問題を解けばよいのか等を示せたこと、また講義録画を公開しておくにより聞き逃しなどあった学生の復習が可能であったこ

と、例年よりも、学生の理解が悪いところは補助教材(動画)の作成を行うことで理解を促せたことが要因かと思われる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習IIIB	1	121	2020/10/29

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

磁気共鳴法による生体情報計測を目的とした機器開発及び計測手法の新規構築

MRIをはじめとした磁気共鳴法では、非侵襲的に生体内の様々な情報を取得することが可能である。特に本研究で利用するオーバーハウザー効果MRI (OMRI)を用いた測定では、生体内の酸素分圧分布やpH分布などを非侵襲的にかつ定量的に取得可能である。これらの情報をより精度よく計測するためには、生体の部位の特徴や疾患に応じた測定機器や手法が必要となる。研究では、電子回路設計をはじめとしたハードウェア面から、OMRI装置の高感度化及び生体計測への最適化を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	429万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁~○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁~○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Dual channel EPR excitation coil array for Overhauser-enhanced MRI.

/2021/2/Journal of magnetic resonance/ 106890/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

電気泳動を利用したニトロキシルプローブ分離分析法の開発(第3報)

/2020/11/14/電子スピンスイェンス学会2020

磁気共鳴in vivo計測の汎用性向上のための共振器に関する研究

／2020/11/14／電子スピンスイェンス学会2020

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
磁気共鳴法による定量的な悪性黒色腫瘍深達度評価手法の新規構築	日本学術振興会	2020年4月～2022年3月	429万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部学生委員会	委員	学生委員会として卒業式などの行事の準備などを行った
薬学部教務委員会	委員	オリエンテーションの準備等をおこなった
薬学部CAI活用委員会	委員	CAI試験の準備や、待機などを行った
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	特にCBT関連の試験の取りまとめ、印刷、解析や、講習会のお知らせ、セッティングなどについて活動を行った。
薬学部動物管理委員会	委員	動物室の片付けなどを行った

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席

2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

電子スピンスイェンス学会2020 奨励賞受賞

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動に関しては、オンライン化に伴い、対面よりも質問がしにくいことを考慮し、メインの講義動画の他、理解が悪い部分については、補助の動画を作成するなど、理解力の向上に努めた。また、iPadを用い、計算の途中過程や、昨年までの講義で多くの学生が理解していない部分について、図解しながら解説するようした。また、対面講義においては、毎回の小テストを回収し解答を確認し、理解が不足している学生や、質問を記入した学生にたいし細かいコメントを返した。

研究活動については、論文2報を投稿し、1件は査読付き国際誌に採用、もう1件はリバイス中である。また、科研費、及びJST創発的研究支援による研究費(2021年4月より開始)を獲得することもできおり、おおむね順調に研究を進めることができている。

大学運営活動に関しては、大学側から割り当てられた仕事に関しては問題なく遂行できたと思う。今後も割り振られた仕事に関しては責任をもって行う。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 大神 正次

1. 教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	2 / 45 (通年)	2	100	①⑨
化学演習	10 / 15 (前期)	0.5	46	①②③④⑨
放射線医療学	1 / 15 (前期)	1.5	134	①②③④
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	46	①②③⑥⑨
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	123	①②④
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	122	①②③④⑤⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の化学(Aクラス)および化学演習(Aクラス)において、前期の授業アンケートは実施されなかったが、毎回の出席確認でmanabaアンケートやResponを用いて感想や意見を求めた結果、概ね満足度や理解度は高いものであった。Zoomでの遠隔授業は初めての試みであったが、グループセッション機能を活用したSGDやコメント機能を活用することで、可能な限り双方向性のある授業や演習を心掛けた。

後期の総合演習Iでは、前期に実施するコマがなかったことにより90分間では多すぎる内容を詰め込みすぎたためか、「内容が多すぎる」「スピードが速すぎる」という不満がコメントとして得られた。この

点に関しては十分に反省し、時間内で終わる演習量に調整するなどの改善が必要である。manaba等の学習ツールを活用し、復習として時間外での学習を促したい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
基礎の化学・化学演習 補習	4	24名、44名、44名、24名	6/10, 6/25, 7/8, 7/20
総合演習Ⅱ	1	110	11/17
総合演習Ⅱ(5留)	2	6名	5/15, 11/17
総合演習ⅢA(6留)	1	24名	5/7
総合演習ⅢB	1	121	10/22
総合演習ⅢB(6留)	1	24名	5/7

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- (1) 生体内分子イメージングを可能とする放射性プローブの開発
- (2) 重粒子線感受性に影響を与える抹消性NMDA受容体の解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	1	1	416万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
重粒子線治療に伴う副作用の予測と軽減技術/2020年4月/Precision Medicine/347頁-351頁/
共著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費(若手研究)	日本学術振興会	令和元年～令和3年	416万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
放射線障害予防委員会	委員	(1)安全管理および施設管理の実施担当者、(2)教育訓練および健康診断の実施、記録、(3)放射線管理状況報告書の作成、(4)委員会の議案作成、(5)放射線障害予防規程関連細則等の作成、(6)使用許可証変更届手続き など
学生委員会(薬)	委員	特待生等選考(薬GPA算出)、卒業式準備、など

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
RI施設管理担当者	放射線取扱主任者、安全管理担当者、施設管理担当者	放射線源の安全使用に関する管理、管理区域に立入る者の入退域管理、放射線被曝および放射線汚染の管理、ならびに放射線取扱施設の点検等に関する業務全般 など
初年度教育担当	化学担当	化学取りまとめ、プレイスメントテスト実施および集計、補習の実施、個別対応 など

(3) 課外活動の指導等

- ・薬学サッカー部 監督

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ・センター入試 試験監督
- ・オープンキャンパス(夏期参加)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席

2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やポートフォリオをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。

大学運営面においては、放射線管理のほか、薬学部学生委員会などで貢献できていると考えている。

研究面では、大学施設外での共同研究(千葉市・放射線医学総合研究所)を継続しており、炭素線を照射したマウスの腸管サンプルを用いて核医学的トレーサーを使った解析を進めている。得られた結果をまとめ、論文の作成段階にある。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 大久保 伸哉

1. 教育理念

私は、病院の薬剤師として、長期実務実習に励む薬学部生に対する指導経験があり、長崎国際大学の学生および他大学の学生のどちらにも指導した経験がある。その際に私は、長崎国際大学の学生は他大学の学生と比較して、患者のみならず職員に対する気配りも上手で心の優しい学生が多い印象を受けた。これは、長崎国際大学の建学の理念の「人間尊重」の重要性を学生が理解し、「ホスピタリティの探求・実現」を実行しているからだと思う。このことは、長崎国際大学の強みであり魅力でもあると考え、私もそのような学生を育てる教育を行いたい。そのために、以下の理念と方法を掲げる。

講義においては、私の病院および薬局での勤務経験を活かし、ひとつの事項に対し病院薬剤師の視点と薬局薬剤師の視点それぞれから内容を吟味するような講義を実施する。例えば、薬剤師として患者から求められる知識・アドバイスにおいて、病院と薬局で共通する点あるいは違いを区別しながら示す。それによって、病院薬剤師と薬局薬剤師の役割や求められる職能の違いを、学生がより具体的にイメージできるようになり、非常に有意義な講義となる。

演習では、私の担当する分野の国家試験過去問題を解かせ、解答の解説に力を注ぎ、確実に点をとれるような演習を実施する。また、私の担当分野においては、問われていることが倫理的な部分である場合もあるので、正答の選択肢の解説よりも、誤りの選択肢の適切でない点を時間をかけて解説し、学生が誤解なく理解できるような演習にする。知識の習得のみならず、人間尊重の理念に基づいた、薬剤師にふさわしい倫理観を構築できるような演習にする。

実習では、臨床の現場は作業スピードと正確さを重要視することから、素早いスピードを保ちつつ正確さを損なわないような動き方や考え方を、学生に自ら考えさせるような指導を行う。その際には、ホスピタリティの探求を意識させ、効率を優先するあまり、共に作業にあたる者の気分を害するような動き方になってしまわないよう留意する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの 類型
病院	19 / 19 (通年)	10	4	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑩⑫

薬局	21 / 21 (通年)	10	4	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑩⑫
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	②
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	3	②
総合演習ⅢA	1 / 23 (前期)	1.5	114	②
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	②
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	②
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	99	①②③④⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩⑪⑫
調剤学	4 / 15 (前期)	1.5	105	①②⑧
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	105	①②④⑨⑫
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	105	①②④⑨⑫
総合実習	6 / 6 (後期)	1	105	①②⑧⑫
調剤 I	11 / 11 (前期)	3	105	②⑤
調剤 II	9 / 9 (前期)	3	105	②⑤

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケート集計の結果、全13問からなる質問の平均回答評点が4.68点(5点満点)であった。自由記述のコメントには、見やすい講義資料、質問に対する丁寧な回答、熱意のある授業等の喜ばしい表現があった。以上のことから、今年度はおおむね良好な講義や実習が実施できたと自己評価した。次年度は、今年度良好な評価につながった私の熱意や質問に対して丁寧に回答するというスタンスを維持しながら、今年度以上の見やすい講義資料の作成に尽力する。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習 I の補習	1	60	2020年12月10日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①医療用医薬品成分に対するモノクローナル抗体を用いた応用研究

医療用医薬品として使用される薬用成分に対するモノクローナル抗体を作製し、薬物濃度を測定す

るためのELISAおよび新規測定法の開発を目指した研究。最終的には、臨床における血中薬物濃度測定への応用を目指している。

②オートファジー制御機能成分を用いた抗がん活性評価と応用研究

すでに我々は、漢方薬の素材である生薬を含む約130種の生薬エキスイブラリーを用いたオートファジー制御活性スクリーニングの結果、オートファジーに影響を与える活性成分を含む可能性の高い生薬エキスを選抜している。

さらに、選抜された生薬のひとつである牛蒡子(ゴボウシ)に含まれるarctigenin (ARG)のオートファジー制御活性および作用機序の解析を行い、ARGががん細胞のオートファジーを阻害することを明らかにした。

今後は、がん細胞がオートファジーを介して獲得する様々な細胞防御機構に対して、ARGの機能評価を行うことで、オートファジー制御を介した新たな抗がん剤開発の礎となれるような研究を行っていくとともに、ARG以外のオートファジー制御活性を有する活性成分の探索研究も引き続き行う。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Costunolide and dehydrocostuslactone from Saussurea lappa root inhibit autophagy in hepatocellular carcinoma cells. /2021年/Journal of Natural Medicines vol.75/240-245/共著/論文
Arctigenin suppresses cell proliferation via autophagy inhibition in hepatocellular carcinoma cells. /2020年/Journal of Natural Medicines vol.74/525-532/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
牛蒡子に含まれるアルクチゲニンのオートファジー阻害作用と展望/2021年3月/第2回長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部 国試・CBT対策委員会	委員	通年に渡って、国試対策の演習等を実施した。また、薬ゼミ等の外部講師による講義の際に、コロナ対策のための遠隔受講Zoomセッティングの担当者として、機器等の事前準備やプリント配布等に尽力した。
薬学部 OSCE実施委員会	委員	通年に渡って、滞りなくOSCEが実施できるよう会議等の参加や学生の指導、また当日の会場設営などに尽力した。
薬学部 事前学習運営委員会	委員	通年に渡って、OSCEで良好な成績を収められるよう学生の指導に尽力した。また、必要に応じて補習等も行った。
薬学部 実務実習運営委員会	委員	通年に渡って、滞りなく実務実習が実施できるよう会議等の参加や議事録の作成等に尽力した。
薬学部 就職委員会	委員	会議には欠かさず参加した。
薬学部 生涯学習・教育委員会	委員	学生にとって有益となる資料(冊子体)の配布等の作業時に、他の委員と協力し迅速な作業の完了に尽力した。
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓生1期生の幹事を拝命し、大学からの連絡事項等の伝達に尽力した。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

特に実績なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

本学のオープンキャンパスにおいては、薬学部内の施設見学等の案内役を拝命し、解説を加えながら施設内を案内した。また、体験学習の担当研究室(医療薬学)の一員として、体験内容の構築・準備・実施に携わり、さらには当日の手技実演担当者として模範となるような手技の実演に尽力した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席

2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
第7回地域の期待に応える実践活動「薬剤師として働くことの魅力と地域で働くことについて考える」	令和2年11月8日	長崎国際大学	佐世保市薬剤師会

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

令和2年11月8日 第7回地域の期待に応える実践活動「薬剤師として働くことの魅力と地域で働くことについて考える」

ファシリテーターとして参加、佐世保市薬剤師会からの依頼のもと本学薬学部教員による主催

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育: 大学教員1年目として、講義内容の構築や講義スライドの作成には大変苦労した。さらに、遠隔講義を成立および充実させるための工夫等も加えながらの業務遂行は本当に大変であった。しかしながら、なんとか大きなトラブル等なく各業務を遂行することができた。来年度は、ひとつひとつの業務の質を向上させていきたい。

研究: 大学院時代の取得データ(未発表データ)を用いて、なんとか原著論文1報掲載の目標は達成できた。しかしながら、今年度取得した自分の研究テーマに関するデータはほとんどない。したがって来年度は、教育活動と研究活動の両立を必ず実践する。

総括評価: 大学教員1年目の私にとっては、全業務が初めてで戸惑いの連続であった。そのような中、講義、演習、実習、委員会活動や社会貢献活動をトラブルなく成就させ、かつ論文1報掲載ができたのでこの1年は悪くないスタートであったように思う。来年度もこのモチベーションを維持しながら業務遂行に努める。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 太田 智絵

1. 教育理念

私は講義や研究室での教育を通じて、学生に生薬・天然物化学に興味を持ってもらい、自ら進んで学習してもらいたいと思っている。生薬・天然物化学の知識をただ単に説明するのではなく、授業で学んだ知識が医療現場においてどのように活用できるかを重点に置き、学生が薬剤師となってからも役立つものにする。さらに、学生の卒業後の漢方薬・生薬認定薬剤師などの認定に興味を持つきっかけをつくれればと思う。

さらに私は1年生の化学も担当しており、本科目は学生にとって化学の基盤となるものと考えている。

そのため、しっかりとした知識を出来るだけ詳細に、わかりやすく教授するように心がけている。学生には薬学の基礎となる化学の面白さを知ってもらい、有機化学や分析化学、天然物化学などの応用科目に繋げていってもらいたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
生薬学Ⅱ	4 / 15 (後期)	1.5	104	①②⑨
化学演習	15 / 15 (前期)	0.5	19	①⑧⑨
総合基礎学習Ⅱ	15 / 15 (通年)	0.5	100	①②⑥⑨⑪⑫
有機薬化学実習	11 / 11 (後期)	1	123	①②④
生薬学実習	8 / 8 (後期)	1	120	①②③④⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	②
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業アンケートを実施した科目は生薬学Ⅱ(後期)であり、すべての質問項目において、学内平均を上回ることができたことから、概ね授業満足度は高かったと考える。

生薬学Ⅱは「生薬学実習」と学習内容をリンクさせ、学生の理解度向上を図った。書き込み式の資料を配布し、学生が重要なポイントを理解しやすいようにした。復習プリントも作成し、講義内容の復習を学生自ら取り組めるようにした。配信する動画は編集を行い、無駄な時間はなくすよう心掛け、ま

た、動画を学習項目ごとに分けることにより、学生の集中力を保てるようにした。

字が読みにくいとの指摘があったので、来年度は丁寧に記述することを心掛けたい。今年度はすべて遠隔講義であり、学生の理解度の把握が不十分であったことから、来年度は対面での小テストなども検討していきたい。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
調剤Ⅰ(事前学習)	9	105	6/4、6/5、6/11、6/12、6/18、 6/19、6/26、7/2、7/3
総合実習(事前学習)	3	105	11/24、12/1、12/8
化学演習の補習1	1	24	6/10
化学演習の補習2	1	44	6/25
化学演習の補習3	1	44	7/8
化学演習の補習4	1	24	7/20
総合演習Ⅰ	1	115	10/1
総合演習Ⅱ	1	103	11/16
総合演習ⅢA	1	120	5/28
総合演習Ⅱ(5留)	2	6	5/29、11/16

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 伝統医薬中の抗癌、抗炎症、メラニン合成調節作用等を持つ成分探索とその作用機構解明

国内外で用いられている伝統医薬から、抗癌、抗炎症、神経細胞分化・保護作用、メラニン合成調節作用、メタボリックシンドローム予防等に効果のある活性成分を単離・同定し、さらに活性成分の作用メカニズムの解明を行っている。これまで、エキスライブラリーの薬理活性スクリーニング、さらに活性画分の調整と活性評価を繰り返すことで、新規化合物を含む多くの活性成分を単離・同定し、分子レベルでの作用機序を解明してきた。現在丁子に含有する化合物のメラニン合成調節作用について解析を進めている。

② 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

これまで利用・研究されていなかった非薬用部位の有効利用を目的に含有成分の探索および活性評価を行っている。これまでに柴胡の地上部の含有成分が抗癌作用を持つことや、当帰の地上部が根と同様に強い抗炎症作用を持つこと、地黄の葉が降圧作用を有することを見出し報告してきた。現在葛の非薬用部位に着目し研究を進めている。

③ 不妊症に効果のある生薬成分の探索研究

現在社会的問題になっている不妊症に効果のある天然物を探索し、その作用機序解明を行っている。これまで甘草の成分が精子を活性化し、人工受精率を上昇させることを見出し報告してきた。現在甘草以外の天然物からの活性成分探索を行っている。

④ECDスペクトル計算を用いた化合物の絶対立体配置の決定

ECDスペクトルの実測値と量子化学計算により得られる同スペクトルの計算を比較することで、化合物の絶対立体配置の決定を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	7	2	2	2088万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Arctigenin suppresses cell proliferation via autophagy inhibition in hepatocellular carcinoma cells.
/2020年3月/Journal of Natural Medicines/525-532/共著/論文

Haprin-deficient spermatozoa are incapable of in vitro fertilization. / 2020年4月 / Molecular
reproduction and development/87(5), 534-541/共著/論文

Cytotoxic activities of sesquiterpenoids from the aerial parts of *Petasites japonicus* against cancer
stem cells./2020年6月/Journal of Natural Medicines/74(4), 689-701/共著/論文

Applications of Monoclonal Antibodies Against Natural Compounds for Functional Analysis of
Crude Drugs/2020年8月/Current Pharmacology Reports/6(4), 192-201/共著/総説

Costunolide and dehydrocostuslactone from *Saussurea lappa* root inhibit autophagy in
hepatocellular carcinoma cells/2021年1月/Journal of Natural Medicines/75(1), 240-245/共著
/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

萆薢および木香含有成分によるがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用/2020年3月/
日本薬学会第140年会

丁子に含まれるメラニン合成促進成分の探索/2020年3月/日本薬学会第140年会

オノンおよびホルモノネチンに対するモノクローナル抗体作製と免疫化学的分析手法の確立/
2020年3月/日本薬学会第140年会

フキ (*Petasites japonicus*) 地上部含有成分の化学構造およびがん細胞毒性評価/2020年3月/日
本薬学会第140年会

オハマボウ (Hibiscus tiliaceus) 幹および枝より得られた成分の化学構造およびがん細胞毒性活性の解析／2020年3月／日本薬学会第140年会

オートファジーを活性化する新奇機能性食品の栄養シグナル非依存的分子機構と作用成分の解明／2020年11月／2020年度日本フードファクター学会・日本農芸化学会西日本支部合同大会

ガーナ薬用植物Morinda lucida に含まれる抗原虫活性成分に関する研究／2020年11月／第11回薬学研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等 (名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
平成30年度科学研究費補助金 若手研究 (代表)	文部科学省および日本学術振興会	平成30年度～令和2年度	320万円
2020年度科学研究費補助金 基盤研究B (分担)	文部科学省および日本学術振興会	令和2年度～令和6年度	1768万円

(4) 国内外留学等 (留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動 (委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	3年生学年主任
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	模試・販売・学内模試準備 週間試験 取りまとめ担当 夏期・冬期合宿 (6年) での質問対応 薬剤師国家試験引率
薬学部学生委員会	委員	各賞授与式の準備および実施
薬学部CAI活用委員会	委員	化学 (1年生) の問題入力 化学 (1年生) の補習実施 夏・春課題 (3年生) の実施
薬学部薬用植物園運営委員会	主任	薬用植物の栽培および管理
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCEの準備および実施

(2) ワーキング・グループ活動その他 (ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
共同機器管理	管理担当	・NMR装置およびMS装置のメンテナンス・管理担当およびトラブル発生時の対応、渉外など ・分取HPLC導入のための書類作成、機種選定、説明会の実施など

(3) 課外活動の指導等

- ①6年次勉強合宿(夏および冬)での質問対応/8月10日、1月17日
- ②第7回地域の期待に答える実践活動サポート/11月8日
- ②薬剤師国家試験の引率/2月19～21日

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ①JST(科学技術振興機構) 令和2年度「女子中高校生の理系進路選択支援プログラム」/「継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA・SASEBO」 「【リケジョ×ワタシノ#】未来に輝くNIUのリケジョ」出演 /12月13日から動画公開

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

- ①論文審査3件
- ②学内クリーンキャンパス運動への参加/11月24日

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育

本年度は遠隔講義に必要な備品等を揃えることができ、問題なく講義を実施できるようになった。遠隔講義であってもアンケートやzoom面談を駆使し、きめ細やかな指導を行うことができた。来年度は配信動画など利用しつつ、より良い講義を目指していきたい。

・研究

研究原著論文5報であるが、そのうち筆頭著者の論文は0報である。本年度は共同研究を活発に遂行することができたが、自身の研究の成果がでていないので、来年度は力を入れていきたい。第11回薬学研究発表会にて研究発表を行ったが、その他の学会発表はできていない。科学研究費補助金(若手研究)を応募したが、結果は未定である。

・社会貢献

オープンキャンパスに参加し学生募集に努めた。さらに

・大学運営

CBT・国試対策委員会、教務委員会、学生委員会、CAI活用委員会、OSCE実施委員会、薬用植物園運営委員会を中心に責任を持って業務を遂行した。本年度からCAI活用委員会に加入したが、CAIを使って担当科目の補習を行うなど、自ら積極的にCAIを活用した。

・全体

本年度は遠隔講義の導入等で、講義準備にかなり時間を要してしまった。遠隔講義は問題なく実施できるようになったが、自身の講義を振り返ると課題もあり、改善が必要である。研究面では成果が不十分であることから、来年度は自身の研究に尽力していく。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 倉岡 卓也

1. 教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラー ニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①
微生物・免疫学演習	2 / 15 (前期)	1	51	①
微生物・免疫学演習	2 / 15 (前期)	1	52	①
コンピュータ基礎演習 I A	5 / 15 (前期)	1	110	②
微生物学・免疫学実習	3 / 9 (前期)	1	103	①②⑦⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は授業アンケートを実施していないが、授業終了後に実施したアンケートでは、記載してある要望については積極的に採用し、改善を図った。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	微生物学	15/15(前期)	2	79

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA補習	1	1	7月17日

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

(1) 抗生物質を利用した新しい研究用試薬の開発:微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的

機能を持つことが知られています。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出しました。このあたかもレクチンの様な性質を利用して新しい研究試薬への応用を試みています。現在はカンジダ細胞壁マンナンと冬虫夏草の研究を通して、その有用性を検討しています。

(2) 冬虫夏草の人工培養で産生される生理活性物質の探索: 昆虫生体培養法を用いて冬虫夏草の安定供給に成功している企業と提携し、この抗腫瘍活性本体(低分子化合物)の特定及び構造決定を目標に冬虫夏草培養液の分離・精製を進めるとともに、正常細胞への影響を動物実験等から評価することで、新規医薬品リード化合物の発掘と同時に他の生物活性の探索に邁進しています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	1	1	325万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
人工培養した国産冬虫夏草の生理活性スクリーニング/2020年10月/アグリバイオ/110-112/
単著/総説

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金(若手研究)	日本学術振興会	3	325万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CAI運用・活用委員会	委員	CAI試験準備、試験管理

国試・CBT対策委員会	委員	アンケート作成、講習会準備
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会薬学部門との連携
地域連携委員会	委員	地域の期待に応える実践活動の代表
OSCE実施委員会	委員	OSCEの準備、運営
教務委員会	委員	オリエンテーション準備

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 高校生夏休み薬学体験学習/8月11,12日/場所:長崎国際大学6201教室
- ② 県立猶興館高校薬学体験学習/8月20, 21日/場所:長崎国際大学6201教室
- ③ 九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献/11月9日/場所:九州文化学園高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日・場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

総合演習 I の一環として「地域の期待に応える実践活動」の代表を務め、佐世保市薬剤師会及び行政と共同して実施した。また、この活動が長崎新聞に掲載された。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

オンラインにより授業を行い、積極的に授業後のアンケートを取ることで学生の要望を取り入れた授業を行うように努めた結果、概ね高評価を得ることができました。特にコンピューター基礎演習 I A については、学生が所持しているパソコン及びソフトがバラバラで指導に苦慮しましたが、Zoomの機能や授業時間外にも対応することで実施することができました。研究については、研究室配属生の協力もあり、新たな知見を得ることができました。科研費に採択されているテーマについては、論文を執筆するにはデータが不足していますが、今後データを積み重ねて結果を出したいと思います。Candida属をテーマにした研究については、年度末までに論文を投稿・掲載できる予定です。代表を務めた「地域の期待に応える実践活動」については、対面とオンラインを駆使して感染症対策に配慮して実施した結果、このような状況下でも無事に開催することができました。また、今回初めて青年薬剤師会会長にも協力していただくことができ、さらに発展させることができました。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 末廣 真理恵

1. 教育理念

薬学教育においては、6年制薬学部を卒業し誕生した薬剤師の現状を点検・評価し、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂が進んでいる。その中で、今後臨床系の科目や病院・薬局における実務実習のさらなる充実を図る必要性が強調されている。私は、薬剤師の実務を経験した教員として、臨床の場で働くために必要な知識や考え方を学生に伝え、学生自身が能動的に学習する意欲の向上に貢献していきたい。また、私自身が長崎国際大学薬学部の卒業生で、6年制教育を受けて薬剤師になり、実際に実務実習や国家試験を経験していることから、比較的學生に近い立場の教員として学生の意見を学部の運営にも活かしていけるよう努力していきたい。

これからの薬剤師に求められる資質の1つとして「研究マインドを持った薬剤師」が挙げられる。実際に病院薬剤師として勤務していると、様々な職種の医療スタッフが専門性をそれぞれ発揮する「チーム医療」において「薬剤師の視点」が他の職種から強く求められていると感じることが多くある。薬学部の学生は共用試験や国家試験に合格することにばかり目を向けがちだが、学部の学生のうち研究に触れておくことは、将来の選択肢を増やすとともに薬剤師として働くために必要な資質や生涯学び続ける姿勢を養う上で非常に大切である。私が実務系の教員として現場の薬剤師の視点を生かして研究活動を行うことで、今後、薬剤師となっていく学生に「研究」を身近に感じてもらうことができると考えている。さらに研究に興味を持った学生が、将来薬剤師として活躍する中で自分自身の視点で臨床現場における問題点を見つけ発信できるように、そして、1人1人の学生が医療現場で必要とされる存在となれるような指導を行いたいと思っている。その結果として長崎国際大学薬学部を、薬剤師として活躍するために必要不可欠となる「問題解決能力」を醸成する大学としての位置づけを確固としたものとするに微力を注ぎたいと考えている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
病院	1 / 19 (通年)	10	4	⑪
薬局	1 / 21 (通年)	10	4	⑪
総合演習Ⅰ	1 / 45 (通年)	2	100	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	⑧
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	⑧
実務実習(病院・薬局)	1 / 54 (通年)	20	99	⑪
薬事関係法規	7 / 15 (前期)	1.5	101	③⑨
病院薬学	5 / 15 (後期)	1.5	99	①②③④⑧⑨

生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	105	⑪
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	105	⑪
総合実習	6 / 6 (後期)	1	105	⑪
薬事関係法規演習	7 / 15 (前期)	1	96	①⑧
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	105	⑪
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	105	⑪
学際連携研究	1 / 15 (前期)	2	254	③⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

薬事関係法規という科目の特性上、学生にとっては将来働く上で必要性を実感することが難しく、興味を引き出しにくい。授業アンケートにおいても、授業内容への興味を問う項目が低い評価であった。

今後は、薬事関係法規を学ぶ必要性について講義の中で示したり、法規が実務と関連している実例を挙げ考えさせるようなアクティブラーニング等も取り入れていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
総合実習補習	6	50	12/11、12/14
薬事関係法規 定期試験解説	1	37	8/20

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

① 薬剤師業務で生じた問題を解決するための研究

実際に薬剤師として働いていると、必ず疑問や問題が発生します。これまで病院薬剤師として勤務する中で、薬剤師業務の効率化や抗がん剤治療における制吐剤について現場の薬剤師として研究を行ってきました。今後も病院薬剤師の視点を生かした研究テーマを探すと同時に、地域の病院や調剤薬局と協力しながら研究を進めていこうと思っています。

② 乳酸菌代謝生産物質の有用性について

乳酸菌を中心とした十数種類のヒト由来腸内細菌の複合培養から調製した発酵液の濾液(乳酸菌代謝生産物質:PS-B1[N])による有用な作用のメカニズム解明および生理活性物質の探索を行っています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
Improvement in High-fat Diet-induced Obesity and Insulin
Resistance upon Uptake of PS-B1, a Fermented Product
Prepared from Soy Flour Using Lactic Acid Bacteria / 2020.7 / Journal of Food and Nutrition
Sciences/81-88/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
大学生を対象としたドーピングに対する意識調査/2021.3/長崎県薬剤師学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

書道サークルの指導を行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため学祭等も中止になり、あまり活動ができていないが、定期試験終了次第、ZOOMミーティングをおこない、今後の活動方針について話し合う予定としている。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

学長裁量経費を頂いている「オンラインによる薬学部就職支援システムの設立」を行っている。卒業生在籍施設を中心に、学生の地元への就職を積極的にサポートしている。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
職業講話(薬剤師について)	2020/11/17	佐世保市立広田中学校	佐世保市立広田中学校

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

大学周辺地域の小学生を対象とした「おくすり教室」や中学生に対する「職業講話」など、地域貢献を積極的に行っている。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称/活動内容/期間/主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議/シンポジウムその他(名称/活動内容[組織・講演・役割]/開催日・場所/主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

<教育>

- ・薬事関係法規という科目を担当し、オンライン講義で多少厳しい部分もあったが、今後は、法規と現場との関連について加え、学生が興味を持てる講義にしていきたい。
- ・事前学習については大幅な内容の見直しを行い、できるだけ現場に則した内容へ変更した。今後も定期的に見直し改善していきたい。
- ・OSCE全員合格を目指して、直前に講習会を開催し、不安な学生に対して個別指導を行った。

<研究>

- ・実務に関する研究テーマを設定し、科研費へ応募した。今後、積極的に外部資金の獲得に挑戦している。
- ・現在、論文を執筆中である。

<社会貢献・大学運営>

- ・薬剤師会等の活動に積極的に協力し、親睦を図ったことで、長崎県病院薬剤師会や長崎県薬剤師会との窓口となり、実務実習の円滑な実施、入試募集や広報活動等、大学運営に繋げることができた。
- ・同窓会薬学部門のHPの改良を行った。今後、卒業生の就職支援制度や在学生と卒業生の交流を深めるための取り組みを行うための準備をしている。まずは定期的にSNSを更新することを目標にしている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 中島 健輔

1. 教育理念

大学人として、自身で考え、学ぶ習慣を身に付けて欲しいと考えている。
 日々の学習習慣がない学生も多数、見受けられるため、そのような学生には
 国家試験合格のためには、継続的に学習をすることが大切であり、
 勉強をしない日を作らず、少しでも机に向かい、勉強時間を増やしていくように指導している。
 効率も重要だが、量をこなしたという自信をつけることが重要と考え、指導を行っている。
 さらに、受け身ではなく、自ら、率先して授業、実習などに参加し、様々な疑問点を抽出し、
 解決までのプロセスを見出せるような教育を心掛けている。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニ ングの類型
病院	19 / 19 (通年)	10	4	②
薬局	21 / 21 (通年)	10	4	⑤
総合演習ⅢB	2 / 30 (前期)	1	23	③
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	③
実務実習(病院・薬局)	54 / 54 (通年)	20	99	①
調剤学	4 / 15 (前期)	1.5	105	③
生物薬剤	10 / 10 (後期)	3	105	②
処方箋解析	10 / 10 (後期)	3	105	①
総合実習	6 / 6 (後期)	1	105	③④⑤
調剤Ⅰ	11 / 11 (前期)	3	105	③
調剤Ⅱ	9 / 9 (前期)	3	105	③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

6年目を迎え、調剤学などの講義を担当するようになり、教育活動においても貢献することが出来た。
 今年度はコロナの影響で遠隔の授業や実習の実施方法も試行錯誤することとなったが、全体的に
 はうまく実施できたと感じる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

末梢組織に着眼した抗うつ物質の探索

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

課外活動は行っていない。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

高校出前講義2件(対馬高校、那覇商業高校)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演/講座その他(題名/開催日/場所/依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名/職名/活動期間/依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特筆すべき活動無し

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

1年間、研究および教育活動に邁進し次年度につながる成果を得た。

次年度は今年度の経験を活かし活動を行う。

調剤学の講義は今年度から担当することとなったので

今年度の講義内容からさらに内容を充実させるつもりである。

調剤Ⅰ、調剤Ⅱ、実務実習総合学習においては年間を通してその遂行に貢献した。

今後も更なるアップデートを行っていく予定である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 中村 沙織

1. 教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。

よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	1 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑨
日本薬局方概論	6 / 15 (後期)	2	96	①②③④
分析化学演習	7 / 15 (前期)	1	128	①②③④⑨
機器分析学	7 / 15 (後期)	1.5	109	①②③④
分析化学・放射線化学実習	9 / 9 (前期)	1	122	①②③④⑤⑩
基礎の数学	15 / 15 (前期)	2	28	②③⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

(機器分析学)満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1→4.4と推移している。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として2教室で講義を行った。片方の教室では中継した映像を見るだけなのでこちらから学生の様子を確認することが難しく、うまく伝わっているか不安であったが、全項目で前回より高評価をいただき安心した。

講義内容が多いため毎年早口を指摘されるが、今回は遠隔対応であることを意識して講義を行った

結果、早口を指摘されることはなかった。

配布資料は毎年改善を重ね、資料に加え要所で板書を用いて説明しているが、今年度は片方が遠隔であったため、板書を少なめにし直接スライドに書き込むよう心掛けた。要所要所で穴埋め式にしていることで、講義を聴きながら書き込むスタイルで重要事項がどこかわかりやすく、また飽きさせにくくしている。重要事項は何度か繰り返して強調する等の工夫を行い、わかりやすかったとのコメントが多かった。

講義ごとに質問や感想を募り、次回以降の講義で反映させている。また、復習用の問題を配布しており、学ぶべき要点を示していることで復習の一助になったと感じる。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
生物薬剤学実習	10	117	2020/10/1-22
総合実習	4	117	2020/12/1-8

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ①ASAP-MS分析法による簡易高選択的分析法の開発
- ②脳腫瘍放射線療法前後の生体成分分析
- ③動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	履修の手引の編集、新入生担当割り振り、オリエンテーション・新入生物品販売等
薬学部入試募集委員会	委員	オープンキャンパス、出張講義(進学ガイダンス)等
薬学部学生委員会	委員	特待生継続審査、保護者会・卒業式の準備等
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	週間試験準備・成績解析、模試・販売・学内試験準備等
薬学部OSCE実施委員会	委員	事前学習・総合実習担当、OSCE準備等

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

- ① 佐世保東翔高等学校進路ガイダンス参加/7月13日/場所: 東翔高等学校
- ② オープンキャンパス学科別プログラム体験学習担当/8月23日/本学
- ② 合同説明会夢ナビライブ参加/10月17日/本学(遠隔)
- ③ 長崎総合科学大学附属高等学校進路ガイダンス参加/2月18日/本学(遠隔)

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席

2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県都市計画審議会	委員	平成27年3月～現在 に至る	長崎県土木部都市 政策課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

- ・教育面では、前期22コマおよび学生実習、後期14コマおよび学生実習を担当した。今年度新たに生物薬剤学実習および総合実習を担当した。初めての遠隔授業で試行錯誤しつつも、一方向にならないよう心掛け、ポートフォリオやresponを活用した講義を行った。遠隔で学生の様子も確認しづらく不安も多かったが、機器分析学の授業アンケートでは例年よりも高い評価を得られた。次年度も遠隔対応が続くので、今回の経験と反省を活かしていきたい。
- ・研究面では、学生の卒業研究の指導を行い、6年生3名の卒業論文を仕上げた。今年度は中止となった学会も多く、発表できなかった。次年度は論文の投稿につなげていきたいと考えている。
- ・学部運営面では、今年度新たに薬学部広報受付およびOSCE実施委員を担当した。薬学部国試CBT対策委員会では週間試験の準備・解析や、外部講師資料の準備、実力試験準備担当の割り振り等を、薬学部教務委員会では主に履修の手引きの編集を担当している。薬学部学生委員会では特待生継続審査等を、薬学部入試募集委員会では出張講義やオンライン相談会に3回参加した。また、オープンキャンパスでの体験学習を担当した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 波多江 日成子

1. 教育理念

- ・九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。
- ・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
- ・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
- ・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習 I	2 / 45 (通年)	2	100	⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	⑫
化学演習	15 / 15 (前期)	0.5	41	①⑥⑨
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	40	①⑨
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	102	⑨⑪
物理化学実習	7 / 7 (前期)	1	103	⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、遠隔授業においてはSGDを行い学生間の交流・知識向上に努めた。さらに補講を複数回行い、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。また臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、アンケートの結果も良好であった。今年度は半分は動画での実習も行ったが、その評価は概ね良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。さらに、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
リメディアル化学補習	1	24	6/10
リメディアル化学補習	1	44	6/25
リメディアル化学補習	1	44	7/8
リメディアル化学補習	1	24	7/20
総合演習ⅢA	1	24	5/12
総合演習Ⅱ	1	6	5/13

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

- ・ヒト赤血球膜蛋白質バンド3の構造解析

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

- ・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

なし

- ・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

なし

- ・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会(学科)	委員	オリエンテーション
国試CBT対策委員会(学科)	委員	試験準備、資料印刷・配布、葉ゼミzoomセッティング、試験監督割り当て
CAI運用・活用委員会(学科)	委員	CAI利用試験の問題確認、修正
学生サポート室	室員	学生が相談に来た際に対応する。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学20周年事業準備WG	なし	コロナ禍で中止となった(2020年に大学20周年を迎えるにあたって、記念事業や式典の準備についての会議)

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演/講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

疾患検査センターの副センター長として業務の管理また、検査の実施を通して社会貢献を行った。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。本年はオンラインでの授業・補習・実習があり、学生に取り組みやすい配信を考え、授業を執り行った。さらに、授業外でも聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行った。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、バンド3タンパク質と基質であるPLPとの共結晶の条件を検討中である。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 福森 良

1. 教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習Ⅰ	2 / 45 (通年)	2	100	①④⑥⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (前期)	1	23	①⑨
総合演習ⅢB	1 / 30 (後期)	2	96	①⑨
コンピュータ基礎演習ⅡA	15 / 15 (前期)	1	3	②④⑪
薬理学Ⅲ(末梢-2)	7 / 15 (前期)	1.5	99	①②⑨
総合基礎学習Ⅰ	6 / 15 (通年)	0.5	121	②④⑦⑨
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	125	①②
薬理学実習	10 / 10 (後期)	1	101	①②③⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
最先端医薬品学特論	3 / 15 (前期)	2/1~3年	4

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

今年度は、担当している薬理学Ⅲがリモート講義となり、授業アンケートは実施しなかった。遠隔授業となったが、講義毎にmanabaを利用した課題を出題するなど双方向の講義を行うことを意識して、学生の理解度の高い講義が行えるように工夫した。また、担当した実習科目では、感染対策の観点から学生の人数を半分にして実施したが、少人数の実習は教育面でも学習効果の向上を感じた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	看護薬理学	15/15(前期)	2	38

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つかっていない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患(認知症や統合失調症など)の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。

また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに意欲・動因の生起に関係する脳内報酬系を念頭に置き、薬物依存症の動物モデル(薬物自己投与方法を使用)の確立とそれを用いての、薬物依存症の再燃・再発機構の解明を試みています。この研究では、カンナビノイド受容体の変容に焦点を当てた神経化学的アプローチも試みています。本研究の成果により、①薬物への渴望の再燃機構が解明され、また依存症治療薬の開発に寄与できるだけでなく、②精神疾患で見られる再燃・再発のメカニズムさらには、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。このように、薬物依存症を含めた精神疾患発症のメカニズムについて脳内報酬系ならびに脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	1	1	210万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
大麻・フィトカンナビノイドの有害性と医薬品としての応用:基礎と臨床

・論文等(題名／発表年月／掲載誌等:○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名／発表年月／学会名等)

メタンフェタミン退薬後に発現するPrepulse inhibition障害に対するカンナビノイドCB1受容体拮抗薬の効果／2020年10月／第50回日本神経精神薬理学会

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現するプレパルス抑制障害に対するカンナビノイドCB1受容体拮抗薬の効果／2020年10月／第73回日本薬理学会西南部会

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費 若手研究 大麻主要活性成分 Δ9-THCの 第二世代マウスにおける影響	日本学術振興会	3年	210万円

(4) 国内外留学等(留学先／研究テーマ／期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名／職名／特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	卒業研究要旨集の編集を行った。
薬学部入試募集委員会	委員	2度の出張講義及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行った。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器の管理運用を行った。
薬学部共同機器の管理運用を行った。	委員	薬学部就職説明会の企画検討中である。その他に、内定・進路調査を行った。
薬学部CAI運用活用委員会	委員	5年生の実務実習中CAI課題の運用、総合演習ⅡCAI試験の運用を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名／職名／活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、練習への参加を行った。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学部入試募集委員として県内外の2つの高校へ、出張講義として薬剤師・薬学部ガイダンスを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	欠席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	欠席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

特になし

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特になし

7. 受賞等

特になし

8. 活動全般についての自己点検・評価

・教育面においては、「薬理学Ⅲ」、「コンピューター演習ⅡA」の講義を担当した。両科目とも前期の講義であり遠隔授業となったが、講義毎にmanabaを利用した課題を出題するなど双方向の講義を行うことを意識して、学生の理解度の高い講義が行えるように工夫した。また、担当した実習科目では、感染対策の観点から学生の人数を半分にして実施したが、少人数の実習は教育面でも学習効果の向上を感じた。

・大学運営面においては、薬学部委員として、3月に薬学部就職委員として薬学部就職説明会を運営することとなっている。例年通り対面での実施か、リモートでの開催かは決まっていないが、このような状況下で不透明な学生の就職活動を最大限サポートしたい。また、薬学部入試募集委員としては今年度2校の高等学校に赴き「薬剤師の進路ガイダンス、模擬講義」を行うことで入試募集に努めた。

・研究面においては、リモート開催となった「第50回日本神経精神薬理学会」「第73回日本薬理学会西南部会」で研究発表を行った。また、年度末までの投稿を目指し研究結果をまとめている。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助教 氏名 松下 博昭

1. 教育理念

私の教育理念は、自ら主体的に学び、考え、行動できる専門家の育成である。よって授業ではアクティブラーニングを用いて専門力の向上を重視している。学生には、授業に自主的に参加し、学んでほしいと考えており、そのために主体的に学ぶ授業を取り入れるように努める。授業では学生の主体性を引き出すための課題を出し、それをもとにグループディスカッションなどを経て専門力とコミュニケーション力の育成を目指す。また講義中心の授業の中にも演習を取り込み、その解決を通して情報収集力や課題解決力を高め、主体的に行動できる専門家の育成に努める。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	3	①②③⑪
総合演習ⅢA	2 / 23 (前期)	1.5	114	①②③⑪
基礎の化学	15 / 15 (前期)	2	56	①②④⑥⑧⑨⑩
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	110	②③⑪
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	103	②③⑪
機能形態学実習	7 / 7 (前期)	1	125	①②⑥⑦⑩
薬剤学実習	9 / 9 (後期)	1	101	④⑩⑪
臨床生理学実習	8 / 8 (後期)	1	102	①②③⑦⑩
コンピュータ基礎演習 I A	15 / 15 (前期)	1	46	②③⑪
コンピュータ基礎演習 I B	15 / 15 (後期)	1	47	②③⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

授業では、授業評価アンケートの結果を元に授業内容・方法をさらに改善した。また授業参観から学んだことを自身の授業に積極的に取り入れた。授業方法の改善により、学生がより能動的に授業に参加するようになった。さらに授業評価アンケートでは、授業に対する理解度、満足度など総合的に評価が向上した。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

アルツハイマー病の原因タンパク質の代謝動態の制御と治療法の開発研究
 老人性アミロイドーシスの病態解析・治療研究
 遺伝性アミロイドーシスの病態解析・治療研究
 天然化合物によるアミロイドーシスの予防を睨んだ創薬研究
 宇宙空間でのアミロイド形成を探る研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	4	1	1	1	50万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)

野生型トランスサイレチンアミロイドーシスと神経障害 野生型トランスサイレチンアミロイドーシスと脊髄関節病変,神経根障害/共著/2020/月刊脳神経内科/93(4) 463 - 468

21世紀の疾患:神経関連アミロイドーシス /共著/2020年4月/医学と看護社/1-136

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)

Self-assembling A6K peptide nanotubes as a mercaptoundecahydrododecaborate (BSH) delivery system for boron neutron capture therapy (BNCT). /2020/Journal of controlled release : official journal of the Controlled Release Society/330 788 - 796/共著/論文

Apolipoprotein AI amyloid deposits in the ligamentum flavum in patients with lumbar spinal canal stenosis. /2020/Amyloid : the international journal of experimental and clinical investigation : the official journal of the International Society of Amyloidosis/1 - 6 /共著/論文

Plasma growth differentiation factor 15: a novel tool to detect early changes of hereditary transthyretin amyloidosis. /2020/ESC heart failure/e/共著/論文

Amyloid fibril formation is suppressed in microgravity. / 2021 / Biochemistry and biophysics

reports/100875 - 100875/共著/論文

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)

Amyloid formation is suppressed in microgravity/2020/ISA2020

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業・基盤研究B(分担)	日本学術振興会	2019-2021	50万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部就職委員会	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

全てのオープンキャンパスに参加して、高校生と交流し本学への入学を進めた。
また薬学部就職委員会委員として活動した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	対象外
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	任意
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFDSD	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	対象外
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席

2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	任意
------------	-------	--	---------------------------------	----

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生理学会	理事	2016-現在	日本生理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、授業評価アンケートを元に授業内容・方法を改善した。また授業参観から学んだことを自身の授業に積極的に取り入れた。さらに、本年度から卒業研究学生の研究を指導した。

研究活動では、国際雑誌に査読付き論文が第一著者及び共著者含め4編採択された。また国際アミロイドーシス学会(理事、安東由喜雄)にWeb参加し、研究成果を発表した。

外部資金の獲得では、科学研究費基盤研究B分担を継続した。

社会貢献では、学外の研究機関として熊本大学脳神経内科学との共同研究を積極的に実施した。

大学運営では、全てのオープンキャンパスに全て参加し、高校生と積極的に交流し、薬学部の受験を進めた。さらに新型コロナウイルス感染症の検査希望者の検体採取業務(NIU疾患検査センター関連)を担当した。

また外部からアミロイドーシス病態解析学研究室に取材依頼があり、取材に協力し、知名度の向上に貢献した。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 上田 亮太

1. 教育理念

自ら学ぶ学生を育てる。私は、教育において最も大切なことは、学生の勉強に対する義務感を取り去ることだと考えている。留年や卒業延期等への恐怖を利用して学生に勉強させることは簡単であるが、その方法に頼ってはいは勉強に対するネガティブな印象を強化する結果となる。勉強にネガティブな印象を持つことは、卒業後の生涯学習に対する意欲を低下させることになりかねない。それに対し、自ら学習する学生は、必要な知識を積極的に吸収し、ゆくゆくは社会に大きな社会に大きな利益をもたらすことが出来ると考えられる。そのため、義務感ではなく、自らの学びたいという意思を原動力として勉強するような学生を育てていきたい。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

担当授業なし。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

チロシナーゼタンパク質の分解に関する研究

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

オープンキャンパスへの協力。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	出席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等

なし。

6. 国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

なし。

8. 活動全般についての自己点検・評価

研究に関しては、細胞培養やマウス実験といった未経験の内容も多く、実験に慣れることがメインとなった。実験を一通り自らの力で行えるようになった点は進歩と言える。一方、満足のいく実験結果はごく一部に限られる。そのため今後は、理想的な結果が得られるよう実験手順の細かい分析を実験前に行う。

教育では、成績不良の学生への指導を行った。問題解説等、勉強内容について教えることは問題なく行うことができた一方、学生の学習意欲を引き出すことについては厳しい結果となった。教育理念の道は険しいものと気づかされたため、今後経験を積むことで学習意欲を引き出す方法への答えを見出していきたい。

教員個人による諸活動について 令和2(2020)年度

学科 薬 職名 助手 氏名 高島 啓吾

1. 教育理念

「いつも、人から。そして、心から。」をモットーに、薬学教育・研究で得られた知識や技能を持って、医療人として国民の命を守り、健康を確保するという任務を全うできる人材を育成することを基本とする。

- ・患者中心の医療を実践するため、ホスピタリティ精神あふれる薬の専門家を育成する。
- ・幅広い専門知識と臨床技能に加え、知性、感性、人間性の備わった医療人を育成する。
- ・論理的思考力と科学的視点を有し、薬学研究を推進できる医療人を育成する。
- ・探求心と想像力を有し、薬剤師としての新たな職能の開拓・発展に寄与できる医療人を育成する。
- ・地域から愛され、地域社会に貢献できる医療人を育成する。
- ・異文化を理解し、グローバルに活躍できる医療人を育成する。

2. 教育活動

(1) 授業(科目名/コマ数(開講時期等)/単位数/単位授与/学生数)

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの類型
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価(授業アンケート/授業改善と教育効果)

担当した臨床生理学実習では、事前に実習内容の動画を作成したり、リアルタイムでチャットによる質疑応答を行うなどして、遠隔による実習をこれまでと同等の学習効果を得られるよう工夫を行った。実習後に独自に行ったアンケートでは、好評な結果を得られた。

(3) 他大学等での教育活動(大学等名/科目名/コマ数/単位数/単位授与/学生数)

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動(正規の授業以外に学内で実施した補習など)

活動名(補習等)	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3. 研究活動

(1) 研究テーマ

①赤血球膜タンパク質「Band 3」のX線結晶構造解析

赤血球細胞の膜上に存在するBand 3とよばれるタンパク質は、赤血球内外の陰イオンを交換する陰イオン交換体であり、塩素イオンと重炭酸イオンを交換することで、ヘモグロビンの酸素放出を制御する役割をしている。このBand 3の立体構造を解くことで、遺伝性の血液疾患の解明や、治療薬の薬剤設計、さらには人工血液の開発につながると期待されている。現在、脂質メソフェーズ法を用いた結晶化法で、ネイティブに近い状態での単結晶のX線結晶構造解析を行っている。

②マラリア原虫の赤血球侵入メカニズムの解明

マラリアは年間2億人が感染し、40万人が死亡する熱帯・亜熱帯地域で流行している重篤な原虫感染症である。マラリア原虫は、蚊を媒介して体内に侵入し、肝細胞を経て赤血球に侵入したのち増殖し、全身を巡ることで重篤化する。このマラリア原虫の赤血球への侵入メカニズムは一切分かっておらず、生物学的理解が感染制御に繋がると考え研究を行っている。現在、マラリア原虫に発現しているタンパク質と、赤血球の膜上に存在するタンパク質の結合様式の解明を目指し、構造生物学的手法を用いて実験を行っている。

③赤血球を担体とした薬物輸送システムの開発

赤血球を担体としたドラッグデリバリーシステムの研究は、急速に進展している分野であり、近年ようやく臨床試験に移行している段階である。自己赤血球に薬物を封入し体循環に戻す方法は、キャリア赤血球とよばれ、赤血球の長期循環性や生体適合性などの様々な特徴により有用だと考えられている。具体的には、抗悪性腫瘍薬や抗炎症薬、抗菌薬や抗ウイルス薬などの幅広い薬物が封入され、薬物の抗原性を低めたり、徐放性を高めたりする研究がされている。現在、抗腫瘍作用を持つピリドキサルリン酸を赤血球に封入し、マウスに移植したヒト大腸がんに対する退縮効果の検証を行っている。

(2) 研究業績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書(書名/単著・共著・編集の別/発行年月/発行所/単著:総頁数・共著:○頁～○頁)
なし

・論文等(題名/発表年月/掲載誌等:○頁～○頁/単著・共著/論文・総説等の区分)
なし

・学会発表等(題名/発表年月/学会名等)
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等(名称/委託者・採択機関/期間/研究費・採択金額)

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	0万円

(4) 国内外留学等(留学先/研究テーマ/期間等)

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4. 大学運営活動

(1) 委員会活動(委員会名/職名/特記すべき活動項目等)

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	会員	卒業生と連絡を取り、在学生に向けた職場のPR資料を作成してもらい、同窓会薬学部門のホームページに掲載することで、就職活動を促した。
地域連携委員会	会員	地域に根差した薬剤師の普及を目指し、在学生と地域の薬剤師とが交流できるイベントに積極的に参加し、意見を述べた。
同窓会薬学部門支援委員会	会員	同窓会薬学部門のHP作成・編集に携わった。
国試・CBT対策委員会	会員	国家試験経験者として、積極的に意見を述べた。

(2) ワーキング・グループ活動その他(ワーキング・グループ名/職名/活動内容等)

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

天文同好会の監督を務め、指導に尽力した。例年、開国祭でのプラネタリウムの講演や、地域の小学校への出張天体観測会などを行うことで、天文知識の普及や、本学の広報活動を行ってきた。

(4) 広報活動等(募集・就職活動を含む)

薬学部の公式Facebookで、広報動画を作成し掲載した。

(5)FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2020/04/14	第127回		新着任教員対象FD	出席
2020/04/16	第128回		ファイルメーカーの取り扱い説明会	出席
2020/04/29	第129回	第1回	修学上の配慮学生に関するFSDS	出席
2020/05/27	第130回	第2回	ハラスメント防止研修	出席
2020/07/29	第131回	第3回	決算報告	出席
2020/07/29	第132回	第4回	教職員向けビッグデータ概論	出席
2020/08/04	第133回		第1回授業研修会	出席
2020/09/16	第134回		教育のマネジメントと質保証	欠席
2020/09/30	第135回		オンライン授業の設計・実践・評価について考える(学長裁量経費)	出席

5. 社会活動

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1)講演／講座その他(題名／開催日・場所／依頼者等)

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2)公共団体の委員等(委員会名／職名／活動期間／依頼者等)

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3)社会貢献・ボランティア活動等

新型コロナウイルス感染症における検査員として、地域医療の一端を担った。地域住民のウイルス感染に対する不安を、検査を行うことで解消し、また、行政が対応しきれなかった月に数千単位の検査数を受けることで、地域社会に貢献した。

6. 国際交流

(1)学術・学生交流プログラム等(名称／活動内容／期間／主催者等)

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他(名称／活動内容[組織・講演・役割]／開催日・場所／主催者等)

名称	活動内容 [組織・講演・役割]	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし。

7. 受賞等

なし

8. 活動全般についての自己点検・評価

教育では、担当した機能形態学実習、及び臨床生理学実習において、その実習を受けた側としての経験を活かし、学生の質問や相談に親身に対応した。また、遠隔での実習がこれまでと同等の学習効果を得られるような工夫を行った。

研究では、国際雑誌または精読付きの論文を投稿し、学会での研究発表を行うことを目標としていたが、思うように実験が進まず研究成果を得られなかった。また、科研費(研究活動スタート支援)の申請を行い、不採択という結果だったが、採択のノウハウを更に勉強し、来年度の基盤研究Cの申請を行った。来年度は論文投稿、及び学会発表を行えるよう、研究により一層邁進する所存である。

社会貢献では、新型コロナウイルス感染症の検体採取係、及びPCR検査員として、地域医療の一端を担い、地域社会に貢献した。また、検査の費用は大学に利益をもたらし、大学運営にも貢献した。